

日本国憲法

初谷良彦

【授業の概要】

法と国家は人間のためにある。憲法は、このような法の目的と国家の責務を明らかにしようとするものである。なるべく具体的な現実の問題と関連させて説明したり、裁判例などにも触れ、憲法はわれわれの生活の中に入り込んでいる身近な、確かな存在であることを実感できるようにしたい。

【授業計画】

- 第1回 日本国憲法制定の経緯
- 第2回 プライバシー権
- 第3～4回 自己決定権
- 第5～6回 法の下での平等
- 第7～8回 信教の自由と政教分離
- 第9～10回 情報公開、言論・出版の自由、報道の自由
- 第11～12回 生存権、教育権、労働基本権
- 第13回 国会・内閣
- 第14回 裁判所
- 第15回 地方分権

【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

憲法講義Ⅰ（第2版）（初谷良彦著 成文堂）

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

民主主義と人権

初谷良彦

【授業の概要】

民主主義の根本原則は人権（人間としての権利）の尊重にある。人権の理想と実現が民主主義のあり方と人間の生き方に大きく影響する。民主主義の制度と仕組みについて、人権を保障する法律やその実態にふれながら、現代の課題として講義する。

【授業計画】

- 第1～2回 近代民主主義の思想と制度
- 第3～4回 民主主義と選挙制度
- 第5～6回 民主主義の諸問題
- 第7～8回 民主主義と議会制
- 第9～10回 死刑制度の運用（罪、罰、人権、国家）
- 第11～12回 高齢者の人権と障害者の人権
- 第13回 障害者の国務請求権
- 第14回 21世紀の平和と民主主義をめざして

【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

概説 デモクラシーと国家（初谷良彦他 成文堂）

【参考文献・資料】

講義の際、随時紹介する。

民主主義と人権

本 秀紀

【授業の概要】

日本国憲法は民主主義と人権を保障しているが、その制度と仕組みについて、人権を守る法律やその実態にふれながら、現代の課題として講義する。

【授業計画】

新聞報道などから、できるかぎり身近で具体的な素材を取り上げつつ、まずは現実を知り、その上で諸問題への対応を考える力を養う。

基本的には講義形式で行うが、受講生の問題関心を高めるため、適宜質疑をしたり、ビデオを観る予定である。

授業内容は現在のところ、以下の項目から適宜選択する予定だが、そのときどきのピックによって変更もありうる。

- 1 はじめに：「民主主義と人権」って？
- 2 企業社会と人権：過労死、育児休業、労働者差別
- 3 女性と人権：ドメスティック・ヴァイオレンス、労働と女性差別
- 4 マスメディアと人権：プライバシー侵害、メディア規制立法
- 5 子どもと人権：校則・体罰、少年法、いじめ・体罰・児童虐待
- 6 医療と人権：インフォームド・コンセント、安楽死・尊厳死、代理出産
- 7 外国人と人権：参政権、出入国管理、外国人差別、難民問題
- 8 ゴミ問題と民主主義：廃棄物処分場と環境、住民投票
- 9 政治の仕組みと民主主義：選挙制度、国会・内閣、憲法改正

【評価方法】

学期末の筆記試験（受講者数によってはレポート）を基本とし、ビデオへの感想などを加味する。

【参考文献・資料】

テキストブック現代の人権〔第3版〕（川人博編著 日本評論社 2004年刊行予定）
 人権ウォッチング（前田朗 凱風社 2000年）
 ハンドブック国際化のなかの人権問題〔第3版〕（上田正昭編 明石書店 2002年）
 それぞれの人権〔第2版〕（憲法教育研究会編 法律文化社 2002年）
 など。なお、必要に応じて、講義の際に資料・レジュメ等を配布する。

哲学的人間論

高畑祐人

【授業の概要】

東西の著名な哲学者の古典的な哲学論にふれながら、現代社会がかかえる諸課題についていかに対応し、対処すべきかについて講義をする。

【授業計画】

今日の環境問題や生命・医療をめぐる問題は、われわれの自然への関わり方の問題でもある。自然への関わり方（実践）は「自然」の捉え方（理論）によって規定されている。自然の捉え方から、自然を捉えている人間自身のあり方を照らし出すことが出来る。そこで、この講義では西洋哲学の歴史の中の主な哲学者の思想を「自然」の概念を手がかりにして通覧する。

1. 神話的自然観—ギリシャ神話におけるプロメテウス—
2. ソクラテス以前の自然哲学
3. ソフィストとソクラテス
4. プラトン
5. アリストテレス
6. デカルト
7. カント
8. 進化論的自然観
9. エコロジー的自然観

【評価方法】

学期末の筆記試験あるいはレポート、授業への参加態度などで総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

西洋哲学史 上・下（シュベールグラー 岩波文庫）
 野生の歌が聞こえる（レオポルト 講談社学術文庫）
 エマソン論文集 上（エマソン 岩波文庫）

生命倫理学

加藤太喜子

【授業の概要】

現代医学の進歩と発達によって、今や人間の生命の誕生と死は医学よりも倫理の問題になりつつある。「生命」を倫理や哲学の面から講義する。

【授業計画】

次の主な項目に従って授業を展開する。

1. 生命倫理学の成り立ち
2. インフォームド・コンセント
3. 脳死と移植医療
4. 生殖医療
5. 代理母
6. 人工妊娠中絶
7. 出生前診断
8. 優生思想とは
9. よりよい自己決定に向けて

【評価方法】

レポート及び期末に行う筆記試験により評価する。

【テキスト】

授業中に指示する

【参考文献・資料】

優生学と人間社会（米本昌平他著 講談社現代新書）
クローン人間（粥川準二著 光文社新書）

現代社会と倫理

大野波矢登

【授業の概要】

民主主義社会と自由主義社会は人々に多くの権利を保障しているが、それは人々がモラルや義務を守ることを前提としている。現代社会の守るべき倫理と課題について講義する。

【授業計画】

授業はおもに講義形式で行なう。

1. 倫理的視点から見た現代の社会問題
2. 倫理学の概念と理論に関する若干の考察
3. 倫理学理論の応用（道徳的意思決定の方法）
4. 社会の安全性と科学技術者の責任
5. 環境倫理の主張
6. インターネット時代の倫理
7. 内部告発と社会の浄化

【評価方法】

期末試験と小レポート（3、4回授業時に書いてもらう予定）の成績によって評価する。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献・資料】

入門講義 倫理学の視座（新田孝彦著 世界思想社）
先端技術と人間 21世紀の生命・情報・環境
（加藤尚武著 NHKライブラリー）
環境と倫理 自然と人間の共生を求めて（加藤尚武編 有斐閣アルマ）

宗教的人間論

磯部 隆

【授業の概要】

世界には数多くの宗教があるが、現在、さまざまな問題を起こしている。宗教の持つ本来の役割と意味について、人間の生きざまという観点から講義する。

【授業計画】

第一回は授業概要の具体的な説明を行ないます。

第二回以降は、テキストに既して、宗教の問題を考えます。本年度はとくに儒教と宗教との関係について考えてみたいと思います。孔子から始まる儒教は、天という観念を中心にして独特な宗教意識をもち、民間の呪術や鬼神信仰と対立してきました。そうした伝統のもつ意味を考えたいと思います。

【評価方法】

毎回の出席状況を基本とします。

【テキスト】

孔子と古代オリエン特（磯部隆著 大学教育出版）

ジェンダーと社会 I

北仲千里

【授業の概要】

男らしさ、女らしさは最近大きく変わってきています。しかし、現在でも人生の始まりから最後まで、雨が降った時さす傘の色からくしゃみの大きさまで、その人の性別によって大きな違いが出てしまうことも事実です。また、男女の差異と平等は、今日大きな社会問題にもなっています。この講義では、社会学的な見方をベースに「男であること、女であること」や家族、そしてセクシュアリティにまつわるテーマを考えていきます。

【授業計画】

まず最初にそもそも性別＝ジェンダーという考え方についてとりあげます。そのことと家族に関するテーマは深く関係しあっています。また性別の問題と性（セクシュアリティ）の問題は、深く関わり合い、私たちの心のどこか深い部分、自己意識にまで影響を及ぼしているといえるかもしれません。そうしたテーマをビデオを見たり、統計で確かめたり、新聞を読んだりしながら2-3週ずつ取り上げていきます。

- テーマ1 ジェンダーとは何か
「ジェンダー」概念1 身体の違いとジェンダー
「ジェンダー」概念2 「差別」と「区別」
- テーマ2 ジェンダーと結婚・家族
(1) 「専業主婦」の社会学
(2) 結婚と社会
(3) 家庭の中のジェンダー
(4) 家族をめぐる社会問題
- テーマ3 働くこと、働かないこととジェンダー
(1) 仕事の世界の男女
(2) 働かないことを考える
- テーマ4 セクシュアリティの社会学
(1) 性の規範とジェンダー
(2) レイプやストーカー犯罪と社会
(3) セクシュアル・ハラスメント
(4) 同性愛は異常かそれとも純粋な愛か

【評価方法】

講義中に数回行うミニレポートと、期末の試験との両方で評価します。単なる「出席点」というのではありません。期末試験の際は、持ち込み自由とします。

【テキスト】

教科書は指定しません。毎回プリントを配布します。

【参考文献・資料】

女性学・男性学～ジェンダー論入門～（伊藤公雄・國信潤子著 有斐閣）
新訂 ジェンダーの社会学（江原由美子・山田昌弘著 放送大学テキスト）

ジェンダーと社会II

中島美幸 山下智恵子

【授業の概要】

ジェンダーの観点から文学作品を分析することによって、〈女/男〉の規範がどのようにテキストにおりこまれているかを読み解き、さらにテキストがどれほど現実の女と男の生と性を規定してきたかを検証する。

(中島美幸兼任講師) 「女性の表現」の観点から日本文学を歴史的に跡づける。特に近代以降の女性表現については外国の女性文学と比較しつつ読み解いていく。

(山下智恵子兼任講師) 現代の文学作品を中心に、家族、母娘などの人間関係を、ジェンダーの観点から検証する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 〈ことば〉とジェンダー
 - 第3回 〈書く女〉の登場 (1)
 - 第4回 〈書く女〉の登場 (2)
 - 第5回 女性を描く男性作家のまなざし (1)
 - 第6回 女性を描く男性作家のまなざし (2)
 - 第7回 母と娘の物語 (1)
 - 第8回 母と娘の物語 (2)
 - 第9回 家族の物語
 - 第10回 文学の政治性
 - 第11回 文学と映像文化
 - 第12回 まとめ
- *内2回は山下智恵子担当。他は中島美幸担当。

【評価方法】

出席状況、毎回の感想、学期末のレポートを総合して評価する。

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

女性学・男性学

中島美幸

【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 女性学・男性学の誕生
- 第3回 男女をめぐる国際比較
- 第4回 作られる「女らしさ」「男らしさ」
- 第5回 恋愛と結婚
- 第6回 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
- 第7回 女性と労働
- 第8回 男性と労働
- 第9回 家族をめぐる諸問題(1)
- 第10回 家族をめぐる諸問題(2)
- 第11回 将来展望・男女のライフスタイル
- 第12回 まとめ

【評価方法】

出席状況、ならびに毎回のコメントカードと中間レポート(2~3回)の内容、さらに学期末テストで総合的に評価する。

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

大衆文化論

岡本信也

【授業の概要】

現在は大衆化社会と言われ、文化にもまた大衆に愛され、大衆に浸透したものが社会で高い地位を占めている。大衆化社会の中で流行しているさまざまな文化について考察し講義する。

【授業計画】

- 第1回 大衆文化の成立について。大正・昭和初期の新聞・ラジオ・映画などに現れた文化を見る。
- 第2回 モダン都市の文化現象を考える。洋装化しはじめる衣風俗、喫茶店や食堂(デパート)など。
- 第3回 戦後の大衆文化のはじまり。アメリカン・ファッションと風俗。
- 第4回 映像とイメージ。テレビと家庭電化製品の普及、マンガ、イラストの隆盛。
- 第5回 大量生産システムとデザイン。浪費され続けるデザイン。
- 第6~8回 身近な暮らしを見つめて、文化とは何かを考える。外食風俗をめぐって。身体のおしゃれをふりかえって。住み方についてなどを具体的に考えてみる。
- 第9回 現代の風俗・生活を観察することから、文化創造となる問題点を発見する。流行と習慣。
- 第10回 続いて、風俗・生活の観察から課題の設定をする。情報と日常生活について。
- 第11回 自由討議「市民文化とは何か」
- 第12~13回 テーマごとに報告(型式は随時)する。

【評価方法】

出席状況と報告書の内容によって評価する。

【参考文献・資料】

しぐさの日本文化(多田道太郎著 筑摩書房)
戦後日本の大衆文化史(鶴見俊輔著 岩波書店)
超日常観察記(岡本信也・靖子著 情報センター出版局)

暮らしの法律

辻田芳幸

【授業の概要】

日本は法治国家であり、したがって国家は法律によって運営され、身近な生活も法によって守られている。本講義では日常生活の中で法律がどのように働いているか、具体例をあげて講義する。

【授業計画】

- 第1回 導入
- 第2回 Web上の著作物利用と著作権
- 第3回 Webへの写真掲載と肖像権
- 第4回 インターネット上の名誉毀損(1)
- 第5回 インターネット上の名誉毀損(2)
- 第6回 オンラインショッピングと契約法(1)
- 第7回 オンラインショッピングと契約法(2)
- 第8回 インターネット犯罪(1)
- 第9回 インターネット犯罪(2)
- 第10~12回 その他の問題点

【評価方法】

出席状況、試験の結果などを総合的に考慮する

文化人類学

稲村哲也

【授業の概要】

人間は無意識のうちに自然に生れ育った文化からさまざまな影響を受けている。世界中の社会に見られるさまざまな文化的事象を、できるだけ多くの事例をあげて講義する。

【授業計画】

この授業では、教授者が設立に携った野外民族博物館や教授者が現地調査を行った様々な民族・社会の事例を取りあげて比較しながら、世界の民族文化の多様性の基底に通じる共通性、規則性、モデルなどを分析する。とくに、生業形態、家族と親族、結婚、ジェンダー、コミュニティ、儀礼などを考察する。

- 1～3：生活の営み－狩猟・農耕・牧畜
- 4～6：身内と他人－さまざまな家族、親族、婚姻
- 7～8：性と年齢による区分・ジェンダーと年齢集団
- 9～10：人の一生と通過儀礼
- 11～12：まとめ

【評価方法】

授業中に適宜提出してもらうショート・レポート（平常点）、学期中に実施する小テスト、および学期末にリトルワールドを見学して書くレポートによる

【テキスト】

リトルワールド・ガイドブック（野外民族博物館リトルワールド）

国際政治論

若松孝司

【授業の概要】

国際関係は冷戦時代の東西対峙時代から、協力時代へと変化し、グローバル化が進んでいる。しかし、民族・宗教・地域などの対峙と紛争は今も絶えない。国際政治の実情を具体的事象にふれながら講義する。

【授業計画】

以下の項目について講義を行う。

- (1) 冷戦期の国際情勢
第2次世界大戦後に形成された国際社会のあり方について、歴史的に考察する。
- (2) 冷戦後の国際情勢
冷戦後に顕在化した国際社会におけるさまざまな問題について、具体的事例をもとに考察する。
- (3) 地球環境問題と国際関係
冷戦後に顕在化した諸問題のうち、とくに地球環境問題について検討を行う。
- (4) メディアと国際関係
戦時におけるメディアのあり方など、国際政治を考える上でのメディアの重要性について考察する。

【評価方法】

出席と筆記試験によって成績評価を決定する。詳細は講義のはじめに説明する。

【テキスト】

特に指定しない。講義は配布資料にしたがってすすめる。

【参考文献・資料】

特に指定しない。

比較文化論

文 嬉眞

【授業の概要】

国際化が進み、世界の異文化が日本に入り、日本の文化も世界に伝わるようになった。世界の文化の特徴をあげ、日本の文化との比較を考察しながら、異文化交流についても講義する。

【授業計画】

本講義では、主に「日本の文化」に焦点を当て考えることにする。特に、外国人（見る側）が日本という異文化（見られる側の文化）と直接接触した際、どのように評価（表現方法）・認識したかを考察し、その考察からなぜそのような評価・認識があらわれるかを分析する。そして、得られた分析によって外国人（見る側）がもつ「文化」を再分析する。すなわち、外国人（見る側）が「異文化」（見られる側の文化）を見るまなざしに関して考察することによって、自文化（見る側の文化）を再認識するだろう。

1. 異文化との理解・誤解に関する一般的な概論
2. 異文化交流史における本講義の位置付け
3. 前近代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
4. 近・現代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
5. 異文化としての「日本文化論」

【評価方法】

1. 出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50%を評価する。
2. 学期末レポートで残る50%を評価する。

【テキスト】

講義の中で随時、配布する。（必ず事前に読んでおくこと）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

国際交流論

榎田勝利

【授業の概要】

国際化時代といわれる現代社会は、さまざまな形で国際交流や国際協力が行われている。最近ではNPOやNGPの台頭と活躍がめざましい。国際交流の現状と国際協力の実態などについて講義する。

【授業計画】

1. ガイダンス、国際交流に関わる用語解説
2. 国際交流・国際協力活動とは
3. 国際交流・国際協力活動の領域
 - (1) 海外との交流
 - ・ 姉妹都市交流
 - ・ 青少年交流
 - ・ 文化・芸術交流
 - ・ NGOの国際協力活動
 - ・ 自治体の国際協力活動
 - (2) 多文化共生
 - ・ 自治体と外国籍住民
 - ・ NPOと外国籍住民
 - (3) 異文化理解
 - ・ 国際理解セミナー
 - ・ JETプログラム
 - ・ 地球市民教育
4. 国際文化交流と草の根交流
5. 国際交流・国際協力活動の新課題
 - ・ 事業評価
 - ・ IT戦略

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況との総合評価による

【テキスト】

国際交流・協力活動入門講座Ⅰ「草の根の国際交流と国際協力」（毛受敏浩編著 明石書店）

外国の言語と文化1 (朝鮮半島)

尹 大辰

【授業の概要】

韓国・朝鮮語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ハングルの文字と発音への関心を高める。朝鮮半島の歴史・文化・風土についても学び、アジアの隣国としての共通性や異質性を理解し、違いを共に生きる認識を深める。

【授業計画】

- 第1回 訓民正音について
- 第2回 ハングルの文字と発音 (1)
- 第3回 ハングルの文字と発音 (2)
- 第4回 基本的な日常会話 (1)
- 第5回 基本的な日常会話 (2)
- 第6回 基本的な日常会話 (3)
- 第7回 言語と文化 (1) - 衣・食・住
- 第8回 言語と文化 (2) - 社会的構造
- 第9回 言語と文化 (3) - 漢字語比較
- 第10回 朝鮮半島の風土
- 第11回 朝鮮半島の歴史と文化
- 第12回 まとめ-言語表現から見た文化比較

【評価方法】

期末試験とレポート、出席率を加味して評価する。

【テキスト】

プリント教材を使用する。

【参考文献・資料】

- 韓国 (金両基監修 新潮社)
- 韓国と日本の比較文化論 (金煥著 明石書店)

外国の言語と文化3 (フランス)

清水アトリックス

【授業の概要】

ヨーロッパの文化や近代精神の発祥の地ともいわれるフランスの歴史や文化を学び、地理的な位置付けや風土を理解し、違いを共に生きる認識を深める。

【授業計画】

毎回、担当教員が指定したテキストの章について議論し、テレビや新聞で報道されたフランスに関する時事問題の中で特に学生の関心を引くようなものを選んで、解説したい。

【評価方法】

定期試験を重視するが、宿題 (テキストや映画についての感想文)、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

変貌するフランス (西永良成 日本放送出版協会)

外国の言語と文化2 (ドイツ)

藤井たぎる

【授業の概要】

ドイツ語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ドイツ語への関心を高める。ヨーロッパの中でも独特なものを持つドイツの歴史・文化について学び、地理的な位置付けや風土を理解し、違いを共に生きる認識を深める。

【授業計画】

ドイツ・オーストリアの生活文化とその言語。現代のドイツ・オーストリア事情の一端を紹介しながら、ドイツ・オーストリアのいろいろな「顔」を発見してもらう。具体的には下記のような日常的なテーマをもとに、ドイツ・オーストリアの事情を日本のそれと比較しながら、両者の類似性と差異をみてゆく。また初歩的なドイツ語会話の練習もあわせておこなう。

- 1) ドイツ・オーストリアの風土
- 2) ドイツ・オーストリアの近現代史
- 3) ドイツ・オーストリアのマス・メディア
- 4) ドイツ・オーストリアの衣食住
- 5) ドイツ・オーストリアの消費生活
- 6) ドイツ・オーストリアの芸術文化

講義形式ではあるが、授業中にいろいろ意見を求め、各自の考えるところを発言してもらう。必要に応じてプリントを配布する。

【評価方法】

筆記試験。

【テキスト】

適宜、プリントを配布する。

外国の言語と文化4 (ロシア)

丹邊文彦

【授業の概要】

ロシア語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ロシア語への関心を高める。ヨーロッパとアジアにまたがるロシアの風土と文化について学び、その歴史や日本とのかかわりなども理解し、違いを共に生きる認識を深める。

【授業計画】

第1回～3回 文字と発音

以下1限に2課の割合で下記教科書を一応通読することを目標に授業をすすめる。1期終了・完結の授業で時間が限定されていることを考慮したものである。したがって練習問題 (解答付) は自習に任せ、最小限の文法解説に止めて、本文中心に音読と文字への習熟に重点を注ぐことによって、運用力の土台を養成するのが眼目である。その際付属のCDを活用した予・復習は欠かせない。発音教材の補助としてロシア民謡も紹介し、ロシアの風土・歴史・文化への理解を深める。

【評価方法】

a.朗読 b.聴取り c.ペーパーテスト の総合

【テキスト】

エクспレス ロシア語 (桑野隆著 白水社)

【参考文献・資料】

ロシア語のすすめ (講談社現代新書)

外国の言語と文化5 (スペイン)

木下まりあ

【授業の概要】

スペイン語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、スペイン語への関心を高める。世界でも屈指の言語圏を持つスペインの歴史と文化的影響について学び、独特の風土について理解し、違いを共に生きる認識を深める。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. スペイン語とスペイン語圏の世界
2. スペインの歴史と文化の特色
3. スペイン語のアルファベット、音節、アクセント
4. 挨拶、自己紹介の仕方
5. 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞
6. 形容詞(性数の一致)
7. 人称代名詞、serとestar動詞
8. 数詞と時刻の表現
9. スペイン語の手紙の書き方
10. 旅行に役立つスペイン語会話
11. まとめ

【評価方法】

筆記試験またはレポートに出席状況を加味して評価。

【テキスト】

授業中に指示。

日本と外国の歴史1 (日本)

岩口和正

【授業の概要】

アジア世界の東辺に位置する日本の歴史は、もっぱら中国や朝鮮半島諸国との交渉の中で展開してきました。にもかかわらず、現代にいたってなお、このような点についての基礎的史実ですら、よく知られていないどころか、しばしば誤解されているのが現実です。そこで、主として、日本国家自身の世界認識と中国や朝鮮半島諸国側からの日本認識とを対比させつつ、東アジア史の一部分としての日本史の特徴を考えます。

【授業計画】

- 1) 日本近代のアジア認識 <明治維新と征韓論>
- 2) 朝鮮通信使と朝鮮出兵
- 3) 日本中世における朝鮮半島の交渉
- 4) 蒙古襲来と日本朝廷
- 5) 日宋貿易と平氏政権
- 6) 蕃国としての新羅・渤海
- 7) 大唐皇帝と日本天皇
- 8) 遣隋使と遣唐使
- 9) 日本国家と列島内住民 <蝦夷・隼人>
- 10) 日本古代の世界像

【評価方法】

成績評価は学期末の試験でおこないます。

【テキスト】

使用しません

【参考文献・資料】

授業の中で別途に紹介いたします

日本と外国の歴史2 (郷土)

秦達之

【授業の概要】

東海地方が戦国統一の舞台になったのは周知の事実だが、その後の歴史については意外に知られていない。東西の文化を巧みに吸収した近世・近代について、一見地味だが、重要な事件や人物を取上げ、受験時の暗記の歴史から脱皮し、考え、楽しみ、哀しみつつ、生きるための歴史を目指したい。

【授業計画】

一回一話の読み切り、いや、語り切りで、さまざまなテーマ・内容を取上げる。通史ではないので、時代の前後を往き来する。その時代を生きた人びとの鼓動が聞こえてくるようなものにしたいが、果してうまくいきますか、どうか？

内容は、「元禄名古屋の世相」「伊勢湾の漂流民たち」「江戸時代の農民運動」「名古屋とその周辺の山車(だし)」「渡辺華山とその周辺」「お札降りと「ええじゃないか」「高山における明治維新」「戦争と女性」「モルフィと廃娼運動」「新聞記者・市川房枝」「シーメンス事件と太田三三郎海軍大佐」その他。私自身の研究と共に、他の地道な研究成果も積極的に取上げたい。

こちらで一回毎の史料を用意し、それにもとづいて講義する。必要に応じてビデオ、スライドも使用。出席票に感想を書いて貰い、受講者の声を聞く工夫をしている(受講者もぜひご協力を)。

【評価方法】

出席状況(特に厳しいので注意!)と単位認定試験の成績などによるが、毎時間最後に感想を書いて貰い、参考にしていく。

【参考文献・資料】

- 愛知県の百年(塩沢君夫・斎藤勇・近藤哲生共著 山川出版社)
愛知県の歴史(三鬼清一郎編 山川出版社)
東海・近代へのまなざし(都築亨・大嶋光義編 中部日本教育文化会)

日本と外国の歴史3 (東洋)

土屋 洋

【授業の概要】

東洋、特に中国を中心にした東アジア地域やその歴史を概説し、通史を学ぶ。日本は中国や朝鮮半島と歴史的・文化的に関係が深く、相互に影響を強く受けていることについても認識を深めたい。

【授業計画】

1. 期間計画指示・授業内容の説明
2. 歴史学とは何か? : 歴史リテラシーを身につけよう
3. アジアを考えるということ : 日本においてアジアの歴史を学ぶとは?
4. 東アジアの伝統秩序 : 中華帝国という世界
5. 中国近現代史への眼差し : 歴史観の諸相
6. 中国の近代 : 「近代」という時代をどう考えるか?
7. 中国の近代と日本 : 東アジアの近代を日本との関係から考える
8. 日中戦争を考える : 南京事件をめぐる歴史認識の溝
9. 新中国の誕生 : 共産党の政権奪取は日本のおかげ?!
10. 「文革」、「改革開放」、「六四」 : 東西冷戦構造の狭間で
11. 「台湾」という問題
12. 現代中国と日本 : 特に歴史認識をめぐって
13. 21世紀の日本、中国、東アジア

【評価方法】

学期末に課すレポートの内容、ならびに授業で随時課す感想・意見等の提出状況によって評価する。

【テキスト】

基本的に毎回レジュメを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に提示する。

日本と外国の歴史4 (西洋)

稲生幹雄

【授業の概要】

ヨーロッパを中心とした西洋の歴史を概説し、近代以降についてはアメリカについても学ぶ。日本の文明と文化の西洋の影響、アメリカとの外交的かかわりの理解を深めたい。

【授業計画】

この授業では、次の三つの視点から、毎時間の講義を組み立ててゆく。また、各種の視聴覚教材も大いに活用し、〈音声〉と〈映像〉の両面から、〈歴史〉と〈文化〉の変遷のすがたを浮き彫りにしてゆきたい。

- 1) 古代文明誕生の遙かな昔から現代に至る、〈西洋史〉のパノラマ的な展開を視野に取め、〈アメリカ史〉の特徴的な軌跡を考察する視点。
- 2) 西欧の歴史の流れのなかで、鮮やかに文化が開花した時期の実例として、イギリス・イタリア・フランスの〈ルネサンス期〉に光をあて、この時期の絵画、彫刻、文学などを鑑賞し、分析する視点。
- 3) 日本文化の変遷を、西欧的・アメリカ的要因との関連で探る視点。

授業で観賞する映像は、主に次のような内容のものを予定している：

(a) 世界史関連の映像、(b) 美術・演劇関係の映像（特にシェイクスピアの喜劇・悲劇・歴史劇——『夏の夜の夢』『ロミオとジュリエット』『お気に召すまま』『アントニーとクレオパトラ』『リア王』など）、(c) 文明の重要な担い手である〈言語〉（特に英語）の歴史の変遷に関する映像。毎週授業の最後には、小さな細長い紙を配り、その時間の感想や印象を一言記して提出してもらう予定。

【評価方法】

筆記試験の成績と、出席状況・受講状況を総合して評価する。

【テキスト】

開講時に指示する。

他に、プリントを配付する。

地域コミュニティ論

安藤純子

【授業の概要】

現代社会は都市化が進み、地域社会と人々のかかわりが希薄になっている。人々の生活にとって地域社会の果たす役割と問題点について具体例にふれて講義する。

【授業計画】

- 1 イントロダクション
- 2 地域社会の歴史と構造 1
- 3 地域社会の歴史と構造 2
- 4 コミュニティの概念
- 5 コミュニティの組織論
- 6 地方分権とコミュニティ
- 7 コミュニティとネットワーク 1
- 8 コミュニティとネットワーク 2
- 9 コミュニティ活動と実践例
- 10 環境・福祉とコミュニティ
- 12 少子・高齢化とコミュニティ
- 13 まとめ

【評価方法】

定期試験と出席率など総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

日本と外国の歴史4 (西洋)

北村陽子

【授業の概要】

ヨーロッパ、アメリカ合衆国を中心とした西洋の歴史を概説する。近代以降の日本にも影響を与えた「国民国家」が形成される過程を追い、「国民意識」とは何かについて理解を深める。

【授業計画】

1. はじめに—国民国家とは何か
2. 近代国民アイデンティティ形成の前段階
 - (1) 「個人」の覚醒：ルネサンス
 - (2) 「他者」の認識：大航海時代
 - (3) 普遍性の否定：宗教改革
3. イギリスの国民国家
 - (1) イギリス国教会の成立と絶対主義国家
 - (2) 二つの市民革命—「イングランド」から「イギリス」へ
 - (3) パクス・ブリタニカ—ジェントルマンが支える「大英帝国」の時代
4. アメリカ合衆国の国民国家
 - (1) 対イギリス独立革命
 - (2) フロンティア開拓時代の「他者」認識
 - (3) 奴隷制と南北戦争
5. フランスの国民国家
 - (1) ルイ14世治下における絶対主義の確立
 - (2) フランス革命とナポレオン
 - (3) 「国民」の創出—「単一にして不可分のフランス」成立
6. ドイツの国民国家
 - (1) 三十年戦争とプロイセン・オーストリアの絶対主義
 - (2) 対ナポレオン解放戦争と諸国民の春
 - (3) ビスマルクによる「ドイツ」統一
7. おわりに—20世紀のナショナリズムと国民国家

【評価方法】

成績評価は、出席と学期末テストにより総合的に行う。

【テキスト】

とくに定めなし。

【参考文献・資料】

○国民国家とナショナリズム（谷川稔 山川出版社）
○国民国家を問う（歴史学研究会編 青木書店）
その他講義中に指示する。

東アジアの生活と文化

楊 衛平

【授業の概要】

日本は東アジアに位置し、歴史的にも東アジアの影響を強く受けている。日本と関係の深い近隣の国を中心にその生活や文化について講義する。

【授業計画】

1. 中国の少数民族の構成
2. 儒教、仏教と道教の相異
3. 中国の年中行事
4. 南北食文化の比較
5. 中医学と西洋医学
6. 気の文化と気功術
7. 飲茶の文化と歴史
8. 伝統武術と映画
9. 少数民族の音楽
10. 少数民族の服装
11. 中国人の姓の色々
12. 中国の名勝物語
13. 中国人と日本人の考え方の相異

【評価方法】

出席状況とレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

中国人・文字・暮らし（李順然 東方書店）
中国仏・道・儒教史話（劉克蘇 河北大学出版社）
中国伝統文化導論（劉榮興 河北大学出版社）

ビジネスの世界

伊藤義明

【授業の概要】

90年代の「バブルの崩壊」の後遺症である長期にわたる経済の低迷から脱するため日本の企業経営は政府の保護規制から離れ、市場競争をベースとするいわゆるFree, Fair, Globalな経営を構築する新たな時代に入った。

学生諸君が専門課程に進む前段階で理解しておくべき、「新しい市場環境」と「企業活動の実際」及び「社会から評価される企業経営」の基本的なスキームを講義する。

【授業計画】

- 第1講: Introduction ; ビジネスモデルによる企業活動の概説
- 第2講: 日本の国際競争力 (IMD サーベイ他)
- 第3講: 制度変革と企業活動
Free, Fair, Global ; 規制緩和と市場競争 ; 自己責任とリスク管理
- 第4講: 企業をとりまく社会システムの変化——金融 ; IT ; 環境
- 第5講: 企業の組織——会社とは何か? ビジネス (商行為) とは何か? (法的要件)
- 第6講: 企業のマネジメント
- 第7講: 主要産業の特色——どのように変化に対応してきたか。
- 第8講: マーケットの機能——金融、外国為替、株式の各市場について
- 第9講: 経営品質について——社会に評価される企業経営とは?
Malcolm Baldrige National Quality Program と ISO 及び日本経営品質賞
- 第10講: 日本経営品質賞基準 (その1) リーダーシップと社会的責任
- 第11講: 日本経営品質賞基準 (その2) 市場と顧客の理解; 戦略の構築と展開
- 第12講: 日本経営品質賞基準 (その3) 人材; プロセス; 情報
- 第13講: 第9～12講の総括及び Q & A : テスト

【評価方法】

3回のテストの総合評価

【テキスト】

レジメ 使用

【参考文献・資料】

新聞の経済記事を読むこと

暮らしの経済

村上貴美子

【授業の概要】

生活に密着した経済学の基礎と入門を学ぶとともに、現在の経済社会はグローバル化しているため、国際経済の流れや経済用語についても講義する。

【授業計画】

1. 最近の経済状況と用語解説
生活と経済の関わり
2. やさしい経済用語の説明
3. 消費者の権利と意思決定
4. 生活をとりまく環境変化
5. 本当の「豊かさ」とは何だろうか
6. 「労働」と「生活」
7. 余暇の為に働く「余暇とはなんだろう」
8. 国際化と生活
毎回、最近の経済ニュースの紹介と解説を予定している。

【評価方法】

宿題のレポート・単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。プリント配布

【参考文献・資料】

2004年版くらしの豆知識 (国民生活センター 編集・発行)

健康と医学

渡邊一功

【授業の概要】

日本はますます高齢化社会に入っているが、長生きするための健康は自分で管理し、自立自助が必要である。健康を保ち、命を守るためにどうすればよいか、医学の立場から講義する。

【授業計画】

- 1) 性感染症
感染症とは 性感染症の現状と予防 後天性免疫不全症候群
- 2) 免疫とアレルギー
免疫のメカニズム、アレルギー反応の分類
アレルギー疾患
- 3) 嗜好品と健康
アルコール タバコ 薬物依存
- 4) 生活習慣病の予防
糖尿病 がん 高脂血症 高血圧
- 5) 生殖の医学
性機能 避妊 妊娠 分娩
- 6) 胎児からの子育て
母子相互作用 母と子の絆 小児虐待
- 7) 子どもの成長と発達
身体的発育 生理機能の発達 精神的発達
しつけ
- 8) 乳幼児期の主な病気
一般的症状 主な病気 障害児
染色体と遺伝子異常

【評価方法】

主に筆記試験による。

【テキスト】

健康と保健の科学 (坂口他著 日本小児医事出版社)

健康とくすり

八代有

【授業の概要】

現代は飽食の時代といわれ、運動不足やストレス過多のため医薬品の助けがなければ健康の維持が難しい。医薬品についての正しい知識を学び、その依存性や副作用について理解を深める。

【授業計画】

1. 薬の生体における作用点
2. カゼ対策と風邪症候群
3. アレルギーと抗ヒスタミン剤
4. カフェイン飲料と中枢興奮の働き
5. うつ状態と覚せい剤
6. 自律神経系と生体機構
7. コレステロールと動脈硬化症
8. 肥満症と高脂血症
9. うがい薬と呼吸器系作用薬
10. 健胃消化薬と整腸薬
11. ビタミン剤とホルモン剤
12. 抗生物質製剤と副作用
13. 医薬品服用時の臨床検査値への影響

【評価方法】

テスト、出席状況などの総合判定による。

【テキスト】

テキストは使用しない、プリントを適宜配布する。

メンタルヘルス

太田龍朗

【授業の概要】

今や子供から大人まで、多くの人々が心を病んでいるといわれている。心の病は少年期や青年期に特有のものから、時代や社会に要因のあるものもある。臨床的事例をふまえてメンタルヘルスを考える。

【授業計画】

- 概論：1. 心の病：その歴史
2. 精神症状のとらえ方
3. 精神障害の種類と分類
4. ライフサイクルと心：性格、発達と加齢
- 各論：1. 青年期、思春期にはじまる統合失調症
2. 感情の障害としての躁うつ病（気分障害）
3. ストレスとその反応：神経症と心身症
4. やまらない、止まらない：薬物依存
5. 眠りと食と性の偏り：睡眠、摂食、性障害
6. 大人とは異なる児童・小児の障害
7. 老人と高齢者の病：器質性障害
- 総論：1. 病を前にして：治療、面接、カウンセリング
2. 心の健康に向けて：地域社会、制度と活動
- 終講：単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

大学生のための精神医学（高橋俊彦・近藤三男著 岩崎学術出版社）

【参考文献・資料】

精神を病むということ（秋元波留夫・上田敏著 医学書院）
図解雑学 心の病と精神医学（景山任佐著 ナツメ社）

スポーツ科学

鶴原香代子

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業計画】

- スポーツの特性を理解し、自身の能力や体力にふさわしいスポーツ実践の大切さを認識するため、以下の計画で実施する。
- 第1回 教室にてガイダンスを行う。
授業の進め方、種目や施設・用具について理解する。
- 第2回～最終授業
カロリーカウンター（万歩計）を利用して運動量を知り、自己管理の能力を身に付ける。
基本的動作から実践的な練習をすることにより各種スポーツの特性を理解し、技能と知識を身につける。
前半は、主にニュースポーツ（ミニテニス、ソフトバレー、ユニホック、インディアンカ、フライングディスク等）を展開する。
また、ソフトバレーからバレーボールへと発展していくことも考えている。
後半は、卓球を展開する。
- 1～2. 導入、ラケットイング
フォアハンド、バックハンド
- 3～4. サーブとレシーブ
ゲームの進め方
フォーメーションと戦術
- 5～最終授業
ゲーム（ダブルス、シングルス、審判）
スキルテスト

【評価方法】

出席状況（50%）、学習意欲（30%）、種目理解度（20%）により総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

ライフサイクルと健康

鶴原香代子

【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も善しやすくなる。ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題をとりあげて講義する。

【授業計画】

- 第1～4回 現代社会における健康の諸問題
ライフサイクルと健康
大学生生活と健康
生活習慣の修正
- 第5～8回 運動不足とその影響
ウエイトコントロール
運動・スポーツと疾病予防
発汗と水分・栄養補給
疲労とその予防・回復
- 第9～12回 身体の仕組みと働き
大学生の体格・体力
心と体の変化
運動・スポーツの効果と安全性
運動処方
- 第13～終了 ライフスタイルと健康
まとめ

【評価方法】

授業内の課題レポートによって評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜 指示する。
資料としてプリントの配布、ビデオを利用する。

健康と運動

鶴原香代子

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業計画】

- 生涯にわたってスポーツを実践していくためには、学生時代のスポーツ経験が重要だと言われている。そこで本授業では、バドミントンの基本的技能とゲーム形式を取り入れた実践的な練習をすることにより、生涯にわたって親しめるような技能や知識を身につける。
- 第1回 教室にてガイダンスを行う。
授業の進め方、種目や施設・用具について理解する。
VTRにより種目の特徴や歴史的ゲームの追体験を行う。
- 第2回 導入、シャトルに慣れる（ラケットイング）
- 第3回～ラケットワークとフットワーク
・遠くへ飛ばす（サービスからハイクリア）
・ネット際に落とす（ドロップ、ヘアピン）
・攻撃に結びつける（ドライブ、プッシュ、スマッシュ）
・ハーフコートでの簡単ミニゲーム
- 第6回～フォーメーションと戦術
・ダブルス・ゲームの進め方（ルールの理解）
・ダブルス・ゲームの実践（審判）
・サービス（コースを決めて打ち分ける）
- 第8回～最終授業まで
ダブルス・ゲーム（リーグ戦）
シングルス・ゲーム
スキルテスト

【評価方法】

出席状況（50%）、グループワークと参加態度（30%）、種目の理解と技能の習得（20%）により総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜 指示する。

現代社会と福祉

見平 隆

【授業の概要】

多くの人々が人間らしい生活を営むには、社会的な福祉は避けられない問題である。しかし、「福祉はいかにあるべきか」という課題と解決策は難しい問題でもある。現代社会の福祉について具体的事例にふれて講義する。

【授業計画】

1. 現在の生活から社会の現状を知る
2. 福祉とは何かを考える
3. ライフサイクルと福祉の関わりを考える
4. 日本と世界の福祉の現状を知る
5. 現代社会の福祉をめぐる問題を考える
6. これからの福祉の課題を考える

一つのテーマについて1回から数回講義するが、授業についての質問などを適宜書いてもらい、次の授業に反映したい。できるだけプリントを配布する。

【評価方法】

定期試験の結果および授業で指示した課題提出により評価する。出席率は受験資格にはしない。

【テキスト】

社会福祉キーワード 補訂版 (平岡公一・平野隆之・副田あけみ著 有斐閣)

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

手話・点字

堀 正和

【授業の概要】

手話・点字について聴覚障害者や視覚障害者のコミュニケーションや文化におけるその役割や歴史と実践的技術・方法論を講義する。

【授業計画】

1. 視覚障害概要
2. 視覚障害者のコミュニケーション方法
3. 点字の概要
4. 点字演習
5. 聴覚障害概要
6. 聴覚障害者のコミュニケーション方法
7. 手話の概要
8. 手話演習

【評価方法】

点字や手話の読み取りや表現のテストにより行う。

【テキスト】

点訳のしおり・点字器付き (日本点字図書館) 及び
手話教室入門 (全日本ろうあ連盟出版局)

ボランティア論

矢島 洋子

【授業の概要】

ボランティアは今や新しい時代を生きて行くための行動様式のひとつになっている。ボランティア先進国アメリカの実例にふれながら、ボランティアの成り立ち、その存在意義や方法論などについて講義する。

【授業計画】

1. ボランティアの思想
2. アメリカのボランティア活動 (1)
3. アメリカのボランティア活動 (2)
4. アメリカのボランティア活動 (3)
5. ヨーロッパのボランティア活動
6. 日本のボランティアの変遷
7. 特定非営利活動促進法 (NPO法)
8. 日本のボランティア活動 (1) 災害とボランティア
9. 日本のボランティア活動 (2) 高齢者とボランティア
10. 日本のボランティア活動 (3) 障害者とボランティア
11. 日本のボランティア活動 (4) 開発とボランティア
12. 日本のボランティア活動 (5) 難民とボランティア
13. ボランティアの課題

ビデオの活用や当事者による講義も予定している。ボランティアを具体的に理解できる授業を心がけたい。

【評価方法】

おもに期末試験により評価する。期中にレポートなどを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。なお、出席率は受験資格にはしない。

【テキスト】

使用しない。適宜、資料などを配布する。

【参考文献・資料】

- ボランティア学を学ぶ人のために (内海成治他編 世界思想社)
- フィアンソロビーの思想：NPOとボランティア (林雄二郎他 日本経済評論社) 他

スポーツ文化論

勝部 篤美

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発し、技能を追求する。
2. スポーツは競争と協力の両面をもち、フェアプレイの精神によって成り立つ。
3. スポーツには富と閑暇が関係し、社会生活と関係が深い。
4. スポーツには教育、政治、科学が関係する。
5. スポーツは地理的環境に影響されることが大きい。
6. スポーツは「強いもの」から「弱いもの」へと対象を拡げつつある。
7. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある。
8. スポーツは今や人間性の復権へ向って進む。

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況によって評価する。

【テキスト】

使用せず。参考図書は授業のとき指示する。

生き物の世界

鹿島英祐 瀬川正夫

【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生存しているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

【授業計画】

〔動物コース〕

動物の分類、分布、食性などの基礎的な知識を学び、さらに、学校での動物飼育管理、人畜共通感染症、野生動物保護、自然環境の保全の重要性を学習する。

野外学習では、東山動物園で動物の行動や習性を学ぶとともに、こども動物園において小動物や家畜との触れ合いを体験することにより生命の尊さを学ぶ。

〔植物コース〕

都会の中心部に近いところで残された学校周辺の自然林や、東山植物園における野外植物の学習、及び温室植物等の学習を中心に授業を行う。

植物に関する基礎的な知識と実際の植物との触れ合いにより、生き物の不思議さや美しさを学ぶと共に、人と自然との関わりに興味を持つことにより、自然環境保全の重要性を学習する。又、小さな自然の一つといわれている身近かでの植物の活用をも学習する。

【評価方法】

出席状況およびテストによる。

人類と宇宙

安野志津子

【授業の概要】

宇宙観の始まり、星の生と死、地球の生成と進化など、日進月歩の宇宙の科学の課題をふまえて、人類にとっての宇宙についても考察する。

【授業計画】

一地球のまわり、太陽系、銀河系を知り、宇宙を身近に引き寄せるために一

1. 宇宙観の変遷
2. 宇宙を観測する手段
3. 太陽系を探る
4. 星の世界
5. 銀河から宇宙へ
6. 宇宙の始めと未来

毎回プリントを配布し、講義を主とするがその内容を中心としたOHP、ビデオ等も利用する。また、講義に関連した質問を出してもらい次回に解答する。なお、随時ホットな話題も取り入れたい。

【評価方法】

基本的には、期末テスト（配布プリント、ノート持ち込み可）によるが、出席状況も考慮して判定する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

- (1) 宇宙論のすべて（池内了 新書館）
- (2) 星と宇宙の物理学読本（並木雅俊 丸善）
- (3) 見えてきた宇宙の神秘（野本陽代 草思社）
- (4) 太陽 一その素顔と地球環境との関わり（ケネス.R.ラング著 渡辺 堯・桜井邦朋訳 シュプリンガー・フェアラーク東京）

生き物の世界

服部一三

【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生存しているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

【授業計画】

- | | |
|---------|---|
| 第1回 | 1. 生物界の分類
2. 生物の進化 |
| 第2-6回 | 3. 植物と人の関わり
1) 農耕の始まり
2) 世界の農耕文化
3) 日本農耕文化の起源と発展
4. 人が手を加えた植物一作物
1) 作物とは？
2) 世界の作物の起源 |
| 第7-8回 | 5. 作物改良の原理と方法
1) 作物改良の原理
(1) メンデルの法則一遺伝学
(2) 遺伝の物質的基礎 |
| 第9回 | 2) 作物の改良方法 |
| 第10回 | 6. バイオテクノロジー |
| 第11-12回 | 1) バイオテクノロジーとは？
2) 作物の改良とバイオテクノロジー
(1) 細胞・組織培養
(2) 遺伝子操作
(3) バイオテクノロジーで得られた作物をいかに考えるか？
(1) 倫理
(2) 安全性 |

【評価方法】

受講資格についてはあえて問わないが、成績評価には出席点を重視し、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

下記の書籍を参考書籍として使用するが、テキストなどを作成して講義を進めるので、特に買い求める必要はない。

生物的自然と人間（平田豊著 開成出版）

環境保護論

田部一史

【授業の概要】

現代は地球規模で自然の環境破壊が進んでいる。自然を守り環境を保護する立場から、生物とそれをとりまく外的環境の問題点を、身近な例をあげて講義する。

【授業計画】

- 第1講 序論：自然に学ぶ
- 第2講 森林破壊：森はいのちの母である
- 第3講 砂漠化：世界は水を失いつつある
- 第4講 地球温暖化と異常気象：人為による地球の異常
- 第5講 大気汚染と酸性雨：自然も文明も溶かして去る
- 第6講 フロンとオゾンホール：降りそそぐ有害紫外線
- 第7講 いのちのしくみ1：細胞レベル
- 第8講 いのちのしくみ2：個体レベル
- 第9講 環境汚染とがん：人工化学物質の氾濫
- 第10講 環境ホルモン：いのちのつながりを絶つ
- 第11講 生態系のバランス：人の手で壊される自然
- 第12講 生命の多様性：大量絶滅
- 第13講 環境保護：いのちと自然を守る

【評価方法】

出席状況、レポートおよび単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

食品の科学

来住準一

【授業の概要】

基礎的な科学と食品の科学とのかかわり、食品の持つ機能や性質、貯蔵などを学び、食品酵素の関係や科学物質としての理解を深め、多様化した食生活や加工食品の氾濫の中で生活に役立つ講義をする。

【授業計画】

淑徳花子さんは健康に一人倍関心をもつ大学生、赤ん坊からお年寄りまでがそろう大家族の一員です。一緒に淑徳家の食卓をのぞいて見ませんか。普段何げなく食べている食品にスポットをあて、氾濫する情報の中で、あなたの食生活を見直すヒントを提供します。講義では毎回2つの類似した食品を提示し、受講者にその1つを選択してもらいます。なお、テーマによりVTR視聴や簡単な実験を実施します。

1. 食品選択のヒント：リスク vs. ハザード
2. ダイオキシン汚染：母乳 vs. 粉ミルク
3. 栄養バランス：洋食 vs. 和食
4. 水の安全性：ミネラルウォーター vs. 水道水
5. 強調表示のよみ方：グリーンガム vs. キシリトールガム
6. 実験：むし歯になり易さ、お酒の強さチェック
7. レストラン：A vs. B
8. 牛肉：和牛 vs. 国産肉
9. 牛乳：ホモ vs. ノンホモ（実験）バターをつくらう
10. トマト：無農薬 vs. 有機栽培/減農薬 vs. 低農薬/人造いくらづくり
11. パナナ：フィリピン産 vs. 台湾産
12. 機能性食品：健康食品 vs. 保健機能食品
13. 健康常識クイズ

【評価方法】

出席（20%）、毎回の提出物（60%）、期末レポート（20%）。

学習のフィードバックのため、毎回の提出物には質問などへの回答やコメントを書いて返却します。

【テキスト】

テキスト使用せず、プリントを適宜配布します。

文学1（日本）

堀尾幸平

【授業の概要】

日本の文学史について概説し、日本文学の特徴や外国文学の影響などについてもふれる。古典から近・現代までの著名な作品や名作も鑑賞し、日本文学への興味と関心を高める。

【授業計画】

1. 文学とは何か
2. 明治期の文学
3. 坪内逍遙、二葉亭四迷
4. 三輪弘忠、巖谷小波
5. 大正期の文学
6. 小川未明、鈴木三重吉
7. 千葉省三、浜田廣介
8. 少年詩、童謡、金子みすゞ
9. 昭和期の文学
10. 佐藤紅緑、江戸川乱歩
11. 宮澤賢治
12. 新美南吉、坪田謙治
13. 平成期の文学
14. 創作方法理論
15. 試験

【評価方法】

定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】

新日本児童文学論（堀尾幸平著 中日文化 2,200円）

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

暮らしの化学

八代有

【授業の概要】

健康で豊かな生活を維持していくには、化学の知識と活用は必要不可欠である。身近な生活に拘わる化学的な要素について事例をあげて学ぶ。

【授業計画】

1. 栄養のバランスと健康増進を考える
2. 食品成分の化学と食品の安全性
3. ビタミンの化学的性質と疾病とのつながり
4. 生活習慣の改善と疾病予防
5. 薬についての正しい認識
6. 薬が生体に影響を与える因子
7. 尿・血液成分のしくみ
8. 暮らしのなかの酵素の働き
9. 話題となった環境公害
10. 生活のなかでの不思議

【評価方法】

テストおよび出席状況により総合的に判定する。

【テキスト】

テキスト使用せず、プリントを適宜配布する。

文学2（中国）

河井昭乃

【授業の概要】

中国の歴史と文化は古く、その影響は世界に与えているが、特に日本文学が受けたものは大きい。中国の代表的な古典を中心に紹介し、鑑賞するとともに、中国文学への興味と関心を高めたい。

【授業計画】

1. 外国古典文学として漢詩・漢文を読む
2. 各ジャンルの概説
3. 古詩から近体詩へ
4. 近体詩の形式；押韻・平仄・対句
5. 代表的作家の作品の鑑賞；李白・杜甫・白居易
6. 中国における「歌枕」

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合評価する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

参考書・資料は、必要に応じて授業中に提示する。

文学3 (欧米)

隈井清臣

【授業の概要】

西洋の文学史や文学思潮を概説し、特にイギリス文学・アメリカ文学を中心に代表的な作品について紹介し、鑑賞して、外国の文学への興味と関心を高める。

【授業計画】

- 第1回 受講に関するガイダンスと参考書目紹介
- 第2回 欧米の文学の特長について
- 第3～6回 小説について
- 第7～8回 詩について
- 第9～11回 劇について
- 第12回 散文について
- 第13回 結びと推薦書目紹介

【評価方法】

作品を読んで提出するレポート70%、出席状況20%、授業の参加状況10%、計100%で評価する。

【テキスト】

世界文学の名作と主人公 (原卓也編著 自由国民社)

【参考文献・資料】

- 現代英米文学作品解説 (稲村松雄著 北星堂書店)
- 英米文学の名作を知る本 (渡辺恵子編 研究社)
- 現代の英米作家100人 (木内徹他編著 鷹書房弓プレス)

現代の芸術1 (書道)

小川晃治

【授業の概要】

現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書作し、技法の向上をはかり、書道への関心を高める。

【授業計画】

講義、実技を一日の時間内に進める。前後期共通の為、各時代の書美、他の美術、文学の対比についての講義は概論とする。現代社会に於ける書美と、日本人の美意識を探究することを基準として進める。

【評価方法】

レポート三種、実技作品、学習態度、出欠状況などによる。

【テキスト】

担当者の小文、古典法帖。

現代の芸術2 (音楽)

志水博子

【授業の概要】

現代芸術としての音楽の意味と意義について概説し、洋楽・邦楽の名曲についても鑑賞する。音楽に関する基礎や知識を学び、歌唱力や鑑賞力の向上をはかり、音楽への関心を高める。

【授業計画】

- 第1回 名演奏家によるオペラのビデオ鑑賞
- 第2回 声の出るしくみを知る
- 第3回 腹式呼吸と身体のつかい方の練習
- 第4回 ビデオ鑑賞
- 第5回 発声練習と歌唱
- 第6回 ビデオ鑑賞
- 第7・8回 ピクニックや集会でのやさしいハーモニーの楽しみ方練習
- 第9～12回 各自の課題による実技発表とアドバイス

【評価方法】

授業内での実技演奏 (各自の得意とする歌唱又は楽器の演奏、アンサンブル可) と出席状況

【テキスト】

楽譜プリントは配布

現代の芸術3 (美術)

藤井健仁

【授業の概要】

現代芸術としての美術の意味と意義や東西の流派を概説し、西洋や日本の名画についても鑑賞する。写生などの実作の実技指導も行い、美術や絵画への興味と関心を高める。

【授業計画】

- 前半
シュルレアリスム、ポップアート、もの派等、現代美術のムーブメントをそれぞれの時代背景と照らし合わせながら講義する。
- 後半
小彫刻を制作することによって、表現が立ち現れる地点を体験する。教材として (樹脂パテ) 等を各自が購入する。

【評価方法】

授業内で提出する制作物、レポートを重視する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

なし

現代の芸術4 (映画)

HIGH, Peter B.

【授業の概要】

映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。アメリカ映画を題材として使って、映画芸術とは何かを考察

【授業計画】

授業のやり方としては、映画(全体又は部分)を見終わってから教室で、ディスカッションを行った後、各自、次の授業までに自分の分析を短い文章(原稿用紙2・3枚程度)にまとめて提出する。

課題:「古典ハリウッド映画」の表現手法

今学期、四つの映画を分析対象とする:

- 1) 「駅馬車」(STAGECOACH, 1939年作品、監督: John Ford)
- 2) 「マルタの鷹」(MALTESE FALCON, 1941年作品、監督: John Huston)
- 3) 「市民ケーン」(CITIZEN KANE, 1941年作品、監督: Orson Welles)
- 4) 「第三の男」(THE THIRD MAN, 1949年作品、監督: Carol Reed)

現代の芸術4(映画)の学期末評価は3つの宿題に基づく(学期末試験はなし):

- 宿題1:「マルタの鷹」の対極的分析の図(文章化する必要はない)
- 宿題2:「市民ケーン」の対極的分析(原稿用紙3-4枚の文章)
- 宿題3:「第三の男」の対極的分析(原稿用紙3-4枚の文章):この三つの宿題は学期末試験として扱われる

*今学期学ぶこと:

- 1) 映画分析のための技術:
 - a. セグメンテーション(SEGMENTATION=映画を見ながら、ノーツの取り方)
 - b. 対極的分析法(映画ドラマにおける対立。競争、衝突などに焦点を絞って、ドラマの構造を分析すること)
- 2) 典型的なハリウッド映画(1930年代から現在の「スター・ウォーズ」や「ターミネーターIII」等にいたるまで)のスタイルとストーリーの語り方:
 - a. 「因果的關係」とドラマの盛り上げ方
 - b. FABULA(ファビュラ)=観客が頭の中で作る「映画のストーリーの世界」対SUZHET(シュージェット、つまり「プロット」)=画面から与えられた「映画のストーリーの世界」を作るための「材料」や「ヒント」
 - c. ハリウッド映画はどうやって「リアリズム」の感覚を作り上げるのか
 - d. ハリウッド映画を見ている時に、どうして観客は「自分が映画を見てるんだ」ということを忘れるのか
- 3) ハリウッド映画におけるGENRE(ジャンル)の役割

【評価方法】

出席と宿題によって、評価される

【テキスト】

テキストはありません。教材は適時配布します。

現代の芸術5 (演劇)

海上宏美

【授業の概要】

現代芸術としての演劇の意味と意義について概説し、ヨーロッパや日本の演劇の歴史についてもふれる。内外の代表的な演劇について解説し、演劇への興味と関心を高める。

【授業計画】

1. 現代芸術としての演劇は多様であるため、演劇を軸としながら国内外のダンス、パフォーマンス、アートを重要な参照項として見ていく。
2. 身体を用いる表現であるため現代の思想やジェンダーとも切り離して考えることはできないので、その関わりを探っていく。
3. 戯曲=テキストの存在が演劇にとって大きな要素なので、演劇における戯曲=テキストの位置の変遷を概説する。
4. 演劇が行われる「劇場」というものがどのような時代思潮を具現しているものなのかを、ヨーロッパと日本の劇場を比較しつつ検討する。
5. 演技というものを身体と言語の関係から見直し、演技というものの在り方を歴史的視点から批評的に見ていく。

授業は上演ビデオや参考スライドを鑑賞しながら進めていく。

【評価方法】

レポートの提出と出席状況で評価する。また、実際に劇場等で上演される現代の上演芸術(演劇に限定しない)を見ることを求める。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

現代の芸術4 (映画)

吉村英夫

【授業の概要】

現代芸術としての映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。ヨーロッパやアメリカ映画などとの比較の視点から日本映画の特徴などを講義し、映画への興味と関心を高める。

【授業計画】

映画の楽しさを知ろう! セミ・クラシック映画の魅力を考える。モノクロ映画は見えない学生もいる。黒澤明は誰もが知っているが、彼のダイナミックな映像を見えない学生が意外に多い。欧米、日本を通じて、かつて素晴らしい映画がつけられ、その伝統の上に現代映画が出来上がったことを知りたい。現在の大学生が生まれる以前の映画をセミ・クラシックと考え、優れた映画を参考上映し、その魅力を満喫しながら、映画芸術への理解を深める。古い映画がすばらしいことを知る入門講座としての役割を果たしたい。

参考上映する作品として検討中のもの(予定)

- * 世界最初の映画、無声映画とチャップリン映画
- * 『用心棒』(『七人の侍』)黒澤明監督作品
- * 『砂の器』野村芳太郎
- * 『幸福の黄色いハンカチ』(『男はつらいよ』)山田洋次
- * 『生れてはみたけれど』小津安二郎
- * 『十二人の怒れる男』シドニー・ルメット
- * 『シェーン』ジョージ・スティーヴンス
- * 『OK牧場の決闘』ジョン・スタージェス
- * 『北北西に進路を取れ』アルフレッド・ヒッチコック
- * 『ウエスト・サイド物語』ロバート・ワイズ
- * 『ダーティ・ハリー』ドン・シーゲル
- * 『ロッキー』ジョン・G・アビルドセン
- * その他

【評価方法】

*学期末のテスト *随時提出のレポート *出席 *テキストは使用しない

伝統芸能

安田文吉

【授業の概要】

日本の伝統芸能である能・狂言・歌舞伎を中心にその歴史や文化的意義について講義し、実演・ビデオなどを通じて鑑賞もする。

【授業計画】

1. 芸能と芸術
2. 芸能の発生
3. 伝統芸能
4. 民俗芸能
5. 日本古来の神事芸・仏事芸・渡来芸
6. 派生的な芸能 能
7. 派生的な芸能 狂言
8. 派生的な芸能 浄瑠璃
9. 派生的な芸能 歌舞伎
10. 派生的な芸能 踊
11. 派生的な芸能 邦楽
12. 派生的な芸能 俗曲(端唄・小唄・都々逸他)
13. 日本伝統芸能の特色と意味

猶、名古屋芸能文化会主催の伝統芸能公演などの鑑賞と研究を行う。

【評価方法】

レポート

【テキスト】

- 歌舞伎入門(おうふう)
- 歌舞伎のたのしみ(北白川書房)

【参考文献・資料】

その都度紹介する

現代マナー論

市原江美

【授業の概要】

人間関係の円滑な親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

【授業計画】

1. マナーとは
2. 第一印象の重要性
3. 人と接するときの5つのポイント
4. コミュニケーションマナー1（電話対応のマナー）
5. コミュニケーションマナー2（来客対応のマナー）
6. コミュニケーションマナー3（訪問のマナー）
7. コミュニケーションマナー4（慶弔マナー）
8. コミュニケーションマナー5（文書のマナー）
9. 効果的なコミュニケーション
10. 自己理解と他者理解

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

現代マナー論

佐々木紀子

【授業の概要】

人間関係の円滑な親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

【授業計画】

1. 何を、どう学ぶのか
2. 人生の目標をもつ
3. 円滑な人間関係とは、どういうことか
4. マナーのdoingとbeing（基礎編）
 - (1) 価値ある人間関係を広げる
 - (2) 挨拶と返事
 - (3) 表情
 - (4) 態度
 - (5) 身だしなみ
 - (6) 言葉づかいと話し方
5. マナーのdoingとbeing（応用編）
 - (1) 電話対応
 - (2) 訪問と来客対応
 - (3) 冠婚葬祭
6. 自己理解を深める

【評価方法】

出席状況、授業態度、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。詳しくは、1回目の授業で説明する。

【テキスト】

授業中に指示する。

現代マナー論

中郷佳子

【授業の概要】

人間関係の円滑な親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 第一印象の重要性
- 第3回 好印象を与える5つのポイント
- 第4回 学生と社会人の違い
- 第5回 言葉遣いと話し方
- 第6回 効果的なコミュニケーション
- 第7回 電話対応のマナー
- 第8回 文書のマナー
- 第9回 来客対応と訪問のマナー
- 第10回 慶事・弔事のマナー
- 第11回 食事のマナー
- 第12回 面接のマナー

【評価方法】

出席状況、受講態度、試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

文章表現

青木 健

【授業の概要】

マルチメディアの発達で文章を書く機会が少なくなっているため、自らの意思を文章で表現することが苦手な人も増えている。文章を作り、書くために必要な基礎知識や構成について具体例を示しながら講義する。

【授業計画】

- 第1回 人は言葉の織物である。(伝達と表現1)
- 第2回 現代の口語表現について。(伝達と表現2)
- 第3回～9回
例文をテキストに、文章の構成、語法、リズム、形容修辞法など具体的に講義。
- 第10回～12回
課題を3回提出し、短文(2～5枚、400字詰)を書かせ、そこから文章表現についての共通の問題点を抽出する。

【評価方法】

出席状況、3回の提出原稿などを基準として評価する。

【テキスト】

当方にて用意します。参考書籍は授業中に数冊指示します。

言語表現

三久保角男

【授業の概要】

マルチメディアの発達で人と人が直接的な会話することが少なくなり、話すことが苦手な人が増えている。人前で話すことや自分の意志を言葉で伝えるための基礎的な技術を身につける講義をする。

【授業計画】

1. 話し言葉概論
ことばの機能 話し言葉の特徴 共通語と方言
2. 日本語の音声 1 (発声)
呼吸法 音声器官 発声法
3. 日本語の音声 2 (発音)
音素 子音 母音 アクセント
4. 話し言葉の表現
スピード ポーズ イントネーション プロミネンス
5. 話し言葉の実践
敬語 スピーチ ディベート
6. 朗読

講義が中心になるが、可能な限りの実践を伴う授業にする。

【評価方法】

レポート。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

生涯学習論

五島敦子

【授業の概要】

現代は生涯学習の必要性和重要性が強く説かれている。社会の構造が複雑になるとともに高齢化社会も進む中で、生涯学習の意義と学び方について、身近な事例をふまえて講義する。

【授業計画】

1. 生涯学習とは何か
 - (1) 生涯学習の提唱
 - (2) 生涯学習の理念
2. 生涯学習の機会
 - (1) ライフサイクルと生涯学習
 - (2) 社会教育施設の意義
 - (3) 高等教育機関の役割
 - (4) 地域づくりへの参加
 - (5) 子どもの生活と生涯学習
 - (6) 高齢者の学習機会
 - (7) 職場における学習機会
 - (8) 情報化社会における学習情報
3. 現代生涯学習の課題
 - (1) 生涯学習政策の動向
 - (2) 教育改革と生涯学習体系化への移行

【評価方法】

レポート、授業内小テスト、出席状況による総合評価

【テキスト】

テキストとしては使用しない

【参考文献・資料】

生涯学習と社会参加—おとなが学ぶことの意味
(佐藤一子 東京大学出版会 1998年)
社会教育と学校シリーズ・生涯学習社会における社会教育
(鈴木 真理・佐々木 英和 学文社 2003年)

メディア表現

鎌田基子

【授業の概要】

情報化社会の発達と技術の進歩で、さまざまなメディアが新しい表現を生み、文化を形成している。現在あるメディアの構造と伝達の仕組みやかかわりについて、講義と実践をまじえながら考察する。

【授業計画】

1. どこからどこまでがメディアなのか
 2. 「編集」がもつ創造力
 3. 「伝える」と変化する
 4. 人を動かす力
 5. 自分との対話
 6. 「コンセプト」の功罪
 7. 共感する/させる
 8. 心を開かなければならないとき
- ほぼ毎回WORK SHOPを行なう。一項目に関する講義が複数回にわたる場合もあるので、極力遅刻、欠席のないよう注意してもらいたい。
状況により、可能であればゲストを招いての授業も計画する。

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

テキストは使用せず、資料を配布する。

一般心理学

青柳眞紀子

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業計画】

1. 無意識の世界
2. 動機づけ
3. ストレスとタイプA性格
4. 錯視の不思議
5. 学習
6. 記憶
7. パーソナリティ
8. 対人関係
9. 態度変容
10. 集団の心理

【評価方法】

試験の成績、レポート、出席状況などから総合的に評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

一般心理学

加藤智宏

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業計画】

- a. 知覚と感覚
- b. ノンバーバルコミュニケーション
- c. 愛着
- d. アイデンティティ
- e. 学習と記憶
- f. 忘却と変容
- g. 防衛機制と無意識
- h. 心理療法
- i. 心理テスト
- j. 個人・社会・環境

以上について、それぞれ1～2回の講義を予定しています。

また応用分野として、環境心理学や犯罪心理学についても紹介していく予定です。

【評価方法】

出席状況と試験の成績によって総合的に評価します。

【テキスト】

使用しません。授業中に資料を配付します。

経済学

細野義晴

【授業の概要】

経済の仕組みと役割について、マクロ経済とミクロ経済の双方の視点から基礎的知識を学ぶ。日常生活や時事問題としての経済学的事象についてもふれ、経済学を身近なものにする。

【授業計画】

1. 経済のしくみの全体像
マクロの経済とミクロの経済、GDP統計のしくみ、など。
2. 日本の経済と景気
日本経済の発展と構造変化、日本の景気変動、など。
3. 個人のくらしと経済
個人の消費行動、消費と貯蓄、など。
4. 企業の経済活動
企業の投資活動、モノの値段とインフレ・デフレ、など。
5. 政府の経済活動
財政のしくみと役割、財政事情の悪化と財政再建、など。
6. 金融のしくみと経済
お金と金融機関の役割、中央銀行の役割と金融政策、金融のビッグバン、など。
7. 日本と世界の経済
経済のグローバル化と国際収支、外国為替市場と外国為替相場の変動、国際機関の役割、欧州の通貨統合、など。

【評価方法】

単位認定試験の成績に出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

使用しない

【参考文献・資料】

- (1) 入門の入門 経済のしくみ (大和総研著 日本実業出版社)
- (2) 図解雑学 マクロ経済学 (井堀利宏著 ナツメ社)

政治学

西尾林太郎

【授業の概要】

政治体制や政治制度について概括的に学びながら、現実の政治の動態を日本と諸外国と比較しながら学習する。時事問題や日常的な話題にもふれつつ講義を進める。

【授業計画】

1. 国内政治と国際政治
 - a 国際社会とは?
 - b 国民国家、ナショナリズム、外国為替
 - c トランス・ナショナル現象、相互依存性の増大
 - d イスラム原理主義とグローバルスタンダード
2. 古典的デモクラシーとマス・デモクラシー
 - a 市民社会と大衆社会
 - b 立法国家と行政国家
3. 現代の政治過程
 - a 政治と利益団体、NPO
 - b 選挙、官僚、議会
 - c マスメディアとマスコミュニケーション
4. 政治権力とは何か
 - a 人間はどのように支配を受けられるか?
 - b リーダー・シップ、エリート
 - c 支配、被支配の心理
5. 戦後国際社会と日本の政治
 - a 冷戦構造と55年体制
 - b 利権の構造

【評価方法】

試験（配布資料と自筆ノートのみ持込可）と出席状況による。

【テキスト】

暮らしから考える政治（姜尚中著 岩波ブックレットNo.564）

数学

岡田克彦

【授業の概要】

数学は膨大な体系を持つ学問体系であるが、主要な分野の入門的、基礎的な事項を解説する。日常生活はさまざまな数学の恩恵を受けて成り立っているので、暮らしの中の数学といったことにもふれてみたい。

【授業計画】

以下の各項目について説明し、演習を行う。

- 1 確率
- 2 統計、偏差値
- 3 ベクトル
- 4 微分
- 5 積分
- 6 物理学への応用

【評価方法】

課題及び試験で評価する。

【テキスト】

特に使用しない。随時プリントを配布する。

生物学

多田萬里子

【授業の概要】

生物の発生、生命、形態、生態、生理、分類など、生物学の各分野の基礎を概説する。身近な生物学的諸問題についてもふれ、生活に役立つ生物学を講義する。

【授業計画】

1. 生物の歴史
2. 生物の多様性
3. 生命の単位
生体を構成する物質
細胞の構造と機能
4. 代謝：生命維持のエネルギー
5. からだのなかの情報系
6. 恒常性の維持：ホメオスタシス
7. 個体の発生、生殖と分化
8. 遺伝情報の伝達 遺伝子の働き
9. 生体防御機構 血液のはたらき
10. 生命を操作する技術
遺伝子組み換え食品、クローン動物
11. 生物と環境

【評価方法】

出席状況、授業内小テスト、期末テストを総合して評価する

【テキスト】

特に定めない
講義の要旨はプリントを配布する

【参考文献・資料】

受講者の理解度をもとに、適宜紹介する。

統計学

下木戸隆司

【授業の概要】

さまざまな情報が氾濫している現代社会は、情報処理の手段として統計学は不可欠である。統計学の基本的な概念と手法を講義し、社会統計が現代社会にどのようなかわっているか、いかに必要かを講義する

【授業計画】

- ・データの性質と基礎統計量
連続量と離散量、平均、分散、度数分布表、相関
- ・確率変数と確率分布
確率、正規分布、二項分布、ポワソン分布
- ・母集団と標本
無作為抽出、不偏推定値、中心極限定理
- ・統計的推測
点推定、区間推定、大数の法則
- ・統計的検定の考え方
仮説検定、棄却域、過誤確率
- ・統計的検定の事例
t検定、分散分析、カイ二乗検定

授業は基本的に上記の順で行うが、受講者の理解や関心にあわせて内容が変化することもある。

【評価方法】

定期試験の他、課題レポートが課されることもある。成績はこれらの結果から総合的に評価する。

【テキスト】

とくに指定はしない。

【参考文献・資料】

随時授業で紹介を行う。

物理学

坂井貞彦

【授業の概要】

人間の生命に関する分野を除く、自然現象を、数量的、法則的に把握し、普遍的法則や原理を見つけ出すという物理学の基礎を学ぶ。身近な現象の中から物理学的な観察や視野を持てる力を涵養する。

【授業計画】

講義方式による。実験は行わない。テキスト及び授業中に配布するプリントの記述のうち基本的なものを説明し、物理学への関心を高める。

- 1 はじめに
- 2 運動と力
- 3 振動と波動
- 4 光と電磁波
- 5 かたちと流れ
- 6 熱とエネルギー
- 7 電気と磁気
- 8 相対性理論
- 9 量子力学
- 10 素粒子

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）による。（毎回欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させた場合は、成績評価に反映させる。

【テキスト】

入門ビジュアルサイエンス・物理のしくみ（小暮陽三 日本実業出版社）

生命の科学

【授業の概要】

動物の生命の誕生、生体を構成する物質の生殖と遺伝の仕組み、生命の維持や進化するためのメカニズムと器能などについて講義する。

05 年度開講せず

職業と人生

【授業の概要】

将来の職業選択に当たっての必要事項や現代の企業社会の実態、企業へ就職するための基礎知識などをガイダンスする。

05 年度開講せず

一般社会学

【授業の概要】

社会学は人間同士の関係に視座を置いて、個人・社会集団、社会事業について研究する学問である。社会学の領域と一般的研究方法や基礎的知識について概説する。

05 年度開講せず

法律学

【授業の概要】

社会生活は「法」という社会規範の中で営まれている。「法」は憲法をはじめ、各種さまざまな領域にわたって制定している。法とは何かという問題を中心に各種の法について概説し、日常生活に関連する法についてもふれる。

05 年度開講せず

英語コミュニケーション1 (TOEIC I)

山田久美子 NORRIS, Harry T. 他

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての基礎的な能力を、文法や語彙など基本事項に重点を置いて身につける。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、文法や語彙などの基本事項の整理を行うのがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) の「初級・中級コース」を活用して、文法や語彙などの基本事項を再確認し、その定着を図る。具体的には、以下のよう

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
4. Speed ListeningとSpeed Reading機能を活用した速聴・速読練習
5. 確認テストの実施

「初級・中級コース」のうち、「TOEICテスト演習コース」(10ユニット)と「TOEICテストパート演習コースpart V」(20ユニット)の合計30ユニットを修了させることが目標である。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

〈長久手キャンパス〉

13 Grammatical Keys to the TOEIC Test: TOEICテスト頻出文法13ポイント (西谷敦子著 朝日出版社)

TOEIC Test: Grammatical Trainer (大学生のためのTOEICテスト英文法) (高山芳樹著 南雲堂)

以下未定

〈星が丘キャンパス〉

掲示・配布物にて指示する。

英語コミュニケーション3 (Listening II)

石橋千鶴子 NORRIS, Harry T. 他

【授業の概要】

英語をより正確に聞き取り、パラグラフや会話文の要点を把握できるようになるための発展的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、会話文・説明文などの内容を正確に把握できるリスニング力を養成することがこの授業の目標である。

この目標を達成するために、さまざまな音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. 数字・地名の聞き取りと、日本人英語学習者が発音・聞き取りを不得手としている音の練習
4. ディクテーション
5. シャドーイング
6. 短文・長文の暗唱
7. ペア・プラクティス

授業で取り上げた教材を、何度も繰り返し声に出して発音する練習を通じて、英語らしいリズムとイントネーションの習得とともに、語彙力と表現力も身につける。英語を頭の中で日本語に置き換えるのではなく、英語を英語として聞き理解できるようにするために、大量・高速の英語を聞く。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

掲示・配布物にて指示する。

英語コミュニケーション2 (Listening I)

山田久美子 NORRIS, Harry T. 他

【授業の概要】

短いフレーズを中心とした英語を正確に聞き取れるようになるための基礎的な能力を、LL教材を用いて演習形式で身につける。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、基礎的なリスニング力を養成することがこの授業の目標である。この目標を達成するために、音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. ディクテーション
4. シャドーイング
5. 短文・長文の暗唱
6. ペア・プラクティス

様々な場面における対話や応答、状況説明などの聞き取りを通じて、語彙の増強と基本的な英語表現の習得も図る。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

〈長久手キャンパス〉

A New Approach to Natural English:

ShadowingによるTOEIC, TOEFL制覇 (矢作三蔵著 開文社出版)

リスニング・トレーナー: TOEIC対応レベル別練習

(千田潤一著 朝日出版社)

Work Sheets for Compact English Listening:

ワークシート方式リスニングの基本演習 (船田秀佳著 北星堂書店)

以下未定

〈星が丘キャンパス〉

掲示・配布物にて指示する。

英語コミュニケーション4 (Reading I)

横関美津紀 DYCUS, David C. 他

【授業の概要】

英文の内容を早く、正確に読みとれる能力を身につけるために、さまざまなタイプの英文を多読・速読する。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、英文の内容を早く、正確に読みとれるようになることがこの授業の目標である。具体的には、1分あたり150語以上のスピードで英文を読み、英語を日本語に訳すのではなく、英語を英語として読み、分からない単語があっても前後の文脈から意味を推測し、パラグラフごとの要点を把握するための訓練を行う。速読の訓練には、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) のSpeed Reading機能も活用する。授業は以下の内容で進める。

1. 社会・経済、世界の情報、自然科学、文化、広告文などの実用的な英文などさまざまな分野の英文の読解
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

〈長久手キャンパス〉

Exploring Cultural Issues: Practice in the TOEIC Test Format

(異文化で学ぶTOEICテスト総合演習) (清水義和他著 成美堂)

5-Minute Quizzes for TOEIC: Reading (TOEICのリーディング対策)

(木村恒夫他著 マクミラン ランゲージハウス)

以下未定

〈星が丘キャンパス〉

掲示・配布物にて指示する。

英語コミュニケーション5 (TOEIC II)

松本一喜 DYCUS, David C. 他

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての発展的な能力を身につけ、英語の総合力を高めることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システム ALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) の「スタンダードコース」を活用して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 「スタンダードコース」の「レベル診断テスト」の受験 (学生の習熟度にきめ細かく対応するため)
2. 受講生による演習問題への解答
3. 授業担当者による問題解説
4. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
5. 確認テストの実施

「スタンダードコース」のうち、「リスニング力強化コース」(50ユニット)と「リーディング力強化コース」(50ユニット)の全100ユニットを修了させることが目標である。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

掲示・配布物にて指示する。

英語コミュニケーション7 (Oral Communication II)

LONG, Jonathan E.B. 他

【Course Content】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の応用的な力を身に付ける。

This pre-intermediate course, aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and roll plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

【Schedule】

Topics will include such things as: Leisure and Recreation, The Weather, Advertising, Commuting and Transportation, Banking and Shopping.

【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション6 (Oral Communication I)

WILLIAMS, Allen D. 他

【Course Content】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の基礎的な力を身に付ける。

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and roll plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

【Schedule】

Topics will include such things as: Office Conversations, Travel Situations, Talking about Occupations, On the Telephone, Eating out and other TOEIC type situational conversations.

【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション8 (Reading II)

石橋千鶴子 DYCUS, David C. 他

【授業の概要】

さまざまなタイプの英文の内容を正しく把握できるように、英文精読のトレーニングを行う。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、目的に応じた英文の読み方があることを知り、ある程度のまとまった長さの英文を読みとれるようになることがこの授業の目標である。長い文章は、全体のテーマに行き着くまでに、いくつかのパラグラフが組み合わされてできている。このため、英文の内容を正しく把握するためには、パラグラフごとの要点を把握し、異なるパラグラフが論理的にどのような関係にあるのか、筆者の主張・論点・メッセージは何かを理解する必要がある。授業は以下の内容で進める。

1. 長文の大意把握
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

掲示・配布物にて指示する。

ASU TOEIC I E

鈴木久子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
 - ・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
 - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- *宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC I F

鈴木久子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
 - ・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
 - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- *宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC II E

PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
 - ・演習（リスニング・Reading）（30分）
 - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- *宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC II F

PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
 - ・演習（リスニング・Reading）（30分）
 - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- *宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

上級英語セミナー 2004A

CURRAN, Beverley 難波豊子

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2004A」は受講できない。）

【授業計画】

各担当教員の授業の計画は以下の通りである。詳細は、1回目の授業で説明される。このほか、ゲストスピーカーによる授業も適宜、実施される。

（CURRAN, Beverley 助教授）受講生が選択したさまざまなトピックについてのディスカッションを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

（難波豊子兼任講師）スラッシュ・リーディングによって英文を頭から情報処理する練習、英文メッセージを短時間で把握する練習、分かりやすい日本語の検討、逐次通訳・同時通訳の訓練などを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

【評価方法】

月曜日5限（担当教員：難波豊子）、木曜日5限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの授業において、日常の授業態度、宿題に対する姿勢などにより総合的に評価し、それらの評価の平均をこの科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

上級英語セミナー 2004B

CURRAN, Beverley 難波豊子

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

【授業計画】

各担当教員の授業の計画は以下の通りである。詳細は、1回目の授業で説明される。このほか、ゲストスピーカーによる授業も適宜、実施される。

（CURRAN, Beverley 助教授）受講生が選択したさまざまなトピックについてのディスカッションを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

（難波豊子兼任講師）スラッシュ・リーディングによって英文を頭から情報処理する練習、英文メッセージを短時間で把握する練習、分かりやすい日本語の検討、逐次通訳・同時通訳の訓練などを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

【評価方法】

月曜日5限（担当教員：難波豊子）、木曜日5限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの授業において、日常の授業態度、宿題に対する姿勢などにより総合的に評価し、それらの評価の平均をこの科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

中国語読解 1 B

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

講義の内容等とカリキュラム上の位置づけは＜中国語読解 1 A＞と大同小異であるが、中国語学習に対して特別に関心を示す学生に対して週 2 回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が＜中国語読解 1 A＞と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことで HSK の合格をより確実なものにすることを図る。

【授業計画】

読解に必要な、基礎的な表現や文法事項を、特に日本人の苦手な部分に重点を置いて、半期にわたって講義する。

- | | |
|------|--------------|
| 第一課 | 発音 (1) |
| 第二課 | 発音 (2) |
| 第三課 | 発音 (3) |
| 第四課 | 発音 (4) |
| 第五課 | 人称代名詞・“是” |
| 第六課 | 指示代名詞・数詞・量詞 |
| 第七課 | 形容詞と形容詞述語文 |
| 第八課 | 動詞述語文 |
| 第九課 | “有”・年月日 |
| 第十課 | 場所・時間・数量 |
| 第十一課 | 前置詞 (介詞)・“了” |
| 第十二課 | 能願動詞 |

【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語読解 1 B (中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

教場で指示する。

中国語読解 2

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

読解学習を通じて中国語の全体像がつかめる基礎的能力を養成する。さらに、HSK 基礎試験の 3 級に受かることを目標に定め、＜中国漢語水平考試大綱＞に規定された 900～1500 前後の語彙力と 140 項目の文法力を身につける。HSK 試験対策のためには＜HSK 基礎コース A＞か、＜HSK 基礎コース B＞と並行した履修が望ましく、基礎能力の深度を深めるためには＜中国語会話 2＞と並行した履修が望ましい。

【授業計画】

1. 就要放暑假了。語気助詞“了”、介詞“和”
2. 伝聞の表現、能願動詞“想”“要”
3. 暑假回家的一天。完了の表現、結果補語“到”
4. 使役の表現“讓”
5. 鈴木一家。能願動詞“会”“能”
6. 過去の経験表現「V+“過”」
7. 我家的照片。動作の進行・状態の持続などの表現「V+“着”」
8. 介詞“離”、連動文
9. 終於習慣了。感嘆表現 2
10. 自己の意見表示
11. 我做了一個夢。動作の進行表現の「“在”+V」、程度補語と可能補語
12. 副詞用法の“地”
13. 我太幸福了。目的語位置換えの“把”、比較の表現、受身文
14. 春暇的計画。未完了の表現、許諾の表現
15. まとめ

【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

中国語会話 1 B

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは＜中国語会話 1 A＞と大同小異であるが、中国語学習に対して特別に関心を示す学生に対して週 2 回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定などが＜中国語会話 1 A＞と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことで HSK の合格をより確実なものにすることを図る。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 今天星期幾? 曜日と疑問詞利用の疑問文
3. 我很高興。省略疑問文、形容詞述語文
4. 我學習中文專業。能願動詞“能”
5. 現在幾點? 時間表現、語氣助詞“了”
6. 我的家庭。介詞“在”
7. 談天氣。天氣表現、選択疑問文、感嘆文、
8. 邀請。假定文、反復疑問文、部分否定文
9. 中間テスト
10. 我的大學。伝聞の表現
11. 找手機。目的語位置換えの“把”、結果補語“到”
12. 喜歡甚麼? 過去の経験表現「V+“過”」
結果や程度表現「V+“得”」
13. 幫我。能願動詞“会”
14. 假期做甚麼? 結果補語“好”
15. まとめ

【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

中国語会話 2

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

主として、身近で分かりやすい実用例文を多くとりあげた会話学習を通じて、中国語の音声面・文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK 基礎試験の 3 級に受かることを目標に定め、HSK 試験センターより出された＜中国漢語水平考試大綱＞に規定された 900～1500 前後の語彙力と 140 項目の文法力を身につける。履修後は、旅先での中国語による買い物などが可能になる。

【授業計画】

中国語会話 1 をクリアした学生が、さらに深く生きた中国語を話せるようになることを目指す。学生が、中国に留学している気分で学習できるように配慮した。

- | | |
|------|------------|
| 第一課 | 部屋を借りる |
| 第二課 | 換金する |
| 第三課 | 道を尋ねる |
| 第四課 | 交通機関を利用する |
| 第五課 | 市場での買い物の仕方 |
| 第六課 | デパート |
| 第七課 | ホテル |
| 第八課 | 郵便局 |
| 第九課 | 電話 |
| 第十課 | 中国人宅に訪問する |
| 第十一課 | レストラン |
| 第十二課 | スピーチの仕方 |

【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語会話 1 A・2 (中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

教場で指示する

HSK 基礎コースA ※聴解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

履修後、HSK基礎試験の2級か3級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される400～1500前後の語彙量とその語彙量に相応する文法力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “了”や“过”の使い方など
2. “时点”の言い方や“时段”の言い方など
3. “小时”や“钟头”の使い方など
4. “方位词表”について
5. “多会儿”や“哪会儿”の使い方など
6. “该”や“应该”の使い方など
7. 介詞の“朝”、“向”と“往”の使い方
8. 比較表現について
9. “是字句”について
10. “愿意”や“想”の使い方など
11. “趋向补语”について
12. “复合趋向补语”である“下来”や“下去”などの意味について
授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

【テキスト】

HSK基礎A

HSK 基礎コースB ※読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは< HSK基礎コースA>と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が< HSK基礎コースA>で用いる教材と異なっている教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることによって理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “我”と“你”；“左右”と“前后”など
2. “是”；“语气助词”の“吗”と“呢”など
3. “了”；“形容词谓语句”など
4. “动词+过”と“形容词+过”；“在”など
5. “数量补语”；“头”と“面”など
6. “有字句”；结构助词“地”など
7. “量词的重叠”；“把字句”など
8. “从”と“离”；“一边～一边～”など
9. “都”と“一共”；“程度补语”など
10. “被字句”；“在・正・正在”など
11. “趋向补语”；“多么”など
12. “复合趋向补语”；“是～还是～”など
授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

【テキスト】

HSK基礎B

下記の科目は、本年度開講しません。

中国語読解 3

【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み中国語の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の4級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。HSK試験対策のためには<HSK初等コースA>か、<HSK初等コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには<中国語会話3>と並行した履修が望ましい。

HSK 初等コースA ※聴解中心

【授業の概要】

履修後、HSK初等試験の4級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

中国語読解 4

【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。HSK試験対策のためには<HSK中等上級コースA>か、<HSK中等上級コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには<中国語会話4>と並行した履修が望ましい。

HSK 中等上級コースA ※聴解中心

【授業の概要】

履修後、HSK初・中等試験の5級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力をマスターしていく。

中国語会話 3

【授業の概要】

第二外国語として年間ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取り上げられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の4級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。履修後は家族生活・大学生活などについて語るができる。

HSK 初等コースB ※読解中心

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK初等コースA>と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK初等コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

中国語会話 4

【授業の概要】

1. 5年間ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取り上げられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。履修後は趣味生活・地域社会などについて語るができる。

HSK 中等上級コースB ※読解中心

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等上級コースA>と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK初等コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

中国語作文 1

【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、みずから平易な中国語文章が書けることにねらいをさだめる。さらに、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標にし、2500~3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

HSK 中等高級コース 1 B ※読解中心

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等高級コース1A>と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK中等高級コース1A>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

中国語作文 2

【授業の概要】

2. 5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、中国語の一般的な文章が書けることにねらいを定める。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標にし、3500~4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。履修後は、友人・知人への略式手紙、中国官公署向けの書類作成、中国語による日記・メモの作成などが可能になる。

HSK 中等高級コース 2 B ※読解中心

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等高級コース2A>と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK中等高級コース2A>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

HSK 中等高級コース 1 A ※聴解中心

【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される2500~3500前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

同時通訳入門 1

【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、初歩的な同時通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。さらに、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標にし、2500~3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

HSK 中等高級コース 2 A ※聴解中心

【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される3500~4000前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

同時通訳入門 2

【授業の概要】

2. 5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、平易な同時通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標にし、3500~4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。HSK試験対策のためには<HSK中等高級コース2A>か、<HSK中等高級コース2B>と並行した履修が、中国語表現の深度を深めるためには<中国語作文2>と並行した履修が望ましい。

情報技術基礎Ⅰ

西荒井学 他

【授業の概要】

情報技術に関する基礎的かつ実践的な知識ならびに技法を習得する。このため、基本的なハードウェア構成および各周辺機器の機能や特徴をはじめ、ソフトウェアの役割、情報社会の特質や問題点にも触れながら、一般的な情報関連知識ならびに情報倫理観を育てる。特に、情報技術の基礎として不可欠なネットワーク利用技術ならびにデータ処理操作技術について、コンピュータ実習を通じて学習する。

【授業計画】

1. コンピュータの歴史、原理
2. 情報の表現（2進数、16進数）
3. ハードウェアの仕組みとソフトウェアの役割
4. 情報社会と情報倫理1（ネットワーク犯罪）
5. 情報社会と情報倫理2（情報セキュリティ、知的所有権）
6. 情報収集と分析
7. 情報ツールとマナー
8. インターネット基本操作1（電子メール）実習
9. インターネット基本操作2（WWW）実習
10. EXCEL基本操作1 実習
11. EXCEL基本操作2 実習
12. EXCEL基本操作3 実習
13. EXCEL基本操作4 実習

当該科目については、科目履修前に情報技術に関するテストを実施し、受講者を初級クラスと上級クラスに分け、授業を実施していく。また、講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。コンピュータ実習を伴うため、授業への出席は不可欠な要素である。また、実習の際にはフロッピー・ディスク（またはMO）を必ず持参すること。

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

未定

情報技術基礎Ⅲ

梅田敏文 他

【授業の概要】

情報技術基礎Ⅰ、情報技術基礎Ⅱを踏まえ、Windowsの高度操作、WORD、EXCELの高度操作、ACCESSの基本操作を学び、より高度で広範囲な情報技術の知識とスキルを習得する。当授業では、レポートや論文作成、ビジネス文書や表作成などを想定して、実践的なノウハウをコンピュータ実習によって学習する。

【授業計画】

1. デスクトップの高度操作
2. ファイルの高度操作
3. ネットワークの操作
4. 学術文書、ビジネス文書の操作（WORD）
5. ビジネス情報処理（EXCEL）
6. マクロ操作（1）
7. マクロ操作（2）
8. ACCESSの概要
9. ACCESSの基本操作（1）
10. ACCESSの基本操作（2）
11. ACCESS総合演習（1）
12. ACCESS総合演習（2）
13. まとめ

【評価方法】

コンピュータ実習を中心に授業を進行する。授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。出席状況、学期末試験、課題内容によって評価する。

【テキスト】

未定

情報技術基礎Ⅱ

西荒井学 他

【授業の概要】

情報技術の基礎となる基本ソフトウェアならびに応用ソフトに関する知識ならびに技法を習得する。また、情報の処理能力や創造力を培うだけではなく、情報の表現方法や表現手段について、コンピュータ実習授業を通して学習していく。このため、基本的な文書書式、文書表現の方法や特徴をはじめ、実際にプレゼンテーション・ツールを利用した発表の手段や方法についても学習する。情報技術基礎Ⅰと同様、今後のより専門的な情報技術に関する知識ならびに技能習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。

【授業計画】

1. Windows基本操作1（キー・タイピングを含む）実習
2. Windows基本操作2 実習
3. WORD基本操作1 実習
4. WORD基本操作2 実習
5. WORD基本操作3 実習
6. WORD基本操作4 実習
7. プレゼンテーションの概要
8. POWERPOINT基本操作1 実習
9. POWERPOINT基本操作2 実習
10. POWERPOINT基本操作3 実習
11. 総合課題（プレゼンテーション資料作成1）実習
12. 総合課題（プレゼンテーション資料作成2）実習
13. 情報発信の管理と運用

当該科目については、情報技術基礎Ⅰと同じく、受講者を初級クラスと上級クラスに分け、授業を実施していく。また講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。コンピュータ実習を伴うため、授業への出席は不可欠な要素である。また、実習の際にはフロッピー・ディスク（またはMO）を必ず持参すること。

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

未定

ネットワーク技術入門

三和義秀 他

【授業の概要】

ネットワーク（network）という言葉は、人間を中心とする情報交換の仕組みとして使われたり、コンピュータを中心とする情報通信の仕組みにおいて使われたりしているが、両者には「情報のやり取り」という義的な目的が存在し、ネットワークを流れるデータは人間の行動を左右する必要不可欠な情報となっている。本授業では、コンピュータネットワークに関する理論と技術の両側面における基礎知識を習得し、ホームページの作成、およびCGIプログラミングの実習によって、ネットワークの基本的な考え方、意義、活用方法、有効性を体得する。

【授業計画】

1. ネットワーク理論の基礎知識（1）：ネットワークの仕組みとその意義
2. ネットワーク理論の基礎知識（2）：情報量と通信速度、プロトコル
3. ネットワーク技術の基礎知識（1）：LANの仕組み
4. ネットワーク技術の基礎知識（2）：サーバの種類と仕組み
5. ネットワーク技術の基礎知識（3）：IPアドレスとファイアウォール
6. HTMLとホームページ（1）：HTMLの仕組み
7. HTMLとホームページ（2）：基本タグの設定、ハイパーリンクの設定、画像の表示
8. HTMLとホームページ（3）：サウンドの再生と動画の再生、ファイルの管理方法
9. CGIプログラミング（1）：CGIの仕組みとPerlプログラミングの基礎知識
10. CGIプログラミング（2）：エディタとFTP、パーミッションの設定
11. CGIプログラミング（3）：formタグによるデータ入力フォームの作成
12. CGIプログラミング（4）：環境変数、関数、文字列変換
13. セキュリティと情報倫理：セキュリティ対策と情報倫理の意味と必要性

【評価方法】

出席回数、課題提出、期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

ネットワークリテラシ ―ユビキタス社会におけるネットワーク活用のテクニック―
（三和義秀著 共立出版）

情報処理技術特殊 I

中野雅晴

【授業の概要】

基本情報技術者試験合格のための教育科目である。

情報技術全般の基礎知識を活用し、情報システム開発においてプログラムの設計・開発を行うとともに、将来高度な技術者を目指す者として、以下の知識・能力を身につける。

- 1) 情報技術全般に関する基本的な用語・内容の知識
- 2) 上位技術者の指導のもとにプログラム設計書を作成する能力
- 3) プログラミングに必要な論理的思考能力
- 4) プログラムのテスト手法を理解し実施する能力

【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎
- ステップ2 データベース技術
- ステップ3 コンピュータシステムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 情報と経営
- ステップ6 セキュリティと標準化

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊 II

中野雅晴

【授業の概要】

ソフトウェア開発技術者試験合格のための教育科目である。

情報システム開発のソフトウェア開発技術者として、外部仕様に基づいて内部設計・プログラム設計・プログラム開発を行い、高品質なソフトウェアを開発するための、以下の知識・能力を身につける。

- 1) ネットワーク、データベース、システム構成などの情報技術に関する一般的な知識と、上位技術者の指導のもとに情報システムの設計ができる能力
- 2) 内部設計書・プログラム設計書の作成能力
- 3) プログラミングに必要な高度の論理的思考能力
- 4) ネットワーク、データベースなどに関する実装技術と知識
- 5) プログラムのテスト手法を熟知し、単体テスト・結合テストの計画と管理が行え、テストの実施についてはプログラム開発要員を指導できる能力

【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎上級
- ステップ2 コンピュータシステム上級
- ステップ3 システムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 データベース技術
- ステップ6 セキュリティと標準化

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊 III

黒部晃一

【授業の概要】

「画像情報技能検定試験CG部門 (CG検定)」の2級合格を目標として、その対策を会得する。2級問題は、3級レベルのCGに関する総合的な知識の他に、厳密な理論的知識をも要求されるので、VCによるCGプログラミングのサンプルを解説することでそれを理解する。

【授業計画】

配布するサブテキストに基づいて、講義方式で行う。

1. CG概論、CG検定試験2級対策
2. 各種CGツールの紹介、そのデモンストレーションと事例紹介
3. VisualC++によるGUIプログラミング
4. VisualC++によるインターフェースの設計
5. 平成15年度前期CG検定2級試験問題の検証と分析
6. 平成15年度前期CG検定2級試験問題の検証と分析
7. 平成15年度後期CG検定2級試験問題の検証と分析
8. 平成15年度後期CG検定2級試験問題の検証と分析
9. 平成14年度前期CG検定2級試験問題の検証と分析
10. 平成14年度後期CG検定2級試験問題の検証と分析
11. 演習
12. まとめ

【評価方法】

出席状況で評価

【テキスト】

技術編 CG標準テキストブック (画像情報教育振興協会)
平成16年度版 CG検定2級問題集 (画像情報教育振興協会)

【参考文献・資料】

- 入門コンピュータグラフィックス (画像情報教育振興協会)
- 基礎から学ぶVisualC++プログラミング (山岡祥 CQ出版社)

情報処理技術特殊 IV

黒部晃一

【授業の概要】

「画像情報技能検定試験CG部門 (CG検定)」の1級合格を目標として、その対策を会得する。1級問題は、CGプログラミングのスキルを要求されるので、自ら発案するテーマに基づいたプログラミングの実習を行う。

【授業計画】

前半は講義方式で、後半は主に実習形式で行う。

1. CG検定試験1級の概要と対策
2. VisualC++によるGUIプログラミング
3. 平成15年度CG検定1級試験問題 (マークシート) の検証と分析
4. 平成15年度CG検定1級試験問題 (記述式) の検証と分析
5. 平成15年度CG検定1級試験問題 (二次試験) の検証と分析
6. 平成15年度CG検定1級試験問題 (二次試験) の検証と分析
7. 平成15年度CG検定1級試験問題 (三次試験) の検証と分析
8. 平成15年度CG検定1級試験問題 (三次試験) の検証と分析
9. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習
10. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習
11. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習
12. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習、まとめ

【評価方法】

出席状況で評価

【テキスト】

技術編 CG標準テキストブック (画像情報教育振興協会)
平成16年度版 CG検定1級問題集 (画像情報教育振興協会)

【参考文献・資料】

- コンピュータグラフィックス理論と実践
(J.D.Foley, A.v.Dam, S.K.Feiner F.Hughes オーム社)
- 基礎から学ぶVisualC++プログラミング (山岡祥 CQ出版社)

下記の科目は、本年度開講しません。

プログラミング入門

【授業の概要】

システム開発における基本技術であるプログラミング技術について、その基礎知識を習得する。このため、プログラミング言語が持つ特徴ならびに機能の学習からはじめ、データ処理におけるアルゴリズムについての考え方、ならびに最終的なコーディング作業に至るまでの一連のプログラミング工程について学習する。なお、プログラミングに関する理解は、実際のプログラミング作業を経験していくことが不可欠であることから、コンピュータ実習を並行して行う。

CG 入門

【授業の概要】

コンピュータグラフィックス (CG) に関する基礎知識と基礎技術を習得する。CGを効果的に使用した画像・映像は、産業、科学、映画、ゲーム、芸術、教育など多くの分野にみられる。各分野での応用例を紹介した上で、画像・映像についての知識を身につけ、モデリング・レンダリングについての技術を学び、最後にCG作成に必要なハード/ソフトについて概説する。

情報数学入門

【授業の概要】

情報の整理、分析、加工といった処理には、基本的な数学的技術の習得が不可欠である。この講義では、高等学校での数学の復習から始めて、情報処理プログラミングに必要な論理数学、情報量と計算量評価、グラフィック処理で必要となる代数幾何の基礎を学ぶ。

人工知能入門

【授業の概要】

人工知能とは何か、その基本的な考え方ならびに基本技術および情報処理について、その基礎知識を習得する。知識工学という言葉から類推されるように、工学的色彩が高い分野であることから、最も基礎的な内容に範囲を絞り、出来る限り理解しやすい形で授業を進行していく。そのため、システム事例や技術応用例に触れていくと共に、今後の技術展開や今後の応用分野についても触れていくこととする。

実用日本語演習Ⅰ（生活実用文）

大西和美 永井聖剛 人見恭司 日比野浩信 矢頭 純

【授業の概要】

日常生活における手紙・挨拶文・依頼文・案内文等の実用的な文章表現の、基本的な形式と表現を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

第1回に先立ち、テキストの「語彙〈ことばの読み書き〉」を、各自自習しておくこと。

- 第1～4回 敬語
- 第5～6回 手紙文
- 第7～9回 文の書き方
- 第10～11回 自己表現
- 第12回 小論文

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題提出、最終レポートなどによる。

【テキスト】

実践国語表現（市川毅他 おうふう）

実用日本語演習Ⅱ（商業文）

加藤良徳

【授業の概要】

商店・企業・官公庁等における報告書・依頼文・案内文等の文章表現の実践的な知識と技術を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2～5回 テキストを利用して、正確で分かりやすい文を書く基礎練習を行う。
 - 第6～9回 テキストを利用して、場面・用途別の文書作成の練習を行う。
 - 第10～12回 個別の課題により、文書作成を行う。
ロールプレイング形式を取り入れる。
- ※第2～12回では、毎回、言葉の知識について的小テストを行う。

【評価方法】

小テストの平均点、授業態度、第10～12回の課題の達成度を総合して評価する。

【テキスト】

書き込み式 日本語表現法（名古屋大学日本語表現研究会 三弥井書店）

【参考文献・資料】

各自、国語辞典を用意すること。

実用日本語演習Ⅱ（商業文）

桑本いづみ

【授業の概要】

商店・企業・官公庁等における報告書・依頼文・案内文等の文章表現の実践的な知識と技術を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

1. はじめに/ビジネス文書とは
2. 正確でわかりやすい文章を書くには
3. 礼儀正しい文章を書くには
4. ビジネス文書の書式と構成要素
5. 社内文書の作成—通知文・通達文
6. 社内文書の作成—依頼文・案内文
7. 社内文書の作成—報告書・議事録
8. 社外文書の作成—取引文書（通知状・注文状）
9. 社外文書の作成—取引文書（依頼状・照会状）
10. 社外文書の作成—社交文書（案内状・招待状）
11. 社外文書の作成—社交文書（礼状・祝い状）
12. 一般の文書、はがき、封筒の書き方
13. 単位認定試験

【評価方法】

出席状況・課題・単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

ビジネス文書実務（石井典子・三村善美著 早稲田教育出版）

実用日本語演習Ⅱ（商業文）

下村養子

【授業の概要】

商店・企業・官公庁等における報告書・依頼文・案内文等の文章表現の実践的な知識と技術を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 はじめに/郵便の知識と文書の取扱い
- 第2講 用字・用語の使い分けと敬語表現
- 第3講 ビジネス文書の書式と文章のまとめ方
- 第4講 社内文書の作成—連絡文書（通知状）
- 第5講 社内文書の作成—連絡文書（通知状）
- 第6講 社外文書の作成—社交文書（案内・招待状）
- 第7講 社外文書の作成—社交文書（案内・招待状）
- 第8講 社外文書の作成—取引文書（依頼状）
- 第9講 社外文書の作成—取引文書（照会状）
- 第10講 社外文書の作成—社交文書（礼状・挨拶状）
- 第11講 社外文書の作成—官公庁報告書
- 第12講 はがき・FAX・電子メール/文書の帳票化
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況・課題・単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

プリント配付。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

実用筆記演習Ⅰ（速記）

田辺則男

【授業の概要】

速記方式という実用的な記号の体系の基礎を演習形式で学び、日常生活において速記を応用する技術を身につける。

【授業計画】

1. 速記法の成り立ちと役割
『速記の知識』日本速記120年記念会発行・社団法人日本速記協会
2. 速記文字の演習『1巻～2巻』
3. 速記文字と国語表記
4. 言葉の聴き取り能力と国語表記能力の養成
5. 速記の目的と学習計画の指示
6. テキストによる速記文字の習得と演習
7. 速記実務における国語能力（言葉の聴取能力）
8. 速記実務における専門知識（言葉の理解能力）
9. 速記実務における国語表記（話し言葉から読む言語へ）
10. 新聞記事『主に社説』の書き取りと要約（NIE）

【評価方法】

1. 出席状況及び受講態度による評価
2. 平常点及び授業内容の理解度、課題点による評価
3. 速記技術の習得度及び国語表記能力による評価

【テキスト】

速記テキスト1巻～5巻（日本速記研究所刊）

【参考文献・資料】

速記の知識（（社）日本速記協会内・日本速記120年会発行）
国語表記能力シート 適宜授業中に配布する

実用筆記演習Ⅱ（習字）

福島千家

【授業の概要】

主として楷書体のひらがな・漢字の正確で美しい書法を演習形式で学び、習字の基礎を身につける。

【授業計画】

- 第1回 年間の授業計画として使用する教本の鑑賞の方法を説明する。
- 第2回～10回
書写の重要なポイントの説明をしながら実技をする。一人一人について添削指導をする。
- 第11回～最終回
応用問題を出して各自に表現をさせ実力を身につけさせる。又手紙の練習も実施させる。

【評価方法】

授業態度平常点・課題・出席状況

【テキスト】

ペン字テキスト、基本編・ペン字三体（氏田葛軒著 書道教育社）

実用筆記演習Ⅱ（習字）

大池茂樹

【授業の概要】

主として楷書体のひらがな・漢字の正確で美しい書法を演習形式で学び、習字の基礎を身につける。

【授業計画】

毛筆と硬筆を使い、学校で教えるひらがな・カタカナ・漢字の書き方を学ぶとともに、一般社会で必要とされる実用書写の知識を習得する。実技は日常の家庭学習をのぞむ。こくご10マスノート・書道用具一式が必要。

1. 用具説明 参考資料の説明 書写書道の専門用語
2. 墨をする 姿勢と筆の持ち方 名前を書く
3. 漢字の書き方（1）筆順と漢字の部首名
4. 漢字の書き方（2）基本点画
5. 漢字の書き方（3）字形
6. 漢字の書き方（4）字配り
7. カタカナの書き方
8. ひらがなの書き方
9. 漢字かな交じりの言葉を書く（1）色紙
10. 漢字かな交じりの言葉を書く（2）葉書
11. 漢字かな交じりの言葉を書く（3）手紙
12. まとめと提出

【評価方法】

小テスト、レポート、毎時間の提出物、実技作品、出席状況などにより総合評価する。

【テキスト】

新編書写指導（萱原書房）、ペン字のレッスン1 入門編（二玄社）

【参考文献・資料】

硬筆字典（二玄社）、文字の書き方字典（木耳社）

【その他】

書写検定試験（1級・2級）を受験し、実力をためす。

実用筆記演習Ⅲ（書道）

大池茂樹

【授業の概要】

行書体、草書体、隸書体、篆書体といったさまざまな書体やその芸術性を演習形式で学び、各書体の基本的な書法を身につける。

【授業計画】

書の歴史・文化・理論などを学びながら技術技法ならびに芸術的な感性を習得する。実技は日常の家庭学習をのぞむ。書道用具一式が必要。

1. 書道用具（文房四宝）参考資料の説明 芸術としての書
2. 篆書体の書き方 漢字の成り立ち
3. 隸書体の書き方 運筆の技法
4. 草書体の書き方 墨つぎ
5. 行書体の書き方 字配り 構成法
6. 仮名の書き方 余白の美
7. 書の創作と表現（1）書きたい言葉を選ぶ
8. 書の創作と表現（2）構想を練る 書体書風 形式
9. 書の創作と表現（3）表現の工夫 推敲する
10. 書の創作と表現（4）書き込む
11. 書の創作と表現（5）作品を仕上げる 押印
12. 書の鑑賞 作品の発表と評価 まとめと提出

【評価方法】

小テスト、レポート、毎時間の提出物、実技作品、出席状況などにより総合評価する。

【テキスト】

書法の美（二玄社）

【参考文献・資料】

新書道字典（二玄社）、五体字類（西東書房）、書道字典（角川書店）、書体小字典（東京堂出版）などの書道専門の字典類
その他、各種法帖、書道辞典、墨場辞典などの資料

実用筆記演習Ⅲ（書道）

福島千家

【授業の概要】

行書体、草書体、隸書体、篆書体といったさまざまな書体やその芸術性を演習形式で学び、各書体の基本的な書法を身につける。

【授業計画】

書道用具一式が必要。

第1回 年間の授業計画として使用する教本の説明をする。

第2回～10回

書写の重要なポイントの説明をしながら実技をし、一人一人について添削指導をする。

第11回～最終回

練習をした字句を使用して必要な熟語を構成して簡単な文章又は手紙文の練習をする。又篆書体によって自分の印鑑を讀める様にする。

【評価方法】

出席状況・平常点・課題による。

ディベート入門

渡辺真澄

【授業の概要】

討論・議論における効果的な論理の展開や修辭法、相手の論理や趣旨の理解や検証の方法等を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

ディベートの理論と実践を通してコミュニケーション技能の向上を目指す。授業ではディベートの概要や理論の解説に加え、受講者には実際にスピーチやディベートを行ってもらい、言語運用能力、論理的な思考能力、情報収集能力などの向上を目指す。

- 第1回 ディベートの概要
- 第2回 スピーチ実践（1）：他人紹介など
- 第3回 スピーチのレトリック
- 第4回 スピーチ実践（2）：テーマスピーチ
- 第5回 ディベートの論理的推論
- 第6回 ディベート論議決定のブレインストーミング
- 第7回 プレゼンテーション実践：グループ発表
- 第8回 グループリサーチ
- 第9回 立論の作成と反駁の準備
- 第10回 ディベート実践（1）：ディベートの試合
- 第11回 ディベート実践（2）：ディベートの試合
- 第12回 論議研究（積極的安楽死）
- 第13回 ディベート実践（3）：ディベートの試合
- 第14回 ディベート実践（4）：ディベートの試合
- 第15回 まとめ

“There are only two parts to a speech :
You make a statement and you prove it.”
(ARISTOTLE, RHETORIC.)

【評価方法】

出席状況、授業での活動状況、レポートなどを総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。必要に応じてハンドアウトを配付する。

【参考文献・資料】

頭を鍛えるディベート入門（松本茂著 講談社）

英会話入門

EMORI, Kathleen E.

【Course Content】

基礎的なリスニングおよびスピーキング能力を身につけるための入門講座である。ネイティブスピーカーが担当し、スペシャルルーム（土曜日）に2限連続で開講することにより、短期間で集中的に、英語コミュニケーション能力の育成を目指す。抽選により受講者を選定し、少人数クラスを編成し、演習形式で学ぶ。

【Schedule】

（4月&6月）：

Introducing self & others; talking about interests

Conversation initiation & closing strategies; talking about schedule & plans

Developing description skills; talking about preferences & recommendations

Listening for contextual meaning; talking about past experiences

（5月&7月）：

Illustrating examples & supporting ideas; agreeing & disagreeing

Comparing & contrasting ideas; culture, social, & pop culture issues

Asking for & giving advice; talking about the future

Expression of creative & abstract ideas; group presentation

【Assessment】

Attitude, participation, homework

【Textbooks】

Interactions I Listening/Speaking, 4th Edition (tentative)

【Reference】

To be supplied by the instructor as needed

ライティングⅠ

CURRAN, Beverley

【Course Content】

In this class, students will learn to organize short essays and express their thoughts with clarity and creativity. There will also be attention paid to gathering information from the Internet and then integrating it accurately into an original paper.

【Schedule】

In order to write engaging essays, it is important for students to be interested in the topic, so from the start of this course, students will be encouraged to choose their own topics. There will be two or three projects, depending on individual student's writing pace and process, that will allow students to attempt fiction as well as engage in research.

【Assessment】

Students will be evaluated on their participation, effort, and their writing projects.

【Textbooks】

No text required.

ライティング I

TOFF, Mika

[Course Content]

自分の考えや意見を、英語で正確に書いて表現できるようになるための基礎的な英作文の能力を、演習形式で身につける。

[Schedule]

- Writing and revising papers on a variety of topics
- Using the computer to write
- Writing and sending e-mail

Students will be encouraged to think about their audience and to make their writing interesting for people to read, and at the same time to increase their vocabulary and knowledge of expressions through reading and through the use of dictionaries.

[Assessment]

Assessment will be based on the content of the papers written by the student, and on the amount of work a student puts into writing and improving the papers.

[Textbooks]

No textbook required.

ライティング I

DOIRON, Heather

[Course Content]

自分の考えや意見を、英語で正確に書いて表現できるようになるための基礎的な英作文の能力を、演習形式で身につける。

[Schedule]

Students will continue to improve their English writing skills on the computer by writing a story about themselves; describing their favourite thing; reviewing a movie; and doing a short Internet research project.

[Assessment]

Students will be required to complete a number of writing assignments. Assessment will be based on class work and writing assignments. There will be no final test.

ライティング II

TOFF, Mika

[Course Content]

自分の考えや意見を、より正確に書いて表現できるようになるための発展的な英作文の能力を、演習形式で身につける。

[Schedule]

- Writing and revising papers on a variety of topics
- Using the computer to practise basic desktop publishing
- Writing and sending e-mail.

This semester will offer practice so that students can refine their writing skills and take more responsibility in choosing a topic and developing the content.

[Assessment]

Assessment will be based on the content of the papers written by the student, and on the amount of work a student puts into writing and improving the papers.

[Textbooks]

To be announced later.

ライティング II

DOIRON, Heather

[Course Content]

自分の考えや意見を、より正確に書いて表現できるようになるための発展的な英作文の能力を、演習形式で身につける。

[Schedule]

In this course students will use computers to write in English about themselves, and express opinions and ideas. Students will work individually with the guidance of the instructor to improve their language skills. Special attention will be paid to organization and editing to make content more interesting.

Lesson 1 : Basic punctuation.

Lesson 2 : Self-Introductions

Lesson 3 : Self-Introductions

Lesson 4 : organizing information (journals)

Lesson 5 : organizing information (journals)

Lesson 6 & 7 : Internet research project

Lesson 9 : Organizing Internet information

Lesson 9 & 10 Writing

Lesson 11 & 12: Editing & Revision

[Assessment]

Students will be required to complete a number of writing assignments. Assessment will be based on class work and writing assignments. No final test.

時事英語

中村幸子

【授業の概要】

新聞・雑誌・衛星放送などの各種メディアでの英語ニュースを理解する能力を身につける。

【授業計画】

上記各種メディアのうちNHKで放送されているNews Watchによる報道を通して日本や国際社会の諸問題を理解し、実用的な英語力を身に付ける。

- | | |
|---------|----------------|
| 第1回 | マスメディア英語概論 |
| 第2回～13回 | Unit 1～20 より抜粋 |
| 第14回 | 復習 |
| 第15回 | 単位認定試験 |

【評価方法】

出席状況、授業態度、課題提出への取り組み、小テストを5割、単位認定試験の結果を5割として総合的に評価する。

【テキスト】

衛星放送で学ぶ英語 2004年版 News Watch 3
(山崎達朗・Stella M. Yamazaki 著 金星堂)

時事英語

難波豊子

【授業の概要】

新聞・雑誌・衛星放送などの各種メディアでの英語ニュースを理解する能力を身につける。

【授業計画】

- | | |
|---------|-------------------------|
| 第1回 | ニュース英語の特徴 |
| | 1. 新聞記事及び放送ニュース、雑誌等の構成 |
| | 2. タイトルのつけ方 |
| | 3. 内容を理解する上での注意点 |
| 第2回～5回 | 第1回の特徴を念頭に置いて、一般的な記事の読解 |
| 第6回～8回 | 文化・科学面 |
| 第9回～12回 | 政治・経済面 |

但し up-to-date な記事を取り扱うため、上記区分の変更は有りうる。時々、日英の記事を対照させながら、語彙、表現、背景知識などの強化に努める。

【評価方法】

日常の授業態度、宿題に対する姿勢、授業中に行う小テスト、単位認定試験などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

英語発音トレーニング

中郷 慶

【授業の概要】

日本人が英語を話したり読んだりするときに誤りやすいリズム、イントネーション、発音の問題などに留意し、学生のレベルに合わせてながら、演習形式で英語の発音訓練を行う。

【授業計画】

英語（および日本語）音声の特徴は何かという理論を解説するとともに、それが実践できるようなさまざまな訓練を行う。学習者はそれぞれ、さまざまな発音上の問題を抱えているが、その中には日本人（日本語母語話者）に広く共通する間違いや、思いこみも観察される。例えば、[v]と[b]、see (sea)とsheを正しく発音し分けたり、聞き分けたりすることは、多くの日本人が不得手とする。[v]は上の歯で下唇を噛むとか、[r]は舌を巻いて発音するなど、典型的な思い込みである。そのような理解のどこがどのように間違っているかを考えることも、この授業の大きなテーマのひとつである。

この授業では、映画・ドラマ・歌などを題材としながら、次のような項目を扱う：

1. 英語と日本語の発音の違いと特徴
2. 英語のリズムとイントネーション
3. 日本人（日本語母語話者）が不得手とする発音

授業では、自信を持って発音できるようになるための指導を行うが、発音する力を上達させるためには、週に1回の授業に出席していればよいというものではない。音に対する不断の意識 (awareness) とねばり強い実践 (practice) が必要となる。課された課題は必ずやってくる。

【評価方法】

出席状況と授業外での課題を指示通りに行っているかを特に重視する。出席状況、課題、定期試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

こうすれば英語が聞ける：Ways to be better listeners
(中郷安浩・中郷慶著 英宝社)

上級英会話

TOFF, Mika

【Course Content】

さらに自分の英会話力を高めたいと希望する学生が、少人数クラスで演習形式で学ぶ。

【Schedule】

In this course, students will develop the ability to exchange ideas and opinions in group discussions. Students will research various topics; exchange information with each other; gather knowledge on a topic; and develop their opinions. They will learn to participate constructively and cooperatively by presenting their own ideas and opinions, listening to what other students have to say, and reacting to ideas being expressed.

Students will be responsible for choosing topics which interest them, and preparing for discussions. Topics will be chosen to inform, persuade and describe experiences.

【Assessment】

Assessment will be based on participation and preparation. Attendance will also be considered.

上級ライティング

TOFF, Mika

【Course Content】

さらに自分の英作文力を高めたいと希望する学生が、少人数クラスで演習形式で学ぶ。

【Schedule】

In this course, students will practise writing more extensively and with greater sophistication. Students will refine their skills in written analysis and argument; comparison and contrast; and description. Time will be spent on developing essays through revision and discussion of organization. Emphasis will be placed on interesting content and convincing support in the form of persuasive reasons and vivid examples. There will also be a focus on how to write effective introductions and conclusions.

【Assessment】

Assessment will be based on the content of the papers written by the student, and on the amount of work a student puts into writing the essays.

中国語会話 1 A

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

分かりやすい実用会話文を多くとりあげた教材を通じて中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の音声面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の2級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された<中国漢語水平考試大綱>に規定された400~900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、一般的な挨拶・自己紹介などが可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである<HSK基礎コースA><HSK基礎コースB>の履修が可能になる。

【授業計画】

初めて中国語を学ぶ学生を対象に日常会話表現の習得を目指す。

第一課	発音 (1)
第二課	発音 (2)
第三課	発音 (3)
第四課	発音 (4)
第五課	あいさつ表現
第六課	時間の表し方
第七課	年齢を言う
第八課	家庭を語る
第九課	自分の家を語る
第十課	学校について語る
第十一課	趣味について語る
第十二課	中国へ行く

【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語会話 1 A・2 (中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

教場で指示する。

中国語読解 1 A

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

身近な実用読解文を多くとりあげた教材を通じて中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の2級に受かることを目標に定め、<中国漢語水平考試大綱>に規定された400~900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、中国語の平易な文面の読解が可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである<HSK基礎コースA><HSK基礎コースB>の履修が可能になる。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 母音、数字、挨拶
3. 疑問文、形容詞述語文
4. 子音、声調、曜日表現、
5. 省略疑問文、疑問詞疑問文
6. 音節、勧誘表現
7. 動詞述語文、指示代名詞
8. 我姓松本。自己紹介
9. 介詞"和"、副詞"也""都"
10. 我的家庭。所有・存在の"有"、名詞述語文
11. 部分否定文、感嘆表現、変調と軽声
12. 我們的大学。介詞"給""在"
13. 名詞の修飾表現
14. 我的一天。時の表現、方向補語
15. まとめ

【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

韓国・朝鮮語読解 I

飯田秀敏

【授業の概要】

韓国・朝鮮語の入門として、文字や単語の読み方、文法の基礎などを学ぶ。

【授業計画】

韓国語は日本語と文法構造がほとんど同じであるので、効果的に学習すれば一年間で高校3年の英語力程度の力をつけることができる。韓国語に親しんでもらうために、発音・発声練習の教材として韓国の歌も活用する。韓国の文化や風俗についても適宜紹介する。授業計画は大体次の通りであるが、より詳細なシラバスは授業中に配布する。

- 第1回 授業の概要説明、韓国・朝鮮語の概説
- 第2回 ハングルと発音 (1)
- 第3回 ハングルと発音 (2)
- 第4回 ハングルと発音 (3)
- 第5回 ハングルと発音 (4)
- 第6回 丁寧体平叙文・疑問文、助詞
- 第7回 否定文、疑問詞、固有数詞
- 第8回 用言の活用、敬語形、漢数詞
- 第9回 ハダ動詞、ハダ形容詞、丁寧体命令文・勧誘文
- 第10回 過去形、感嘆文
- 第11回 親しみのある丁寧体、変則活用 (1)
- 第12回 変則活用 (2)
- 第13回 前期の復習
- 第14回 前期の復習
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況 (授業回数の2/3以上)、レポート (1回)、小テスト (毎回行なう)、単位認定試験の成績により総合的に評価する。レポートの課題については授業中に支持する。

【テキスト】

自家版テキストおよびプリント教材を用いる。

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

韓国・朝鮮語会話Ⅰ

李正子

【授業の概要】

韓国・朝鮮語の入門として、発音や日常会話の基礎を学ぶ。

【授業計画】

随時プリントを配布する。

1. ハングルに慣れる。文字の成り立ちと基本的な発音。
2. ハングルであいさつ1。(動詞の尊敬語)
3. ハングルであいさつ2。(自己紹介&家族)
4. ハングルでお買い物1。(～はありますか?)
5. ハングルでお買い物2。(安くして下さい)
6. ハングルでお買い物3。(違うのを見せて下さい)
7. ハングルで外出1。(バス・地下鉄に乗る)
8. ハングルで外出2。(トイレはどこですか?)
9. ハングルで外出3。(～は何時からですか?)
10. ハングルでお友達をつくる1。(～で会いましょう)
11. ハングルでお友達をつくる2。(～はできません・しません)
12. ハングルでお友達をつくる3。(～してもいいですか)
13. 評価会(希望があれば韓国映画を見る)

【評価方法】

おもに期末試験(筆記)により評価する。なお、出席率は受験資格にはしない。

【テキスト】

未定。

韓国・朝鮮語読解Ⅱ

飯田秀敏

【授業の概要】

「韓国・朝鮮語読解Ⅰ」に引き続き、基礎的な文法事項を学び、平易な文章を読んで理解する力を身につける。

【授業計画】

韓国語は日本語と文法構造がほとんど同じであるので、効果的に学習すれば一年間で高校3年の英語力程度の力をつけることができる。
韓国語に親しんでもらうために、発音・発声練習の教材として韓国の歌も活用する。韓国の文化や風俗についても適宜紹介する。

授業計画は大体次の通りであるが、より詳細なシラバスは授業中に配布する。

- 第1回 授業の概要説明、前期の復習
- 第2回 現在連体形、進行形
- 第3回 過去連体形、回想連体形
- 第4回 未来連体形、可能表現
- 第5回 様々な構文(1)
- 第6回 様々な構文(2)
- 第7回 様々な構文(3)
- 第8回 ぞんざい体(1)
- 第9回 ぞんざい体(2)
- 第10回 ぞんざい体(3)
- 第11回 ぞんざい体(4)
- 第12回 ぞんざい体(5)
- 第13回 後期の復習
- 第14回 後期の復習
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況(授業回数の2/3以上)、レポート(1回)、小テスト(毎回行なう)、単位認定試験の成績により総合的に評価する。レポートの課題については授業中に支持する。

【テキスト】

自家版テキストおよびプリント教材を用いる。

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

韓国・朝鮮語会話Ⅱ

李正子

【授業の概要】

「韓国・朝鮮語会話Ⅰ」に引き続き、基礎的な会話力を身につける。

【授業計画】

随時プリントを配布する。

1. 動詞の連用形
2. 動詞の過去形
3. 否定形
4. 形容詞1
5. 形容詞2
6. 不規則動詞・形容詞1
7. 不規則動詞・形容詞2
8. 可能表現
9. 文章と文章を繋げる1(順接と逆説)
10. 文章と文章を繋げる2(理由と原因)
11. 補助動詞
12. 複合動詞
13. 評価会(希望があれば韓国映画を見る)

【評価方法】

おもに期末試験(筆記)により評価する。なお、出席率は受験資格にはしない。

【テキスト】

未定。

韓国・朝鮮語読解Ⅲ

尹大辰

【授業の概要】

韓国・朝鮮語の文法事項を確認しながら、文章を正しく読みとる力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 読解講義
- 第3回 読解講義
- 第4回 読解講義
- 第5回 読解講義
- 第6回 読解講義
- 第7回 読解講義
- 第8回 読解講義
- 第9回 読解講義
- 第10回 読解講義
- 第11回 読解講義
- 第12回 まとめ

【評価方法】

期末試験と課題提出、出席率を加味して評価する。

【テキスト】

プリント教材を使用する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

韓国・朝鮮語会話Ⅲ

曹 述 燮

【授業の概要】

韓国・朝鮮語で自分の考えや意見を、より正確に伝達できるようになるための発展的な能力を、演習形式で身につける。

【授業計画】

すぐに使える会話運用の能力を身につけながら、韓国・朝鮮の文化・風俗に関する理解も深められる授業を目指す。

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回～第3回：人参茶それともコーヒー。
上称形の終結語尾、叙述格助詞
- 第4回～第5回：アクションそれともメロドラマ
連結語尾、平常形の終結語尾
- 第6回～第7回：革靴それともスニーカー
転成語尾、先語末語尾、尊敬形の終結語尾
- 第8回～第9回：猫それとも子犬
各種助詞、用言の否定表現、動物名とことわざ
- 第10回～第11回：本当それともいい訳
略待上称形の終結語尾
- 第12回～第14回：お茶それともビール
数詞、助数詞、時の表現、用言の禁止・不可能形
- 第15回：単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、単位認定試験の成績などにより総合的に評価する。時にレポートあり。

【テキスト】

ソウルそれとも釜山（曹述燮 三恵社）

韓国・朝鮮語会話Ⅳ

曹 述 燮

【授業の概要】

韓国・朝鮮語の上級講座として、自分の考えや意見を表現する力をさらに向上できるような訓練を演習形式で行う。

【授業計画】

韓国語の学習をとおして自然に韓国社会と文化に親しめる授業を心がけ、生活に密接したトピックから関連する表現を学んでいく。

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：韓国の観光名所と食べ物に関する表現
- 第3回～第4回：大学生活と買い物に関する理解
- 第5回～第6回：韓国人と約束を交わす時の表現
- 第7回～第8回：趣味生活の紹介
- 第9回～第10回：韓国の伝統を尋ねる表現
- 第11回～第12回：新世代の意識と生活から見る韓国社会
- 第13回～第14回：最新の音楽と映画から見る韓国語表現
歌謡「マンナム（出会い）」と「ソウルの賛歌」
映画「8月のクリスマス」
- 第15回：単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、単位認定試験の成績などにより総合的に評価する。時にレポートあり。

【テキスト】

未定

韓国・朝鮮語読解Ⅳ

尹 大 辰

【授業の概要】

韓国・朝鮮語の上級講座として、新聞や雑誌の記事、インターネット上の情報、小説などの読解を通じて、韓国・朝鮮語の実践的な読解力を身につける。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 読解講義
- 第3回 読解講義
- 第4回 読解講義
- 第5回 読解講義
- 第6回 読解講義
- 第7回 読解講義
- 第8回 読解講義
- 第9回 読解講義
- 第10回 読解講義
- 第11回 読解講義
- 第12回 まとめ

【評価方法】

期末試験と課題提出、出席率を加味して評価する。

【テキスト】

プリント教材を使用する。

韓国語検定対策Ⅰ

尹 大 辰

【授業の概要】

韓国・朝鮮語のコミュニケーション能力の育成を目指し、ハングル能力検定協会が実施するハングル能力検定試験および、韓国教育部が実施する韓国語検定の対策を行う。

【授業計画】

- 第1回 基本文法 (1)
- 第2回 基本文法 (2)
- 第3回 基本文法 (3)
- 第4回 基本会話 (1)
- 第5回 基本会話 (2)
- 第6回 基本会話 (3)
- 第7回 聞き取り (1)
- 第8回 聞き取り (2)
- 第9回 聞き取り (3)
- 第10回 基本読解 (1)
- 第11回 基本読解 (2)
- 第12回 基本読解 (3)

【評価方法】

期末試験と出席率を加味して評価する。

【テキスト】

プリント教材を使用する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

韓国語検定対策Ⅱ

尹 大辰

【授業の概要】

「韓国語検定対策Ⅰ」に引き続き、ハングル能力検定試験と韓国語検定の対策を行い、韓国・朝鮮語のコミュニケーション能力をさらに育成する。

【授業計画】

- 第1回 応用文法 (1)
- 第2回 応用文法 (2)
- 第3回 応用文法 (3)
- 第4回 応用会話 (1)
- 第5回 応用会話 (2)
- 第6回 応用会話 (3)
- 第7回 聞き取り (1)
- 第8回 聞き取り (2)
- 第9回 聞き取り (3)
- 第10回 応用読解 (1)
- 第11回 応用読解 (2)
- 第12回 応用読解 (3)

【評価方法】

期末試験と出席率を加味して評価する。

【テキスト】

プリント教材を使用する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

ロシア語読解Ⅰ

杉本一直

【授業の概要】

ロシア語の入門として、文字や単語の読み方、文法の基礎などを学ぶ。

【授業計画】

みなさん、知っていますか？日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができる場所は本当に少ないんですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです！「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか？

この授業では、初歩のロシア語を学びながらロシアの芸術や文化や街について楽しく紹介していきます。

半期で学ぶ事項は以下の通りです。

- ・キリル文字と発音
- ・男性名詞、女性名詞、中性名詞
- ・人称と動詞の現在形と過去形
- ・形容詞の変化

【評価方法】

期末試験の成績による

【テキスト】

ロシア語ミニ辞典（白水社）

ロシア語読解Ⅰ

丹邊文彦

【授業の概要】

ロシア語の入門として、文字や単語の読み方、文法の基礎などを学ぶ。

【授業計画】

本来言語は有機的の一体を成すものであって、読み、書き、聞き、話す運用能力を個々に切り離すことはできない。しかしこの科目では、その趣旨を尊重して、相応しい教科書を選び、語彙、慣用表現、文法、文型の基礎を学びながら、主として読解力を養成することに努める。そのためにも理解した文章の音読は欠かせない。これを単なる発音教育偏重と捉えることなく、頭脳記憶（知識）を運動記憶（運用能力）に転換する上で、きわめて有効な方法として理解し、自覚的に取り組むのが望ましい。

上記の趣旨に従って授業評価を行なう。

【評価方法】

試験は個々の文法事項等よりも文章を重視するので、出題は本文（テキスト）から原則とし、単なる解釈でなくて文の完成（語尾記入、選択、穴埋め等）をも含め、出席等の平常点を考慮して評価する。

【テキスト】

セマスターのロシア語読本（CD付き）（諫早勇一著 白水社）

ロシア語会話Ⅰ

MIKHAILOVA, Svetlana

【授業の概要】

ロシア語の入門として、発音や日常会話の基礎を学ぶ。

【授業計画】

1. ロシア語のアルファベット
2. 言葉の書き方と読み方
3. 簡単な文書の作り方
4. 発音の特徴
5. 挨拶の言葉
6. 文法の現在形のテキスト
7. 文法の過去形のテキスト
8. 文法の未来形のテキスト
9. ロシアの若者の言葉
10. ロシア文学の有名詩を紹介する
11. 文法の基本を教えながらテキストを読む
12. ロシア人の生活スタイル
13. ロシアの若者に向け雑誌などを紹介する

【評価方法】

理解力確かめるテスト

【テキスト】

ロシア語の教科書

【参考文献・資料】

特になし

ロシア語読解Ⅱ

杉本一直

【授業の概要】

「ロシア語読解Ⅰ」に引き続き、基礎的な文法事項を学び、平易な文章を読んで理解する力を身につける。

【授業計画】

平易な文章を読みこなすことを主眼とする。学ぶ文法事項は以下の通り。

- ・名詞の格変化
- ・形容詞の格変化
- ・関係代名詞、関係副詞
- ・動詞の完了体と不完了体

【評価方法】

期末試験による

【テキスト】

ロシア語ミニ辞典（白水社）

ロシア語読解Ⅱ

丹邊文彦

【授業の概要】

「ロシア語読解Ⅰ」に引き続き、基礎的な文法事項を学び、平易な文章を読んで理解する力を身につける。

【授業計画】

「ロシア語読解Ⅰ」に引き続き、やや高度の読解力を主として養成する。この科目では、自ら辞書を引く、文法表を検索する能力を身に付けさせる。理解した文章の音読は依然重視する。

上記の学習を行なう中で、ロシアの文化、国民生活、国民性およびロシア事情についての理解も深めたい。

【評価方法】

期末試験に平常点（出席点をふくむ）を加味して評価する。試験は、文法、単語および熟語それぞれを対象とせず、本文（テキスト）中心の文章に重点を置く。

【テキスト】

セメスターのロシア語読本（CD付き）（諫早勇一著 白水社）およびプリント。

【参考文献・資料】

インデクス式 ロシア文法表（白水社）
ロシア語練習問題1000題（別冊文法表付）（白水社）

ロシア語会話Ⅱ

MIKHAILOVA, Svetlana

【授業の概要】

「ロシア語会話Ⅰ」に引き続き、基礎的な会話力を身につける。

【授業計画】

1. ロシア語会話の特徴
2. 挨拶の言葉
3. 日常会話
4. 天気についての会話
5. 季節の言葉
6. 芸術の言葉
5. 音楽の言葉
6. 文学の言葉
7. 美術の言葉
8. 発音の特徴
9. 親子の言葉
10. テキスト読みの練習
11. 名詞の格変化の基本
12. 動詞の格変化
13. 復習

【評価方法】

理解力を確かめるテスト

【テキスト】

ロシア語の教科書とプリント

【参考文献・資料】

特になし

ロシア語読解Ⅲ

杉本一直

【授業の概要】

ロシア語の文法事項を確認しながら、文章を正しく読みとる力を身につける。

【授業計画】

ロシアのフォークロアやアネクドットなどを中心に、短くてわかりやすい文章をできるだけたくさん読んでいく。

また、講読をしながら、文法事項の復習に力を入れる。

【評価方法】

授業における平常点と期末試験により評価する

【テキスト】

未定（初回授業時に指示する）

ロシア語会話Ⅲ

MIKHAILOVA, Svetlana

【授業の概要】

ロシア語で自分の考えや意見を、より正確に伝達できるようになるための発展的な能力を、演習形式で身につける。

【授業計画】

1. ロシア語の発音の練習問題
2. 文書の作成
3. 現在形の文書の作成
4. 過去形の文書の作成
5. 未来形の文書の作成
6. 手紙の作成
7. ロシア語のリズムを身につける
8. 格変化の練習問題
9. 格変化の練習問題
10. 格変化の練習問題
11. レストランでの言葉
12. 劇場での言葉
13. 家族での会話

【評価方法】

理解力を確かめるテスト、試験

【テキスト】

ロシア語の教科書、プリント

【参考文献・資料】

特になし

ロシア語読解Ⅳ

杉本一直

【授業の概要】

ロシア語の上級講座として、新聞や雑誌の記事、インターネット上の情報、小説などの読解を通じて、ロシア語の実践的な読解力を身につける。

【授業計画】

ロシア語Ⅲにひきつづき、読解力の向上をめざしてさまざまな種類の文章を講読する。

ロシア語Ⅳではとくに時事問題の読解に重点を置き、ロシアの新聞やインターネット上のニュースの読解に挑戦する。

【評価方法】

授業での平常点と期末試験により評価する。

【テキスト】

未定（初回授業時に指示する）

ロシア語会話Ⅳ

MIKHAILOVA, Svetlana

【授業の概要】

ロシア語の上級講座として、自分の考えや意見を表現する力をさらに向上できるような訓練を演習形式で行う。

【授業計画】

1. ロシア語会話の特徴
2. 自己紹介
3. 美味しい料理の作り方
4. 自分の意思を伝える
5. 休日の計画を立てる
6. 乗り物の言葉
7. 買い物言葉
8. 大学の勉強についての会話
9. 宇宙についての話
10. 先端サイエンスについての話
11. 読んだ小説についての話
12. 将来の夢について
13. 復習

【評価方法】

理解力を確かめるテスト、試験

【テキスト】

ロシア語の教科書、等

【参考文献・資料】

特になし

表現文化総論

島田修三

【授業の概要】

文学的ないしは創造的な文章表現を対象として、言語を媒介とする創造的行為の原理や仕組みを学ぶ。

【授業計画】

- 緒言（日本語と日本文化）
- 古典和歌の表現 その1
- 古典和歌の表現 その2
- 古典散文の表現 その1
- 古典散文の表現 その2
- 近代短歌の表現
- 現代短歌の表現 その1
- 現代短歌の表現 その2
- 現代詩の表現
- 現代俳句の表現 その1
- 現代俳句の表現 その2
- コピーの表現
- 総括（日本語表現の可能性）

【評価方法】

出席状況および学期末のレポートによって総合的に判断する。

【テキスト】

授業に際してプリントを配付する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜、指示する。

表現文化総合講座Ⅰ

島田修三 清水良典 永井聖剛 馬場伸彦 矢頭純

【授業の概要】

近現代韻文・近現代散文・現代メディア表現を対象に、主として言語に拠る表現ジャンルの創造上の現実的・実践的な諸問題を最新の情報を通してオムニバス方式で学ぶ。なお、本学専任教員清水良典教授が本講座のコーディネーターとなり、各講義の調整及び試験の評価に関する責任を負う。各担当者の講義概要は、以下の通り。

（清水良典教授）主として現代小説とその批評を題材として、ポストモダン状況における新しい文学的創造の試みについて学ぶ。

（島田修三教授）主として近代・現代詩歌や俳句を題材として、定型詩における創造の仕組みを修辭的な側面から学ぶ。

（永井聖剛専任講師）主として近世の近代小説を題材として、近代日本文学における表現の特色や時代社会との相関性について学ぶ。

（馬場伸彦兼任講師）主として現代の広告コピーや商業表現を題材として、現代の社会的構造の諸問題と上記の表現との関係について学ぶ。

（矢頭純教授）主として新聞記事を題材として、現代社会における政治的・社会的な情報とその表現に関わる諸問題について学ぶ。

【授業計画】

- | | |
|---------|----------------|
| 第1回 | 講座の説明・清水良典教授講義 |
| 第2～3回 | 清水良典教授講義 |
| 第4～6回 | 島田修三教授講義 |
| 第7～8回 | 永井聖剛専任講師講義 |
| 第9～10回 | 馬場伸彦兼任講師講義 |
| 第11～12回 | 矢頭純教授講義 |

【評価方法】

第1回の授業において説明する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に必要に応じて指示する。

多元文化総論

皆川修吾

【授業の概要】

多種多様な国家・民族・地域文化の存在、それぞれが自存と共存を模索し、互いに進化し、変容している。そのプロセスを実証的且つ体系的に学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 文化の意味
- 第2講 個人、社会、国家のアイデンティティ
- 第3講 社会科学としての多元文化論
- 第4講 思想としての多元文化論
- 第5講 異文化間関係
- 第6講 文化と地域・階級・性別・職業・世代
- 第7講 言葉と文化
- 第8講 日本文化の社会的特徴「イエ」
- 第9講 政治文化
- 第10講 文化と文明の位置付け
- 第11講 文化・文明の変容
- 第12講 多元文化社会（国・国際）の条件と限界
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況との総合評価による。

【テキスト】

使用せず（適宜資料配付）

【参考文献・資料】

- 知的複眼思考法（苅谷剛彦著 講談社）
 多文化世界（G.ホフステッド著 岩井紀子他訳 有斐閣）
 文化論のアリーナ（文化論研究会 晃洋書房）
 地球時代の民族＝文化理論（西川長夫 新潮社）
 タテ社会の人間関係（中根千枝 中央公論）
 日本文化のゆくえ（河合隼雄著 岩波書店）
 文明の生態史観（梅棹忠夫著 中公叢書）
 日本人と「日本病」について（岸田秀・山本七平著 文春文庫）
 異文化理解の座標軸（浅間正通編著 日本図書センター）

表現文化総合講座Ⅱ

川澄未来子 酒井晶代 角田達朗
たかべしげこ 槇村さとる 李相美

【授業の概要】

演劇・絵本・舞台芸術・映画・コンピュータグラフィックス等を対象に、主として身体・映像表現に拠るジャンルの創造上の現実的・実践的な諸問題を最新の情報、ビジュアルな資料等を通してオムニバス方式で学ぶ。なお、本学専任教員角田達朗助教授が本講座のコーディネーターとなり、各講義の調整及び試験の評価に関する責任を負う。各担当者の講義概要は、以下の通り。

（たかべしげこ兼任講師）主として演劇を題材として、演技する者における脚本の解釈、役作りの方法といった実践的な諸問題について学ぶ。

（酒井晶代助教授）主として絵本を題材として、文字と絵画の連動に拠る創造的表現の特質やそれが子供に及ぼす影響の諸問題について学ぶ。

（角田達朗助教授）主として舞台芸術を題材として、演劇空間を創造する多様な意匠や技術の特色や効果について学ぶ。

（川澄未来子助教授）主としてコンピュータグラフィックスを題材として、電子メディア表現の創造的的特質や可能性について学ぶ。

（李相美兼任講師）主として映画を題材として、現代の映像表現における映画の意味や映画の表現の独自性に関わる諸問題について学ぶ。

（槇村さとる兼任講師）主としてアニメ・コミックを題材として、サブカルチャーとしてのアニメ・コミックが現代文化に果たす役割やその創造的な意味について学ぶ。

【授業計画】

※担当者の都合により、順番が変更される場合があるので注意すること。

- | | |
|---------|--------------|
| 第1回 | 講座の説明・酒井晶代講義 |
| 第2回 | 酒井晶代講義 |
| 第3～4回 | 李相美講義 |
| 第5回 | 予備日 |
| 第6～7回 | たかべしげこ講義 |
| 第8回 | 予備日 |
| 第9～10回 | 角田達朗講義 |
| 第11回 | 予備日 |
| 第12～13回 | 川澄未来子講義 |
| 第14～15回 | 予備日 |
| 集中授業期間中 | 槇村さとる講義 |

（3・4限連続2コマ）

【評価方法】

第1回の授業において説明する。

【テキスト】

授業中に指示する。

多元文化総合講座Ⅰ

榎田勝利 杉本一直 曹述變 ブイチトルン 若松孝司

【授業の概要】

現代日本をとりまくさまざまな文化的事象を対象に、主として、日本と海外との交流や国際理解、現代日本文化などの諸問題をオムニバス方式で学ぶ。なお、本学専任教員榎田勝利教授が本講座のコーディネーターとなり、各講義の調整及び試験の評価に関する責任を負う。各担当者の講義概要は、以下の通り。

(榎田勝利教授) 国際ボランティア活動や国際協力の立場から、日本が現在直面している課題と、今後のあり方について学ぶ。

(杉本一直助教授) 日本文学とロシア文学とのこれまでの関係、現状、今後の課題について学ぶ。

(曹述變講師) 日本と韓国・朝鮮、中国とのこれまでの関係、現状、今後の課題について学ぶ。

(若松孝司助教授) 日本とラテンアメリカ諸国との関係について、歴史的な観点から検討する。

(ブイチトルン教授) 日本社会の国際化事業や市民活動の現状、可能性及び今後のあり方について学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 ロシアの歴史概観
- 第2講 ロシア芸術紹介 (バレエ、映画など)
- 第3講 ロシアの文学紹介
- 第4講 食文化と人間 1 朝鮮半島の豆腐チゲ
- 第5講 食文化と人間 2 中国大陸の麻婆豆腐
- 第6講 地域における国際化事業の現状と課題
- 第7講 NPO 活動の現状と課題
- 第8講 ラテンアメリカの政治風土
- 第9講 日本とラテンアメリカの関係史
- 第10講 日本の国際貢献と国際協力
- 第11講 日本の国際貢献を考える—政府の国際協力 (ODA)
- 第12講 日本の国際貢献を考える—民間の国際協力 (NGO)
- * 担当講師 第1講～3講 杉本一直 第4講～5講 述變
第6講～7講 ブイチトルン 第8講～9講 若松孝司
第10講～12講 榎田勝利

【評価方法】

レポートと授業への参加状況等により総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない

【参考文献・資料】

授業開講時に指示する。

多元文化総合講座Ⅱ

大野清幸 TOFF, Mika 中野弘三 平林美都子 宮田 Susanne

【授業の概要】

言語の言語学的・文学的・文化的意味や特徴に関する諸問題をオムニバス方式で学ぶ。なお、本学専任教員大野清幸助教授が本講座のコーディネーターとなり、各講義の調整及び試験の評価に関する責任を負う。各担当者の講義概要は以下の通り。

(大野清幸助教授) 主として、日本語と英語を対象に、人間の言語獲得の特徴に関する初歩的な問題を学ぶ。

(宮田 Susanne 助教授) 異文化間の人間のコミュニケーションの際に生じる問題を取り上げ、その原因の一つとして考えられる親子の接し方の問題を、主として会話のスタイルの文化差を分析しながら学ぶ。

(中野弘三教授) 英語の文や節、発話などの意味構造を考察し、さまざまな意味機能の分析を通して、発話と場面の関係学ぶ。

(大野清幸助教授) 主として、日本語と英語を対象に、人間の言語獲得の特徴に関する初歩的な問題を学ぶ。

(TOFF, Mika 助教授) 英語によるさまざまな形式の表現を、ライティングの観点から学ぶ。

(平林美都子教授) カナダ文学を題材に、カナダ文学の言語的特徴、歴史、北米地域や世界におよぼした文化的影響について学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 言語科学 大野清幸
- 第2講 言語獲得研究 大野清幸
- 第3講 Nature 対 Nurture : 言語はどのように頭に入るのか? 宮田 Susanne
- 第4講 母親の喋り方と子どもの言語獲得 宮田 Susanne
- 第5講 文や発話の意味構造 中野弘三
- 第6講 発話と場面 中野弘三
- 第7講 言語科学 大野清幸
- 第8講 言語獲得研究 大野清幸
- 第9講 日常を表現する TOFF, Mika
- 第10講 オートバイオグラフィーにおける自己表現 TOFF, Mika
- 第11講 ジェンダーの表象 平林美都子
- 第12講 翻訳とポストコロニアリズム 平林美都子

【評価方法】

レポートと授業への参加状況により総合的に評価する

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に指示する

日本語論

山本雅子

【授業の概要】

日本語学的な観点から、日本語の成立や史的展開をたどり、現代日本語の文法や語彙又は音韻の性格について学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 言語と話者
- 第2講 コソアの意味機能
- 第3講 「もらう」「あげる」「くれる」
- 第4講 「行く」「来る」
- 第5講 「分からない」「知らない」
- 第6講 受動態
- 第7講 使役態
- 第8講 敬語体系1
- 第9講 敬語体系2
- 第10講 メタファーの意義1
- 第11講 メタファーの意義2
- 第12講 メタファーの意義3

【評価方法】

出席状況・プレゼンテーション・レポートによって総合的に評価する

【参考文献・資料】

授業中に配布、及び指示する。

国語学

広瀬英史

【授業の概要】

国語学的な観点から、日本語の語彙の性質について体系的な語彙論のもとに学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 各論1：単語とは
- 第2講 各論2：単語の認定基準
- 第3講 各論3：語の数
- 第4講 各論4：語のつながり
- 第5講 各論5：語構成1
- 第6講 各論6：語構成2
- 第7講 各論7：語の意味1
- 第8講 各論8：語の意味2
- 第9講 各論9：語の意味の変化
- 第10講 各論10：語連結・連語・慣用語
- 第11講 各論11：オノマトペ
- 第12講 各論12：ことばと社会・辞書1
- 第13講 各論13：ことばと社会・辞書2

【評価方法】

授業中の確認テストと試験によって評価する。

【テキスト】

よくわかる語彙 (アルク)

国文学史概説

早川由美

【授業の概要】

上代から現代にいたる各時代の国文学の代表的文字作品を取り上げ、その国文学的な意味や価値を学ぶとともに、国文学の歴史の変遷を学び、国文学への理解を深める。

【授業計画】

講義形式で行う。講義中適宜プリントを配布する。作品の名前を覚えることが文学史ではない。それぞれの作品が後代の作品にどのような影響を与えているのかなど、享受史の面から意味や価値を考えて行く予定である。

1. 上代 万葉集の歌人達—万葉調へのあこがれ
2. 中古 作り物語、勅撰和歌集
3. 中世 軍記物語、御伽草子
4. 近世 仮名草子、浮世草子、読本、草双紙、合巻など
5. 近代 西洋へのまなざし

授業の一環として、能、狂言、歌舞伎などの鑑賞を学外授業として行う。

【評価方法】

成績評価はレポートによって行う。出席は適宜確認し、欠席回数が多い場合は受験資格を失う。

【テキスト】

プリントを配布する。

中国文学論

曹 述燮

【授業の概要】

中国文学の代表的な作家・作品および文学史上の事象を時代別にたどりながら、中国の歴史社会状況を理解し、作家・作品の文学的意味や価値について学ぶ。

【授業計画】

- 第1・2講：先秦時代の韻文と散文
民間歌謡・朝廷の歌謡『詩経』と作家の作品『楚辞』
孔子と『論語』、諸子百家の著述、史官の記録
映像「論語の世界」から学ぶ
- 第3・4講：秦・漢の辞賦、歴史文学、古楽府
作家司馬相如、『史記』と『漢書』、漢武帝と楽府
- 第5・6講：魏・晋・南北朝の駢文、詩と小説
辞賦と駢文、権力者と文学の関係、小説の発生
- 第7・8講：隋・唐の詩、古文、伝奇
科挙と詩文、作家李白と杜甫、唐宋八大家たち、夢と恋と：伝奇の世界
- 第9・10講：宋の詞、元の戯曲
新しい文学者集団、出版業と文学、文人と民衆と
- 第11・12講：明・清の小説
古典の大衆化、四大奇書とその展開
- 第13・14講：近・現代文学
文学革命と5・4運動
人民文学の誕生と展開
映画「北京の55日」「アヘン戦争」から学ぶ
- 第15講：単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、レポート、そして単位認定試験などを総合して評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

中国文学史 (前野直彬 東京大学出版社)
新しい中国文学史 (藤井省三・大木康 ミネルヴァ書房) など
中国の哲学・宗教・芸術 (福本光司 人文書院)

中国思想史

角田達朗

【授業の概要】

中国思想史の黎明期である春秋戦国時代のいわゆる諸子百家の思想や活動について、その特質や意義について講ずる。

【授業計画】

- 第1～2回 諸子百家概説
- 第3～5回 孔子
- 第6回 墨子と墨家
- 第7回 孟子
- 第8～10回 荘子・老子
- 第11回 荀子
- 第12回 韓非子

* 第一回の授業で受講上の注意事項を詳しく説明する。

【評価方法】

レポート

* 受講状況によっては試験に変更することがある。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

舞台創造基礎

冬頭裕子

【授業の概要】

舞台用語、舞台文化の歴史など、主にバレエ・オペラを中心とした舞台に関する基礎的な知識を学ぶ。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. 劇場空間における舞台用語
2. 日本及びヨーロッパの舞台文化の歴史
3. 舞台の基本的な制作過程
4. 舞台が実際に出来上がるまでの過程
5. 大劇場と小劇場
6. 観客論と問題点
7. 学外教育・・・まずは劇場へ行く

1～6に関しては、一方的な授業ではなく、質問、要望などを随時取り入れ、それに答える形で学生の興味のある方向に内容を膨らませて行く。

7に関しては舞台鑑賞、バックステージツアーという形で考えていますが、具体的に何にするかは受講人数で考えます。

【評価方法】

定期試験により評価する。(毎回、出欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。)

レポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

【テキスト】

テキストとしては使用しない

漢文学概説

角田達朗

【授業の概要】

『論語』公治長篇から高等学校の漢文の教科書に採られている章を選び、それぞれにどのような解釈が提起されて来たか、そして、解釈の相違がどこから生じるのかについて、検討する。

【授業計画】

『論語』は中国の古典の中でも最もよく読まれた文献であり、したがって、数多くの注釈が存在する。注釈は本文の正しい意味を説き明かすという建前をもつと同時に、注釈者自身の思想を反映する器でもあるから、注釈が正確な本文理解を提示しているとは限らない。しかしながら、本文理解において正確でない注釈であろうと、注釈という形を借りた思想表現と見れば、一定の価値を認めることは十分可能である。むしろ、注釈という形によって思想表現をするのに特に適したテキストであったからこそ、言い換えれば、それだけ多様な解釈が可能な書物であったからこそ、『論語』は時代を超え、地域や民族も越えて読み継がれたのだと言うこともできるであろう。この講義では、『論語』を一つのモデル・ケースとして、古典解釈が思想的営為としてどのような意味を持つかを考えて行く。

高等学校で学習する章を取って選ぶのは、いわゆる「教科書的」な「正しい解釈」が実は多様な解釈の一つに過ぎないことを、受講者に具体的に認識してほしいからである。一つの章につき三～四回の講義を当てるので、全部で三～四の章を扱うことになる。

* 第一回の授業で受講上の注意事項を詳しく説明する。

【評価方法】

レポート

* 受講状況によっては試験に変更することがある。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

演出論

角田達朗

【授業の概要】

演劇において演出の果たす役割を検討し、具体的な作品に即して演出の実際について学ぶ。

【授業計画】

演劇史においては二十世紀は「演出の時代」と言われる。いわゆる近代劇の成立に伴って近代的戯曲から近代的上演を実現するために、近代的造形理念に基づいて劇作りの過程を監督する者が必要不可欠となったことにより、二十世紀初頭に演出という役割が確立し、現在に至るまで、演出者の指導的地位は揺るぎないものとなっている。しかしながら、演出という役割がいかなる内実を持つかということ、例えば、演出の作業は戯曲創作の作業と連続するべきか、あるいは断絶するべきか、演出者は主に俳優の演技を指導するのか、あるいは様々な舞台効果の総合化に努めるのか。そうした基本的問題も必ずしも明確に規定されていない。

この講義では演劇における演出の役割について通史的観点をまじえつつ、可能な限り客観的かつ明確に説明する。そして、映画やマンガにおける演出についても参照して、演出という営為一般に通ずる特徴や心得について提示したいと考える。

主としてビデオ・静止画等の視聴覚資料を用いて講義するが、上演芸術の理解には当然ながら生の上演に接することが不可欠である。そこで講義内容に沿って二つの鑑賞課題を設定し、その都度レポートの提出を求めるものとする。

(上演鑑賞のため、5～7千円の経費を要する。)

第1～4回 演出とは何か?

第5～8回 第一回鑑賞課題をめぐって

第9～12回 第二回鑑賞課題をめぐって

* 第一回の授業で受講上の注意事項を詳しく説明する。

【評価方法】

レポート

【テキスト】

プリントを配布する。

* 鑑賞課題がテキストと同等の意味を持つ。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

写真論

坂倉 守

【授業の概要】

現代における写真表現について、代表的な写真家の作品や主な理論、技法を通して学び、視聴覚表現における映像文化についての知識と感性を身につける。

【授業計画】

各回のテーマに沿った写真作品をスライドで上映しながら、講義をすすめて行く。

1. 写真の歴史
2. 「自分」という被写体
3. 多様な日常
4. 都市一潜在への歩行
5. 旅というポジション
6. モノへの視線
7. 現象する風景
8. 報道のリアリティ
9. 写真の虚構性
10. 記録と表現のあいだ

【評価方法】

成績は、定期試験（論述）の結果を中心に出席状況なども加味して評価する。

【テキスト】

テキストは使用しない

【参考文献・資料】

写真の歴史（ナオミ・ローゼンブラム著 美術出版社）

映像文化論

吉村英夫

【授業の概要】

主として映画作品を対象として、映像が作品のストーリーやテーマを具体的に具象化する原理や仕組みについて学ぶ。

【授業計画】

日本映画の魅力の再発見を中心に。黒澤明と山田洋次監督作品を参考上映しながら日本映画の魅力をさぐり、映像文化とその表現への理解を深める。同時に、映画と日本映画の21世紀を展望したい。

第1回～第6回

黒澤ワールドとは何かを、黒澤映画を楽しみながら考えてみる。参考上映は『天国と地獄』『椿三十郎』『赤ひげ』『夢』などを予定。

第7回～第12回

山田洋次の世界とその系譜を考える。

『男はつらいよ』を中心に参考上映しながら、寅さん映画が現代の若者文化、若い人の感性と無縁な映画でないことを知る。山田洋次映画と、その先達である松竹映画の小津安二郎についても考察する。

第13回は、テストを予定。

【評価方法】

テスト、出席、レポート（雑文風感想）などによる。

【テキスト】

テキストはなし

【参考文献・資料】

- *松竹大船映画 小津安二郎・木下恵介・山田太一・山田洋次の描く「家族」（吉村英夫 創土社 定価2200円）
- *君はこの映画を見たか! 若い世代の必見名画100選（吉村英夫 大月書店 定価1600円）

【その他】

授業通信「Limelight」を随時発行配布する。この通信は先輩諸君から引き続いている通信であり、学生諸君が書いたものを収録する。過去三年間、この講座で続いているものである。

デザイン文化論

川澄未来子

【授業の概要】

今日の表現全般に大きな影響力をもつデザインについて、その歴史と理論、表現の実際を学び、視聴覚表現に応用できる知識と感性を身につける。

【授業計画】

画像・映像教材、電子的な教材などを利用しながら、次のトピックスについて考察を深める。

- (1) 表現の歩み
- (2) アイディアから形へ
- (3) 形の表現
- (4) 動きの表現
- (5) グラフィック表現の効果
- (6) デザインへの応用
- (7) デザインを支える知識

【評価方法】

出席状況、受講態度、提出課題、試験結果などから総合的に評価する。

【参考文献・資料】

デジタルイメージクリエーション・デザイン編CG（CG-ARTS協会）

児童文化論

酒井晶代

【授業の概要】

児童文化といわれる具体的な事象を対象として、広く子どもの文化を形成している原理を探り、その価値と意味について学ぶ。

【授業計画】

子どもの文化・文化財をめぐる諸事象のなかで、この講義では特に絵本をはじめとする映像メディアとその周辺の問題を取りあげる。

講義では絵本を中心に、紙芝居、アニメーション等の表現上の特徴を、具体的な作品を通して検討するとともに、多様なメディアが氾濫する現代社会のなかで、子どもたちがそれぞれの表現をどのように受容しているのか、さらには、個々のメディア間をどのように繋ぎあわせながら物語を享受しているのか、受講者の意見交換を通して考えてみたい。

- | | |
|---------|-----------------|
| 第1回 | 子ども文化とは何か |
| 第2～5回 | 絵本の表現をめぐって |
| 第6～7回 | 紙芝居の表現をめぐって |
| 第8～9回 | アニメーションの表現をめぐって |
| 第10～11回 | 子ども文化とメディア |
| 第12回 | 講義のまとめ |

【評価方法】

出席状況、レポート、試験等により総合的に評価する。

【参考文献・資料】

- 絵本づくりトレーニング（長谷川集平著 筑摩書房）
- 絵本はいかに描かれるかー表現の秘密ー（藤本朝巳著 日本エディタースクール出版部）
- 絵本の視覚表現ーそのひろがりとはたらきー（中川素子ほか著 日本エディタースクール出版部）
- その他の参考文献は、授業時に適宜紹介する。

出版文化論

稲垣喜代志

【授業の概要】

急速に変化する情報社会において、出版が直面する多様な問題を、現代文化との関連や影響関係に即して学ぶ。

【授業計画】

1. 出版ジャーナリズムと現代。
2. 出版の自由とは？
3. 出版の理念。
4. 大先達、岩波茂雄・下中彌三郎らのこと。
5. マスメディアとしての書籍と雑誌。
6. 出版における中央と地方。
7. プランニング
 - ・文化の核をつくる企画とは？
 - ・ベストセラー
 - ・金儲けと低俗化
8. 著作権、著作権。
9. 翻訳出版、海外での出版。
10. 流通のシステム。
11. 編集・製作作業（取材を含む）。
12. 宣伝・販売。

【評価方法】

出席状況と積極的発言、出版企画に関するレポートによって、総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて、プリントを配布する。

ノンフィクション論

藤井誠二

【授業の概要】

教育環境や文化環境としての現代都市の現状をノンフィクション作品（講師の著作等）の手法を通して分析し、その問題点と改善の方途について学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス・ノンフィクション作品の手法を通じて都市文化を視るということ
- 第2講 学校を考える1
- 第3講 学校を考える2
- 第4講 学校を考える3
- 第5講 少年犯罪から視えてくること1
- 第6講 少年犯罪から視えてくること2
- 第7講 少年犯罪から視えてくること3
- 第8講 現代社会についてのルポタージュを読む1
- 第9講 現代社会についてのルポタージュを読む2
- 第10講 現代社会についてのルポタージュを読む3
- 第11講 現代社会についてのルポタージュを読む4
- 第12講 レポート作成についての説明

【評価方法】

レポートの成績によって総合的に評価する。レポートは身近なテーマを取材し、短いノンフィクション作品（2000字以上）を書いてもらう。あるいは、藤井の著作についてのレポートを書いてもらう。詳細については授業中に指示する。

【参考文献・資料】

- 17歳の殺人者（自著 ワニブックス）
 - 少年の罪と罰論（宮崎哲哉氏と藤井の対談 春秋社）
 - 人を殺してみたかった（自著 双葉社）
 - 少年に奪われた人生（自著 朝日新聞社）
 - コリアンサッカーブルース（自著 アートン）
 - いつの日にかきつと（自著 アートン）
- 他は授業中に指示する。

国際開発

高木裕宜

【授業の概要】

多様な環境問題を解決し、地球規模での人間性豊かな生活文化を創造する上で必要性が高まる国際協力の問題を、主に国際開発の観点から学ぶ。

【授業計画】

- はじめに—講義概要及び計画についてのガイダンス
国際開発とは？ 受講に関するアンケート
- I 国際開発における諸問題
 - 人口増加と所得分配の不平等
 - 南北の経済格差の構造
 - 国際関係のなかでの経済社会開発
 - II 開発政策の展開1—東アジアの経済社会開発のケース
 - 植民地経営から発展途上国の独立まで
 - 農業化と工業化—農地改革と労働移動
 - 輸入代替工業化—輸出指向工業化政策
 - III 開発政策の展開2—国際開発における日本の役割
 - 日本の経済社会開発とアジア
 - 政府開発援助（ODA）と発展途上国の開発
 - 日本の海外直接投資と経済社会開発
 - IV 国際開発と文化
 - 宗教文化と経済発展—儒教倫理他 多国籍企業文化
- おわりに
まとめ 今後の課題 単位認定試験

【評価方法】

受講においては、関連する情報に目を配り、自分で学び、考えることが基本姿勢として求められる。そこで評価については、受講者が自主的に思考する姿勢を問うことを目的とする。点数配分としては、出席・ミニットペーパー等の授業参加（40%）、試験（60%）とし、普段の受講姿勢から筆記試験まで総合的に評価を加える。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。

【参考文献・資料】

授業中に使用している参考文献や資料については適宜紹介する予定。

南北問題

若松孝司

【授業の概要】

先進国・途上国間、途上国相互間の経済格差を生む構造について理解し、それらに対処して、国際的なレベルでの豊かな生活文化を創造するために、各国・国際諸機関の果たす機能について学ぶ。

【授業計画】

開発途上国と先進国、ならびに開発途上国間における経済格差の原因と現状、あるいはそれらに対する国際的な取り組み等について、政治経済学的な論点から以下のような項目について講義する。

- (1) 南北問題とは
- (2) 南北問題を考える一視座としての世界システム論
- (3) 経済的民族主義の台頭と展開
- (4) 先進国と発展途上国との相互依存・協力関係

【評価方法】

出席状況と小テスト、期末のレポートの結果を総合して評価する。

【テキスト】

特に指定しない。適宜プリントを配布してテキストとする。

【参考文献・資料】

- 国際学IV 南北問題研究（川田侃著 東京書籍）
- 現代政治学叢書19 世界システム（田中明彦著 東京大学出版会）
- 開発危機—自立する思想・自立する世界（S.アミン著 国連大学出版局）
- 開発の構造—第三世界の開発/発展の政治社会学（佐藤幸男著 同文館）

国際ボランティア

榎田勝利

【授業の概要】

地域市民社会形成のキーワードとしての国際ボランティアとNGOの理念、目的、役割、さらに日本の現状を具体例を通して学ぶ。

【授業計画】

1. ガイダンス 用語解説
 - ・ 国際協力の仕事とは
 - ・ NGO、ボランティア活動の活発化の背景
2. NGOとは何か？
 - (1) 国連とNGO
 - ・ 国連会議とNGO
 - ・ 国連とNGOのパートナーシップ
 - (2) 日本のNGOの現状と課題
3. ボランティアとは何か？
 - (1) ボランティアの基本的条件と活動動機
 - (2) ボランティアコーディネーター
4. 国際ボランティアとは？
 - (1) なぜ国際ボランティアをするのか？
 - (2) 国際ボランティア活動のタイプ
 - (3) 日本の国際ボランティア団体
 - ・ スタディツアーを実施している団体
5. 国際ボランティアの活動
 - (1) 開発・人権ボランティア
 - (2) 開発NGOとボランティア
 - (3) 難民・災害医療ボランティア
 - (4) 国連ボランティアと青年海外協力隊
6. 海外のボランティア事情
 - (1) ヨーロッパ
 - (2) アメリカ
 - (3) アジア

【評価方法】

課題研究レポートと出席状況との総合評価による。

地域協力機構研究

若松孝司

【授業の概要】

国際機関が地球規模での人間の豊かさをもつ文化を創造するために、世界の各地域の開発と発展に果たしてきた政治的、経済的機能と今後の姿について学ぶ。

【授業計画】

地域協力における主要アクターである国際機構について、国際連合を中心として以下のように講義をする。

- (1) 地域協力機構とは
- (2) 国際機構小史
- (3) 事例研究1〈国際連合の構造・機能〉
- (4) 事例研究2〈各種の地域的国際機構〉

【評価方法】

出席状況と小テスト、期末に実施する試験の結果とを総合して評価する。

【テキスト】

国際機構論（最上敏樹著 東京大学出版会）

【参考文献・資料】

国際機構論（横田洋三編 国際書院）
国際組織と国際関係（辰巳浅嗣 成文堂）

日本政治外交論

皆川修吾

【授業の概要】

明治以降の日本外交史を時系列的に考察し、とくに第2次大戦後の日本外交の指向性を日本政治の歴史的・制度的・構造的背景と関連付けて学び、国際的な課題への今後の日本外交のあり方について検討する。

【授業計画】

- 第1講 外交とは何か
- 第2講 国民国家の形成：脱亜入欧の時代
- 第3講 アジア主義と権力外交
- 第4講 日本外交：戦後冷戦期、冷戦後
- 第5講 安全保障外交
- 第6講 通商外交
- 第7講 資源外交
- 第8講 経済援助外交
- 第9講 日本の政治システム
- 第10講 政治行政構造改革
- 第11講 グローバル外交：環境、食料、人口問題など
- 第12講 総括
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況との総合評価による。

【テキスト】

使用せず（適宜資料配付）

【参考文献・資料】

外交（H.ニコルソン著 東大出版）
戦後日本外交史（五百旗頭真著 有斐閣）
近代日本外交思想史入門（関静雄編著 ミネルヴァ書房）
日本の外交政策決定要因（外交政策決定要因研究会 PHP）
参照専門誌：
外交フォーラム（外務省編 都市出版社）
国際政治（日本国際政治学会編 有斐閣）
政治学（日本政治学会編 岩波書店）

東南アジア現代史

小座野八光

【授業の概要】

第2次世界大戦後の東南アジアの歴史を振り返り、現状を理解するとともに、この地域の未来について学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 総論：東南アジアの「国民国家」像
- 第2回 前史：オランダ領東インドの姿
- 第3回 日本占領の時代
- 第4回 インドネシアの歩み 50年代
- 第5回 インドネシアの歩み 60-70年代
- 第6回 インドネシアの歩み 80-90年代
- 第7回 インドネシアのエスニックグループ
- 第8回 前史：英領マラヤの姿
- 第9回 日本占領の時代・戦後の英領マラヤ
- 第10回 マレーシア・シンガポールの歩み 60-70年代
- 第11回 マレーシア・シンガポールの歩み 80-90年代
- 第12回 マレーシア・シンガポールのエスニックグループ
- 第13回 国民国家としてのマレーシアとシンガポール

【評価方法】

学期末に行われる筆記試験、および学期中に課す課題の成績による。

【テキスト】

特になし。講義に際してプリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義中に適宜指示する。

異文化コミュニケーション

宮田 Susanne

【授業の概要】

異文化接触場面の具体的事例を取り上げ、「文化」に対する意識を高める。さらに、異文化間の人間のコミュニケーションで生じる文化差を背景とした問題を、主として言語の特性の相違を分析することを通じて学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 異文化の「文化」：異文化コミュニケーションで問題になる文化差
- 第2回 「常識」も文化の一部
- 第3回 コミュニケーションシステムの文化：テーブルマナー
- 第4回 コミュニケーションシステムの文化：時間概念
- 第5回 コミュニケーションスタイルの文化差：自己開示
- 第6回 コミュニケーションスタイルの文化差：対人関係
- 第7回 「偏見はヘンに見ること、差別は差をつけること」
- 第8回 在日外国人の実態：法的な立場から
- 第9回 在日外国人の実態：心理学的な立場から
- 第10回 国際結婚：素肌で感じる異文化コミュニケーション
- 第11回 カルチャーショック
- 第12回 異文化で生きる

【評価方法】

毎回提出する自由コメント用紙および期末提出の講義ノートを元に評価。欠席回数が多い場合、またコメント提出回数が少ない場合は受講資格を失う。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

異文化コミュニケーション・入門（池田理知子他著 有斐閣アルマ）

意味論

中野弘三

【授業の概要】

英語を中心として、さまざまな文が持つ意味とその用法を言語学的な立場から理論的に学ぶ。

【授業計画】

意味の本質、意味の種類、意味と指示など意味論の基本問題を解説したのち、英語の実例を示しながら最近の言語理論に基づく文の意味分析の仕方を紹介する。また、コミュニケーションの場で文が持つ様々な語用論的な意味についても考察する。

主として講義形式で授業を進めるが、講義内容をよりよく理解してもらうために、練習問題を用意し、宿題とすることもある。

【評価方法】

基本的には学期末の試験により評価するが、宿題の提出状況や出席状況も評価に加味することもある。

【テキスト】

プリントを使用する。

【参考文献・資料】

- 英語の意味 [テイクオフ英語学シリーズ3] (1996)
(池上嘉彦ほか著 大修館書店)
- 語の意味と意味役割 (2001 米山三明・加賀信宏著 研究社)
- Semantics* (2000 Kate Kearns Macmillan Press)
- Semantics* (2nd Edition 2003 John I. Saeed Blackwell)

英語学概論

中野弘三

【授業の概要】

英語のもつさまざまな言語学的特徴を、単語・音・文のそれぞれのレベルから考察する。

【授業計画】

世界には、4,000とも6,000とも言われる数の言語がある。人間言語の持つ特徴を、英語を中心とする観点から明らかにする。ことばについて、意識的に考えるきっかけを提供することがこの授業の目標である。ことばがわれわれの生活に深く息づいていることを実感として受け止め、ことばとは不思議でおもしろいものだと感じてもらいたい。主に扱うトピックは以下のとおりである。

1. ことばの起源
2. 人間言語と動物言語
3. 世界の言語
4. 音の構造
5. 語の構造
6. 文の構造
7. 意味の意味

【評価方法】

出席状況、レポート、定期試験の成績により、総合的に評価する。

【テキスト】

英語学セミナー：思考鍛錬のための言葉学
(高橋勝忠・福田稔著 松柏社)

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

英文学

平林美都子

【授業の概要】

さまざまな文学研究方法の具体例とともに、英文学／映画から何をどのように読みとることができるのかについて学ぶ。

【授業計画】

テーマ：英語文学にみるセクシュアリティ

1. Mary Shelley, *Frankenstein*
2. Charlotte Bronte, *Jane Eyre*
3. Oscar Wilde, *The Picture of Dorian Gray*
4. Henry James, *The Turn of the Screw*
5. Virginia Woolf, *Mrs. Dalloway*
6. Jean Rhys, *Wide Sargasso Sea*
7. A. S. Byatt, *Possession*
8. 映画 『インタヴュー・ウィズ・ヴァンパイヤー』

【評価方法】

出席状況と授業参加態度・プレゼンテーション及びレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

- フランケンシュタイン (M.シェリー著 創元推理文庫)
- ジェイン・エア (シャーロット・ブロンテ著 集英社文庫)
- ドリアン・グレイの肖像 (オスカー・ワイルド著 新潮文庫)
- ねじの回転 (ヘンリー・ジェイムズ著 新潮文庫)
- ダロウェイ夫人 (ヴァージニア・ウルフ著 角川文庫)

【参考文献・資料】

- サルガッソーの広い海 (ジーン・リース著 みすず書房)
- 抱擁 (A.S.バイアット著 新潮文庫)

英文学史

稻生幹雄

【授業の概要】

英文学の歴史において、さまざまな作家と作品が、英語文化に及ぼした影響について考察し、英語文化をより深く学ぶ。

【授業計画】

講義は、次のような順序で展開する。

1. 英文学の原風景：「鯨の道」を進む船、「古英語」期の文学と文化
2. “英詩の父”の旅路と中世の演劇：「中英語」期の文学と文化
3. 花開く演劇：「近代英語」期の夜明け、英国ルネッサンスの特色、シェイクスピアとその周辺、当時の劇場
4. 〈ピューリタニズム〉の時代とは？：叙事詩の世界を考える
5. 18世紀の種々相：詩と劇と散文、そして小説
6. 〈ロマンティズム〉の情調：詩人たちが見つめたものとは？
7. ヴィクトリア時代の文化：時代思潮・文学・社会を考える
8. 20世紀から21世紀へ：現代イギリス文学の背景、多彩な〈表現技法〉の探求、歌と言葉、英語圏文化の諸相と未来

途中、各種のビデオ教材を活用してさまざまな映像を觀賞し、〈音声〉と〈視覚的要素〉とが、英文学の本質と深く関わり合う有様を考察してゆく。随時、プリントを配付する。毎週授業の最後には、小さな細長い紙を配り、感想や印象を一言記して提出してもらう。

【評価方法】

筆記試験の成績と出席状況・受講状況を総合して評価する。

【テキスト】

イギリス文学史（川崎寿彦著 成美堂）

文化批評

杉本一直

【授業の概要】

芸術作品を分析し批評する方法を学ぶ。文学、映画、バレエなど、さまざまなジャンルの芸術作品に触れつつ、作品への論理的批評を行なうにはどのような視点を持つべきかを考えていく。

【授業計画】

文学だけでなく、ヨーロッパおよびロシアの芸術（美術、映画、音楽、バレエなど）と思想を取り上げる。その主な項目を挙げておく。

- ・二十世紀初頭のアヴァンギャルド芸術のさまざまな潮流
- ・「モダニズム」と呼ばれる文学、そして「ポスト・モダニズム」
- ・ヴァーチャル・リアリティと多層的世界
- ・メタフィクションと自己言及的システム
- ・形而上学的SF小説
- ・対の構造を持つ作品
- ・「現代音楽」というジャンル（無調音楽、十二音技法、フリージャズなど）

【評価方法】

レポートによる

【テキスト】

プリント配布、および授業中に指示した書籍

フェミニズム概論

中島美幸

【授業の概要】

よりよい社会を形成する一助とするために、女性と男性のあり方とさまざまな問題点を学ぶ。

【授業計画】

1. フェミニズムとは
2. フェミニズムの歴史1
3. フェミニズムの歴史2
4. フェミニズムの歴史3
5. 日本のフェミニズム1
6. 日本のフェミニズム2
7. 日本のフェミニズム3
8. フェミニズムの実践1
9. フェミニズムの実践2
10. フェミニズムの実践3
11. フェミニズムの実践4
12. フェミニズムの実践5
13. まとめ

【評価方法】

出席状況、ならびに毎回のコメントカードと中間レポート（2～3回）の内容、さらに学期末テストで総合的に評価する。

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で、その都度紹介する。

表現文化基礎演習 I

梅田卓夫 角田達朗 永井聖剛

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、表現文化に関する基本的な知識や技術を、各教員の専門分野の視点から学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 表現方法・技術に関する問題提起1
- 第3回 表現方法・技術に関する問題提起2
- 第4回 表現方法・技術に関する問題提起3
- 第5回 文献・資料の調査方法1
- 第6回 文献・資料の調査方法2
- 第7回 テーマ研究調査・演習1
- 第8回 テーマ研究調査・演習2
- 第9回 テーマ研究調査・演習3
- 第10回 テーマ研究調査・演習4
- 第11回 テーマ研究調査・演習5
- 第12回 テーマ研究調査・演習6
- 第13回 総括

授業概要の基本的な構成は上記の通りであるが、対象とする表現ジャンルは各担当教員が第1回の授業において説明する。

【評価方法】

各担当教員によって異なるが、基本的には出席状況・平常の授業における調査発表・課題レポートなどに対する総合的な評価による。

【テキスト】

各担当教員から授業中に指示がある。

【参考文献・資料】

各担当教員から授業中に指示がある。

言語表現 I (古典散文)

早川由美

【授業の概要】

近世の古典散文作品を対象として、前代の和歌、物語、随筆といった伝統文学や江戸市民文化との関係を検討しながら、近世散文独特の主題や様式について学ぶ。

【授業計画】

講義形式による。テキストを利用しながら、関連する文学作品を適宜プリントして配布する。

1. ガイタンズ (文学作品の享受のあり方)
2. 桃太郎昔語 (民話、民俗学、桃太郎話の歴史の変遷について近代まで)
3. ばけ物よめ入 (求婚譚の系譜、作り物語、軍記物語、御伽草子と近世、近代の作品)
4. 歌徳明石湯天草紙 (歌徳説話、万葉集をはじめとする歌集の享受)
5. 七こまち (小町伝説、謡曲)
6. 筆累絹川堤 (怪異譚、高僧伝記仏教説話)

江戸時代に出版された草双紙をテキストにして、それに関連する前後の時代の文学作品を扱うことでその作品の時代による享受のされ方などを考察することを目的とする。

【評価方法】

成績評価はレポートによって行う。出席は適宜確認し、欠席回数が多い場合は受験資格を失う。

【テキスト】

初期草双紙集 (叢の会編 和泉書院)

知的財産権

江森史麻子

【授業の概要】

2003年3月に知的財産推進基本法が施行され、同時に内閣に知的財産戦略本部が設置された。現在、わが国の知的財産に関する改革は急ピッチで進んでおり、新聞紙上では「知的財産」という言葉が一種のトレンドになっているともいえる。しかし、その内容は簡単ではない。

本講では、知的財産権のうち、表現を保護するものである広義の著作権を中心に概説する。また、その前提となる、法体系についての基礎的知識も紹介し、さらに、権利について争いがある場合などの法的解決の方法についても見ていく。受講生には特別の準備を求めないが、日々、新聞・テレビ・インターネットなどでニュースに触れ、著作権に関する事件や訴訟等についての報道に興味をもって接してもらいたい。大きなニュースがある場合には、随時、講義でも取り上げる予定である。

【授業計画】

- 第1回 はじめにー知的財産と知的財産権
- 第2回 法律入門ー法体系の中の著作権法
- 第3回 著作物 [ラスト・メッセージ事件]
- 第4回 著作権等の全体像
- 第5回 著作物の自由な利用ー著作権の制限
- 第6回 著作者人格権 [三島由紀夫書簡事件]
- 第7回 財産権としての著作権 [交通スローガン事件、どこまでも行こう事件]
- 第8回 著作隣接権
- 第9回 引用とパロディ [モンタージュ写真事件]
- 第10回 二次的著作物と編集著作物 [キャンディ・キャンディ事件、タウンページ事件]
- 第11回 インターネットと著作権 [WinMX事件 (刑事事件)、ファイルログ事件]
- 第12回 著作権法改正の議論と今後の展望

【評価方法】

毎回、講義の終わりに、その回の講義で出てきたキーワードを書くミニ・テストを提出してもらい、出席の有無と理解度を確認する。また、期末試験も実施する。成績は、出席回数および出席回のミニ・テストの成績と、期末試験の成績を、50%ずつの割合で評価する。

【テキスト】

著作権の考え方 (岡本薫著 岩波書店)
そのほか、著作権法の条文が載っているものを各自用意すること。(著作権法入門 (著作権法令研究会編著 社団法人著作権情報センター発行) が最も良い。平成16年版は、7月中旬に発行予定である。また、「コンパクト六法」「ポケット六法」等のハンディ・サイズの六法でもよいが、著作権法は改正が多いため最新のものがよい。) (必要である。)

【参考文献・資料】

初回講義において紹介する。

言語表現 II (古典詩歌)

人見恭司

【授業の概要】

『万葉集』の時代から『新古今集』の時代までの約六百年の間の、すぐれた歌人百人の歌を、一人につき一首ずつ集めた秀歌選 (アンソロジー) である『百人一首』を取り上げる。和歌史の展開も考えながら、それぞれの歌を解説を加えながら読んで行く。

【授業計画】

1. 『百人一首』概説ー成立・歌風・影響ー
2. 『万葉集』時代の歌人と作品ー天智天皇、柿本人丸ほか
3. 六歌仙とその周辺 (1)ー安部仲麿、小野小町ほか
4. 六歌仙とその周辺 (2)ー参養童、僧正遍昭ほか
5. 六歌仙とその周辺 (3)ー在原業平朝臣、藤原敏行朝臣ほか
6. 『古今集』撰者時代の歌人と作品ー紀友則、紀貫之ほか
7. 『拾遺集』時代の歌人と作品 (1)ー曾禰好忠、源重之ほか
8. 『拾遺集』時代の歌人と作品 (2)ー右大将道綱母、儀同三司母ほか
9. 一条朝の女流歌人とその作品ー和泉式部、清少納言ほか
10. 院政期の歌人とその周辺ー能因法師、源俊賴ほか
11. 『千載集』時代の歌人と作品ー皇太后宮大夫俊成、藤原清輔ほか
12. 『新古今集』時代の歌人と作品 (1)ー西行法師、式子内親王ほか
13. 『新古今集』時代の歌人と作品 (2)ー権中納言定家、後鳥羽院ほか

【評価方法】

出席状況および期末試験の結果により総合的に評価する。

【テキスト】

新潮古典文学アルバム11 百人一首 (井上宗雄編集・執筆 新潮社)

【参考文献・資料】

角川文庫2618 百人一首 (島津忠夫訳注 角川書店)
別冊国文学 百人一首必携 (久保田淳編 学燈社)

言語表現Ⅲ（近代小説）

永井聖剛

【授業の概要】

明治・大正文学を代表する小説を史的に展望しながら、日本の近代小説が時代・社会の問題とどのように切り結んだかという問題を検証し、近代小説における典型的な主題やモチーフを作品に即して学ぶ。

【授業計画】

〈近代化と文学〉

1. 問題の所在；近代化と文学
新聞小説の誕生とその背景
2. 〈模写〉説の成立
坪内逍遙『小説神髓』・『当世書生気質』
二葉亭四迷『浮雲』
3. 模写・写真・スケッチ・写生
正岡子規と「ホトギス」
国木田独歩『武蔵野』
島崎藤村『千曲川のスケッチ』
4. 写実主義から自然主義へ
島崎藤村『破戒』
田山花袋『蒲団』・『田舎教師』
5. 近代化と文学の想像力
泉鏡花『高野聖』
柳田國男『遠野物語』

【評価方法】

授業への出席・参加状況および学期末試験によって評価する。

【テキスト】

武蔵野（国木田独歩 岩波文庫）
田舎教師（田山花袋 新潮文庫）
高野聖・眉かくしの霊（泉鏡花 岩波文庫）

言語表現Ⅴ（現代詩）

梅田卓夫

【授業の概要】

戦後から現在に至る現代詩史を踏まえ、各時代を代表する優れた詩作品を取り上げながら、現代詩における主題や様式や修辭に関する諸問題を学ぶ。

【授業計画】

次のテーマのもと、実際の作品や詩人を取り上げながら講義をすすめる。

1. 現代詩の魅力
ことばで作る芸術作品としての詩
2. 現代詩の成り立ち
外国の詩の影響
戦争が残した課題
戦後現代詩の開花
3. 詩のことばはどこが“違う”か
詩と“日常のことば”の問題
散文詩も詩である
リズムの問題
4. 形式・主題・イメージ
現代詩人が試みた様々な実験と成果
5. 詩を作ってみよう
詩と思索
誰のために書くかへ読者の問題

【評価方法】

出席状況、課題に対する取り組み、および定期試験による。

【テキスト】

特定のものを使用しない。

【参考文献・資料】

現代詩文庫（思潮社）の各冊ほか

言語表現Ⅳ（現代小説）

永井聖剛

【授業の概要】

高度経済成長後の日本の現代小説を取り上げ、現代の日本社会が抱える困難な問題を小説がどのように吸収し作品化しているか、あるいはどのように現代という時代を超える試みをしているか、といった点について具体的に学ぶ。

【授業計画】

1. 問題の所在：現代小説の方法と課題
2. 佐藤春夫『西班牙犬の家』・萩原朔太郎『猫町』
3. 安部公房『壁』
4. 村上春樹『世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド』
5. 池澤夏樹『静かな大地』

【評価方法】

授業への出席・参加状況および学期末試験によって評価する。

【テキスト】

美しき町・西班牙犬の家（佐藤春夫 岩波文庫）
壁（安部公房 新潮文庫）
世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド（村上春樹 新潮文庫）

言語表現Ⅵ（現代短歌）

島田修三

【授業の概要】

主として現代短歌を題材として、「第二芸術論」以降の戦後短歌の革新、前衛短歌の試行、ポスト前衛の多様な展開といったプロセスを史的にたどりながら、短歌の創造と時代・社会との密接な相互関連性を学び、同時に短歌創作の基本を身につける。

【授業計画】

- 第1回～2回 現代短歌史概論
- 第3回～4回 第二芸術論と新歌人集団
- 第5回～7回 塚本邦雄と前衛短歌
- 第8回～9回 ポスト前衛の歌人たち
- 第10回～11回 女性短歌の時代
- 第12回～13回 ポスト・モダンの歌人たち

【評価方法】

出席状況および授業内のレポート（短歌創作）・学期末のレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

現代短歌の鑑賞101（小高賢編著 新書館）

【参考文献・資料】

授業中に適宜、指示する。

言語表現Ⅶ（戯曲・シナリオ）

松本喜臣

【授業の概要】

日本現代戯曲の代表的作品を対象として、現代を劇的に表現する戯曲のさまざまな特質を踏まえ、新しい戯曲表現の創作に関する諸方法について学ぶ。

【授業計画】

- No. 1 戯曲の本質
- No. 2 戯曲と演劇
- No. 3 戯曲と演技
- No. 4 演劇の歴史
- No. 5 ギリシア悲劇
- No. 6 シェイクスピアの戯曲
- No. 7 フランス古典戯曲
- No. 8 近代劇の確立 イブセンの戯曲
- No. 9 日本の新劇と戯曲
- No. 10 現代劇と戯曲
- No. 11 戯曲の創作1
- No. 12 戯曲の創作2
- No. 13 単位認定に関するレポート作成

【評価方法】

出席状況・学習の態度・レポートなどによる総合評価

【テキスト】

コトバ・ことば・言葉（本島勲著 桐原書店）

【参考文献・資料】

その都度授業内で紹介する

視聴覚表現Ⅰ（映画）

HIGH, Peter B.

【授業の概要】

戦後の日本映画黄金時代における代表的作品を対象として、ヨーロッパ・アメリカ映画などとの比較の視点を導入しながら、日本映画が編み出した独自の様式と美について学ぶ。

【授業計画】

世界映画形成期（1895～1932）

世界映画史は、1895年12月28日のルミエール兄弟の映画上映会に始まる。1910年代まで「映画」というものは、ほんの5～6分程度の単純なものにすぎなかった。その後次第に、技術的にも「話術」的にも発達を遂げ、本格的な芸術媒体として展開していく。

この授業では、1920年代～30年代にむかえた映画の黄金期に焦点をあわせて、映画芸術はどのように形成されてきたかを検討すると同時に、映画分析の基礎的な方法を指導する。

授業のやり方としては、映画（全体又は部分）を見終わってから教室で、ディスカッションを行った後、各自、次の授業までに自分の分析を短い文章（原稿用紙2・3枚程度）にまとめて提出する。

1. 映画以前と映画誕生
 2. E.S.ポーターと映画編集
 3. D.W.グリフィスと「古典的ハリウッド作法」
 4. ドイツ映画の黄金期
 5. ロシア映画とモンタージュ論
 6. トーキョー映画の到来
- 1.と2. は一週間ずつ、3～6は各2週間予定。

【評価方法】

出席と宿題によって、評価される。

学期末試験の代わりに、二つの分析的エッセイ（400字詰めの原稿用紙3～4枚ずつ）を提出する

【テキスト】

テキストはありません。教材は適時配布します。

言語表現Ⅷ（児童文学）

酒井晶代

【授業の概要】

日本を代表する近代・現代の児童文学作品を取り上げ、児童文学のもつ基本的主題の変遷や変容をつぶさに検討し、「子どもの文学」創造の諸問題を学ぶ。

【授業計画】

1980年代以降の作品を中心に、現代児童文学を読む。戦後の児童文学は50～60年代の「童話伝統批判」によって大きく転換し、70年代の「タブーの崩壊」を経て、80年前後に再び分岐点を迎えたと言われる。児童文学はいま、何を描き、どのような課題に直面しているのだろうか。講義では主として短編作品を題材とし、作品に現れた子ども観・児童文学観の検討を通して、現代児童文学の特徴を明らかにしたい。同時に、明治から昭和前期の代表的な作品との比較を通して、現在の到達点と課題を歴史的な視座からも考察する。

- 第1～2回 現代児童文学の成立まで
- 第3回 ときありえ「森本えみちゃん」
- 第4回 那須正幹「六年目のクラス会」
- 第5回 森忠明「楽しい頃」
- 第6回 村中李衣「たまごやきとウインナーと」
- 第7回 岩瀬成子「ダイエットクラブ」
- 第8回 大石真「光る家」
- 第9回 薫くみこ「はじめての歯医者さん」
- 第10回 天澤退二郎「赤い瓶」
- 第11回 牧野節子「赤い靴」
- 第12回 上野瞭「ぼくらのラブ・コール」

【評価方法】

出席状況、レポート、試験等により総合的に評価する。

【テキスト】

児童文学—新しい潮流—（宮川健郎編著 双文社出版）

視聴覚表現Ⅱ（演劇）

角田達朗

【授業の概要】

舞台は演劇の重要な構成要素だが、その歴史的展開を東西に例を取って検討しながら、演技空間あるいは場面転換装置としての舞台がいかなる芸術的機能を果たすかを学ぶ。

【授業計画】

私たちが通常目にする「舞台」は、上演を観客よりも一段高い所に置いて見えやすくするための台に過ぎないかのようである。しかし、歴史的に見れば、舞台の形は様々に変化している。そして、その変化は、上演そのものの変化に密接に対応している。この講義では、舞台および劇場の歴史的变化をたどりながら、舞台の形式や構造が上演とどのようにかわりあうかを論ずる。また、現代劇については、照明・音響並びに映像による舞台効果についても説明する。

主としてビデオ・静止画等の視聴覚資料を用いて講義するが、上演芸術の理解には当然ながら生の上演に接することが不可欠である。そこで、講義内容に沿って二つの鑑賞課題を設定し、その都度レポートの提出を求めるものとする。

（上演鑑賞のため、5～7千円の経費を要する。）

- 第1～4回 演劇とは何か？
 - 第5～8回 第一回鑑賞課題をめぐって
 - 第9～12回 第二回鑑賞課題をめぐって
- * 第一回の授業で受講上の注意事項を詳しく説明する。

【評価方法】

レポート

【テキスト】

プリントを配布する。

* 鑑賞課題がテキストと同等の意味を持つ。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

視聴覚表現Ⅲ (アニメ・コミック)

小菅健一

【授業の概要】

手塚治虫作品とその影響下にある典型的な現代コミック作品や宮崎駿などのアニメ作品を題材として、アニメ・コミック作品が現代文化の中で果たしている重要な役割やその新しい芸術的性格について学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 コミックとアニメーションの基本概念
- 第3回 手塚治虫論
- 第4回 手塚治虫のコミック (アニメーション作品) 1
- 第5回 手塚治虫のコミック (アニメーション作品) 2
- 第6回 手塚治虫のアニメーション論
- 第7回 宮崎駿論
- 第8回 宮崎駿のコミック (アニメーション作品)
- 第9回 宮崎駿のアニメーション論 1
- 第10回 宮崎駿のアニメーション論 2
- 第11回 現代文化におけるコミック
- 第12回 現代文化におけるアニメーション
- 第13回 授業のまとめ

【評価方法】

日頃の出席状況と講義に臨む授業態度、単位認定のためのレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

基本的にはプリント教材とビデオ教材を使用し、必要に応じて授業中に指示する。

【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

メディア表現Ⅰ (新聞)

岩崎建弥

【授業の概要】

主として現代メディアを代表する新聞を取り上げ、新聞ジャーナリズムが現代社会で果たす機能や課題について検討し、その具体的な紙面作りの知識や技術を実践的な視点を通して学ぶ。

【授業計画】

ジャーナリストのセンス、考え方を、新聞紙面や現場体験に基づいて伝え、身につけてもらう。

1. メディアとは何かー生活と情報
2. 新聞はなぜ生まれたのかー権力との対決
3. 新聞と放送はどこが違う?ー記録性と速報性
4. なぜ新聞記者になったのかー戦争と貧困
5. 新聞はどう作られる?ー新聞社の仕組み
6. 新聞作りの現場を見るー新聞社の見学 (学外授業)
7. 紙面はどう違う?ー1面から社会面まで
8. 新聞は何を伝えてきたか (A)ー戦争と新聞
9. 新聞は何を伝えてきたか (B)ー公害と新聞
10. 新聞は何を伝えてきたか (C)ー人権と新聞
11. 誤りはなぜ起きるのかー誤・虚報と紙面ミス
12. 記事はどう書く?ー取材から原稿書きまで
13. 記事を書くー模擬記者会見をし、まとめる
14. 単位認定レポートの提出

【評価方法】

受講態度、提出レポートなどでの総合評価

【参考文献・資料】

記者ハンドブック (共同通信社発行) と、講師作成のもの

視聴覚表現Ⅳ (絵本・イラスト)

近藤文雄

【授業の概要】

絵本やイラストにおける絵画と言語表現との相互補完的な性格を理解し、絵画やイラストにおける想像力の問題や言語とは異なる芸術的特長といった基本的な問題を具体的作品に即しながら学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 授業展開の概要説明・絵本 (イラスト) の特色と意義
- 第2回 絵本 (イラスト) の分野と可能性
- 第3回 絵本 (イラスト) の表現の多様性
- 第4~11回 オリジナル絵本の制作 (アイデアから製本まで)
- 第12回 作品発表・合評会

【評価方法】

出席状況と課題 (実作品) 提出による。

【テキスト】

授業内でプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業内で実作品あるいはプリント等で紹介するが、各自、積極的に書店や図書館等で数多くの絵本やイラストに親しむように努めること。

メディア表現Ⅱ (編集・製本)

稲垣喜代志

【授業の概要】

現代メディアを代表する新聞や雑誌・書籍を対象として、それらがどのように編集され、完成した姿として製作されるかという具体的な過程および、その技術や方法に関する実践的な知識を学ぶ。

【授業計画】

1. オピニオンリーダーとしての新聞の理念と役割。
2. 新聞に何ができるか。
3. 日本の新聞の現実はどうか? 紙面分析。
4. 新聞は庶民の味方か? 真実を伝えているか?
5. 新聞はどのようにしてつくられるか。
6. 文化の中央集権とその弊害。
 - 合理化と地方の切り捨て。
 - 東京に行かなければ何もできない!?
7. 出版における中央と地方。地方で何ができるか。
8. アカデミズムと在野
9. 出版の理念とは? 出版は文化の砦 (とりで) である。
10. 編集者の「志」とは?
11. ものを書くという仕事とは?
12. 著名であることと人間の価値。
13. 出版のシステムとプロセス。

【評価方法】

受講態度 (積極的発言など)、テストなどによる。

【テキスト】

文化は地域から発信せよ
(稲垣喜代志著 日本エディタースクール出版部刊 予価1,800円)

【参考文献・資料】

図書新聞
(週刊、図書新聞社刊 定価240円 半年定期購読料・送料共6,240円)

メディア表現Ⅲ (広告・コピー)

馬場伸彦

【授業の概要】

サブカルチャー領域にあるとされてきた広告コピーにおける表現の諸相を実際の作品に触れながら検証し、大衆文化と不可分でありながら、それを超え導く言語表現としての新しい広告コピーの創造について学ぶ。

【授業計画】

広告は私たちの価値観や美意識の形成に大きく作用し、影響を及ぼしている。しかし、広告が表象する「場」は表現者側にあるのではない。広告は、メディアを介して、視覚的あるいは聴覚的に受容されたときにはじめて立ち現れる。つまり広告の表現上の本質は「つくられる意味」にあるのだ。本講義では、まず、広告コミュニケーションの構造を受容論の立場から検討し、次に、実例を参照しながら「広告」「コピー」の読解に対する諸問題を検討していく。

- ・ 広告の起源、広告の機能
- ・ 文案家 (コピーライター) の登場と大衆社会
- ・ 近代広告理論の導入期 (明治・大正・昭和初年代)
- ・ 広告の記号論的分析
- ・ 広告コミュニケーションの理論
- ・ 広告の公共性
- ・ 広告の現状と展望

【評価方法】

期末レポート (課題または小論文)、講義時間内における課題、受講態度等を総合的に評価する。講義形式ではあるが、積極的に参加すること。

【テキスト】

テキストは使用せず、随時プリントを配布。

【参考文献・資料】

- 広告コピー概論 (上条則夫 宣伝会議)
- 記号論への招待 (池上嘉彦 岩波新書)
- 現代広告学を学ぶ人のために (山本武利編 世界思想社)

表現創造原理Ⅰ (フィクション生成論)

清水良典

【授業の概要】

表現文化においてフィクションの成り立ちを支える文体の発生と構造を原理的に学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 講義内容の説明
- 第2講 近代文学と〈文〉の関係について
- 第3～5講 〈文〉の歴史と諸相
- 第6～10講 谷崎潤一郎『文章読本』講読
- 第11講 〈文〉と虚構
- 第12講 書くことの可能性

【評価方法】

出席状況と受講態度、およびレポート内容によって総合的に評価する。

【テキスト】

- 文章読本 (谷崎潤一郎 中公文庫)
- 自分づくりの文章術 (清水良典 ちくま新書)

メディア表現Ⅳ (ヴィジュアル表現)

川澄未来子

【授業の概要】

表現文化を伝達するメディア領域の、主にコンピュータによるヴァーチャル表現の分野について、技術と方法の可能性を学ぶ。

【授業計画】

コンピュータ教室で、電子的な教材や映像教材を利用しながら進める。

- (1) コミュニケーションデザインの概念
- (2) マルチメディアコンテンツデザイン
- (3) コミュニケーションデザインの方法
- (4) コンテンツデザイン制作の実際
- (5) メディア環境とデザイン
- (6) マルチメディアデザインにおける人間要素
- (7) 知的所有権と表現

【評価方法】

出席状況、受講態度、提出課題、試験結果などから総合的に評価する。

【テキスト】

- コミュニケーションデザイン編マルチメディア標準テキストブック (CG-ARTS協会)

表現創造原理Ⅱ (身体美学)

勝部篤美

【授業の概要】

美しい身体と、美しい運動が具現化される道筋を学ぶ。

【授業計画】

1. 身体イメージ論
2. 身体の静態美 (美しいからだ)
3. 身体の動態美 (美しいからだの動き)
4. 動きに内在する美的要素
すばやさ、加速性、リズム、広さ、高さ、重さ、強さ、激しさ、しぶとさ、器用さ、正確さ、バランス、華やかさ、エロス、スリル、柔らかさ、滑らかさ、上品さ
5. 動きの表現

【評価方法】

単位認定試験と宿題の成績および出席状況によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。ノート、プリント、VTRを使用する。

表現創造原理Ⅲ（記号論）

佐藤洋一

【授業の概要】

表現文化における言語と記号の構造を原理的に学んだ上で、記号論的な文化認識を深める。

【授業計画】

1. 現代における「表現」や「文化」の様相、そして私たちがそれらと関わりながら認識している〈現実〉〈世界〉〈自己〉〈他者〉等のありかたは、急速な勢いで多様な姿をみせはじめている。
2. 従来までの書籍（本）を読むこと・語ること・語り合う・書くこと等の、いわゆる文字言語中心の表現文化から、現代は映像・メディア・音声（音楽）・行為（ダンスやファッション）等による表現文化中心に拡大してきている。コンピュータやインターネットが子ども達のゲームレベルにまで浸透する一方、宇宙規模の情報戦略はサイバースペース（架空の電脳空間）と真実の境界を曖昧にもしはじめている。
3. 講義内容は次のようなことを予定している。
 - (1) 主として「現代の文学」を記号論的に取り上げる。メディアコミュニケーションの一つの方法・現象として現代の文学・作家作品・方法や構造を扱う。
 - (2) 表現文化における言語と記号の構造（方法・スタイル・メッセージ・思想）等の原理的理解。
 - (3) 記号論的な文化認識のために、映画・演劇・音楽・ファッション・メディア等との関係、時代状況と文化形成（発信と受容・創造）のありかた等を、記号論的な文化認識論として考察する。

【評価方法】

1. 出欠席。毎回出欠を確認し講義や発表への意欲・講義内容への課題意識や考察等を平常点に加える。
2. 小レポートの内容等を予定している。

【テキスト】

講義で指示します。その他、配布プリント等による。

表現技術Ⅰ（日本語表現法 A）

佐々木亜紀子

【授業の概要】

言語による表現文化の要である文章表現における創造性と独創性を、さまざまな実践と思索を通して身につける。

【授業計画】

- 第1講 自分にしか書けないものを
- 第2講 混沌からことばへ
- 第3講 ことばであそぶ
- 第4講 もう一人の自分
- 第5講 見ること・見えること
- 第6講 疑いから思索へ
- 第7講 女と男
- 第8講 さまざまな青春
- 第9講 日々をみつめて
- 第10講 生きるかなしみ
- 第11講 体験の重み
- 第12講 さまざまな技法
- 第13講 実作

【評価方法】

授業への参加態度と提出作品の内容などの平常点と、単位認定試験の成績とによって総合的に評価をします。

【テキスト】

高校生のための文章読本（梅田卓夫他 筑摩書房）
そのほか、適宜プリントを配布します。

【参考文献・資料】

授業中に指示します。

表現創造原理Ⅳ（レトリック論）

永井聖剛

【授業の概要】

表現文化の主に言語表現におけるレトリックについて、体系的原理的な知識と方法の可能性を学ぶ。

【授業計画】

1. オリエンテーション（レトリックとは何か）
2. レトリックと認識行為
 - (1) 提喻（シネクドキ）
 - (2) 換喻（メトニミー）
 - (3) 隠喩（メタファー）
3. 古典レトリックについて
4. 想像力と創造力
5. 詩的言語について
6. まとめ

【評価方法】

授業への出席状況、学期末の試験によって評価する。

【テキスト】

なし（プリントを配付する）

【参考文献・資料】

授業の中で適宜指示または紹介する。

表現技術Ⅱ（日本語表現法 B）

佐々木亜紀子

【授業の概要】

文章表現における創造性と独創性を、さまざまな実践と思索を通してさらに高める。

【授業計画】

- 第1講 表現の工夫：カタチとナカミ
- 第2講 表現の工夫：表記と文体
- 第3講 メモをしよう
- 第4講 推敲をしよう
- 第5講 まねをしてみよう
- 第6講 実作と鑑賞
- 第7講 続きを書いてみよう
- 第8講 実作と鑑賞
- 第9講 観察して表現しよう
- 第10講 実作と鑑賞
- 第11講 身体を表現しよう
- 第12講 実作と鑑賞
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

授業への参加態度と提出作品の内容などの平常点と、単位認定試験の成績とによって総合的に評価をします。

【テキスト】

高校生のための文章読本（梅田卓夫他 筑摩書房）
そのほか、適宜プリントを配布します。

【参考文献・資料】

授業中に指示します。

表現技術Ⅲ (クリエイティブ・ライティング)

梅田卓夫

【授業の概要】

創造的な文章表現の実践的な知識や技術を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

1. 「書く」とはどういうことか
2. イメージを伝える
「水の音楽」
相互批評1
3. 文章は「断片」から構成する
4. 記憶を“つくる”
「場所の記憶」
相互批評2
5. 人間を書く
「私の出会った人物」
相互批評3
6. ジャンルを超える文章表現～「純文章」へ

【評価方法】

提出作品と授業への取り組みによる。

【テキスト】

文章表現・400字からのレッスン (梅田卓夫著 ちくま学芸文庫)

表現技術Ⅲ (クリエイティブ・ライティング)

永井聖剛

【授業の概要】

創造的な文章表現の実践的な知識や技術を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. ステレオタイプについて
3. 五感と言葉
4. 相互批評
5. 「最初の記憶」
6. 相互批評
7. 「目のモノを書く」
8. 相互批評
9. 「もう一人の自分」
10. 相互批評 (1)
11. 相互批評 (2)
12. まとめ

【評価方法】

出席状況、提出作品などによる

【テキスト】

新作文宣言 (梅田卓夫他 ちくま学芸文庫)

【参考文献・資料】

授業の中で適宜指示または紹介する。

表現技術Ⅳ (映像表現法)

吉村英夫

【授業の概要】

映像による表現文化の基礎的な技術と知識を学びながら、創造性と独創性を身につける。

【授業計画】

外国映画を題材にして考察をすすめる。クラシック映画を実際に見て楽しみながら、映像表現の特徴や映画作家について考察する。

第1回

世界の楽しみ。21世紀、映画はどうなるのか。

第2～第5回

『ローマの休日』について語ろう。この映画は隠された奥深い意味を持っている。ヘプバーンについてもっと知ろう。監督ウィリアム・ワイラーを見直してみよう。1950年前後のハリウッドの歴史をひもとく。参考上映は、ヘプバーン作品、ないしはワイラー、その他の作品を予定。

第6回

新しい映像表現の試みをした作品の参考上映。作品は未定だが名作映画を鑑賞する。

第7回～第12回

チャップリンの映画とは何か。なぜチャップリンは、サイレント映画にこだわったか。『キッド』『黄金狂時代』『街の灯』『独裁者』及び短編映画等を参考上映。

第13回はテストを予定。

【評価方法】

テスト、出席、レポート (雑文風感想) などによる。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

- * 君はこの映画を見たか! 若い世代の必見名画100選 (吉村英夫 大月書店 定価1600円)
- * 誰も書かなかったオードリー (吉村英夫 講談社+α文庫 定価780円)

【その他】

授業通信「Limelight」を随時発行配布する。この通信は受講生の書いた文章を掲載することを原則としており、先輩諸君から引き続いての通信であって、4年目を迎える。

表現技術Ⅴ (身体表現法)

勝部篤美

【授業の概要】

身体の巧みな動作によって、理念・心情を的確に表現するための知識と技術を学び、個性的表現の創造性を身につける。

【授業計画】

1. 体格・体型論 (からだつき)
2. 姿勢表現論 (姿勢が語るもの)
3. 動作表現論 (身振り、仕草、素振り、動作)
4. 心理表現論 (映像に見る)
高揚、喜び、憧れ、ためらい、嘆き、悲しみ、悔しみ、もだえ、あきらめ、考え。

以上のような心理状態にある場合、それが美術作品、とくに幾多の彫刻にはどのように表現されているかを、スライドやVTRによって詳細に観賞する。

【評価方法】

単位認定試験と宿題の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用しない。プリントを配布。VTRを多用する。

表現技術VI (コミック・デッサン)

とりいかずよし

【授業の概要】

コミックやイラストレーション制作の入門講座として、コミック・デッサンの基礎的な知識と技術を、主に実習を通して身につける。

【授業計画】

コミックデッサン技法 (基礎編)

(1)手、足の書き方 (2)顔の書き方 (3)骨格の書き方 (4)多様なアングルの書き方 (5)デフォルメする書き方

※以上を修了後、ペン、スクリーントーン、色付け等の技法に移る。

【評価方法】

- (1)物を多角的に観て的確に画く能力
- (2)画くことに創意工夫がある
- (3)絵の巧拙

【テキスト】

ジャンル別コミック誌、イラスト集、写真集、ヌード写真集等

【参考文献・資料】

テキストと多分に重複します。

表現技術VII (静止画編集)

石丸 緑

【授業の概要】

DTPの基礎となるコンピュータによる画像・図形処理及びテキストの編集の基礎を学習し、作品制作までを行う。さらに画面構成の実習により、レイアウトの基本を体得する。

【授業計画】

1. ガイダンス (DTPの概要)
2. 画像の編集・加工-写真の取り込み、切り抜き
3. 画像の編集・加工-レタッチ
4. テキストの編集・加工-入力・文字組の知識
5. テキストの編集・加工-ロゴ・マークの作成
6. レイアウト手法-知識
7. レイアウト手法-実践
8. 出力 (印刷) の知識
9. 課題制作-コンセプトとラフスケッチの作成
10. 課題制作-素材の制作
11. 課題制作-素材の制作
12. 課題制作-出力・仕上げ
13. 講評

【評価方法】

出席状況と提出課題
(2課題) の評価採点。

【テキスト】

未定

表現技術VIII (動画編集)

藤原孝幸

【授業の概要】

コンピュータとその周辺機器 (ビデオカメラ等) を利用して、デジタル映像の撮影・取り込み・加工・編集の技能を習得する。

【授業計画】

実習などと連動しながら全体を3期に分けて進める。

第1期

デジタル映像の解説とあわせて、映像コンテンツとしての作成する過程を学ぶ。また、動画を作成するためのリテラシを学ぶ。

第2期

ソフトウェアでの動画の作成、動画を作成するための素材を取り込む技術を学ぶ。

第3期

動画の作成実習および、作品紹介と相互評価 (総合演習)

【評価方法】

レポートと出席点による総合評価による

【テキスト】

資料を配布する

【参考文献・資料】

特に無し

表現文化研究 I

麻創けい子

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

(シナリオ創作)

- 第1回 脚本の歴史 (祭祀からテレビドラマまで)
- 第2回 脚本家の仕事とその実際
- 第3回 小説とシナリオの相違 (作品を通して)
- 第4回 ジャンルによる脚本の書き分け方
- 第5回 シナリオ講読
- 第6回 シナリオ講読
- 第7回 シナリオの書き方 (基礎技術)
- 第8回 シナリオの書き方 (描写・手法)
- 第9回 演習 (シーンを書く)
- 第10回 戯曲講読
- 第11回 戯曲講読
- 第12回 戯曲の書き方 (シナリオとの対比)
- 第13回 演習 (場を書く)

【評価方法】

出席状況と提出された演習課題などによる。

【テキスト】

新版シナリオの基礎技術 (新井一著 ダヴィッド社)

【参考文献・資料】

- あ・うん (向田邦子 文春文庫)
- あ・うん (向田邦子 新潮文庫)
- あ・うん (NHKビデオ)

表現文化研究 I

岩崎建弥

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

（新聞）

メディア表現 I（新聞）を受けて、より具体的、専門的にメディアの役割と表現について学ぶ。

1. メディアの役割とは何かー時代と人間
2. 新聞記者はどう考えるのかー世界を見る目
3. 歴史に学ぼうー戦争と日本人
4. 歴史に学ぼうー差別と日本人
5. 取材の現場からー事件と新聞
6. 取材の現場からー生活と新聞
7. 取材の現場からー文化と新聞
8. 取材の現場からースポーツと新聞
9. 取材を学ぶー新聞の文章
10. 取材を学ぶーインタビューの仕方
11. 取材を学ぶー原稿の書き方
12. 人権とプライバシーー事件報道から
13. 人権とプライバシーー映画から
14. 単位認定レポートの提出

【評価方法】

出席状況、受講態度、提出レポートなどでの総合評価

【参考文献・資料】

ジャーナリズムを学ぶ人のために

（田村紀雄・林利隆編 世界思想社）と講師作成のもの

表現文化研究 I

川澄未来子

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

（ヴィジュアル表現研究）

メディア表現の重要要素である「色彩」に関する基礎知識の習得を目的として、次の手順で授業を進める。

（1）テーマ選定

提示されたいくつかのテーマの中から、取り組むテーマを選定する。自分の特性に合った目標を設定した上で、アプローチ手法・スケジュールなどをまとめた計画書を作成する。

（2）リサーチ

文献調査（検索・収集・講読）、アンケート・ヒヤリング調査など、適切な方法を駆使して調査を実施する。結果を各自の観点で十分に整理・分析・考察し、今後の課題・展望なども含めてまとめる。

（3）プレゼンテーション

リサーチ結果を伝える効果的なメディア（スライド・ポスター・映像など）を選定し、プレゼンの企画・準備をする。報告会での講評結果を踏まえて追加・修正し、最終状態に仕上げる。

随時、全員が進捗報告をし、議論を深め、互いの意見をフィードバックしながら進行させる。

また、ツールとして、WWWやデータベース、各種ソフトウェア（Word, PowerPoint など）を随時使用する。

【評価方法】

出席状況、受講態度、途中報告、最終報告の様子などから総合的に評価する。

表現文化研究 I

梅田卓夫

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

（現代詩）

現代詩の実作を前提として、各自が「詩とは何か」というとらえどころのない問いに、ただ「形」の上からだけでなく「詩精神（ポエジー）」においても迫ることができるよう演習を積み重ねる。

そのために敢えて井上靖などの散文詩を継続的に講読し、「散文の中の詩」「詩の中の散文」を考えていく。

一方、過去の代表的な詩人と作品をとり上げて、グループごとの発表形式と討論で、作品の分析・鑑賞・批評の目を養うとともに、実作への力量をたかめる。

第1回 授業の進め方、グループ分け

第2回 「現代詩」の歴史的位置づけ

第3回 萩原朔太郎の作品

第4回 金子光晴の作品

第5回 丸山薫の作品

第6回 西脇順三郎の作品

第7回 戦後の詩人（1）

第8回 戦後の詩人（2）

第9回 谷川俊太郎の作品

第10回 現代の詩人（1）

第11回 現代の詩人（2）

第12回 詩とは何かへ実作へむけて

【評価方法】

授業中とその前後における各人の取り組み、およびレポート（作品）による。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

井上靖全詩集（新潮文庫）

詩ってなんだろう（谷川俊太郎著 筑摩書房）

表現文化研究 I

木全純治

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

（映画研究）

映画を文化及び産業という側面からとらえ、映画がそれぞれの国で果たしている役割を、前期は日本映画、後期はアジア映画を中心に講義する。前期は日本映画の歴史、サイレントからトーキー、白黒からカラーへ変遷する技術の進歩と、政治、経済面から見た映画人の活動を考察する。特に、彼らがそれぞれの時代をどうとらえたか、物の見方（視点）を中心に話を進める。又、撮影所、シネマコンプレックスなどの現場を訪れ、映画の産業的な側面にふれる。

1. 日本映画の現状。製作、配給、興行について

2. 日本映画の誕生とその展開

3. サイレントからトーキーへ

4. 戦時下の日本映画

5. 戦後映画の展開

6. 黄金時代を築いた監督たち

7. 松竹ニューベルバグのもたらしたものと

8. 80年代から90年代の監督たち

9. 撮影所、シネマコンプレックス訪問

10. 小津安二郎、今井昌平、大島渚、北野武の監督研究

【評価方法】

日本映画を3本鑑賞して、そのレポートで判断する。

【参考文献・資料】

授業中に指示。教材は適時配布します。

表現文化研究 I

小菅健一

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

(コミック・アニメ研究)

- 第1回 オリエンテーション (コミックとアニメ)
- 第2回 大友克洋 (1) 「童夢」
- 第3回 大友克洋 (2) 「MEMORIES」
- 第4回 大友克洋 (3) 「AKIRA」
- 第5回 押井守 (1) 「人狼」
- 第6回 押井守 (2) エトセトラ
- 第7回 士郎正宗 (1) 「攻殻機動隊」
- 第8回 士郎正宗 (2) エトセトラ
- 第9回 岡崎京子 (1) 「PINK」
- 第10回 岡崎京子 (2) 「リバーズエッジ」
- 第11回 大島弓子 (1) 「綿の国星」
- 第12回 大島弓子 (2) エトセトラ
- 第13回 授業のまとめ

【評価方法】

日頃の出席状況と講義に臨む授業態度、単位認定のためのレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

基本的にはプリント教材とビデオ教材を使用し、必要に応じて授業中に指示する。

【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

表現文化研究 I

島田修三

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

(短歌)

- 第1回 授業計画に関する討議
- 第2回 前衛短歌に関する基礎講義
- 第3回 ポスト前衛短歌に関する基礎講義
- 第4回～11回 テキスト講読演習と討議
- 第12回～13回 総括討議

【評価方法】

出席状況・授業内の調査発表・授業内のレポート・学期末のレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

現代歌人文庫 寺山修司歌集 (国文社)

【参考文献・資料】

現代歌人文庫 1～30 (国文社)

表現文化研究 I

酒井晶代

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

(児童文学)

＜日本児童文学の代表作を読む＞

子どもの文学は、近代以降、一方では教育と、他方では文学と密接な関わりを持ちながら変化してきた。近代を中心に代表的な児童文学作品を読みあひながら、日本児童文学史の流れを把握すると同時に、教育や文学、あるいは文化のなかの「子どもの文学」の位相と変容を考察したい。同時に、それぞれの作者たちが子ども読者に向けて「なにを」「どのように」手渡そうとしたのかを探り、子どもの文学の独自性を考える場としたい。

授業では、グループ発表の形式で、時代順に作品を読み進めていく。テキストと丁寧に向き合い、自らの問題意識を発見すること。問題を解くための手がかりを取集し、分析すること。質疑応答を通して、さらに考察を深めること。これらを通して、作品を主体的かつ創造的に読み解く面白さを発見できたと思う。

なお、夏休みを利用して児童文学関連施設の見学旅行を実施する予定。

- 第1回 半期間の計画提示、文献検索方法など
- 第2～5回 明治期の作品
- 第6～9回 大正期の作品
- 第10～12回 昭和戦前期の作品

【評価方法】

出席状況、発表や質疑応答の様子、レポート等により総合的に評価する。

【テキスト】

日本児童文学名作集 (上・下) (桑原三郎・千葉俊二編 岩波文庫)
はじめて学ぶ日本児童文学史 (鳥越信編 ミネルヴァ書房)

表現文化研究 I

清水良典

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

(小説)

本講座では、現代文学の代表的な作家、村上春樹、村上龍、笹野頼子、川上弘美、町田康らの代表作を研究討議することを通して、現代小説の特質と技法を学ぶ。

- 第1回 概要説明とグループ分け
- 第2回 村上春樹『羊をめぐる冒険』研究発表
- 第3回 同 共同討議
- 第4回 村上龍『69』研究発表
- 第5回 同 共同討議
- 第6回 笹野頼子『レストレス・ドリーム』研究発表
- 第7回 同 共同討議
- 第8回 川上弘美『物語が、始まる』研究発表
- 第9回 同 共同討議
- 第10回 町田康『くっすん大黒』研究発表
- 第11回 同 共同討議
- 第12回 現代文学の転換点概説

【評価方法】

出席状況とレポートの内容、討議への参加態度で総合的に評価する。

【テキスト】

羊をめぐる冒険 (村上春樹 講談社文庫)
69 (村上龍 集英社文庫)
レストレス・ドリーム (笹野頼子 河出文庫)
物語が、始まる (川上弘美 中公文庫)
くっすん大黒 (町田康 文春文庫)

【参考文献・資料】

文学がどうした!? (清水良典 毎日新聞社)

表現文化研究 I

角田達朗

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

(演劇研究)

戯曲解釈と演技とがどのように関連するかを知るために、演技することを想定して戯曲を実践的に読む。演技力の向上を第一義とするものではなく、したがって演技の優劣を競うものではないが、演技するという主体的契機を伴わない机上の解釈に止まることは許されない。

また、上演芸術の理解には当然ながら生の上演に接することが不可欠である。そこで月1～2本程度の鑑賞課題を設定し、その都度レポートの提出を求めるものとする。

(上演鑑賞のため、1万円程度の経費を要する。)

【評価方法】

レポート・平常点

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

表現文化研究 I

馬場伸彦

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

(編集・広告)

私たちは情報消費社会とでもいうべき時代相のなかにいる。多くの事象は、身体的経験に先行し、メディアを媒介に「情報」としてもたらされ、消費されていく。本来、現実と地続きであった出来事は、情動的体験として転倒している。ここにリアリティの混乱が生起する要因がある。「表現」という問題を考えるとき、メッセージが表象化される場(空間・環境)である「メディア」の問題を抜きに語ることはできない。それは編集された構造物なのであるからだ。従って、「表現行為」において重要なのは、第一にメディアの理解であり、次に編集によって方向づけられたメッセージがどのように作用するのか、構造や仕組みを理解し、その方法論を獲得することである。

本授業では「メディア論」の基本文献であるマクルーハンの『メディア論 人間の拡張の諸相』を精読することを通じて、メディア(広告・新聞・雑誌・テレビ・映画)の理解を深めると共に、メディア受容に対する批判能力を養うことを目的とする。

【評価方法】

発表、および期末のレポートによって評価する。

【テキスト】

メディア論 人間の拡張の諸相(M.マクルーハン 栗原裕・河本仲聖訳 みみず書房)

【参考文献・資料】

マクルーハン理論(M.マクルーハン・E.カーペンター 平凡社)

メディアの理論(フレッド・インクス 伊藤誓・磯山甚一訳 法政大学出版局)

メディアと情報化の社会学(岩波講座現代社会学22)

(井上俊・上野千鶴子他編 岩波書店)

社会情報学2メディア(東京大学社会情報研究所編 東京大学出版会)

表現文化研究 II

麻創けい子

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究 I」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

(シナリオ創作)

- 第1回 オリジナル作品創作に向けて
- 第2回 講読と演習(テーマの発見)
- 第3回 講読と演習(アイデアの創出)
- 第4回 講読と演習(ストーリー作り)
- 第5回 講読と演習(構成)
- 第6回 講読と演習(人物描写)
- 第7回 講読と演習(時代考証・取材)
- 第8回 講読と演習(シーンとカット)
- 第9回 講読と演習(ファーストシーン)
- 第10回 講読と演習(回想と時間処理)
- 第11回 講読と演習(クライマックス)
- 第12回 講読と演習(セリフと書きの間)
- 第13回 講読と演習(裏切りと沈黙の効果)

【評価方法】

出席状況と提出されたオリジナル作品によって総合的に評価する。

【テキスト】

新版シナリオの基礎技術(新井一著 ダヴィッド社)

【参考文献・資料】

ふじたあさやの体験的脚本創作法(ふじたあさや著 晩成書房)

映画テレビシナリオの技術(新井一著 ダヴィッド社)

表現文化研究 II

岩崎建弥

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究 I」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

(新聞)

表現文化研究 I 学んだことを、より実践的に深め、ジャーナリストのセンスを身につける。

1. 新聞を読むー1面から社会面、経済面、生活面、文化面、運動面、地域版までを読み、その性格や記事表現の違いなどを知る。
2. インタビューをするーテーマを与え、受講生同士の取材や模擬記者会見を通じて、事前の準備や応対の態度、質問の仕方、内容などを学ぶ。
3. 写真を撮るー人物撮影や季節のスケッチの仕方を学ぶ。
4. 原稿を書くーインタビューしたことや模擬事件を限られた時間内に原稿にまとめる。
5. 単位認定レポートの提出。

1、2、4は、2～4回続ける。

【評価方法】

出席状況、受講態度、提出レポートなどでの総合評価

【参考文献・資料】

中日新聞ほかの紙面と、講師が用意する資料その他による。

表現文化研究Ⅱ

梅田卓夫

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

(現代詩)

受講者が原則として全員、現代詩の実作を継続的に行うものとして、授業を組み立てる。

詩の形式や技法をいくつかの課題(テーマ)として設定した上で、各自が実作を試み、提出された作品を合評形式により分析・批評・評価し合い、さらに優れたものへと練り上げていく。

一方、詩の創作・合評の過程で、各自がとらえた詩作上の問題や、過去の詩人たちの作品についての、自分の考えを深めて初歩的な詩論を試みる。

- | | |
|---------|-----------------------------|
| 第1～3回 | 発想～詩(ポエジー)のとらえ方、描写、韻律、比喩 |
| 第4～6回 | 詩の<一行>、「自由詩」の形、「内在律」という考え方 |
| 第7～9回 | 定型詩、短詩、アフォリズム、定義、論理性と飛躍 |
| 第10～12回 | 散文詩、詩のこぼれ・散文のこぼれアレゴリー、メタファー |
- * なお上記のブロックごとに作品の実作と合評(相互批評)をおこなう。

【評価方法】

作品(レポート)の質および提出状況、授業中とその前後の取り組み、によって評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

表現文化研究Ⅱ

木全純治

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

(映画研究)

80年代後半よりアジア映画の躍進が目覚ましい。中国語圏では、中国の陳凱歌(チェン・カイコー)、張芸謀(チャン・イーモウ)、香港のジョン・ウー、ウォン・カーウアイそして俳優・監督として活躍するジャッキー・チェン。台湾では侯孝賢(ホウ・シャオシェン)、エドワード・ヤンが活躍する。そしてここ2、3年、驚くべきパワーを発揮しているのが韓国映画。これらの国の映画人は、文化大革命、天安門事件、光州事件など政治に大きな影響を受けながらも、着実に自分たちのメッセージを発信している。その活力の源泉を、歴史、時代背景そして民族的観点から考察する。

1. アジア映画の現状。製作、配給、興行について
2. 中国第五世代の誕生
3. 香港映画の魅力
4. 台湾映画の光と影
5. 躍進する韓国映画
6. 現代史とアジア映画
各コマ2週間の予定

【評価方法】

アジア映画を3本鑑賞して、そのレポートで判断する。

【参考文献・資料】

授業中に指示。教材は適時配布します。

表現文化研究Ⅱ

川澄未来子

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

(ヴィジュアル表現研究)

学術論文の形態に慣れ、読みこなすことを目的として、次の手順で授業を進める。

(1) テーマ選定

提示されたいくつかのテーマの中から、取り組むテーマを選定する。自分の特性に合った目標を設定した上で、アプローチ手法・スケジュールなどをまとめた計画書を作成する。

(2) リサーチ

文献調査(検索・収集・講読)、アンケート・ヒヤリング調査など、適切な方法を駆使して調査を実施する。結果を各自の観点で十分に整理・分析・考察し、今後の課題・展望なども含めてまとめる。

(3) プレゼンテーション

リサーチ結果を伝える効果的なメディア(スライド・ポスター・映像など)を選定し、プレゼンの企画・準備をする。報告会での講評結果を踏まえて追加・修正し、最終状態に仕上げる。

随時、全員が進捗報告をし、議論を深め、互いの意見をフィードバックしながら進行させる。

また、ツールとして、WWWやデータベース、各種ソフトウェア(Word、PowerPointなど)を随時使用する。

【評価方法】

出席状況、受講態度、途中報告、最終報告の様子などから総合的に評価する。

表現文化研究Ⅱ

小菅健一

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

(コミック・アニメ研究)

- | | |
|--------|--------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | コミックの作品をめぐる共同討議 |
| 第3回 | アニメーションの作品をめぐる共同討議 |
| 第4～12回 | 受講者の発表演習 |
| 第13回 | 授業のまとめ |

【評価方法】

日頃の出席状況と講義に臨む授業態度、発表レポートの内容、単位認定のためのレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

プリント教材とビデオ教材。受講者各人の選択した発表作品。

表現文化研究Ⅱ

酒井晶代

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

(児童文学)

＜児童文学の創作と研究・評論＞

子どもの文学は、従来、大人の文学とは異なる特性を持つものとされてきた。子ども文化の多メディア化が進行し、子どもと大人の境界が問われる時代を迎えたいま、子どもの文学とは何か。「なぜ」、「なにを」、子どもに向けて書くのか。「表現文化研究Ⅰ」で学んだ歴史的知識を踏まえながら、作品を読み、書き、相互に批評する営みを通して、子どもの文学をめぐる諸問題や可能性を問う場としたい。

授業は、受講者が執筆した児童文学作品と評論の合評を中心に進めていく。あわせて近年の創作児童文学を批評的に読みあい、一連のプロセスを通して、自作の推敲や、作品を研究・批評する態度を身につけていきたい。

第1回 半期間の計画提示など

第2回～ 創作と評論の執筆・推敲・合評

・前半は課題に沿った作品を、後半は自由テーマでの作品をそれぞれ執筆する。いずれも主に自宅で執筆し、授業では合評が中心になる予定。

【評価方法】

出席状況、提出作品、合評会での発言などにより総合的に行う。

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

表現文化研究Ⅱ

島田修三

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

(短歌)

第1回 演習のテーマに関する調整と討議

第2回 受講者の課題の確認と方向づけ

第3回～12回 創作実習と発表演習

第13回 総括

【評価方法】

出席状況・授業内の調査発表および創作作品によって総合的に評価する。

【テキスト】

短歌入門(島田修三著 池田書店)

【参考文献・資料】

現代短歌文庫1～30(国文社)

現代短歌全集1～17(筑摩書房)

表現文化研究Ⅱ

清水良典

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

(小説)

本講座では、小説を主とする散文創作を試み、相互批評と推敲を重ねることによって、各自の個性と主題を探究する。

あらかじめ夏期休暇中に20枚程度の創作を書いて、第1回の授業で提出すること。

第1回 作品提出と討議

第2～6回 作品相互批評

第7回 対物描写とイメージ

第8回 相互批評

第9回 対人描写

第10回 相互批評

第11回 自然描写

第12回 相互批評と総括

【評価方法】

出席状況と作品、授業態度によって総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて授業中に指示する

【参考文献・資料】

必要に応じて授業中に指示する。

表現文化研究Ⅱ

角田達朗

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

(演劇研究)

戯曲解釈と上演とがどのように関連するかを知るために、上演することを想定して戯曲を実践的に読む。上演のための技能の向上を第一義とするものではなく、したがって演技やスタッフ・ワークの優劣を競うものではないが、キャストやスタッフとして上演に従事するという主体的契機を伴わない机上の解釈に止まることは許されない。

また、上演芸術の理解には当然ながら生の上演に接することが不可欠である。そこで月1～2本程度の鑑賞課題を設定し、その都度レポートの提出を求めるものとする。

(上演鑑賞のため、1万円程度の経費を要する。)

【評価方法】

レポート・平常点

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

表現文化研究Ⅱ

馬場伸彦

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から各自が選択した領域において、「表現文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや習作に基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

（編集・広告）

広告は社会的なコミュニケーション制度のひとつだが、従来「広告論」として扱われる研究領域は商学および経営学の延長上に位置することが多かった。しかし、広告を表現文化という側面から捉え直した場合、そこには「文化」をめぐる様々なコンテクストが重層化していることに気がつくにちがいない。大衆消費社会を迎えた現在、サブカルチャーとしての広告は私たちの生活様式や価値観の形成に多大な影響力を与えている。

本授業では、前授業で得た問題意識を演習を通じて具体化することを目標とする。編集された構造物、すなわち雑誌、広告、映画、webなど、各自の興味に従い課題を決定し、進展に合わせて個人発表を行い、最終的には、論文または作品の制作に結びつけたい。

【評価方法】

出席状況、発表の内容、討論への参加態度、具体的な成果（論文または作品）によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。その都度指示する。

【参考文献・資料】

現代広告学を学ぶ人のために（山本武利編 世界思想社）
「広告」への社会学（難波功士 世界思想社）
物の体系（ジャン・ボードリヤール 法政大学出版局）

表現文化研究Ⅲ

岩崎建弥

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

（新聞）

新聞記者になったつもりで、各新聞の主にニュース面を比べて批評しながら、そこに上げられている現代の課題の核心に迫り、それぞれの研究テーマを探る。外部講師へのインタビューや学外研修も行う。

- 第1回 オリエンテーリング
- 第2～6回 相互の批評と討論、原稿書き
- 第7回 総合批評と討論
- 第8～12回 外部講師と学外研修、原稿書き
- 第13・14回 個別指導
(夏休みにゼミ研修旅行を予定)

【評価方法】

出席の状況と原稿、レポートで総合的に評価する。

【テキスト】

一般紙各紙と講師作成のものを中心に

表現文化研究Ⅲ

麻創けい子

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

（シナリオ創作）

- 第1回 脚色技術と作品分析（映像）
- 第2回 脚色技術と作品分析（映像）
- 第3回 脚色技術と作品分析（演劇）
- 第4回 脚色技術と作品分析（演劇）
- 第5回 ドキュメンタリー作品分析
- 第6回 ドキュメンタリー作品分析
- 第7回 テレビドラマ作品分析
- 第8回 テレビドラマ作品分析
- 第9回 映画作品分析
- 第10回 映画作品分析
- 第11回 演劇作品分析
- 第12回 演劇作品分析
- 第13回 ラジオドラマ作品分析
- 第14回 ラジオドラマ作品分析

【評価方法】

出席状況と提出レポートなどによる

【テキスト】

テレビドラマ代表作選集1998年版（日本脚本家連盟）
銀河鉄道の夜（宮沢賢治著 角川文庫）

【参考文献・資料】

ドラマ（映人社）
シナリオ（シナリオ作家協会）
銀河鉄道の夜（VHS）

表現文化研究Ⅲ

梅田卓夫

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

（現代詩）

「表現文化研究Ⅰ」および「表現文化研究Ⅱ」で得た現代詩への問題意識を深めつつ、受講者が自分の興味と個性を確認し、さらに創造的な詩作（研究）へむけて継続的な取り組みができるよう、授業をすすめる。

個別指導を基本としながらも、教室という場を生かして、各自の作品（研究）を他の受講者との相互批評・鑑賞にもゆだね、作品をより客観的・普遍的にするための手がかりを得られるようにする。

- 第1～3回 現代詩の歴史を概観しつつ、各自の創作テーマを設定して詩作（研究）をすすめる。
- 第4～6回 習作の提出、発表。テーマ・方法の軌道修正。
- 第7～8回 特定の優れた先達詩人あるいはエコールをとりあげ各自にその姿勢・思想・技法を研究する。
- 第9～11回 当初に設定した各自の創作テーマによる作品の発表。合評会を経てさらなる推敲を試みる。
- 第12回 これまでの創作を振り返り、今後の詩作への手がかりと可能性を探る。

【評価方法】

作品（研究）の質および提出状況、授業中とその前後の取り組み、によって評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

表現文化研究Ⅲ

川澄未来子

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

(ヴィジュアル表現研究)

ヴィジュアル表現に関する研究の進行を目的として、次の手順で授業を進める。

(1) テーマ選定

提示されたいくつかのテーマの中から、取り組むテーマを選定する。自分の特性に合った目標を設定した上で、アプローチ手法・スケジュールなどをまとめた計画書を作成する。

(2) リサーチ

文献調査(検索・収集・講読)、アンケート・ヒヤリング調査など、適切な方法を駆使して調査を実施する。結果を各自の観点で十分に整理・分析・考察し、今後の課題・展望なども含めてまとめる。

(3) プレゼンテーション

リサーチ結果を伝える効果的なメディア(スライド・ポスター・映像など)を選定し、プレゼンの企画・準備をする。報告会での講評結果を踏まえて追加・修正し、最終状態に仕上げる。

随時、全員が進捗報告をし、議論を深め、互いの意見をフィードバックしながら進行させる。

また、ツールとして、WWWやデータベース、各種ソフトウェア(Word, PowerPointなど)を随時使用する。

【評価方法】

出席状況、受講態度、途中報告、最終報告の様子などから総合的に評価する。

表現文化研究Ⅲ

小菅健一

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

(コミック・アニメ研究)

- | | |
|--------|-----------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回 | 話題作(コミック)をめぐる共同討議 |
| 第3回 | 話題作(アニメーション)をめぐる共同討議 |
| 第4回 | 卒業研究・卒業制作の計画発表 |
| 第5回 | 卒業研究・卒業制作の内容構成(目次)の作成 |
| 第6~12回 | 受講者の研究・制作発表 |
| 第13回 | 授業のまとめ |

【評価方法】

日頃の出席状況と講義に臨む授業態度、研究・制作発表、それをまとめた単位認定のためのレポートの内容などによって、総合的に評価する。

【テキスト】

受講者各人が卒業研究・卒業制作の主題に設定した、作家・作品・テーマに関するもの。

【参考文献・資料】

特になし。

表現文化研究Ⅲ

木全純治

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

(映画研究)

卒論及び卒業制作にむけて具体的な準備を始める。卒論は①監督研究②テーマ別研究③映像制作からなる。①の監督研究は、日本及びアジアの監督作品を研究し、その監督の時代とのかかわり、その影響などを考察する。②のテーマ別研究は、広範囲の映画の中から特徴となるものを選び、それを重点に考察する。③映像制作は、自らのシナリオを基に、10分以上の劇映画又は30分程度のドキュメンタリーを制作する。授業はこれらの参考になるための指針を示す。又、各自30分程度の個別発表をする。

1. 監督研究 : 小津映画における家族のあり方
2. 監督研究 : 黒澤映画のダイナミズム
3. 監督研究 : 張芸謀の色彩と思想の関係
4. テーマ別研究: 映画の配給・宣伝・興行について
5. テーマ別研究: 在日の日本映画との関わり
6. テーマ別研究: 戦争映画の視線について
7. 映像制作実習(2コマ)
8. 個別発表

【評価方法】

個別の研究発表と課題のレポートで判断する。

【参考文献・資料】

授業中に指示。教材は適時配布します。

表現文化研究Ⅲ

酒井晶代

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

(児童文学)

<子ども論を読む(1)>

私たちが「子ども」を捉えるまなざしは、近代に誕生したとされる。近年、その近代的子ども観が様々な場で問い直され、新たな子ども-大人関係の模索が始まりつつある。近代の子ども観のもとで発展してきた児童文学もまた、内外からの捉え直しが必要であろう。授業では子ども論を主な手がかりとして、子ども観の変遷をたどり、児童文学成立の基盤とその歴史性を探る。合わせて卒業論文・卒業制作執筆に向けて、研究や創作の合評を進めていく。理論書の精読と作品合評とが個々に完結するのではなく、相互に影響し合いながら深化していく授業を目指したい。

なお、夏休み等を利用して、集中的な合評形式の授業を実施する予定。

- | | |
|---------|-------------------------|
| 第1回 | 半期間の計画提示など |
| 第2~3回 | 卒業論文・卒業制作の中間発表(1) |
| 第4~10回 | 理論書の精読(グループ発表)と研究・創作の合評 |
| 第11~12回 | 卒業論文・卒業制作の中間発表(2) |

【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、レポート等により総合的に行う。

【テキスト】

子ども100年のエボック(本田和子著 フレーベル館)

表現文化研究Ⅲ

島田修三

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

(短歌)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回～6回 課題創作演習1
- 第7回～8回 研究・創作テーマの中間発表と討議
- 第9回～11回 課題創作演習2
- 第12回 研究・創作テーマの最終発表
- 第13回 まとめ

【評価方法】

出席状況および授業内のレポート・学期末のレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布する

【参考文献・資料】

- 短歌入門（島田修三著 池田書店）
- 現代短歌文庫1～30（国文社）
- 現代短歌全集1～17（筑摩書房）
- 月刊誌 短歌（角川書店）、歌壇（本阿弥書店）、短歌研究（短歌研究社）

表現文化研究Ⅲ

角田達朗

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

(演劇研究)

戯曲解釈と上演とがどのように関連するかを知るために、上演することを想定して戯曲を実践的に読む。上演のための技能の向上を第一義とするものではなく、したがって技能の優劣を競うものではないが、キャストやスタッフとして上演に従事するという主体的契機を伴わない机上の解釈に止まることは許されない。

また、上演芸術の理解には当然ながら生の上演に接することが不可欠である。そこで月1～2本程度の鑑賞課題を設定し、その都度レポートの提出を求める。

（上演鑑賞のため1万円程度の経費を要する。）

【評価方法】

レポート

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

表現文化研究Ⅲ

清水良典

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

(小説)

- 小説を主とする散文創作を試みながら、相互批評と推敲を重ねることによって、各自の個性と主題を更に高める。
- 授業に先立ち、20～30枚の短編小説を書き、第1回の授業で提出すること。さらに6月末には卒業予備作品を提出する。
- 第1～6回 相互批評
- 第7回 卒業研究もしくは作品指導
- 第8～12回 卒業予備作品相互批評

なお夏期休暇中の9月上旬に宿泊を伴うゼミ合宿をおこなう予定。

【評価方法】

出席状況と作品、授業態度によって総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて授業中に指示する。

【参考文献・資料】

必要に応じて授業中に指示する。

表現文化研究Ⅲ

外山敦子

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

(古典文学研究)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回～4回 対象とするテーマに関する研究状況の把握
- 第5回～7回 対象とするテーマに関する研究方法の把握
- 第8回～10回 対象とするテーマに関する論文批評
- 第11回～13回 中間発表会（1）

【評価方法】

出席状況、発表内容、レポート等により総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

表現文化研究Ⅲ

馬場伸彦

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅰ」「表現文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

(編集・広告)

「表現」とは、作品内容あるいは作者自身の行為を指すのではなく、読者や観察者との関係によって生成するものである。それは常に、何らかのメディアを介した受容とコミュニケーションが前提となる。従って、表現者が最も重視しなければならない点は、作品が「外なる形」として現れる場を想定することであり、それがどのような環境に置かれ、どのような意味作用をもたらすかについて十分な検討を行うことであろう。「編集」とは世界を構造化する技術であると言い換えることができる。

本授業においては、前授業において継続されている問題である「メディアの理解」を踏まえた上で、各自の興味にしたがって具体的な作品制作、または関連領域における論文を執筆することを目標とする。なお、作品の制作は、多様な形式が予想されるため、専門知識ならびに個別的助言が必要となる。そのため積極的な授業態度で臨むことが求められる。

【テキスト】

複製技術時代の芸術作品 (ヴァルター・ベンヤミン 晶文社)

【参考文献・資料】

ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」精読 (多木浩二 岩波現代文庫)

表現文化研究Ⅳ

麻創けい子

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

(シナリオ創作)

- 第1回 卒業創作に向けてジャンルの選択
- 第2回 講読と個別指導 (演劇)
- 第3回 講読と個別指導 (演劇)
- 第4回 講読と個別指導 (テレビドラマ)
- 第5回 講読と個別指導 (テレビドラマ)
- 第6回 講読と個別指導 (ラジオドラマ)
- 第7回 講読と個別指導 (ラジオドラマ)
- 第8回 講読と個別指導 (映画)
- 第9回 講読と個別指導 (映画)
- 第10回 講読と個別指導 (構成もの)
- 第11回 講読と個別指導 (構成もの)
- 第12回 講読と個別指導 (ミュージカル)
- 第13回 講読と個別指導 (歌舞伎・その他)

【評価方法】

出席状況と提出作品などによる

【テキスト】

テレビドラマ代表作選集1998年版 (日本脚本家連盟)

【参考文献・資料】

ドラマ (映人社)
シナリオ (シナリオ作家協会)

表現文化研究Ⅳ

岩崎建弥

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

(新聞)

卒業論文と卒業制作 (グループによる新聞製作) に向け、前期までの蓄積に基づいて各自、各グループのテーマごとに、取材、編集、論文 (紙面) 作りへと作業を進める。

- 第1回 オリエンテーリング
- 第2-6回 論文作成へのテーマ別討論
- 第7回 総合討論
- 第8-12回 新聞製作へのグループ別討論
- 第13-14回 個別指導

【評価方法】

出席の状況、論文、製作した新聞などで総合的に評価する。

【テキスト】

講師作成のものを中心に

表現文化研究Ⅳ

梅田卓夫

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

(現代詩)

「表現文化研究Ⅲ」で試みた創作 (研究) を推し進めつつ、具体的な作品群を完成させる中で、受講者が自分の個性を一層輝かせ、詩作の手応えと喜びを実感できるよう授業を組み立てる。卒業制作に際しては、作品を各自一冊の詩集として形あるものにして提出する。その過程で、詩的言語と、文化の詩的領域への感性を磨き、生涯にわたって詩作とともにある生活を送ることができるような礎を築くことをめざす。

- 第1-3回 現代詩創作 (研究) の目的・意義の確認。これまでに自分の作った作品を振りかえり、各自の個性を磨きつつ、テーマを継続して詩作 (研究) をすすめる。
- 第4-6回 詩的言語の研究。自分の作品をさらに個性あるものとするために、それぞれにふさわしい語法・文体・形式を追求する。
- 第7-9回 合評会。作品の批評と鑑賞。一人ひとりがすすめてきた作品とその問題点を交流しあい、創作 (研究) の完成へ向け課題を確認する。
- 第10-12回 詩集の完成。これまでに創作してきた作品をまとめて、一冊の詩集として提出する。編集・造本・装丁・レイアウト等についても研究し、可能なかぎり自分の作品にふさわしい発表形態を追求する。

【評価方法】

提出された詩集 (研究) の質、および創作への意欲、授業への取り組み、によって評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

表現文化研究Ⅳ

川澄未来子

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

(ヴィジュアル表現研究)

ヴィジュアル表現に関する研究論文の作成を目的として、次の手順で授業を進める。

(1) テーマ選定

提示されたいくつかのテーマの中から、取り組むテーマを選定する。自分の特性に合った目標を設定した上で、アプローチ手法・スケジュールなどをまとめた計画書を作成する。

(2) リサーチ

文献調査（検索・収集・講読）、アンケート・ヒヤリング調査など、適切な方法を駆使して調査を実施する。結果を各自の観点で十分に整理・分析・考察し、今後の課題・展望なども含めてまとめる。

(3) プレゼンテーション

リサーチ結果を伝える効果的なメディア（スライド・ポスター・映像など）を選定し、プレゼンの企画・準備をする。報告会での講評結果を踏まえて追加・修正し、最終状態に仕上げる。

随時、全員が進捗報告をし、議論を深め、互いの意見をフィードバックしながら進行させる。

また、ツールとして、WWWやデータベース、各種ソフトウェア（Word, PowerPointなど）を随時使用する。

【評価方法】

出席状況、受講態度、途中報告、最終報告の様子などから総合的に評価する。

表現文化研究Ⅳ

小菅健一

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

(コミック・アニメ研究)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 卒業研究・卒業制作の内容構成の最終決定
- 第3～7回 受講者の研究・制作発表
- 第8～9回 卒業研究・卒業制作のグループ相談
- 第10～12回 卒業研究・卒業制作の個人相談
- 第13回 授業のまとめ

【評価方法】

日頃の出席状況と講義に臨む受講態度、研究・制作発表、それをまとめた単位認定のための卒業研究レポートや卒業制作レポートの内容などによって、総合的に評価する。

【テキスト】

受講者各人が卒業研究・卒業制作の主題に設定した、作家・作品・テーマに関するもの。

【参考文献・資料】

特になし。

表現文化研究Ⅳ

木全純治

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

(映画研究)

前期の個別テーマ研究をふまえ、さらに深く考察する中から、卒論を完成させる。また、実際の現場で活躍するディレクター、クリエイターを招いて意見を聞き、現場の仕組み、要求される技術、心得などを確認する。

1. デザインディレクター
2. CF制作プロデューサー
3. 映画宣伝プランナー

後期は、各自の発表が中心となる。

【評価方法】

卒論と卒業制作作品（シナリオ付）を見て判断する。

【参考文献・資料】

授業中にアドバイスをする。

表現文化研究Ⅳ

酒井晶代

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

(児童文学)

<子ども論を読む(2)>

前期「表現文化研究Ⅲ」に引き続き、子ども論の精読と作品の合評を行う。歴史的事象に言及した前期のテキストに対して、後期は現代の子ども文化や子ども－大人関係を考察した評論を取り上げる。卒業論文・卒業制作の仕上げに向けて、研究・創作の合評のほか、進捗状況の発表会なども随時行っていく予定。

第1～2回 卒業論文・卒業制作の中間発表(3)

※以後も、随時中間発表を行う。

第3～11回 理論書の精読(グループ発表)と研究・創作の合評

第12回 全体のまとめ

【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、提出論文・提出作品等により総合的に評価を行う。

【テキスト】

「子ども」の消滅(斎藤次郎著 雲母書房)

表現文化研究Ⅳ

島田修三

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

(短歌)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回～6回 自由創作演習1
- 第7回～9回 研究・創作テーマの討議
- 第10回～11回 自由創作演習2
- 第12回 卒業創作・研究作品の発表と質疑
- 第13回 まとめ

【評価方法】

出席状況および授業内のレポート・卒業研究創作レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布する

【参考文献・資料】

- 短歌入門 (島田修三著 池田書店)
- 現代短歌文庫 1～30 (国文社)
- 現代短歌全集 1～17 (筑摩書房)
- 月刊誌 短歌 (角川書店)、歌壇 (本阿弥書店)、短歌研究 (短歌研究社)

表現文化研究Ⅳ

角田達朗

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

(演劇研究)

戯曲解釈と上演とがどのように関連するかを知るために、上演することを想定して戯曲を実践的に読む。上演のための技能の向上を第一義とするものではなく、したがって技能の優劣を競うものではないが、キャストやスタッフとして上演に従事するという主体的契機を伴わない机上の解釈に止まることは許されない。

また、上演芸術の理解には当然ながら生の上演に接することが不可欠である。そこで月1～2本程度の鑑賞課題を設定し、その都度レポートの提出を求める。

(上演鑑賞のため1万円程度の経費を要する。)

【評価方法】

レポート

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

表現文化研究Ⅳ

清水良典

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

(小説)

卒業研究もしくは作品を完成するための立案計画、創作、批評、推敲のプロセスを実行する。

あらかじめ「表現文化研究Ⅲ」において提出された卒業予備作品をもとに、第2次予備作品を第1回の授業で提出し、改善点、反省点を探りながら卒業研究もしくは作品として完成に導く。

- 第1～6回 第2次卒業予備作品の相互批評
- 第7回 総評と問題点討論
- 第8～12回 個別指導と討論
- 第13回～ 個別指導

卒業研究もしくは作品は、原則として任意の公募新人賞に応募するものとする。

【評価方法】

出席状況と作品、授業態度によって総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて授業中に指示する。

【参考文献・資料】

必要に応じて授業中に指示する。

表現文化研究Ⅳ

外山敦子

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

(古典文学研究)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回～第4回 概略書作成と討議
- 第5回～第7回 中間発表会(2)
- 第8回～第10回 草稿の相互添削および批評
- 第11回～第13回 合評会

【評価方法】

出席状況、発表内容、レポート等により総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

表現文化研究Ⅳ

馬場伸彦

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに各自の研究テーマや創作テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

(編集・広告)

各自の関心領域を再確認し、専門性を深めた上で、最終的な目標である卒業作品の制作、または卒業論文へと結実するよう、個別の指導と助言を行う。

表現文化卒業プロジェクト

麻創けい子 岩崎建弥 梅田卓夫 川澄未来子 木全純治 小菅健一
酒井晶代 島田修三 清水良典 角田達朗 外山敦子 馬場伸彦

【授業の概要】

「表現文化研究Ⅲ」で立案し設定したテーマないしは独自に設定した当該領域のテーマを、専任教員の指導のもとに問題意識や創造的意匠を深めながら、卒業論文ないしは卒業制作として完成させる。評価は原則として「表現文化研究Ⅳ」の教科担当者によって行う。

【授業計画】

本授業は原則として「表現文化研究Ⅳ」の教科担当者によって指導される。授業内容は「表現文化研究Ⅳ」に準じ、また担当者の指示によって適宜行われる。

* 9月卒業予定の学生の場合のみ、「表現文化研究Ⅲ」の教科担当者と授業内容に準じるものとする。

【評価方法】

「表現文化研究Ⅳ」で指導を受けた卒業研究および制作を、総合的に評価して履習単位が与えられる。

* 9月卒業予定の学生の場合のみ、「表現文化研究Ⅲ」で指導を受けた卒業研究および制作に対する評価となる。

【テキスト】

担当者の指示による。

【参考文献・資料】

担当者の指示による。

2005 年度開講予定科目

表現文化基礎演習 a

【授業の概要】

言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野から関心のある領域の一つを選択し、当該分野の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

表現文化基礎演習 b

【授業の概要】

表現文化演習Aで履修した領域とは異なる領域を、言語表現・視聴覚表現・メディア表現の各分野からひとつ選び、当該分野の基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習や創作表現を通して学ぶ。

多元文化基礎演習

榎田勝利 大野清幸 CURRAN, Beverley 杉本一直 曹述斐
TOFF, Mika 中郷 慶 平林美都子 プイチトルン 若松孝司

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミ形式の少人数授業である。文献や情報の検索方法、レポートの作成方法などを学ぶとともに、学生各自が設定したり教員が指示したテーマについての口頭発表・プレゼンテーションなどを通して、多元文化専攻における研究の基礎的な知識を身につける。

【授業計画】

授業の概略は下記の通りであるが、具体的な内容については、各担当者が第1回の授業で説明する。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 問題の把握1
- 第3回 問題の把握2
- 第4回 文献検索・データ収集法1
- 第5回 文献検索・データ収集法2
- 第6回 文献検索・データ収集法3
- 第7回 テーマ研究演習1
- 第8回 テーマ研究演習2
- 第9回 テーマ研究演習3
- 第10回 テーマ研究演習4
- 第11回 テーマ研究演習5
- 第12回 テーマ研究演習6
- 第13回 まとめ

【評価方法】

出席状況、受講態度、プレゼンテーション、課題レポートなどによって総合的に評価する。詳細は各担当者が第1回の授業で説明する。

【テキスト】

各担当から指示がある。

【参考文献・資料】

各担当から指示がある。

国際理解Ⅱ（国際交流）

榎田勝利

【授業の概要】

日本の国際交流活動が大きな転換期を迎えている。グローバル化の進展とともに、多様性が増し、変化のスピードが加速している。このような現状に立脚した総合的な視座が求められている。戦後から現在までの草の根レベルの国際交流団体の設立の軌跡を検証し、現状分析を試みる。さらに、組織のマネジメント、ボランティアの育成、ネットワークの形成等について、具体的な先進事例に基づき講義する。

【授業計画】

1. はじめに ガイダンス
2. 戦後の国際交流団体の成り立ちの軌跡
3. 民間国際交流団体の現状
4. 民間非営利団体（NPO・NGO）の組織運営
5. 自治体国際交流協会の組織運営
6. ボランティア・マネジメント
7. 国際交流事業の評価
8. 国際交流活動の先進事例
9. まとめ

【評価方法】

課題研究レポート、出席状況等の総合評価による

【テキスト】

国際交流・協力活動入門講座Ⅱ「国際交流の組織運営とネットワーク」
（榎田勝利編著 明石書店）

【参考文献・資料】

国際交流・協力活動入門講座Ⅰ「草の根の国際交流と国際協力」
（毛受敏弘編著 明石書店）
実践 国際交流（財）大阪国際交流センター発行
愛知県国際化推進プラン（愛知県県民生活部国際課発行）

国際理解Ⅰ（国際関係入門）

若松孝司

【授業の概要】

本講義は「国際理解」系列科目の初歩に位置づけられる。そのため、「国際理解」系列の各講義への橋渡し役となるべく、現代の国際関係のあり方について、理論的あるいは歴史的な観点から学ぶことを目的とする。

【授業計画】

以下の項目について講義する。

- (1) 国際関係を学ぶとは
- (2) 国際関係理論概説
- (3) 第2次世界大戦後の国際関係
- (4) 現代国際関係の諸断面

【評価方法】

出席状況と筆記試験の結果とを総合して判断する。

【テキスト】

国際関係学講義（原彬久編 有斐閣）

【参考文献・資料】

国際関係論 同時代史への羅針盤（中島嶺雄著 中公新書）
国際関係論 第2版（衛藤藩吉他著 東京大学出版会）
講座国際政治1 国際政治の理論（有賀貞他編 東京大学出版会）

国際理解Ⅲ（国際体系）

皆川修吾

【授業の概要】

冷戦時の国際権力政治構造から相互依存の国際体系へ移行するなかで、国家や地域機構、それに国際機構などの存在意義と、民主制や市場経済のグローバル化、国際秩序形成過程などを学ぶ。また、多元・多層化している国際社会のなかでの行動主体間の交流の仕組みを学び、相互依存の管理体制を検証し、グローバル化の意義を問う。

【授業計画】

- 第1講 国際政治理論：秩序と無秩序
- 第2講 2つの世界大戦
- 第3講 冷戦構造とその教訓
- 第4講 軍縮と安全保障
- 第5講 国際法
- 第6講 主権国家のタイポロジー：米国
- 第7講 ソ連/ロシア、中国
- 第8講 地域機構の存在意義
- 第9講 グローバリゼーションの光と陰
- 第10講 1) IT革命と情報化社会
- 第11講 2) WTOとNGO
- 第12講 3) 移民・外国人労働者・難民
- 第13講 4) テロリズム
- 第14講 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況との総合評価による。

【テキスト】

使用せず（適宜資料配付）

【参考文献・資料】

国際紛争（ジョセフ・S. ナイ著 有斐閣）
国際社会論（ヘドリー・ブル著 岩波書店）
現代国際関係学（新藤栄一著 有斐閣）
比較政治学（ジョヴァンニ・サルトルーリ著 早稲田大学出版部）
グローバル・ガバナンス：政府無き秩序の模索（渡辺昭夫編著 東大出版

【参照専門誌：】

外交フォーラム（外務省編 都市出版社）
国際政治（日本国際政治学会編 有斐閣）
政治学（日本政治学会編 岩波書店）

国際理解Ⅳ（多文化共生）

ブイ トルン

【授業の概要】

共通の言語・文化などを持つ1つの民族から成り立つ国民国家という概念が薄えつつあり、情報・人間活動などさまざまなものがボーダーレス化している。また、社会のグローバル化とともに、1つの国や地域だけでは解決できない問題も生まれている。人種・世代・性別など多様な価値観が混在している多文化社会における共生の問題を考える。

【授業計画】

1. 国際間の相互依存時代
2. 国際間の人的移動～Transnational 的移民の時代
3. 地域における国際化事業
 - 1) 国際交流・理解事業
 - 2) 国際協力事業
 - 3) 多文化共生事業
4. 在住外国人の動態
5. 地域社会における多文化共生への対応
 - 1) 青少年・教育
 - 2) 就労・保健医療
 - 3) コミュニティ・生活一般
6. 地方自治体等の対応
7. 市民ボランティア活動の現状・課題と展望
8. NGO/NPO の役割と社会的環境
9. 新しい社会・文化の創造へ

【評価方法】

出席率、レポートおよび授業中の発表にて評価する。

【テキスト】

授業中適宜に指示する。

【参考文献・資料】

授業初回に指示する。

国際理解Ⅴ（国際協力）

榎田勝利

【授業の概要】

日本が経済大国としての地位を確立するにつれて、国際社会から応分の責任（国際貢献）を分担することが求められてくる。国際協力の基本的な概念、定義、活動主体、活動内容と分野、および事業評価等について学ぶ。

【授業計画】

1. ガイダンス、国際協力に関する用語解説
2. 国際協力とは（定義、役割）
3. 国際協力の主体と活動内容
 - ・国際連合と国際機関
 - ・政府開発援助（ODA）日本と欧米諸国
 - ・地方自治体（国際協力の意義、モデル事業）
 - ・日本のNGO（定義、利点、歴史、現状）
 - ・世界のNGO
4. 国際協力の活動分野
 - ・貧困問題
 - ・難民問題
 - ・環境問題
 - ・児童労働・ストリートチルドレン
5. 国際協力事業の評価
6. まとめ

【評価方法】

課題研究レポート、出席状況等の総合評価による。

【テキスト】

毎回資料を配付する。

国際理解Ⅵ（非営利組織）

ブイ トルン

【授業の概要】

近年、注目と関心を集めている非営利組織の社会的役割や運営上の問題と課題、企業や行政との関係などについて考える

【授業計画】

1. ボランティア活動、NPO 及び市民活動の相違について
2. NPO の社会的役割
 - 1) アメリカにおけるNPO 活動の潮流
 - 2) イギリスにおける市民活動とCharity Commission
 - 3) 日本における市民活動とNPO 法の成立
3. 非営利組織の組織運営
 - 1) アメリカにおけるNPO 組織運営と社会環境
 - 2) イギリスにおけるチャリティ組織運営と支援体制
 - 3) 日本におけるNPO 組織運営と人材育成
4. NPO と企業との協働
 - 1) 欧米における企業の社会的貢献活動
 - 2) 企業フィランソピーと企業財団
 - 3) 日本経団連1%クラブ
 - 4) 企業との協働の現状、課題、展望
5. NPO と行政との協働
 - 1) イギリスにおける行政の協働文化（Local Compact）
 - 2) 日本の地方自治体による市民活動促進政策
 - 3) 行政との協働の現状、課題、展望
6. 日本の代表的なNPO 組織運営の現状、課題、展望
7. 助成財団の活用
8. 寄付文化、社会的理解と支援体制

【評価方法】

出席率、レポートおよび授業中の発表にて評価する。

【テキスト】

授業中適宜に指示する。

【参考文献・資料】

授業初回に指示する。

言語文化Ⅰ（言語科学入門）

大野清幸

【授業の概要】

言語データベースの構築や検索・分析を通して、言語獲得の問題を中心に考察することで、言語を科学的に分析することとは何かというテーマに関する基礎を学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 授業計画指示など。必ず出席すること！
- 第2講 テキストなどを利用して演習

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

洋書。ただし、未定。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますの
で、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅
においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

言語文化Ⅱ（コーパス言語学）

柳 朋宏

【授業の概要】

大規模な電子テキスト（コーパス）を利用した言語分析の方法を実践的に学び、コーパス言語学の可能性を探る。

【授業計画】

この授業では、コーパスに基づいた先行分析の追体験を通して、コーパス言語学の有効性と問題点を理解することを目標とする。また、実際に種々のコーパスを利用し検索を行なうことで、効果的なデータ収集法と、それによって得られたデータに基づいた分析方法を習得してもらう。

※第1回目に授業計画の指示等を行なうので必ず出席すること。

欠席すると授業についていけなくなるので注意すること。

【評価方法】

発表とレポート、及び授業への貢献度等により総合的に評価する。

【テキスト】

コーパス言語学－言語構造と用法の研究（齊藤俊雄他共訳 南雲堂）
その他、適宜ハンドアウトを配付。

【参考文献・資料】

Corpus Linguistics. (Biber, D. et al. CUP)
英語コーパス言語学（齊藤俊雄他編 研究社出版）
コーパス言語学の技法Ⅰ（中尾浩他著 夏目書房）

言語文化Ⅲ（言語能力論）

宮田 Susanne

【授業の概要】

多面的な文化創造の基本の一つを言語理論の理解とする立場から、人間固有の性質である体系としての言語の使用にはどのような特徴があるのかについて学ぶ。特に、子供の言語獲得と大人の第2言語習得の事例を取り上げ、人間が生得的に持つ言語能力の本質を学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 言語の本能；子どもはなぜしゃべり出すか
- 第2回 言語における創造性
- 第3回 言語能力対言語運用
- 第4回 言語の価値：「言語経済学」
- 第5回 普遍性；パラメータ
- 第6回 臨界期；ビジン・クレオール
- 第7回 機能主義
- 第8回 コネクショニズム
- 第9回 テストケースである言語獲得：初期文法
- 第10回 テストケースである言語獲得：初期語彙
- 第11回 テストケースである言語獲得：初期会話
- 第12回 言語能力論：まとめ

【評価方法】

毎回提出する課題用紙および自由コメント用紙を元に評価。期中に宿題を提出させた場合はこれを評価に含む。欠席回数が多い場合、また課題提出やコメント提出回数が少ない場合は受講資格を失う。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

なし

言語文化Ⅳ（生成文法論）

中郷 慶

【授業の概要】

人間の言語能力を解明しようとする生成文法の枠組みを学ぶとともに、生成文法理論に基づく構文の分析を通して、統語構造の特徴や規則性を考察する。

【授業計画】

生成文法理論は、人間の言語能力の解明を目標とし、英語学・言語学を学ぶ学生だけではなく、英語や言語一般に関心を持つ者が一度は必ず触れておかなければならない理論である。この授業では、生成文法理論の中で、いわゆる統率束縛理論（government and binding theory：GB理論）として知られている文法理論についての理解を深め、自然言語の普遍性を探っていく。主に扱うピックは以下のとおりである。

1. 統語論とは
2. 生成文法の目標と枠組み
3. 普遍文法と個別文法
4. 文構造の規則性とXⁿ理論
5. 変形と移動
6. 統率と束縛

【評価方法】

出席状況、レポート、定期試験の成績により、総合的に評価する。

【テキスト】

現代の英文法：新しい文法理論へのいざない
（齋藤興雄・佐藤寧・佐藤裕美共著 金星堂）

【参考文献・資料】

生成文法用語辞典（安藤貞雄・小野隆啓著 大修館書店）
チョムスキー理論辞典（原口庄輔・中村捷編 研究社出版）
英語学用語辞典（荒木一雄編 三省堂）

言語文化Ⅴ（言語解析）

宮田 Susanne

【授業の概要】

日本語・英語の例を使いながら、言語解析の目的と可能性について考える。女性ことば、幼児の言語、母親の言語、第2言語話者の言語などを取り上げ、その特徴（または習得過程）をとらえるさまざまな方法を学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 言語を計る：何を？何のため？；日本語基礎文法：動詞と動作名詞
- 第2回 第2言語話者の発話データ；日本語基礎文法：動詞の活用
- 第3回 形態素の概念；日本語基礎文法編：動詞の活用パターン、不規則動詞
- 第4回 第2言語話者の発達レベルを動詞活用で測る；日本語基礎文法：形容詞と形容名詞
- 第5回 MLU（平均発話長）入門；日本語獲得データに適用；日本語基礎文法：格助詞
- 第6-8回 語彙を計る：理解語彙と表出語彙；TTR；VOCD；MCDI；Peabody；BVATの紹介
- 第9回 数字化の必要性・危険性；結果のプレゼンテーション法；信頼性；Interrater-Reliabilityの問題
- 第10回 文法能力を計る：MLU；DSS, DSSJ；日本語基礎文法：その他の助詞
- 第11回 プロファイリング；日本語基礎文法：助数詞
- 第12回 言語運用と会話能力を計る；日本語基礎文法：代名詞
- 第13回 まとめ

【評価方法】

毎回提出する課題用紙および自由コメント用紙を元に評価。期中に宿題を提出させた場合はこれを評価に含む。欠席回数が多い場合、また課題提出やコメント提出回数が少ない場合は受講資格を失う。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

基礎日本語文法 改訂版（益岡隆志・田窪行則 1995 くろしお出版）
言語学が好きな本（町田健 1999 研究社出版）

言語文化VI (言語獲得論)

大野清幸

【授業の概要】

多角的な文化創造の基本の一つを言語理論の理解とする立場から、主として日本語と英語を対象に、「動的文法理論」や認知言語学などの成果に基づいて言語獲得の問題について学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 授業計画指示など。必ず出席すること！
第2講一 テキストなどを利用して演習

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

洋書。ただし、未定。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

国際文化I (東南アジア)

小座野八光

【授業の概要】

日本との関係がますます重要になる東南アジア地域の現状と、今後の日本との関係を考察し、この地域に対する理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 総論：20世紀国際関係の中での日本・東南アジア関係
第2回 近代日本と「南方」 1
第3回 近代日本と「南方」 2
第4回 戦争と日本占領の時代 1
第5回 戦争と日本占領の時代 2
第6回 戦争と日本占領の時代 3
第7回 戦争と日本占領の時代 4
第8回 「東南アジア」の成立 1
第9回 「東南アジア」の成立 2
第10回 戦後の関係構築 1
第11回 戦後の関係構築 2
第12回 戦後の関係構築 3
第13回 戦後の関係構築 4

【評価方法】

学期末に行われる筆記試験、および学期中に課す課題の成績による。

【テキスト】

特になし。講義に際してプリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義中に適宜指示する。

国際文化II (中国)

楊 衛平

【授業の概要】

文化大革命後の中国現代文化に関して、都市および農村部の生活文化の変化や刷新の様相を分析しながら学ぶ。

【授業計画】

- 1976年（文化大革命後）
1. 都市・農村改革と経済構造の変化
2. 国民経済の発展と農村経済の改革
3. 計画経済と主導文化の役割
4. 高雅文化と精英文化の主流
1986年（政治経済変革期）
5. 都市・内陸農村・沿海農村の変革
6. 農村部過剰労働力の転移と都市化
7. 市場経済と消費文化へ転換
8. 大衆文化と民間文化の興起
1996年～現在
9. 都市農村青年の配偶者選択の変容
10. 中国の西部大開発とWTOの加盟
11. 三足鼎立・多様性文化共存
12. 伝統文化と外来文化の挑戦

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず、参考資料を配布する。

【参考文献・資料】

中国当代文学思潮（呉秀明 浙江大学出版社）
中国文化現代化（劉永佶 河北大学出版社）

国際文化III (ロシア)

丹邊文彦

【授業の概要】

主として文学作品を題材に、ソビエト連邦の時代からその崩壊後の現代ロシアにいたる現代ロシア文化の変遷の諸相を学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 近代ロシア文学の登場人物ープーシキンの役割
第2回 グロテスクな諷刺ー涙をたたえた笑いのゴーゴリ
第3回 農奴解放令の切っ掛けを創ったツルゲーネフ
第4回 ツルゲーネフの問題作『父と子』、『ルージン』他
第5回 幕末の長崎に來航したゴンチャロフ
第6回 靈的世界開示の天才ドストエフスキー
第7回 『カラマーゾフの兄弟』を頂点とする大作の数々
第8回 肉体描写を通じた心理分析の天才トルストイ
第9回 その大作『アンナ・カレーニナ』、『戦争と平和』など
第10回 世界的短篇作家・人間通チェーホフ
第11回 ソ連政権下の作家たちー政治と文学の関係
第12回 ソ連崩壊を予言し促進したソルジェニーツィン

【評価方法】

授業の内容を理解し、まとめるだけでなく、展開学習の成果を重視する。期末試験時間内に、資料持込み（ノート、コピーに限る）でレポートをまとめる。出席点は当然考慮する。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

ロシア文学案内（岩波文庫）
ロシア文学史（スローニム 新潮社）
ソビエト文学史（同上）

国際文化Ⅳ（韓国・朝鮮）

曹 述 燮

【授業の概要】

第2次世界大戦後の朝鮮半島の文化を、主として韓国現代社会の歴史および社会の動向を通して学ぶ。

【授業計画】

現代社会にとって重要な課題として浮上してきている福祉、教育、環境、女性、市民団体などのことから中心に現代の韓国社会を見つめる。

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回～第4回：韓国の素顔
(歴史からたどる韓国の姿、韓国社会における日本の足跡)
映像「フリー・タイム・ソウル」から学ぶ
- 第5回～第7回：韓国人の暮らし
(経済成長をベースに、福祉と教育、食とレクリエーション)
- 第8回～第10回：韓国社会の伝統
(活きている儒教思想を中心に、占いがあがる韓国哲学)
- 第11回～第12回：韓国の新世代
(日本の新世代と比較して)
映画「猟奇的な彼女」の世界
- 第13回～第14回：韓国の芸能界
(日本文化の開放、韓国の歌謡界と映画界)
映像「韓国歌謡の総決算」から学ぶ
- 第15回：単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、レポート、そして期末の単位認定試験の総合で評価する。

【テキスト】

自家版プリントなどを用いる。

【参考文献・資料】

現代韓国を知るための55章（石坂浩一他編著 明石書店）
韓国百科（大修館書店 秋月望他編著）
朝鮮を知る事典（平凡社）など

国際文化Ⅵ（ジェンダー）

平林美都子

【授業の概要】

近代主義の終焉によって展望を見失ったといわれる現代社会の諸問題をジェンダー論の視点から分析し、新たな社会的展開の可能性について学ぶ。

【授業計画】

- 1. ジェンダーとは
- 2. ジェンダーと近代結婚イデオロギー
- 3. 家庭でつくられるジェンダー
- 4. 学校でつくられるジェンダー
- 5. 母性神話とジェンダー
- 6. 政治とジェンダー
- 7. 身体・セクシュアリティ・ジェンダー
- 8. ジェンダー・トラブル
- 9. 女らしさの病・男らしさの病
- 10. おとぎ話の中のジェンダー
- 11. 映画の中のジェンダー
- 12. ジェンダーは越えられるか

【評価方法】

出席状況・レポートなどによって総合的に評価する。

【テキスト】

随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業内に指示する。

国際文化Ⅴ（北米・英国）

平林美都子

【授業の概要】

北米カナダの歴史や文化の生い立ちと変遷を英国やアメリカ合衆国との関係から学ぶことによって、これらの国々の文化的特質を理解する。

【授業計画】

移民国家であるカナダ文化の独自性を、19世紀の英国との関係から学ぶ。

- 1. カナダの地理と略史
- 2. 先住民族とその文化
- 3. 19世紀の英国の状況
- 4. 英国からの移民
- 5. 日系移民
- 6. 「カナダ」のメンタリティ
- 7. 現代カナダ文学

授業内の学生のプレゼンテーションも予定している。

【評価方法】

出席状況、授業内のプレゼンテーション、試験により総合的に評価する。

【テキスト】

とくになし。

【参考文献・資料】

授業内に指示する。

英語表現法Ⅰ（通訳1）

中村幸子

【授業の概要】

スラッシュ・リーディングやノートテイキングなどの通訳基礎技能を中心に、英語表現法を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

通訳者養成のための訓練法を利用して効果的に総合的英語コミュニケーション能力を向上させることを授業の目的とする。

通訳とは、話された内容をまず自分が理解し、咀嚼し、それを自分の言葉で第三者に伝えることであり、何よりも正確な理解力が求められるとともに、情報を正確にかつ聞き手にとってわかりやすく聞きやすい形で訳さなければならない。求められる英日通訳は直訳的な英文和訳や原文とはなれた意識ではない。さらに、通訳はコミュニケーションを成立させることである、との観点から、日英では柔軟な英語表現力を養うことも重視する。

- 第1回 通訳訓練法の概要
- 第2回～4回 リーディングを中心とした訳出演習
- 第5回～8回 リスニングを中心とした訳出演習
- 第9回～11回 応用
- 第12回 まとめ

【評価方法】

平常点（出席状況、受講態度、課題への取り組み）を50%、単位認定試験の成績を50%として合わせて評価する。

【テキスト】

Developing Interpreting Skills for Communication（斉藤他著 南雲堂）

【参考文献・資料】

授業中に指示。

英語表現法Ⅰ（通訳Ⅰ）

難波豊子

【授業の概要】

スラッシュ・リーディングやノートテイキングなどの通訳基礎技能を中心に、英語表現法を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

通訳をする為の英語の表現力強化を目指し、英文を読み、聞き、英文の構成に慣れ、語彙をインプットすることを目的とした口頭練習を中心に授業を行う。

通訳の為の勉強方法概略紹介

- ・シャドーイング（フォロー）：テープから聞こえて来る英文を、継続的に口頭でリピートすることにより、集中力を高める。
- ・リプロダクション：聞いた英文を口頭で繰返す事により、頭の記憶維持力を高める。

速読練習

- ・英文スラッシュ・リーディング：構文把握及び内容理解を正確にする。
- ・クイック・レスポンスによる語彙力強化。

【評価方法】

日常の授業態度、宿題に対する姿勢、授業中に行う小テスト、単位認定試験などにより、総合的に評価。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

英語表現法Ⅱ（通訳Ⅱ）

難波豊子

【授業の概要】

シャドーイングや逐次通訳などの通訳基本技能を中心に、英語表現法を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

通訳とは単に言葉の置き換えではない。よく聞いて話し手の意図を理解し、分かりやすい表現を使って別の言語で聞き手に伝える、という使命が与えられている。その為には、話し手の言葉を聞く態度、表現力強化、そして明確に話す習慣が最低限不可欠である。期間中出来るだけ多くの通訳練習を行いたい。

第1～6回：英語表現法Ⅰで学習した基礎訓練を基に、簡潔な文章で訳出練習を行う。ダイアログ形式で、適宜ロールプレイも導入し、訳出表現、通訳のタイミングを検討。

第7～12回：身近な話題を取り上げ、日本を英語で紹介する表現を学習する。

【評価方法】

日常の授業態度、宿題に対する姿勢、授業中に行う小テスト、単位認定試験などにより、総合的に評価。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

英語表現法Ⅱ（通訳Ⅱ）

中村幸子

【授業の概要】

シャドーイングや逐次通訳などの通訳基本技能を中心に、英語表現法を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

通訳者養成のための訓練法を利用して効果的に総合的英語コミュニケーション能力をさらに向上させることを目的とする。

授業では、リピート練習（同時・逐次）、セグメントごとの即転換、センテンス通訳、サイトランゼーションなどの基本技能訓練を行い、即解力、即転換力を養う。ノートテイキングの技能をさらに磨き一般的内容のパラグラフ逐次通訳に取り組む。またビジネスの場で必要とされる日英双方向の商談・交渉通訳の基本についても学んでいく。学習の仕上げとして、学期末に通訳パフォーマンス発表を行う。

第1回	概要説明
第2回～3回	基礎的訓練
第4回～6回	英日通訳法
第7回～9回	日英通訳法
第10回	グループ内プレゼンテーション
第11回	クラス内プレゼンテーション
第12回	まとめ

【評価方法】

平常点（出席状況、受講態度、小テスト、課題への取り組み、パフォーマンス発表会）を50%、単位認定試験の成績を50%として合わせて評価する。

【テキスト】

授業中にプリント配布。

【参考文献・資料】

授業中に指示。

英語表現法Ⅲ（翻訳）

長沼美香子

【授業の概要】

ビジネス翻訳や技術翻訳などの演習を通して、英語を分かりやすい自然な日本語に翻訳する力を向上させるとともに、翻訳を行う際に必要となる資料や情報の収集方法など、翻訳の実際についても学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 授業概要説明（必ず出席すること）
- 第2講 講義と演習を通して、実務翻訳の初歩を習得

【評価方法】

出席、演習、課題提出等を総合して評価する。

【テキスト】

演習用プリントを配布（実務翻訳関連の書籍をクラスにて指定する場合もある）。

【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する。

英語表現法Ⅳ（プレゼンテーション）

CURRAN, Beverley

【Course Content】

プレゼンテーション技能を中心に、英語表現法を演習形式で学ぶ。

【Schedule】

The class will focus on the key features of an effective oral presentation: brevity, interest, clarity, persuasive power, and speaker confidence.

Week 1

Introduction

Week 2

Self Introductions

Weeks 3 - 4

Interesting Storytelling

Weeks 5 - 6

Explaining Effectively

Weeks 7 - 8

Presenting Your Opinion Persuasively

Weeks 9 - 11

Free Topic

Week 12

Reflection

【Assessment】

Student assessment is ongoing, and based on effort and attendance, as well as the preparation and delivery of oral presentations in class.

【Textbooks】

No text is required.

英語表現法Ⅴ（ビジネス文書）

長沼美香子

【授業の概要】

ビジネス文書の作成、プロポーザルライティングなど、ビジネスの場における実践的かつ効果的なコミュニケーションについて学ぶ。

【授業計画】

第1講 授業概要説明（必ず出席すること）

第2講 講義と演習で、実践的なビジネス/テクニカルライティングの基礎を習得

【評価方法】

出席、演習、課題提出等を総合して評価する。

【テキスト】

必要に応じてプリント配布（ライティング関連の書籍をクラスにて指定する場合もある）。

【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する。

英語表現法Ⅳ（プレゼンテーション）

TOFF, Mika

【Course Content】

プレゼンテーション技能を中心に、英語表現法を演習形式で学ぶ。

【Schedule】

In this course, students will learn to make presentations on a variety of topics focusing on their interest, clarity and persuasive power. Topics will include 1) self introductions; 2) stories; 3) explanations; 4) opinions; and 5) subjects of the student's research and personal interest. Time will be spent on presentation practice and delivery to increase confidence and establish rapport with the audience.

Students will be encouraged to use visual aids, and learn how to use presentation software.

【Assessment】

Assessment will be based on the content of the presentation made by the student, and on the amount of work a student puts into preparing the presentation.

英語表現法Ⅵ（映像翻訳）

CURRAN, Beverley

【授業の概要】

異言語・異文化間の翻訳、小説と映画などといったメディア間の翻訳、映画における字幕翻訳など、翻訳に関する諸問題について、映像を中心に考察する。

【授業計画】

第1回 紹介

第2-3 メディア・トランスレーション

Cinderella（おとぎ話）

Pretty Woman（映画）

第4 ゲスト・スピーカー

第5-6 異言語翻訳/翻訳化対脚本化：

Harry Potter/ハリー・ポッター

第7-8 異文化翻訳

Easy Rider

Days of Being Wild

第9-11 ジェンダー・トランスレーション

The Tango Lesson (UK)

Happy Together (HK)

第12 創造翻訳

【評価方法】

授業中の参加度、レポート

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

なし

多元文化研究 I

榎田勝利

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

グローバル化の進展に伴い、日本の国際交流・国際協力活動の新たな理念と戦略が求められている。

国際交流・国際協力活動の様々なアクター（担い手）である政府、地方自治体、企業、国際NPO、NGOなどにおける国際交流・国際協力活動の現状把握をした上で、総合的な戦略づくりのための理念学習とフィールドワークを実施する。また、多元文化研究 I および多元文化研究 II を通して、各自が研究分野の基礎的知識と理解を深めるための指定図書を購入することが求められる。

【評価方法】

授業への参加態度とレポートによって評価する。

【テキスト】

国際交流入門（榎田勝利監修 アルク）

【参考文献・資料】

- <国際交流分野>
 - 国際交流・協力活動入門講座 I 「草の根の国際交流と国際協力」（毛敏弘編著 明石書店）
 - 国際交流の理論（高橋直子著 勁草書房）
 - 国際文化論（平野健一郎著 東京大学出版会）、その他
- <国際協力分野>
 - 国際協力（下村・辻・稲田・深川共著 学陽書房）
 - NGOとは何か（伊勢崎賢治著 藤原書店）
 - 日本のODAをどうするか（渡辺利夫・草野厚著 NHKブックス）、その他
- <国際理解・開発教育分野>
 - 国際理解教育（佐藤郡衛著 明石書店）
 - 世界の開発教育（オードリー・オスラー編 明石書店）、その他
- <国際ボランティア分野>
 - 国際ボランティアガイド（バックストン美登利著 The Japan Times）
 - ボランティア学のすすめ（内海成治著 昭和堂）、その他
- <多文化共生社会>
 - 新 在日外国人（田中宏著 岩波新書）
 - 外国人は住民です（江橋崇編著 学陽書房）、その他

多元文化研究 I

大野清幸

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

- 第1講 授業計画指示など。必ず出席すること！
- 第2講 学術論文などを利用して演習

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

学術論文。ただし、未定。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

多元文化研究 I

CURRAN, Beverley

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

- 第1回 紹介
- 2・3 テーマを選択
- 4・5 研究の計画
- 6 インタビュー
- 7・10 研究中
- 11 レポート
- 12 レポートに関するオーラル・プレゼンテーション

【評価方法】

研究の計画、レポート

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

なし

多元文化研究 I

杉本一直

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

1. 下記のテキストを用いてロシア文学史を学ぶ。とくに20世紀の作品を詳しく解説する。
 2. 文学以外の芸術分野から、ロシア映画、ロシアバレエなどの作品を紹介する。
 3. 現代ロシア文学の短編小説を講読する。
- なお、受講者はロシア語の知識を必要とする。

【評価方法】

授業での平常点と期末レポートによる。

【テキスト】

はじめて学ぶロシア文学史（水野忠夫他編 ミネルヴァ書房）

多元文化研究 I

曹 述 變

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

古代以来、日本と特に密接な交流があった朝鮮半島を扱う。そこに住む人々の歴史・生活相・外国との交流など、朝鮮全般を理解し朝鮮文化を一つの異文化として見つめる作業を行う。さらに、日本関連の朝鮮資料を講読することで、日本人や日本文化をよりよく知ることを心がける。

第1回：オリエンテーション

第2回～第4回：朝鮮半島の自然環境、地理環境

韓国・朝鮮人の形成と民族性

生活様式

視聴覚資料「韓国人の一生」から学ぶ

第5回～第8回：韓国・朝鮮の民族文化

(外国由来のものとは異なるもの)

第9回～第12回：歴史と思想史

韓国は日本と中国をどう見ているか。

映画「JSA」から学ぶ

第13回～第14回：伝統と現代のさななかで

分断時代の課題

世代の葛藤

映画「シュリ」から学ぶ

第15回：単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、単位認定試験の成績などにより総合的に評価する。時にレポートあり。

【テキスト】

授業中のプリント教材を用いる。

【参考文献・資料】

韓国百科 (秋月望他 大修館書店)

現代韓国を知るための55章 (石坂浩一他 明石書店)

日韓文化論 (韓国文化通信使フォーラム 学生社)

多元文化研究 I

中郷 慶

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

言語を対象とした研究にはどのような分野やアプローチがあるのかを知るために、言語学の入門書 (英文) をテキストとして、オーラルレポートによって輪読する。受講生は担当箇所についての入念な準備が必要となる。

英語を勉強するのではなく、英語を通して勉強をする・新しい情報を得るという姿勢が望まれる。この授業を通して、本の読み方、参考文献の調べ方、分かりやすい発表のしかたなどを学ぶ。

【評価方法】

出席状況、授業における発表、レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

An Introduction to Language (Fromkin, V., R. Rodman, and N. Hyams seventh edition, Mass., Heinle. 2003)

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

多元文化研究 I

TOFF, Mika

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

Life Writing 研究

ライフ・ライティングは自分自身についてのドキュメンタリーです。ライフ・ストーリーを書くには、何らかの理由があり、自己確認・家族史・闘病記などのさまざまな形があります。本研究では、文学作品などを題材にして、数多くのライフ・ライティングを読んで研究します。そして、実際に自分自身のライフ・ストーリーを英文で書くことによって、英語で自分を効果的に表現することを学び、書くことが自分のアイデンティティをみつけることであることを体験します。さらに、こうした書くプロセスにおける書き手の心の動きについて客観的にとらえ分析してみます。

【評価方法】

授業中の発表、レポート・作品の内容による

【テキスト】

なし

多元文化研究 I

平林美都子

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

「表象する」「描写する」ということは言語によって表現されるものだけでなく歪曲されたり省略されたり、表現「できなかった」言語も含む。それは文字を使った文学だけでなく、視覚イメージから構成される絵画や映画も対象となる。表象されるものは時代の政治的・経済的・社会的影響を受ける一方、逆に制度を変革する可能性も孕んでいる。本授業では、文化の受容者であると同時に創造者でもある私たちの思考形式/内容を支配するこうした文化装置を、批判的に分析していくことを学ぶ。

女の文化的表象を英語文学や絵画から分析しながら、併せてジェンダー批評を学ぶ。

- ・ビグマリオンとガラテア
- ・蛇 (イヴ)
- ・水死 (オフィーリア)
- ・斬首 (サロメ)
- ・鏡 (白雪姫、ナルシズム)

【評価方法】

出席状況、授業内のプレゼンテーション、ディスカッションへの参加、レポートによる総合評価。

【テキスト】

授業内に指示する。

多元文化研究 I

ブイ トルン

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

世界的な諸問題の地球温暖化、人口増加、貧困、教育、ジェンダー、保健医療、持続可能な開発など日本と開発途上国とのかかわりについて、また国内における市民活動の現状、課題や今後の可能性について、総合的な専門知識を醸成する。そのために、特に国際交流・理解・協力やNPO/NGO活動に関する指定図書や論文の輪読及び資料の整理・発表を学習する。

【評価方法】

出席状況、受講中の態度、討論への参加度合いや発表内容によって総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

「世界」を知れば、「自分」が見える
（「高校生の国際理解」取材班 数研出版2002）
福祉キーワードシリーズ ボランティア・NPO
（雨宮孝子・小谷直道・和田敏明 中央法規出版2002）

多元文化研究 I

皆川修吾

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

グローバル化した国際社会では、国家間の協調共存の維持と国際市民社会発展への貢献を日本は要求されている。国際社会の一員としての日本社会の構造的特徴と欠陥を学び、同時に人類の文明史を概観し、文明のアイデンティティと大きな利益が両立する「日本の選択」のあり方を研究する。

【評価方法】

学習内容やレポート内容により評価

【テキスト】

日本人と「日本病」について（岸田秀・山本七平共著 文春文庫）
他文化世界（青木保著 岩波新書）
現代が受けている挑戦（A.J.トインビー著 新潮文庫）
文明の衝突と21世紀の日本（S.P.ハンチントン著 集英社新書）

多元文化研究 I

宮田 Susanne

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

心理言語学、社会言語学にフォーカスを当てながら、言語の諸相を取り上げる文献を購読し、議論しながら理解を深めていく。実際の日本語の会話データ（子ども、大人、第二言語学習者など）のデータベースを利用し、データの収集方法、転記の仕方および解析プログラムの使い方を実習し、卒業研究に向かって学ぶ。学生各自で研究テーマを決め、先行文献をまとめたレポートを書く。

【評価方法】

授業への参加態度とレポートで総合的に評価する。

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

☆課題などにおいてインターネットを頻りに利用するので、簡単に（できれば自宅から）アクセスできるようにして下さい。

多元文化研究 I

若松孝司

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自の関心のある領域を選択し、当該分野の専門的なテキストや資料を通して、専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

本演習では、主として政治学や社会学といった社会科学の観点から、国際社会にかかわる諸問題を第三世界諸国を中心に検討する。そのため、学期のはじめに社会科学のものの考え方や分析方法を身につけるための文献を輪読する。その後、民主化や民族問題、経済開発をめぐる諸問題について、受講生の興味・関心を考慮に入れた上で文献を決定し、輪読していく予定である。

演習では、個人あるいはグループで文献の担当箇所を精読し、あるいは与えられたテーマについて調査を行い、関連事項や参考文献を調べた上でレジュメを作成して発表を行う。その後、その発表に対して受講生全員が討論を行い、各自の理解を深めていく。

【評価方法】

出席状況、発表に対する取り組み、演習における発言状況、レポートの内容等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

国際政治史としての20世紀（石井修 有信堂）
講座国際政治（1）国際政治の理論（有賀貞編 東京大学出版会）
国際関係学講義（原彬久 有斐閣）

多元文化研究Ⅱ

榎田勝利

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業計画】

グローバル化の進展に伴い、日本の国際交流・国際協力活動の新たな理念と戦略が求められている。

国際交流・国際協力活動の様々なアクター（担い手）である政府、地方自治体、企業、国際NPO、NGOなどにおける国際交流・国際協力活動の現状把握をした上で、総合的な戦略づくりのための組織運営、ネットワーク等の理念と実践事例を学ぶ。国内における先進的地域へのフィールドワークを実施する。フィールドワークの調査結果は、まとめて授業時間内で発表し討論する。さらに、指定図書の後感想文もまとめてレポートする。

【評価方法】

授業への参加態度、プレゼンテーション、レポート等により評価する。

【テキスト】

国際交流・協力活動入門講座Ⅱ 国際交流の組織運営とネットワーク
(榎田勝利編著 明石書店)

【参考文献・資料】

- <国際交流分野>
 - 国際交流・協力活動入門講座Ⅰ 「草の根の国際交流と国際協力」
(毛受敏弘編著 明石書店)
 - 国際交流の理論 (高橋直子著 勁草書房)
 - 国際文化論 (平野健一郎著 東京大学出版会)、その他
- <国際協力分野>
 - 国際協力 (下村・辻・稲田・深川共著 学陽書房)
 - NGOとは何か (伊勢崎賢治著 藤原書店)
 - 日本のODAをどうするか (渡辺利夫・草野厚著 NHKブックス)、その他
- <国際理解・開発教育分野>
 - 国際理解教育 (佐藤郡衛著 明石書店)
 - 世界の開発教育 (オードリー・オスラー編 明石書店)、その他
- <国際ボランティア分野>
 - 国際ボランティアガイド (バックストン美登利著 The Japan Times)
 - ボランティア学のすすめ (内海成治著 昭和堂)、その他
- <多文化共生社会>
 - 新 在日外国人 (田中宏著 岩波新書)
 - 外国人は住民です (江橋崇編著 学陽書房)、その他

多元文化研究Ⅱ

CURRAN, Beverley

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業計画】

- | | |
|------|-----------------------|
| 第1回 | 紹介 |
| 2 | レポートの計画 |
| 3・5 | レポート |
| 6 | Report Check and Edit |
| 7・10 | レポート |
| 11 | Final Check and Edit |
| 12 | 研究レポートを提出する |

【評価方法】

レポート

【テキスト】

なし

多元文化研究Ⅱ

大野清幸

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業計画】

- | | |
|-----|--------------------|
| 第1講 | 授業計画指示など。必ず出席すること！ |
| 第2講 | 学術論文などを利用して演習 |

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

学術論文。ただし、未定。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

多元文化研究Ⅱ

杉本一直

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業計画】

「研究Ⅰ」に引きつづきロシア文学・ロシア文化について学ぶと同時に、学生による研究発表を授業に取り入れる。
研究発表に先立ち、ロシア文学・ロシア文化の領域から各自研究テーマを選び、教員の指導の下で自主研究を開始する（夏季休暇中）。

【評価方法】

授業時の平常点と期末レポートによる

【テキスト】

はじめて学ぶロシア文学史 (水野忠夫他編 ミネルヴァ書房)

多元文化研究Ⅱ

曹 述 斐

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業計画】

21Cの動向が世界的に注目されている中国を扱う。そこに住む人々の歴史・生活相・外国との交流など、中国の全般を理解し中国文化を一つの異文化として見つめる作業を行う。さらに、日本関連の中国資料を講読することで、日本人や日本文化をよりよく知ることを心がける。

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回～第4回：人と自然
 - 民族、人口、資源、環境
- 第5回～第8回：国家と政治・経済
 - 改革・開放路線
 - 独自の政治体制および多極化する自主外交
 - 映画「正義の行方」から学ぶ
- 第9回～第10回：歴史と思想史
 - 近代以前（中華思想と異民族）
 - 教育および近・現代社会
- 第11回～第12回：生活と文化
 - 日常の暮らし、年中行事、社会問題
 - 言葉と文字、芸能、絵画、スポーツ
 - 映画「生きる」から学ぶ
- 第13回～第14回：中国人の対日本観
 - 国交樹立からの30年間
- 第15回：単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、単位認定試験の成績などにより総合的に評価する。時にレポートあり。

【テキスト】

授業中のプリント教材を用いる。

【参考文献・資料】

- 中国百科（小島眞治ほか 大修館書店）
- 現代中国を知るための55章（高井潔志 明石書店）
- 中国学芸大事典（近藤春雄 大修館書店）

多元文化研究Ⅱ

中郷 慶

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業計画】

学生が興味を持った言語に関するテーマについて発表するレポート形式と、受講生全員が共通のテキスト・論文を読み進めていく輪読形式を交互に行う。各自が研究テーマを設定していくことが大きな目標である。

コンピュータを用いたコーパス分析の方法も指導する。受講生は、各自の分析結果もレポートする。

【評価方法】

出席状況、授業における発表、レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

An Introduction to Language (Fromkin, V., R. Rodman, and N. Hyams seventh edition, Mass., Heinle. 2003)

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

多元文化研究Ⅱ

TOFF, Mika

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業計画】

Life Writing 研究

ライフ・ライティングについてより深く学ぶため、小説・映画などを題材にして、さらに研究をします。そして、自分自身のライフ・ストーリーを英文で書きすすめ、自分を効果的に表現する方法を身につけるとともに、書くプロセスについて考えます。その際には、作家たちが書いたライフ・ライティングについての手記などを読み、書くプロセスにおける書き手の心の動きについて、自分自身のものと照らし合わせて考えてみます。

自分の研究テーマを見つけてそれについて知識を深めることと、自分のライフ・ストーリーを書き進めることを平行して行います。

【評価方法】

授業中の発表、レポート・作品の内容による

【テキスト】

なし

多元文化研究Ⅱ

平林美都子

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業計画】

「表象する」「描写する」ということは言語によって表現されるものだけでなく歪曲されたり省略されたり、表現「できなかった」言語も含む。それは文字を使った文学だけでなく、視覚イメージから構成される絵画や映画も対象となる。表象されるものは時代の政治的経済的社会的影響を受ける一方、逆に制度を変革する可能性も孕んでいる。文化の受容者であると同時に創造者でもある私たちの思考形式/内容を支配するこうした文化装置を、批判的に分析していくことを学ぶ。

テーマ：男と女の文化的表象

この授業は前期の発展である。主に19世紀英国小説を読みながら男女の文化的表象を探る。

- 1 『ジェイン・エア』
- 2 『テス』
- 3 『ミドル・マーチ』

【評価方法】

出席状況、授業内のプレゼンテーション、ディスカッションへの参加、レポートによる総合評価。

【テキスト】

- ジェイン・エア（シャロット・ブロンテ著 集英社文庫）
- テス（トマス・ハーディ著 岩波文庫）

多元文化研究Ⅱ

ブイ トルン

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業計画】

世界的な諸問題の地球温暖化、人口増加、貧困、教育、ジェンダー、保健医療、持続可能な開発など日本と開発途上国とのかかわりについて、また国内における市民活動の現状、課題や今後の可能性について、総合的な専門知識を醸成する。

多元文化研究Ⅰにおける指定図書の輪読や資料の整理の後、個別に選択したテーマについてレポート作成。また関係機関への訪問、資料収集を行い、レポート提出。

【評価方法】

出席状況、受講中の態度、討論への参加度合いやレポート・発表内容によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

多元文化研究Ⅱ

皆川修吾

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業計画】

複雑化する社会現象を理解・把握するため、具体例を挙げ社会科学的思考をみにつける。

【評価方法】

学習内容やレポート内容により評価

【テキスト】

自己学習のため毎週5大新聞の論説を各自選択。

【参考文献・資料】

社会科学入門（猪口孝著 中公新書）

多元文化研究Ⅱ

宮田 Susanne

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業計画】

心理言語学、社会言語学にフォーカスを当てながら、言語の諸相を取り上げる文献を購読し、議論しあいながら理解を深めていく。実際の日本語の会話データ（子ども、大人、第二言語学習者など）のデータベースを利用し、データの収集方法、転記の仕方および解析プログラムの使い方を学習し、卒業研究に向かって学ぶ。学生各自で研究テーマを決め、先行文献に基づいた企画書を書く。

【評価方法】

授業への参加態度と提出物で総合的に評価する。

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

☆課題などにおいてインターネットを頻繁に利用するので、簡単に（できれば自宅から）アクセスできるようにして下さい。

多元文化研究Ⅱ

若松孝司

【授業の概要】

専任教員及び兼任講師が担当し、国際理解・言語文化・国際文化の各分野から、学生が各自で選択した領域において、「多元文化研究Ⅰ」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートや実践的な活動・演習によって具体化する。

【授業計画】

本演習では、前期の多元文化研究Ⅰで学んだ社会科学の知識をもとに、受講生各自の興味、関心にそったテーマを決定し、それについての諸文献を精読する。

学期の初めは多元文化研究Ⅰと同様に国際政治や第三世界諸国の抱える諸問題について、社会科学的視点から論じた文献を精読する。その後、受講生の関心によって個人あるいはグループによる研究発表を行い、討論する。必要に応じて、授業時間以外にサブ・ゼミを行って発表・報告の準備をすることが要求される。

【評価方法】

出席状況、発表に対する取り組み、授業における発言状況等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

多元文化研究Ⅲ

榎田勝利

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業計画】

多元文化研究Ⅰおよび多元文化研究Ⅱ、そして、フィールドワーク、指定図書の特読等に取り組んできた個別の研究分野・テーマをより深めるための学習と調査研究活動をする。

各自の研究分野のテーマをまとめ、授業で発表し討論を行う。また、夏期休暇に実施する東南アジア（今年はタイを予定）への調査研修旅行のための事前学習を行う。

【評価方法】

授業への参加態度、プレゼンテーション、レポート等により評価する。

【テキスト】

プリント配布

【参考文献・資料】

国際協力のフィールドワーク（庄野護著 南船北馬舎）
アジア太平洋のNGO（日本国際交流センター編 アルク）
もっと知りたいタイ（綾部恒雄・石井米雄編 弘文堂）
アジア読本・タイ（小野澤正喜編 河出書房新社）
タイ開発と民主主義（末廣昭著 岩波新書）
アジアの歩きかた（鶴見良行著 ちくま書房）
アジア・共生・NGO・タイ、カンボジア、ラオス 国際教育協力の現場から（曹洞宗国際ボランティア会編明石書店）、その他

多元文化研究Ⅲ

CURRAN, Beverley

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業計画】

- 第1回 紹介
- 2・3 テーマを選択
- 4・5 研究の計画
- 6 インタビュー
- 7・11 研究中
- 12 研究レポート

【評価方法】

研究方法、レポート

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

なし

多元文化研究Ⅲ

大野清幸

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業計画】

- 第1講 授業計画指示など。必ず出席すること！
- 第2講 学術論文などを利用して演習

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

学術論文。ただし、未定。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

多元文化研究Ⅲ

杉本一直

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業計画】

1. 下記のテキストを用いてロシア文学史を学ぶ。とくに20世紀の作品を詳しく解説する。
2. 文学以外の芸術分野から、ロシア映画、ロシアバレエなどの作品を紹介する。
3. 現代ロシア文学の短編小説を講読する。
なお、受講者はロシア語の知識を必要とする。
(今年度の3年次学生に対しては「多元文化研究Ⅰ」と同じ授業内容となります。)

【評価方法】

授業時の平常点、および期末レポートによる。

【テキスト】

はじめて学ぶロシア文学史（水野忠夫他編 ミネルヴァ書房）

多元文化研究Ⅲ

曹 述 變

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業計画】

日本の中にある韓国・朝鮮、日本文化の中に求められる韓国・朝鮮文化を探求することにより、朝鮮と日本間における人と文化の交流様相を把握する。さらに、そのような交流は、両国の関係においてどのような役割を果たし、如何なる意味合いを持ち合わせているのかについて検討する。

- 第1回：オリエンテーション
(文化に主流、亜流の分別は可能であるか。)
- 第2回～第4回：神話の世界
(創世神話、王朝起源神話など)
- 第5回～第8回：文字文化の展開
(朝鮮の文字文化の成立と日本の文字文化の成立、朝鮮と日本の金石文字など)
映画「春香伝」から学ぶ言語および視覚芸術
- 第9回～第10回：村落構造と城郭
(朝鮮の城郭、その性格と日本の城郭およびその性格、朝鮮の村落と日本の村落など)
- 第11回～第12回：在日コリアンの世界から
(民族教育と社会問題、宗教と祭り、映画「GO」から学ぶ)
- 第13回～第14回：生活の中にある韓国・朝鮮
(高麗神社、茶道の世界においてなど)
- 第15回：単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、単位認定試験の成績などにより総合的に評価する。時にレポートあり。

【テキスト】

授業中のプリント教材を用いる。

【参考文献・資料】

- 古代東アジアの文化交流 (井上秀雄 溪水社)
- 在日コリアンの宗教と祭り (飯田剛史 世界思想史)
- 日韓異文化交流ウォッチング (石坂浩一 社会評論社)

多元文化研究Ⅲ

TOFF, Mika

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業計画】

Life Writing 研究

ライフ・ライティングは自分自身についてのドキュメンタリーです。ライフ・ストーリーを書くには、何らかの理由があり、自己確認・家族史・闘病記などのさまざまな形があります。本研究では、文学作品などを題材にして、数多くのライフ・ライティングを読んで研究します。そして、実際に自分自身のライフ・ストーリーを英文で書くことによって、英語で自分を効果的に表現することを学び、書くことが自分のアイデンティティをみつけることであることを体験します。さらに、こうした書くプロセスにおける書き手の心の動きについて客観的にとらえ分析してみます。

【評価方法】

授業中の発表、レポート・作品の内容による

【テキスト】

なし

多元文化研究Ⅲ

中郷 慶

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業計画】

学生が関心を持つ言語に関するテーマについて、先行研究を分析するとともに、オリジナルな研究を進める足がかりを作る。授業で毎時間行う研究発表に対する質問やコメントなどを通じて、ものごとを批判的・創造的にとらえる視点を養う。

このほか、受講生全員が共通の論文(和文・英文)を輪読形式で読み進めていき、言語学的な思考方法を学ぶ。

【評価方法】

出席状況、授業における発表、レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

多元文化研究Ⅲ

平林美都子

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業計画】

「表象する」「描写する」ということは言語によって表現されるものだけでなく歪曲されたり省略されたり、表現「できなかった」言語も含む。それは文字を使った文学だけでなく、視覚イメージから構成される絵画や映画も対象となる。表象されるものは時代の政治的・経済的・社会的影響を受ける一方、逆に制度を変革する可能性も孕んでいる。文化の受容者であると同時に創造者でもある私たちの思考形式/内容を支配するこうした文化装置を、批判的に分析していくことを学ぶ。

テーマ：「19世紀英国の女性の表象」

1. 19世紀の英国女性の歴史的外観
2. 家庭の天使と娼婦
3. 眠る女
4. 救出される女
5. 救出されない女

【評価方法】

出席状況、授業内のプレゼンテーション、ディスカッションへの参加、レポートによる総合評価。

【テキスト】

授業内に指示する。

多元文化研究Ⅲ

ブイ トルン

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業計画】

国際交流・協力活動及びNPO/NGOの組織運営や社会的役割に関する研究を中心に全体的なガイダンスと個別面談により各自の個別研究テーマを仮決定する。

仮テーマ決定後、学生による調査・情報収集や資料整理を行い、発表・討論する。また課題分析はじめ資料の読み方、図表作成及び発表準備を指導する。

【評価方法】

出席状況、受講中の態度、討論への参加度合いやレポート・発表内容によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

多元文化研究Ⅲ

皆川修吾

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業計画】

テクノロジーの普及、環境破壊、人口移動、政治の分解、経済の統合などが相互に影響しあい、国際社会に質的にも量的にも大きな変容をもたらしている。これら国際社会変容が国際秩序に与える影響について、各自テーマを設定し、研究方法について討議し、研究活動をする。

【評価方法】

テーマ設定や研究方法についての予備調査と学習内容によって評価する。

【テキスト】

国際紛争（ジョセフ・S.ナイ著 有斐閣）

多元文化研究Ⅲ

宮田 Susanne

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業計画】

各自の関心・研究テーマにそって先行文献を購読し、議論しあいながら理解を深めていく。既存の日本語および英語などの会話データ（子ども、大人、第二言語学習者など）のデータベースを利用し、卒業研究に向かって研究する。学生各自で研究テーマを決め、先行文献に基づいた企画書にまとめる。

【評価方法】

授業への参加態度と提出物で総合的に評価する。

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

☆課題などにおいてインターネットを頻繁に利用するので、簡単に（できれば自宅から）アクセスできるようにして下さい。

多元文化研究Ⅲ

若松孝司

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅰ」「多元文化研究Ⅱ」における成果を踏まえ、各自の専門領域における研究対象を設定し、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとで自己学習を深める。

【授業計画】

本演習では、主として政治学や社会学といった社会科学の観点から、国際社会にかかわる諸問題を第三世界諸国を中心に検討する。そのため、学期のはじめに社会科学のものの考え方や分析方法を身につけるための文献を輪読する。その後、民主化や民族問題、経済開発をめぐる諸問題について、受講生の興味・関心を考慮に入れた上で文献を決定し、輪読していく予定である。

演習では、個人あるいはグループで文献の担当箇所を精読し、あるいは与えられたテーマについて調査を行い、関連事項や参考文献を調べた上でレジュメを作成して発表を行う。その後、その発表に対して受講生全員が討論を行い、各自の理解を深めていく。

【評価方法】

出席状況、発表に対する取り組み、演習における発言状況、レポートの内容等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

国際政治史としての20世紀（石井修 有信堂）
講座国際政治（1）国際政治の理論（有賀貞編 東京大学出版会）
国際関係学講義（原彬久 有斐閣）

多元文化研究Ⅳ

榎田勝利

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業計画】

多元文化研究Ⅰ、多元文化研究Ⅱ、多元文化研究Ⅲ、そして、フィールドワーク、指定図書の特読等に取り組んできた個別の研究分野・テーマをより深めるための学習と調査研究活動を進展させる。

また、東南アジアでの調査研修旅行は、学生各自あるいはチームで調査研究テーマを決め、その成果をまとめ報告書を作成する。

【評価方法】

授業への参加態度、報告書作成への貢献度、レポート等で評価する。

【参考文献・資料】

フィールドワークの新技法（中村尚司・広岡博之編 日本評論社）
レポート・小論文・卒論の書き方（保坂弘司著 講談社学術文庫）

多元文化研究Ⅳ

大野清幸

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業計画】

第1講 授業計画指示など。必ず出席すること！

第2講 学術論文などを利用して演習

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

学術論文。ただし、未定。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

多元文化研究Ⅳ

CURRAN, Beverley

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業計画】

- | | |
|------|-----------------------|
| 第1回 | 紹介 |
| 2 | レポートの計画 |
| 3・5 | レポート |
| 6 | Report Check and Edit |
| 7・10 | レポート |
| 11 | Final Check and Edit |
| 12 | 卒業研究レポートを提出する |

【評価方法】

レポート

【テキスト】

なし

多元文化研究Ⅳ

杉本一直

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業計画】

「研究Ⅲ」に引きつづきロシア文学・ロシア文化について学ぶと同時に、学生による研究発表を授業に取り入れる。

研究発表に先立ち、ロシア文学・ロシア文化の領域から各自研究テーマを選び、教員の指導の下で自主研究を開始する（夏季休暇中）。

（今年度の3次学生に対しては「研究Ⅱ」と同じ授業内容となります。）

【評価方法】

授業時の平常点と期末レポートによる。

【テキスト】

はじめて学ぶロシア文学史（水野忠夫他編 ミネルヴァ書房）

多元文化研究Ⅳ

曹 述 斐

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業計画】

日本の中にある中国、日本文化の中に求められる中国文化を探索することにより、中国と日本間における人と文化の交流様相を把握する。さらに、そのような交流は、両国の関係においてどのような役割を果たし、如何なる意味合いを持ち合わせているのかについて検討する。

- 第1回：オリエンテーション
映画「赤いコリヤン」から学ぶ中国人の日本論および日本人の中国論
- 第2回～第4回：中国の文学・史学・哲学と日本文学・史学・哲学
論語と孔子と儒教
文字と典籍
- 第5回～第8回：インド仏教と中国仏教と日本仏教
原始仏教と大乘仏教、そして妻帯
- 第9回～第10回：芸術の世界
書道・美術と関連して
庭園様式
お茶・お酒・食文化
- 第11回～第14回：生活の中にある中国
在日本留学生の6割を占める中国人留学生らの様相
横浜中華街の様子など
- 第15回：単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、単位認定試験の成績などにより総合的に評価する。時にレポートあり。

【テキスト】

授業中のプリント教材を用いる。

【参考文献・資料】

日本における中国伝統文化（蔡毅 勉誠出版）
西洋近代文明と中華世界（狭間直樹 京都大学学術出版会）
死後の世界（田中純男 東洋書林）

多元文化研究Ⅳ

中 郷 慶

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業計画】

学生が関心を持つ言語に関するテーマについて、どのようにすればオリジナルな研究となるかを具体的に考え、授業内で報告・討議する。この授業が終了するまでに、受講生全員が卒業論文のテーマを確定する。

また、受講生全員での共通の論文（和文・英文）の講読を進める。

【評価方法】

出席状況、授業における発表、レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

多元文化研究Ⅳ

TOFF, Mika

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業計画】

Life Writing 研究

ライフ・ライティングについてより深く学ぶため、小説・映画などを題材にして、さらに研究をします。そして、自分自身のライフ・ストーリーを英文で書きすすめ、自分を効果的に表現する方法を身につけるとともに、書くプロセスについて考えます。その際には、作家たちが書いたライフ・ライティングについての手記などを読み、書くプロセスにおける書き手の心の動きについて、自分自身のものと照らし合わせて考えてみます。

卒業研究に向けて自分の研究テーマを見つけそれについて知識を深めることと、自分のライフ・ストーリーを書き進めることを平行して行います。

【評価方法】

授業中の発表、レポート・作品の内容による

【テキスト】

なし

多元文化研究Ⅳ

平林美都子

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業計画】

「表象する」「描写する」ということは言語によって表現されるものだけでなく歪曲されたり省略されたり、表現「できなかった」言語も含む。それは文字を使った文学だけでなく、視覚イメージから構成される絵画や映画も対象となる。表象されるものは時代の政治的経済的社会的影響を受ける一方、逆に制度を変革する可能性も孕んでいる。文化の受容者であると同時に創造者でもある私たちの思考形式/内容を支配するこうした文化装置を、批判的に分析していくことを学ぶ。

テーマ：「英米文化における母性表象」

母性という制度がどのように誕生し、時代とともにどう変遷したのかを探りながら、母性理論を学びながら文学作品や映画を分析する。

1. 母性の概念の誕生と定着
2. 母性という制度
2. 母娘の葛藤
3. 母とフェミニズム
4. 母性とテクノロジー
5. 妊娠の表象

【評価方法】

出席状況、授業内のプレゼンテーション、ディスカッションへの参加、レポートによる総合評価。

【テキスト】

授業内に指示する。

多元文化研究Ⅳ

ブイ チトルン

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業計画】

個別指導により学生の研究テーマ決定。学生による調査・情報収集、資料整理、発表や討論を指導する。課題分析はじめ資料の読み方、図表作成及び発表準備を指導する。

また学生がフィールドワークやそれぞれの訪問先についての報告書のまとめや発表を行う。この時、課題整理や提言内容を重視する。

【評価方法】

出席状況、受講中の態度、討論への参加度合いやレポート・発表内容によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

多元文化研究Ⅳ

皆川修吾

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業計画】

現代国際諸問題の中には、従来の国際政治の枠組みで理解できるものと、地球政治の枠組みでないと理解できないものがある。両枠組みをもう一度学び、グローバル化という多角的な現象が世界の各地各層に浸透していくプロセスを学ぶために、歴史の視野とリアリズムに加えて、新たな視点・思考を発展的に研究していく。

【評価方法】

テーマ設定や研究方法についての予備調査と学習内容によって評価する。

【テキスト】

国際政治とは何か（中西寛著 中公新書）

地球政治の構想（猪口孝著 NTT出版）

多元文化研究Ⅳ

宮田 Susanne

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業計画】

各自の関心・研究テーマにそって先行文献を購読し、議論しあいながら理解を深めていく。既存の日本語および英語などの会話データ（子ども、大人、第二言語学習者など）のデータベースを利用し、卒業研究に向かって研究する。学生各自で研究テーマを決め、先行文献に基づいた企画書を書く。必要に応じて、観察・面接・調査などを用いて、各自でデータを収集する。

【評価方法】

授業への参加態度と提出物で総合的に評価する。

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

☆課題などにおいてインターネットを頻りに利用するので、簡単に（できれば自宅から）アクセスできるようにして下さい。

多元文化研究Ⅳ

若松孝司

【授業の概要】

「多元文化研究Ⅲ」において設定した研究対象について、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに文献や資料などにあたり理解を深めたり、実践的な活動を行ったりする。

【授業計画】

本演習では、前期の多元文化研究Ⅲで学んだ社会科学の知識をもとに、受講生各自の興味、関心にそったテーマを決定し、それについての諸文献を精読する。

学期の初めは多元文化研究Ⅰと同様に国際政治や第三世界諸国の抱える諸問題について、社会科学的視点から論じた文献を輪読する。その後、受講生の関心によって個人あるいはグループによる研究発表を行い、討論する。必要に応じて、授業時間以外にサブ・ゼミを行って発表・報告の準備をすることが要求される。

【評価方法】

出席状況、発表に対する取り組み、授業における発言状況等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

卒論指導 I

稲生幹雄

【授業の概要】

「多元文化研究IV」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業計画】

「文化現象としてのシェイクスピア」というテーマを設定してスタートしたわれわれのゼミが、今年は最終年度を迎えるわけである。前期の「卒論指導 I」においては、次の3点を中心に授業をすすめてゆく。

- (1) 作品そのものの分析・鑑賞・評価に関わる批評技術や方法論をさらに深化させる。また、それと同時に、いわゆる〈バックグラウンド〉に関わる考察も継続して行ない、ゼミ・テーマ「文化現象としてのシェイクスピア」が喚起する広い視野の中で、各自が思い思いに興味のある分野や対象を探る。論文執筆に関わる具体的な知識も身につけてゆく。
- (2) 学期の途中からは、徐々に各自が自分の研究テーマを絞り込んでゆく作業も開始し、そのテーマに沿って考察を続行してゆけるよう、早目早目に計画を立てる。そして、草稿執筆の具体的な準備にも入ってゆく。
- (3) その間、毎週の授業においては、個別指導に並行するかたちでゼミ生全員によるディスカッション・発表・意見交換などを行なって、理解を深める。

【評価方法】

学期の途中に随時提出するミニ・レポート、授業への積極的な参加、学期末のレポート、出席状況と受講状況などを総合して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

卒論指導 I

大野清幸

【授業の概要】

「多元文化研究IV」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業計画】

- 第1講 授業計画指示など。必ず出席すること！
- 第2講 学術論文などを利用して演習

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

学術論文。ただし、未定。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

卒論指導 I

櫻田勝利

【授業の概要】

「多元文化研究IV」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業計画】

個別の卒業研究テーマを決定するための数回にわたるガイダンスと個別面談を行う。

研究テーマの決定過程で、学生による個別研究テーマの発表と討論を行う。個別の研究テーマを指導する上で、情報収集の方法、調査訪問先やフィールドワーク先等を指導する。

その都度学生からのフィードバックの時間を設け指導する。

【評価方法】

平常点と研究テーマのレポートで評価する。

卒論指導 I

CURRAN, Beverley

【授業の概要】

「多元文化研究IV」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業計画】

- | | |
|--------|-------------------|
| 第1回 | 紹介 |
| 2回 | 研究に関するレポートのテーマを選択 |
| 3回 | 目次を創る |
| 4回-8回 | レポートを書く |
| 9回-10回 | レポートを編集 |
| 11回 | 参考文献 |
| 12回 | レポートを提出する |

【評価方法】

レポート

【テキスト】

なし

卒論指導 I

杉本一直

【授業の概要】

「多元文化研究IV」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業計画】

個別指導を基本として卒業論文の執筆指導を行なうが、毎週の授業では各学生が卒業論文執筆の進行状況を他の学生の前で報告する。

【評価方法】

未定

卒論指導 I

曹 述燮

【授業の概要】

「多元文化研究IV」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業計画】

毎時間ごとに、卒業論文の作成をめざして各自設定した研究テーマを1人乃至2人が発表し、その内容を土台に「論文のテーマ選定」「構成」「資料入手と利用法」などについて討論を行い、適切な形で卒業論文の完成・提出をめざす。さらに、最終2回の授業は、同ゼミ参加者の卒業論文作成の進展に役立つテーマが存在する現場を訪ねて学習を行うフィールド学習に当てる。

第1回：オリエンテーション

テーマ選定の調査と確認

期間授業のコーディネート

第2回～第6回：個人発表および討論

第7回：中間まとめ

第8回～第12回：個人発表と討論

第13回～第14回：フィールド学習

第15回：総合まとめ

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、単位認定試験の成績などにより総合的に評価する。時にレポートあり。

【テキスト】

各自準備したレジюме、あるいは授業中のプリント教材を用いる。

卒論指導 I

中郷 慶

【授業の概要】

「多元文化研究IV」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業計画】

学生が各自で設定した言語に関する研究を、論文にまとめる準備を行う。その際、先行研究の整理にとどまらず、独自のデータや資料を収集・整理・分析することを特に心がける。この授業が終了するまでに、卒業論文の中間発表ができるようになるまで研究を進めることを目標とする。

【評価方法】

出席状況、授業における発表、レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

卒論指導 I

平林美都子

【授業の概要】

「多元文化研究IV」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業計画】

各自が選択した文化表象に関するテーマについて論文作成の指導をする。個人発表とそれに対するディスカッションを行う。

【評価方法】

出席状況、論文への取り組み、討論への参加などにより総合的に評価する。

卒論指導 I

皆川修吾

【授業の概要】

「多元文化研究IV」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業計画】

各自、研究テーマ設定、問題提示、諸説の比較検討、情報収集、論点・論拠の提示、研究調査手法を学び、研究テーマにつき報告し、批判をうける。

【評価方法】

卒業論文完成に向けて、研究態度、研究方法などを総合的に評価する。

【参考文献・資料】

研究テーマに応じて指示する。

卒論指導 I

宮田 Susanne

【授業の概要】

「多元文化研究IV」における自己学習を踏まえ、各専任教員及び兼任講師の個別指導のもとに、各自の研究テーマのもとで卒業研究レポートを作成する。

【授業計画】

各自の研究テーマについて研究しつづけ、理解を深めていく。既存の日本語および英語などのデータベースを利用し、卒業研究に向かって研究する。必要に応じて、観察・面接・調査などを用いて、各自でデータを収集する。先行研究、各自研究結果をまとめる研究報告書を書く。

【評価方法】

研究報告書を元に評価

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

卒論指導 II

稲生幹雄

【授業の概要】

「卒論指導 I」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業計画】

「文化現象としてのシェイクスピア」というゼミ・テーマのもとで、めいめいが思い思いに自分の論考テーマを探求しながら展開してきた一連のゼミ活動が、今期のこの授業でいよいよ最終段階を迎えることとなる。

この段階でのわれわれの目標は、卒業研究レポートの完成である。夏休み前、前期の後半に、われわれは原稿執筆のための具体的準備に着手したのであったが、今学期には、いよいよ本格的な原稿づくりの段階に入ってゆくこととなる。授業では、毎週、個別指導に直結した活発なディスカッションを展開する予定であり、それと同時に、〈論文の構造〉についても、各自の注意を喚起したい。つまり、自分が心に思い描くテーマを、スムーズに読み手に伝えるためには、どのようなかたちに論考を構築してゆけば最も適切であろうかと、計画を立ててほしいのである。

原稿の完成に至るまでには、いくつかの段階やチェック・ポイントを経ることが必要だから、前期と同様に“早目早目”をモットーとして、余裕のある、楽しい原稿づくりを心がけよう。そのためには、時間とエネルギーの配分が、大切なのである。

【評価方法】

卒業研究レポートの成績を中心に、学期途中の提出物の得点や出席状況・受講状況などを考慮して評価する。

【テキスト】

授業の中で指示する。

卒論指導 II

榎田勝利

【授業の概要】

「卒論指導 I」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業計画】

卒業研究レポート（卒業論文またはフィールドワーク調査報告書）を作成する上での個別の指導を行い、卒業レポートを提出する。

【評価方法】

卒業論文またはフィールドワーク報告書をもって評価する。

卒論指導Ⅱ

大野清幸

【授業の概要】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業計画】

- 第1講 授業計画指示など。必ず出席すること！
- 第2講 学術論文などを利用して演習

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

学術論文。ただし、未定。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

卒論指導Ⅱ

CURRAN, Beverley

【授業の概要】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業計画】

- 第1回 紹介
- 2回 レポートのアウトライン
- 3回-8回 レポートを書く
- 9回-10回 レポートを編集
- 11回 参考文献
- 12回 レポートを提出する

【評価方法】

レポート

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

研究に関する資料

卒論指導Ⅱ

杉本一直

【授業の概要】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業計画】

個別指導を基本として卒業論文の執筆指導を行なうが、毎週の授業では各学生が卒業論文執筆の進行状況を他の学生の前で報告する。

【評価方法】

未定

卒論指導Ⅱ

曹述燮

【授業の概要】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業計画】

卒業論文の個人テーマ別個人指導を行い、各自の研究テーマが卒業研究レポートとして完成できるように指導を行う。各授業においては、より良い卒業論文作成に役立つ資料の解読法習得に重点を置き、適切な資料を精読して討議するものにする。

- 第1回：オリエンテーション
テーマ研究の進行状況の把握
期間授業のコーディネート
- 第2回～第6回：討論および個人指導
- 第7回：中間まとめ
- 第8回～第14回：討論および個人指導
卒業論文の提出に向けての最終点検
- 第15回：総合まとめ

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、単位認定試験の成績などにより総合的に評価する。時にレポートあり。

【テキスト】

各自準備したレジュメおよび授業中のプリント

卒論指導Ⅱ

中郷 慶

【授業の概要】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業計画】

これまでの研究成果に基づき、言語に関するテーマについての研究を卒業論文にまとめる。論旨の起承転結を考え、各章がうまくつながるように編成して、説得力とオリジナリティのある論文の作成を目指す。

卒業論文の作成と平行して、これまでに扱えなかった言語事象についても、討論形式で考察する。

【評価方法】

出席状況、授業における発表、レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

卒論指導Ⅱ

平林美都子

【授業の概要】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業計画】

卒論指導Ⅰに引き続き、各自が選択した文化表象に関するテーマについて論文作成の個別指導をする。

【評価方法】

卒論テーマへの取り組みや提出レポートにより総合的に評価する。

卒論指導Ⅱ

皆川修吾

【授業の概要】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業計画】

研究成果の集約や発表などの基礎技術を習得しながら、卒業論文を完成させる。

【評価方法】

卒業論文の完成度を評価する。

卒論指導Ⅱ

宮田 Susanne

【授業の概要】

「卒論指導Ⅰ」に引き続き、各専任教員及び兼任講師に個別指導を受け、卒業研究レポートを完成させ提出する。

【授業計画】

卒業研究レポート（発話データに基づいた研究結果報告書）を作成に向けて、個別指導を行う。

【評価方法】

卒業研究レポート

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

中国語Ⅲ

河井昭乃

【授業の概要】

中国語の上級講座として、理解する力と表現する力をさらに向上できるように演習形式で学ぶ。

【授業計画】

1. これまでの学習の復習
2. 連動文と兼語文
3. 時態助詞を使った表現
4. 進行形の文、存現文
5. 補語を使った表現（1）
6. 補語を使った表現（2）
7. 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合評価する。

【テキスト】

北京物語一話す中国語（董燕・遠藤光暁著 朝日出版社）

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

プログラミング演習Ⅰ

吉川和男

【授業の概要】

ここではプログラミング言語の一つであるC言語とアルゴリズムの基礎を学習する。プログラミング言語は多様な発展性を持ち合わせている。たとえば、プログラミング言語を利用すると、対話型ゲームやアニメーションなどを作ることができ、また、マルチメディア技術（画像、映像、音声など）を盛り込んだ対話型ホームページなども作れるようになる。授業では身近なことからを例題に取り上げ、C言語やアルゴリズムの基礎を修得する。

【授業計画】

第1～4回：C言語プログラミングの概要

C言語の基本的なプログラミングスタイルを学習する。

第5～8回：プログラムの流れの制御とアルゴリズム

プログラムでは上から順に実行するのが基本であるが、同じ処理の反復や、処理の条件による選択も必須になる。そのために使う制御文、比較演算子、論理演算子などについて学ぶ。更に、プログラムの流れを視覚的に把握するための流れ図のやアルゴリズムの基礎についても学習する。

第9～11回：データの構造と取り扱い

数値データ、文字データあるいは単語（文字列）などの関連データをまとめて取り扱う配列、構造体、ポインタなどの使い方について学ぶ。

第12～15回：関数の基本

長いプログラムを機能単位毎に分割し、全体の見通しを良くする関数について、仕組みと使い方を学ぶ。

【評価方法】

定期試験、出席率、各講義の実習課題により評価。

【テキスト】

C言語プログラミング（山本雅基他著、デンソークリエイト）

プログラミング演習Ⅱ

吉川和男

【授業の概要】

文字、数字、音声、映像などをコンピュータで編集・加工等をしたたりするコンピュータシステムは情報システムと呼ばれる。学習目標である情報システムの設計・開発では、まず、システムが果たす要件について、ソフトウェアの目的・機能の面から概要を分析する。その結果に基づいてユーザの視点から見たインターフェース等の設計、さらに、プログラム構成やハード構成などの設計、ソースプログラムの作成等を行う。授業では、開発ソフトVisual C++を使い、Windows上で稼働する基本的なシステムを作成する。

【授業計画】

1. 情報処理システムとは
2. アルゴリズムの記述方法・構造化プログラミング
3. ソフトウェア開発工程・要求仕様・システムの検討
4. 外部仕様設計
5. 内部設計
6. プログラム設計
7. テスト仕様設計
8. コーディング
9. テスト・デバッグ
10. システムの管理・運用

【評価方法】

各工程実習で作成するレポート（開発ドキュメント他）と開発したシステムの成果（品質）により評価を行う。

【テキスト】

使用しない（資料配布）

【参考文献・資料】

C言語プログラミング（山本雅基他著 デンソークリエイト）

文化創造総論

篠弘

【授業の概要】

伝統文化の継承の問題および現代文化のあるべき姿や方向に関する具体的な問題の検討を踏まえながら、文化創造学部の基本理念「文化創造」の意義やあり方について学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 概論：日本語の現在
- 第2講 各論：美しい日本語
- 第3講 各論：詩的表現
- 第4講 各論：辞典の効用
- 第5講 概論：四季と風土
- 第6講 各論：古代人の感性
- 第7講 各論：日本人の死生観
- 第8講 概論：知的好奇心
- 第9講 各論：差別的表現
- 第10講 各論：組織と人間
- 第11講 各論：ボーダレスの時代
- 第12講 各論：プランニング
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験によって、総合的に評価。

【テキスト】

集英社新書 疾走する女性歌人（篠弘著 集英社刊 680円＋税）
必要に応じて、プリントを配布する。

環境文化総合講座Ⅰ

杉浦信彦 多田萬里子 楊 衛平

【授業の概要】

現代社会における環境問題を主に「健康と環境」との視点を軸として、健康に生活するための環境のあり方について、オムニバス方式によって学ぶ。なお、本学専任教員多田萬里子教授が本講座のコーディネーターとなり、各講義の調整及び試験の評価に関する責任を負う。各担当者の講義概要は、以下の通り。
（多田萬里子教授）環境文化総合講座Ⅰ全体のプロローグとエピソードを担当し、プロローグにおいて、講座の狙いと問題意識を明らかにする。また、本講座の1トピックスを担当し、外的環境要因が人の健康に及ぼす影響について人体内部環境の維持、感染症、アレルギーなどについて学ぶ。
（杉浦信彦教授）日常生活における様々な身体的リスクへの対処法について主として飲料水の安全性から学ぶ。
（楊衛平教授）健康な日常生活のハード、ソフトの整備を主に東洋医学的な観点から学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス：健康と環境 多田萬里子
- 第2講 環境要因としての水 杉浦信彦
 - 1. 地球環境としての水
 - 2. 生命と水
 - 3. 水はだれにものか
 - 4. まとめ
- 第3講
- 第4講
- 第5講
- 第6講 食生活と健康 楊 衛平
- 第7講 伝統医学に見る食養
- 第8講 生活習慣病に対する伝統食養法
- 第9講 症状別の生薬の分類と活用法
- 第10講 地球環境と人の生活 多田萬里子
 - 1. 環境化学物質と健康
 - 2. 環境要因と疾患
- 第11講 現代社会と感染症
- 第12講 まとめ

【評価方法】

各授業内容ごとのレポートまたはテストを総合して評価する。

【テキスト】

使用せず。講義の要旨はプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

環境文化創造Ⅰ（総論）

多田萬里子

【授業の概要】

現代社会が直面している環境問題を、主に生体に及ぼす影響の観点から学び、我々の生活、健康と環境の関わりについて学ぶ。

【授業計画】

1. 地球の生物システム
地球環境と生物の進化
生物システムの中のヒト
ヒトから文化・文明を環境とする人間に、生物の共通性と多様性
ゲノム（DNA）に書き込まれた生命の歴史
2. 地球環境と人の生活
地球規模の環境問題
酸性雨、温暖化、海洋汚染など
オゾン層破壊と紫外線障害
環境汚染物質の人体への影響
内分泌攪乱物質、発癌物質など
3. 科学技術の発展と環境問題
バイオテクノロジーと生態系
21世紀の人の生活

【評価方法】

出席状況、授業内の小テスト、学期末テストにより総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。講義の要旨はプリントを配布する。

【参考文献・資料】

明日の環境と人間（川合真一郎著 化学同人）
環境生物学（松原聡著 裳華房）
岩波講座：科学/技術と人間（岩波書店）
その他授業中に適宜紹介する

環境文化総合講座Ⅱ

杉浦淳吉 高橋啓介 永田忠夫 若松孝司 渡辺達

【授業の概要】

現代社会における環境を1つの文化として捉え、「生活と人間」との視点を軸として、人間性豊かな生活文化のあり方について、オムニバス方式によって学ぶ。なお、本学専任教員永田忠夫教授が本講座のコーディネーターとなり、各講義の調整及び試験の評価に関する責任を負う。各担当者の講義概要は以下の通り。
（永田忠夫教授）環境文化総合講座Ⅱ全体のプロローグとエピソードを担当し、プロローグにおいて、講座の狙い、問題意識を明らかにする。また、本講座の1トピックスを担当し、ストレスがもたらす様々な心理的問題を主に臨床心理学の観点から学ぶ。
（高橋啓介教授）外的環境の知覚・認知処理の様式や特性を心理学の観点から学ぶ。
また、メディアの急速な進歩が、今日の情報社会の環境に及ぼす影響について学ぶ。
（若松孝司講師）開発に伴って生じる多様な生活・文化に関わる環境問題を、国際開発論の視点から学ぶ。
（渡辺達兼任講師）より快適で豊かな住環境のデザインやコーディネイトの方法について学ぶ。
（杉浦淳吉兼任講師）環境問題を、主に地域固有の特性と関連づけて理解し、その解決策について学ぶ。

【授業計画】

- 以下のテーマで講義する。
1. 「人間性豊かな生活文化」を考える視点について
 2. 人は、外的環境をどのように認知しているのか
 3. 人は、ストレス社会でどのように心理的な適応を保つのか
 4. より快適で豊かな住環境をどのように整えていったらよいのか
 5. 人は、地域社会の環境問題にどう立ち向かうのか
 6. 国際開発が、生活・文化環境にどのような影響をもたらすのか
 7. 情報社会のなかで、メディアの発展がなにをもたらすのか

【評価方法】

出席状況、各授業内容ごとのレポートやテスト等の成績を総合して評価する。

【参考文献・資料】

各担当教員が授業時に指示する。

環境生態学

林 進

【授業の概要】

環境問題を、自然科学のみならず社会科学や人文科学の視点からも考察し、環境保全が新しい文化の創造に結びつく、もつとも基礎的な課題であることを学ぶ。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布するとともに映像を使用する。

1. 社会、文化および歴史と環境生態
2. 風景論から考える環境問題
3. 里山からの発想
4. 環境機能から森林の働きを考える
5. 循環資源から森林の働きを考える
6. なぜ森林破壊が起きるのか
7. 様々な森の管理と利用を考える
8. 水とみどりの文化論
9. 花とみどりの文化論
10. みどりを守る市民活動
11. 都市におけるみどりの空間づくり
12. 生物との共生を目指す取り組み
13. 環境をデザインする

【評価方法】

毎講時のミニレポート提出と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

書籍としてのテキストは使用しない。

【参考文献・資料】

必要に応じ、授業中に配布する。

生活民族学

稲村 哲也

【授業の概要】

世界の民族の生活様式や文化の多様性を認識し、固定観念にとらわれない異文化観を身につける。

【授業計画】

文化人類学の基礎となるフィールドワークの記録である「民族誌」に基づき、多様な民族・社会の家屋と生活様式、生業、家族と親族、結婚、信仰などの文化の諸側面について考察する。地域はアジア及び南北アメリカとし、教授者が実際に調査を行った事例や、教授者が以前その設立に携わった野外民族博物館リトルワールドの展示に関連した事例を中心に、映像を交えながら紹介する。

- 1～2：アメリカ先住民の歴史と文化
- 3～4：南米先住民の歴史と文化
- 5～6：日本の先住民族アイヌとその歴史と文化
- 7：インドの家族とカースト制度
- 8～9：ネパールの文化と信仰
- 10：中国漢民族の家族と親族
- 11～12：遊牧民の生活と文化- モンゴル、アラブ

【評価方法】

授業中に適宜提出してもらうショート・レポート（平常点）、学期中に実施する小テスト、および学期末にリトルワールドを見学して書くレポート

【テキスト】

リトルワールド・ガイドブック（野外民族博物館リトルワールド）

電子メディア論

LEWIS, Paul

【Course Content】

現代社会の特性である電子メディア社会の側面が我々の生活文化に対して有する問題点と可能性について主として語学教育の場面を対象に学ぶ。

【Schedule】

[This course is given in English]

- Lesson 1 : An Introduction to Electronic Media
 Lessons 2-10: Implementation of Electronic Media
 Lessons 11-12: Project work

【Assessment】

Assessment will be by attendance, class participation, work produced during the term, and project work.

ファッション・コーディネート

村松 世紀子

【授業の概要】

快適な服装や衣生活の心理的・社会的要因について分析し、服装に関する新しい知識を身につけるとともに、装いに関するコーディネートの基礎理論を理解し、美的選択眼と構成力を実践的に身につける。

【授業計画】

1. 知っているとなりの話
 - ・服装史と文化
 - ・服装史と現代
2. パリコレクション
 - ・デザイナー
 - ・流行
 - ・ブランド
3. 創作
 - ・アクセサリ
 - ・Tシャツ

【評価方法】

レポートによる評価

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する

※作品を1、2点制作するための材料費が必要です

高齢化社会論

楊 衛平

【授業の概要】

来るべき高齢化社会に向けて、健康で豊かな生活を実現するための方法とその実践を東洋医学の視点から学ぶ。

【授業計画】

1. 高齢化社会に伴う医療の問題
2. 老人医療における漢方の役割
3. 東・西両医学の相違と融合へ
4. 高齢者の生理、病理学的な特徴
5. よくみられる老人病と漢方対策
6. 体質改善、老化防止と漢方補剤
7. 不定愁訴を解消する漢方の活用
8. 伝統医学による養生法A.B.C
9. 経絡とわかりやすい養生ツボ
10. 身近な動・植・食物と養生薬膳
11. 心身両面のバランスを調整する気功術
12. QOLの向上をはかる健康福祉への展望

【評価方法】

出席状況、受講態度とレポートによる。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

老化を防ぐ漢方治療（広瀬滋之 光雲社）
体系中国老人医学（池上正治訳 エンタプライズ）
長寿精要（天津科学技術出版社編集）

家族関係論

永田忠夫

【授業の概要】

家族関係の分析方法と家族内の人間関係査定法とを学び、それによって様々な家族関係を具体的に学ぶ。

【授業計画】

以下のテーマで講義する。

1. 家族とは
2. 家族をめぐる社会状況と問題点
3. 家族関係をとらえる変数
4. 家族ダイナミックス
5. 家族内コミュニケーション
6. 家族の危機とコミュニケーション

【評価方法】

出席状況、レポートやテスト等の成績を総合して評価する。

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

保健福祉論

榎原久孝

【授業の概要】

保健と福祉の統合化という社会動向を踏まえつつ、保健福祉の考え方、方法論、実践例等について学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 保健福祉論序論
- 第2講 人口・疾病統計からみた保健福祉の課題
- 第3講 生活習慣病対策
- 第4講 癌と生活習慣
- 第5講 喫煙と健康
- 第6講 母子保健対策
- 第7講 学校保健対策
- 第8講 高齢者保健
- 第9講 高齢者介護と介護保険
- 第10講 感染症予防対策
- 第11講 日本の社会保障制度
- 第12講 医療保険と社会福祉

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

国民衛生の動向（厚生統計協会）

健康管理論

杉浦信彦

【授業の概要】

健康の維持と増進をめざす生活習慣の確立について、食生活・運動習慣など健康科学の基礎的理解を通して、実践する能力を身につける。

【授業計画】

以下のテーマを中心に講義を行う。

1. オリエンテーション
WHOのMagna Carta of Healthに沿って、健康の意義、現代生活における多様な健康の在り方について言及する。
2. からだのしくみ
人体を構成する元素や成分について学ぶ。特に体の主成分としてのミネラルの重要性について理解する。
3. 血液のしくみと働き
血液の性状やその働きを学ぶことにより健康管理の意義を理解する。
4. 消化と吸収
生命を支えるエネルギー源の獲得器官である消化管のしくみを理解し、生活習慣病予防に関する基礎知識を習得する。
5. 肥満と生活習慣病
肥満と生活習慣病との関わりを理解する。

授業の進め方は講義を主に、テーマによってはVTRの視聴や標本観察、簡単な実験・演習なども行う予定である。

※私語厳禁

【評価方法】

5～6回のメモリーシート（授業内容についてのレジュメ）および実験を含む3～4回の研究レポートの提出により評価する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

適時配布・供覧する。

公衆衛生論

棚橋昌子

【授業の概要】

健康の保持、増進、疾病予防の問題を中心に、公衆衛生の理論と実践について学ぶ。

【授業計画】

現代の文明社会が発展する過程で、生活環境が悪化し、国民の健康への影響が広がり、半健康状態が一般化している。この認識にたつて、各種の健康指標を検討し、事例を通して公衆衛生の課題を考える。

- 第1回 健康の定義
- 第2回 疾病予防の歴史
- 第3回 疾病構造の変化
- 第4回 人口・出生・死亡
- 第5回 健康指標の検討(1)
- 第6回 健康指標の検討(2)
- 第7回 国際比較 世界のなかの日本
- 第8回 文明の発展と健康被害(1)
- 第9回 文明の発展と健康被害(2)
- 第10回 文明の発展と健康被害(3)
- 第11回 国民健康づくり対策
- 第12回 公衆衛生の課題
- 第13回 まとめ

【評価方法】

テスト(持ち込み可)と授業内演習の総合評価

【テキスト】

使用しない。必要に応じプリントを配布する。

【参考文献・資料】

公衆衛生学(渡辺周一編 中央法規出版)
国民衛生の動向(厚生統計協会編)

東洋医学

楊 衛平

【授業の概要】

東洋医学の特性とその可能性について、特に西洋医学との比較において学ぶ。

【授業計画】

1. 東洋医学とは(中国医学と漢方医学)
2. 東洋・西洋医学の相違と接点
3. 東洋医学の二重構造と疾病観
4. 陰陽論・五行説の特徴と応用
5. 気血水の概念と臨床医学への応用
6. 生薬の自然属性と薬名の由来
7. 身近な薬用動・植・鉱物の紹介
8. 医食同源と薬膳の作り方・レシピ
9. 健康作りに役立つ簡単なツボ療法
10. 生活習慣病に対する東洋医学の対策
11. 女性の美容と瘦身に役立つ伝統の知恵
12. 健康保険にキク漢方と選び方
13. 東洋医学の診療情報とQ&A

【評価方法】

出席状況、受講態度とレポートによる。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

漢方の選び方・使い方(広瀬滋之 医学書院)
漢方治療のABC(日本医師会)

映画・演劇史

HIGH, Peter B.

【授業の概要】

国内・国外の映画および演劇の歴史を実証的にたどり、映画・演劇の現代表現史における役割と意味を学ぶ。

【授業計画】

トーキー映画の発達史(1932~1965)

トーキー映画の到来(1927~31)によって、無声映画時代に高められた映画の「芸術」的な面は、一旦後退したかのように見えた。そのために、映画作家たちは、「映画とは何か」という問題を再検討しなければならなかった。1930年代は、映画において、再出発の時代になったのである。

この授業では、1930年代~60年代にむかえた映画の黄金期に焦点をあわせて、映画芸術はどのように形成されてきたかを検討すると同時に、映画分析の基礎的な方法を指導する。

授業のやり方としては、映画(全体又は部分)を見終わってから、教室でディスカッションを行った後、各自、次の授業までに自分の分析を短い文章(原稿用紙2・3枚程度)にまとめて提出する。

1. 映画トーキー化による諸問題
 2. ルネ・クレール監督とトーキー映画芸術の確立
 3. 日本映画界のトーキー化
 4. ハリウッド映画の発展
 5. 戦後イタリア映画とネオ・レアリスマ
 6. フランス映画とヌーベル・ヴァーク
1. と 2. は一週間ずつ、3~6は各2週間予定。

【テキスト】

テキストはありません。教材は適時配布します。

環境文化基礎演習

永田 祐

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、環境文化研究の基礎となる文献検索法やレポート作成の基礎的な知識を学ぶ。

【授業計画】

以下の内容について授業を行う。ただし、本講義は再履修者対象であり、昨年度までとは講義の内容が変わる可能性があるため、詳細は授業担当教員の指示に従うこと。

- (1) 講義活用法
- (2) 文献検索法
- (3) テーマ研究演習

各自が設定したテーマに関する文献研究を実施し、それをレポートにまとめる。

【評価方法】

出席状況、講義への取り組みおよび各自が設定したテーマに関する文献研究のレポートを総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

大学生の学習テクニック（森靖雄著 大月書店）
論文・レポートのまとめ方（古都廷治著 ちくま新書）
理科系の作文技術（木下是雄著 中公新書）

資料収集法

高橋啓介

【授業の概要】

研究資料を収集する技法として、主に、検査、実験、面接、調査の4技法の特性を学び、それらを運用する技能を身につける。

【授業計画】

本講座では、実験による心理測定の基礎的な技法を、課題研究およびグループ単位のテーマ研究を通して修得する。

演習は次のスケジュールを予定している。

- | | |
|--------|------------------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2～4回 | 記名学習 |
| 第5～7回 | 鏡像描写 |
| 第8～13回 | テーマ研究 |
| 第14回 | テーマ研究発表会（グループ単位） |
| 第15回 | レジュメ作成 |

なお、進度によっては、補講を実施する。また、課題研究、テーマ研究のいずれにあっても、必要に応じて授業時間外の自主学習を課す。

【評価方法】

出席状況（20点）、課題・演習への取り組み姿勢（10点）、課題研究個人レポート（10点×2）、発表会（10点）、テーマ研究個人レポート（40点）とし、加点法により採点し、60点以上取得の場合、合格とする。

レポートの提出は原則として、学内LANを利用する。

【テキスト】

心理学のための実験マニュアル（利島保・生田秀和 北大路書房）

【参考文献・資料】

心理測定法への招待（市川伸一 サイエンス社）

資料収集法

棚橋昌子

【授業の概要】

研究資料を収集する技法として、主に、検査、実験、面接、調査の4技法の特性を学び、それらを運用する技能を身につける。

【授業計画】

官能検査法：人は5感（視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚）を使って生活している。主観的な感覚を客観的な数値として把握し、主観と測定値との関連を考察する技能を学習する。

- | | |
|---------|-----------------------------|
| 第1回 | はじめに：官能検査とは何か |
| 第2回 | 温度
皮膚温、体温を例として |
| 第3～4回 | 味覚（塩味と甘味）
塩分濃度、糖分濃度を例として |
| 第5回 | 聴覚
騒音を例として |
| 第6～7回 | 測定値の解析法の説明 |
| 第8～13回 | テーマを決めて実験 |
| 第14～15回 | レポートの完成 |

【評価方法】

レポートと受講態度の総合評価

【テキスト】

使用しない

【参考文献・資料】

官能検査ハンドブック（日科技連官能検査委員会 日科技連出版社）
食品の官能評価・鑑別演習（日本フードスペシャリスト協会編 建帛社）
官能検査入門（佐藤信 日科技連出版社）

資料収集法

丹下智香子

【授業の概要】

研究資料を収集する技法として、主に、検査、実験、面接、調査の4技法の特性を学び、それらを運用する技能を身につける。

【授業計画】

以下のような流れに沿って進める。

1. 調査計画立案（調査テーマの決定、目的/仮説の明確化）
2. 調査票作成・実施（尺度作成、調査票の印刷、調査の実施）
3. データの分析（データの入力と分析）
4. 報告書・レジュメ作成、研究発表

【評価方法】

出席状況（遅刻、欠席、早退の有無）、演習に対する取り組みの態度、および報告書の内容などにより評価する。

【参考文献・資料】

心理学マニュアル 質問紙法
（鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤編著 北大路書房）

資料収集法

永田忠夫

【授業の概要】

研究資料を収集する技法として、主に、検査、実験、面接、調査の4技法の特性を学び、それらを運用する技能を身につける。

【授業計画】

データ収集法としての1つである面接を用いて、情報収集とその結果の整理・分析の仕方を学ぶ。

講義と実習・演習を有効に組み合わせ、「自由課題における面接法を用いた研究」を実施する。

1. 講義内容

- 1) 面接法について
- 2) 調査面接について（面接計画と評定法）
- 3) 量的データ処理（統計的手法）について
- 4) インタビュー計画および面接調査の心得について
- 5) 質的データの収集と整理方法について（ブレンストーミング・逐語録・KJ法など）
- 6) レポートおよびレジュメの書き方

2. 実習および演習

自由課題：面接法を用いて明らかにしようとするテーマの決定/面接計画：課題を解決するためにどんな面接をすれば必要な情報が得られるか（誰にどのようなことをどのように尋ねたらよいか）の検討/インタビューや面接調査の準備/実施/被面接者から得られた情報（質的データや量的データ）の整理・まとめ/レポートおよびレジュメの作成

【評価方法】

課題への取り組みに対する態度、個人・グループレポート等により評価する。欠席・遅刻・早退や課題への消極的な態度など授業への関与の薄さは、この授業のグループ活動の進行を著しく困難にするので、単位授与の重要な判断材料とする。

環境文化創造Ⅲ（環境デザイン）

渡辺 達

【授業の概要】

現代人にとって、より快適な生活環境を創出するために、環境をどのようにデザインし、コーディネートしてゆくことが好ましいかについて学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス、講義予定、講義概要
- 第2回 新しい環境計画論（横浜港大根橋国際客船ターミナル から）
- 第3回 モダンデザインについて（日米のデザイナーのコラボレーション：豊田市美術館 から）
- 第4回 墓地のランドスケープについて（風の丘葬祭場と森の葬祭場の比較を通して）
- 第5回 屋上庭園について（アクロス福岡の計画案と実施設計の比較を通して）
- 第6回 建築に自然を取り込む取り組み（落水荘 から）
- 第7回 ゴミ処理場と環境デザイン（大阪市環境事業局舞洲工場）
- 第8回 ビオトープ概論1
- 第9回 ビオトープ概論2
- 第10回 緑の環境デザインについてのまとめ
- 第11回 水の環境デザインについてのまとめ
- 第12回 今後のデザインについて

【評価方法】

出席状況と課題レポートにより評価する。

【テキスト】

なし
講義中にプリント配布

資料分析法入門

西 和久

【授業の概要】

収集した資料を適切に集計・分析し、そこに含まれる複雑な情報を解析する方法を学び、正しく解釈・推論する能力を身につける。

【授業計画】

- 第1講 イントロダクション
- 第2講 データの種類と処理、その入力方法
- 第3講 基本統計量と区間推定
- 第4講 2つの母平均の差の検定
- 第5講 対応のある2つの母平均の差の検定
- 第6講 ウィルコクソンの順位和検定
- 第7講 ウィルコクソンの符号付順位検定
- 第8講 1元配置の分散分析と多重比較
- 第9講 反復測定による1元配置の分散分析
- 第10講 2元配置の分散分析
- 第11講 繰り返しのない2元配置の分散分析
- 第12講 2つの母比率の差の検定

【評価方法】

出席状況・平常点・課題等により総合的に評価する。

【テキスト】

SPSSによる統計処理の手順 第3版（石村貞夫著 東京図書）

【参考文献・資料】

すぐわかるSPSSによるアンケートの調査・集計・解析
（内田治著 東京図書）
SPSSによる分散分析と多重比較の手順（石村貞夫著 東京図書）

環境文化創造Ⅳ（科学技術文明と地球環境）

河宮信郎

【授業の概要】

多様な学問分野や技術を総合的に検討して、今日の環境問題を解決してゆく方途について学ぶ。

【授業計画】

人類は科学技術を利用して社会的なエネルギー代謝、物質代謝を飛躍的に拡大して来た。この結果、自然生態系（有機的自然）および地球システム（無機的自然）を大きく変容させ、人類自身もその影響（反作用）を受けるようになった。科学技術文明の特質とその限界を明らかにし、自然環境とて調和していく道を探る。

1. 現代科学技術の特性：情報・原発・建設等
2. 社会的物質代謝：エネルギー転換と物質循環
3. 水循環と生命系：砂漠・森林・都市・耕地
4. 資源枯渇・技術開発・資源代替：歴史における技術
5. エネルギー技術の歴史的発展と資源利用
6. 酸性雨・オゾン層・土壌破壊：大気/水圏/土壌
7. 地球生態系の化学汚染：発癌物質と環境ホルモン
8. 化石燃料依存と「代替エネルギー」の問題点
9. 地球温暖化問題とその対策
10. リサイクルの意義と限界
12. 高度成長の終焉と持続可能な社会の構想

【評価方法】

授業中随時小試験を行い、知識の確認と定着を計る。
また出席状況、課題提出を求めて総合的に評価する。

【テキスト】

必然の選択—地球環境と工業社会（河宮信郎著 海鳴社）
授業で配布する。

環境文化創造V (色彩学)

高橋啓介

【授業の概要】

現代社会の生活空間を構成する1要素である視環境について、特にそれを演出する色彩について、その心理学的側面を中心に学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 光学系1
- 第2回 光学系2
- 第3回 色の表示1
- 第4回 色の表示2
- 第5回 色の表示3
- 第6回 色と分光分布1
- 第7回 色と分光分布2
- 第8回 測色1
- 第9回 測色2
- 第10回 色感覚・色知覚1
- 第11回 色感覚・色知覚2
- 第12回 色の心理効果
- 第13回 色彩調和1
- 第14回 色彩調和2
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況・授業態度 (30点)、レポート課題 (10点×2)、単位認定試験 (50点)とし、加点法によって、60点以上を取得の場合、合格とする。

なお、必要に応じて補講を実施することがある。

レポートの提出は、原則として、学内LANを利用する。

【テキスト】

新、基本色表シリーズ (財団法人日本色彩研究所 日本色研事業株式会社)

【参考文献・資料】

- ・入門色彩心理学 (滝本孝雄・藤沢英昭 大日本図書)
- ・色彩心理学入門 (大山正 中公新書)

コミュニティー環境II (地域環境)

杉浦淳吉

【授業の概要】

コミュニティーとしての地域における多様な次元での環境問題を現実的に理解し、主として地域住民の安全と健康を保全する実践的な問題解決の方途について学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 社会的ジレンマとしての環境問題 (1)
- 第4回 社会的ジレンマとしての環境問題 (2)
- 第5回 環境配慮行動の規定因
- 第6回 環境配慮行動の普及に向けた説得的コミュニケーション
- 第7回 環境配慮行動の実行と態度形成
- 第8回 グリーンコンシューマーの普及 (1)
- 第9回 グリーンコンシューマーの普及 (2)
- 第10回 環境ボランティアによるリサイクルの普及
- 第11回 行政による環境政策と住民による評価
- 第12回 企業における環境対策
- 第13回 行政・企業・NPOの連携
- 第14回 大学における環境対策
- 第15回 総括

【評価方法】

出席状況 (授業への積極的参加)、レポートなどにより総合的に評価

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献・資料】

- 環境と消費の社会心理学 (広瀬幸雄著 名古屋大学出版会)
- 環境配慮の社会心理学 (杉浦淳吉著 ナカニシヤ出版)
- 社会的ジレンマの仕組み (山岸俊男著 サイエンス社)
- シミュレーション世界の社会心理学 (広瀬幸雄編著 ナカニシヤ出版)
- 影響力の武器 (ロバート・B・チャルディーニ著 誠信書房)

コミュニティー環境I (生活環境)

棚橋昌子

【授業の概要】

日常生活を取りまく物理的、社会的、心理的環境の問題について、その地域に生活する人間を主体とする視点から、現代における生活の質の向上の方途について学ぶ。

【授業計画】

私たちの生活は、近代科学の発展により物質的には豊かで便利になった。その反面、資源とエネルギーの消費は膨大なものになり、生活環境は汚染され、健康被害や人類の生存を脅かす問題もでてきた。本講では健康によい生活術、地球にやさしい生活術の構築をめざす。

1. コミュニティー環境と私たちの生活
2. 環境基準の意義
3. 健康からみた生活環境 (1)
4. 健康からみた生活環境 (2)
5. 廃棄物を考える (1)
6. 廃棄物を考える (2)
7. 廃棄物を考える (3)
8. 環境家計簿の意義
9. 消費型生活から循環型生活へ (1)
10. 消費型生活から循環型生活へ (2)
11. 環境にやさしい生活術
12. 21世紀型生活を考える
13. まとめ

【評価方法】

テストとレポートの総合評価

【テキスト】

使用しない。プリントを配布する。

【参考文献・資料】

- 生活環境論 (岩槻紀夫編 南江堂)
- 生活環境の科学 (佐島群巳・横川洋子編著 学文社)
- 環境白書 (環境省編)
- 国民紀生の動向 (厚生統計協会編)

コミュニティー環境III (民族文化)

石井祥子

【授業の概要】

民族に固有の文化の特性を、その民族の様々な次元の環境との関係において学ぶ。

【授業計画】

関連科目の「生活民族学」と同様に文化人類学における民族誌 (異文化社会のフィールドワークの記録) を基礎とした内容である。「生活民族学」では様々な民族の生活様式や社会の多様性を比較するが、この授業では特に教授者がフィールドワークを行ってきたモンゴルをとりあげ、特定の社会における文化の諸側面を、環境との関わりの中でより深く理解することを目的とする。

- 1~3回 モンゴルの自然環境と遊牧の生活
- 4~5回 モンゴルの歴史
- 6~7回 モンゴルにおける社会主義経済と市場経済化
- 8~10回 モンゴルにおける都市の形成発展と遊牧社会との関係
- 11~13回 モンゴルにおけるコミュニティーの特性、まとめ

【評価方法】

授業中に適宜提出してもらうショート・レポート (平常点)、学期中に実施する小テスト、および学期末に行う試験による

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

適宜配布する。

コミュニティ環境Ⅳ（社会システム論）

山口 宏

【授業の概要】

日本の社会システムの構造的な本質と、その問題点について学ぶ。

【授業計画】

「社会システム論」などというと、とても難しそうに聞こえますが、内容としては、自己感覚やコミュニケーション、家族、教育、差別など、社会の身近な問題について考えていきます。考え方として少し抽象的なところもありますが、分かりやすくお話しするつもりです。

1. 戦後文化の流れと共同感覚
2. 「こころ」の強調と自己感覚の変容
3. 現代家族の困難と、家族像の変化
4. 宗教の機能と現代宗教の特徴
5. 教育・学校をとりまく状況の変化
6. 情報社会とメディア
・・・など

【評価方法】

毎回、出席確認も兼ねた感想を書いていただいて、定期試験はなしで評価します。

【テキスト】

ありません。

【参考文献・資料】

授業のなかで紹介していきますが、まず例えば、図解 社会学のことが面白いほどわかる本（浅野智彦編 中経出版 2002）などは読みやすいでしょう。

コミュニティ環境Ⅴ（コミュニティ福祉論）

永田 祐

【授業の概要】

本講義では、日本と海外におけるさまざまなコミュニティレベルのイニシアティブの事例の紹介と検討を通じて、コミュニティレベルにおける福祉実践の理論と実際を検討することを目的とする。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 コミュニティとは何か。
- 第3回 福祉概念の検討
- 第4回 コミュニティ福祉の主体① 政府
- 第5回 コミュニティ福祉の主体② NPO
- 第6回 コミュニティ福祉の主体③ ボランティア
- 第7回 コミュニティ福祉の主体④ 社会福祉協議会
- 第8回 コミュニティ福祉を支える仕組み①
- 第9回 コミュニティ福祉を支える仕組み②
- 第10回 コミュニティ福祉の実践例①
- 第11回 コミュニティ福祉の実践例②
- 第12回 まとめ

【評価方法】

出席、試験、数回の感想文などの提出などにより総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用しない。参考書は授業時に随時指示する。

【参考文献・資料】

講座地域福祉①地域福祉の広がり（柄元一三郎編著 ぎょうせい）

環境アメニティーⅠ（食環境）

楊 衛平

【授業の概要】

生活環境の基礎的要素のひとつである「食」について、東洋医学の側面から学ぶ。

【授業計画】

1. 伝統食生活と食文化
2. 近代食の変遷と現状
3. 栄養学と伝統の認識
4. 薬食同源の薬膳思想
5. 食物素材の五味五性
6. 春夏秋冬の変化と食
7. 生活習慣病と食関係
8. 精神的健康と食生活
9. 疾病予防の養生飲食
10. 症状別の食療と処方
11. 美容とダイエット食
12. 寒温別の食素材リスト

【評価方法】

出席状況、受講態度とレポートによる。

【テキスト】

使用せず、参考資料を配布する。

【参考文献・資料】

中国薬膳大辞典（楊衛平他編集 MEK出版局）
FOOD AND HEALING（Annemarie Colbin 世界文物出版社）
栄養療病（中央編訳出版社）

環境アメニティーⅡ（モード環境）

加藤 國男

【授業の概要】

生活環境の基本的要素の一つである「衣」について理解を深め、より豊かで快適な衣生活のあり方を実践的に学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 衣生活の今—環境の重要性が言われる現在 私たちの衣を中心とした生活の現状
- 第2講 人は何を着てきたのか？
(1) 木綿・麻
- 第3講 (2) ウール・獣毛
- 第4講 (3) 絹
- 第5講 (4) 化学繊維
- 第6講 絹織の歴史—中国からパリモードまで
(1) 中国・西アジア
- 第7講 (2) ビザンチン・スペイン・イタリア
- 第8講 (3) フランス・ヨーロッパ・パリモード
- 第9講 小袖とTシャツ—和装の歴史とTシャツとの関連
- 第10講 洗濯と環境汚染
- 第11講 衣類の加工とアレルギー
- 第12講 パリ—江戸 循環の暮らしを考える
- 第13講 環境アメニティーと暮らし資源浪費の上に成り立つ豊かさの今、未来へ向けた環境循環、サステイナブルな暮らしと衣生活の為に

【評価方法】

出席状況と随時行うレポートの成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

カラー版 世界服飾史（深井晃子監修 美術出版社）
日本服装史（佐藤泰子著 建帛社）
織りと染めの歴史 西洋編（佐野敬彦著 昭和堂）
織りと染めの歴史 日本編（河上繁樹他著 昭和堂）
衣生活論—装いを科学する（小林茂雄編 弘学出版）
被服材料・整理学（弓削治編著 朝倉書店）
おしゃれの社会史（北山晴一著 朝日新聞社）

環境アメニティーⅢ（住居環境）

西 和久

【授業の概要】

生活環境の基本的要素の一つである「住」について理解を深め、主として人間の快適で健康的な生活を保障する住居機能について学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 インTRODクシヨン
- 第2講 環境心理学のアプローチ
- 第3講 人と家との心理的なつながり
- 第4講 ライフサイクルから見た住まいの私的空間
- 第5講 居住環境と人間関係（1）
- 第6講 居住環境と人間関係（2）
- 第7講 子供と高齢者の居住環境（1）
- 第8講 子供と高齢者の居住環境（2）
- 第9講 高層住宅と精神衛生
- 第10講 住まいの過密がもたらすもの
- 第11講 住まいの安全－防犯と防災－
- 第12講 まとめ

【評価方法】

受講態度、レポート、及び学期末試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

住まいとこころの健康（小俣謙二編著 プレーン出版）
その他、適宜紹介します。

環境アメニティーⅤ（健康科学）

楊 衛平

【授業の概要】

健康な日常生活を営むために必要な生活活動条件の追求および快適な暮らしを営むための生活環境条件の整備について、主に医学的な視点から実践的に学ぶ。

【授業計画】

1. 医療と未病医学
2. 養生と道教思想
3. 「天人合一」論
4. 自然環境と健康
5. 心身両面の調節
6. ストレス解消法
7. 米と茶の食文化
8. 春夏秋冬の養生
9. 運動と予防治療
10. 太極拳及び気功
11. 身近な生薬紹介
12. 滋養剤の活用法
13. 健康生活の秘訣

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず、参考資料を配布する。

【参考文献・資料】

今日の診療（医学書院）
中国医学百科全書（上海科学技術出版社）

環境アメニティーⅣ（都市環境）

渡辺 達

【授業の概要】

健康被害や安全危機をもたらす都市型公害をはじめとする現代都市の諸問題を明らかにし、より快適で健康的な生活環境としての都市のあり方について学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス、講義予定、都市環境に於ける現状の問題点
- 第2回 住まいの健康問題の具体例1
- 第3回 住まいの健康問題の具体例2
- 第4回 環境に配慮した建築材料について
- 第5回 温熱環境計画1
- 第6回 温熱環境計画2
- 第7回 自然との共生
- 第8回 環境に配慮した地域計画
- 第9回 都市防災と防災計画の基本
- 第10回 都市防災計画の実例1
- 第11回 都市防災計画の実例2
- 第12回 都市環境における今後の課題

【評価方法】

出席状況と課題レポートにより評価する。

【テキスト】

なし
講義中にプリントを配付

環境アセスメントⅠ（生活衛生）

杉浦信彦

【授業の概要】

日常生活において生命や健康を脅かす眼に見えない様々な身体的リスクから身を守り、健康な生活を営むための知識と能力を実践的に身につける。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 生活の安全（1）
食品表示・添加物・農薬の功罪を中心に食生活の化学的安全性について学ぶ。
3. 生活の安全（2）
生活廃水等による水質汚染の現状と対策を中心に飲料水の生物・化学的安全性について学ぶ。

授業の進め方は講義を主にテーマによってはVTRの視聴、資料供覧や課題レポートの作製などを行う予定である。

【評価方法】

授業において提示される課題についての研究レポート提出およびメモリーシート（授業内容についてのレジュメ）提出

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

適時配布・供覧する

環境アセスメントⅡ（人体環境）

多田萬里子

【授業の概要】

人間の生命を支える人体の仕組みと働きについて学び、様々な外的環境要因と人体内部環境との関わりを、ホメオスタシスの視点から実践的に学ぶ。

【授業計画】

外的要因に対して人体がいかに対応するかを学び、健康を維持して行くためには多様な環境変化にどのように対応すればよいかを考える。

1. 生体を維持する機構
からだのホメオスタシス
2. 内分泌系による生体調節機構
ホルモンの働き
生活環境と内分泌系
3. 刺激の受容と反応
神経系の情報伝達
ヒトの知覚作用
4. 生体防御機構
免疫のしくみ
環境要因とアレルギー

【評価方法】

出席状況・授業内小テスト・期末テストを総合して評価する

【テキスト】

使用せず。講義の要旨はプリントを配布する。

【参考文献・資料】

免疫の意味論（多田富雄著 青土社）
人体の構造と機能（エレイン・マリブ著 医学書院）
その他授業中に適宜紹介する

環境アセスメントⅢ（心理環境）

永田忠夫

【授業の概要】

現代社会の特性となっている、ストレス社会の問題をメンタルヘルスの観点から学ぶ。

【授業計画】

1. 環境と人間のかかわり
2. 人と環境との調和（適応過程）
3. ストレスという考え方からとらえた適応
 - 1) ストレッサー
 - 2) ストレス反応
 - 3) ストレス対処
4. 欲求という考え方からとらえた適応
 - 1) 欲求とは
 - 2) 欲求不満・葛藤
 - 3) 心理的問題の解決過程
5. 心理アセスメントについて

各テーマの中で、「心の健康」に関与する原因・結果（反応）・対処法をアセスメントできる測定尺度や心理検査を実施し、それに基づいて報告するレポートを提出してもらう。

【評価方法】

出席状況を含む受講態度、アセスメントレポート、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

授業中に示す。

環境アセスメントⅣ（情報環境）

LEWIS, Paul

【Course Content】

マルチメディア技術の確立に伴う高度情報化社会の問題点と可能性について主として語学習得の場を対象として学ぶ。

【Schedule】

このコースは英語による授業です。

Lesson 1 : Analyzing hyperMedia environments.

Lessons 2-12 : Learning & the www : Individual case studies.

【Assessment】

Assessment will be by attendance, class participation, work produced during the term, and final project work.

【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class meeting.

環境文化創造原理Ⅰ（生命科学）

多田萬里子

【授業の概要】

現代の生命科学における最先端の研究成果を紹介し、生命現象の科学的な考察によって現代の生活環境が抱える根源的な諸問題を学ぶ。

【授業計画】

生物に共通に見られる生命現象を科学的に理解し、日々進展する科学技術が人の生活にどう貢献できるか、人との新たな関係をいかに築いて行くかを探っていく。

1. 人体のなりたち
2. ゲノム・DNA・遺伝子
3. ヒトの遺伝
4. がん
5. DNA技術：遺伝子診断など医学への応用
6. ヒトの生殖と発生
7. 生殖工学技術：クローン技術など
8. ヒトの寿命と老化
9. 生命科学と人間の社会：新しい研究成果と人の生活

【評価方法】

出席状況・授業内小テストと学期末テストを総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。講義の要旨はプリントを配布する。

【参考文献・資料】

現代生物学（ウォーレス著 東京化学同人）
生命科学（中村 運著 化学同人）
分子生物学（田沼靖一編 丸善）
生命の意味論（多田富雄著 新潮社）
その他、授業中に適宜指示する。

環境文化創造原理Ⅱ (心理学)

高橋啓介

【授業の概要】

外的環境の評価の基礎となる人間の認知情報処理および外的環境への対処様式の問題を心理学の観点から学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 科学的に人間を理解するということ
 - 第2回 環境の認知1:ゲシュタルト
 - 第3回 環境の認知2:錯視
 - 第4回 環境の認知3:恒常現象
 - 第5回 環境の認知4:知覚の生態学的妥当性1
 - 第6回 環境の認知5:知覚の生態学的妥当性2
 - 第7回 環境の認知6:知覚の生態学的妥当性3
 - 第8回 情動的適応1:情動のメカニズム
 - 第9回 情動的適応2:防衛機制1
 - 第10回 情動的適応3:防衛機制2
 - 第11回 心理学の応用1:高度情報化社会1
 - 第12回 心理学の応用2:高度情報化社会2
 - 第13回 心理学の応用3:高度情報化社会3
 - 第14回 単位認定試験1
 - 第15回 単位認定試験2
- なお、進度に応じて補講を実施することがある。また講座の途中で4回の課題レポートの提出を求める。

【評価方法】

出席状況・授業態度(30点)、レポート課題(10点×2)、単位認定試験(50点)とし、加算法によって、60点以上を取得の場合、合格とする。

なお、レポートの提出は、原則として学内LANを利用する。

【テキスト】

人間行動の心理学(原岡一馬 ナカニシヤ出版)

【参考文献・資料】

- ・サブリミナル・マインド(下條信輔 中公新書)
- ・「成熟」へのレッスン(高橋啓介 ナカニシヤ出版)

資料分析法特論

小村賢二

【授業の概要】

表計算および統計解析ソフト等を利用して、大量のデータの縮約的表現の方法を学ぶ。

【授業計画】

毎時間授業の前半は統計的な考え方と理論を学び、後半はコンピュータ実習を行う。インターネット時代の新しい資料(データ)収集の方法としてwebデータベース(インターネット上にあるデータの集積)からftp(ファイル・トランスファー・プロトコル)によって資料を取得しSPSSを使った分析も学ぶ。実習の内容について進捗度により一部変更することもあります。(多変量解析)

- 第1回 コンピュータの基本操作(キーボード、マウス、ディスクの初期化、ファイルの保存、印刷)と日本語入力について
- 第2~3回 資料の整理の方法とEXCEL(エクセル)の基本操作の実習。情報のグラフ表現、円グラフ、ヒストグラム、立体(3D)図、散布図。
- 第4~5回 EXCELによる定量的および質的(カテゴリー)資料(データ)の分析。(基本統計量とクロス表分析)
- 第6~7回 2変量および多変量データの分析(相関分析、単回帰、重回帰分析)
- 第8~9回 SPSSの基本操作と実習:データファイルの扱い方、データの入出力(データ・エディタと変数ビュー、出力ビュー)。webデータベースからftpによってSPSSデータの取得。
- 第10~11回 SPSSによる資料分析(記述統計、クロス集計、多重回答分析)とシンタックスエディタ。
- 第12~13回 SPSSによる平均の比較と分散分析(一元配置、二元配置)
注:分散分析はEXCELでも行います。
- 第14回 多変量解析(因子分析とクラスター分析)の実習と結果の解釈について。(因子分析またはクラスター分析を扱います。)
- 第15回 レポート課題の作成と方法。
注:SPSSは社会科学のための統計ソフトです。

【評価方法】

出席状況と実習課題の提出とレポートの評価によって行う。(注意):毎回実習を行いますので、欠席をしないこと。

【テキスト】

授業の始めに指示します。(特にEXCELの教材)

【参考文献・資料】

- データ科学(小村賢二著 晃洋書房)
- SPSSによるデータ解析の基礎(宮脇・和田・阪井著 培風館)
- データ解析(栗原考次著 日本放送出版協会)

環境文化創造原理Ⅲ (人間工学)

神作博

【授業の概要】

より快適な生活環境創出のための基礎的な視点と技能を人間工学や応用心理学の観点から学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 総論1:人間工学・応用心理学の目的・視点・考え方
- 第2講 総論2:人間工学・応用心理学の歴史・方法
- 第3講 総論3:人間工学・応用心理学の研究の進め方
- 第4講 各論1:視覚
- 第5講 各論2:聴覚・触覚・その他の感覚
- 第6講 各論3:視覚表示
- 第7講 各論4:快適視環境
- 第8講 各論5:環境の影響
- 第9講 各論6:生活・行動空間
- 第10講 各論7:姿勢・動作・動作時間
- 第11講 各論8:疲労と能率
- 第12講 各論9:ヒューマン・エラー
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況・受講状況・単位認定試験の成績によって総合的に評価する

【テキスト】

人間工学入門(人間工学教育研究会編 日刊工業新聞社)

【参考文献・資料】

- 人間工学チェックポイント(小木和孝訳 労働科学研究所出版部)
- 人間工学(正田亘著 恒星社厚生館)
- 人間工学(大島正光著 コロナ社)
- 知覚工学(大山正・秋田宗平編 福村出版)

資料分析法特論

西和久

【授業の概要】

表計算および統計解析ソフト等を利用して、大量のデータの縮約的表現の方法を学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 イントロダクション
- 第2講 因子分析(1)-主成分分析
- 第3講 因子分析(2)-その他の因子分析
- 第4講 共分散分析
- 第5講 相関分析
- 第6講 単回帰分析
- 第7講 重回帰分析
- 第8講 判別分析
- 第9講 独立性の検定
- 第10講 同等性の検定
- 第11講 適合度検定
- 第12講 まとめ

【評価方法】

出席状況・平常点・課題等により総合的に評価する。

【テキスト】

SPSSによる統計処理の手順 第3版(石村貞夫著 東京図書)

【参考文献・資料】

実践心理データ解析(田中敏著 新曜社)

プレゼンテーション演習

内海和彦

【授業の概要】

パーソナルコンピュータ及び視聴覚機器を利用して、有効なプレゼンテーションの技能を身につける。

【授業計画】

- 第1～3回 スライド作成の基本を学ぶ。
- 第4回 デジタルカメラから画像を挿入する演習をする。
- 第5～7回 Excelで作ったグラフや、CD-ROM (MAPIO JAPAN, MAPIO WORLD) から国内外の地図を挿入する演習をする。
- 第8～12回 「私のプロフィール」、「私が生まれて育った町」、「行ってみたい国」などのテーマで発表のためのスライドを作る。
- 第13～15回 各自が、作成したスライドを「スライドショー」でプレゼンテーションする。

【評価方法】

出席状況、受講態度、提出物、発表等により総合的に評価する。

【テキスト】

授業内容の要約をプリントして配布する。

【参考文献・資料】

- ステップ図解 PowerPoint 2000でプレゼンテーション (C&R研究所著 ナツメ社)
- 超図解 PowerPoint 2000 for Windows (エクスメディア著 X-media)
- ひと目でわかる Microsoft PowerPoint 2000 (Perspection, Inc.著 オブスキュアインク訳 日経BPソフトプレス)
- できるPowerPoint 2000 (田中 亘&できるシリーズ編集部編 インプレス)

プレゼンテーション演習

前田正三

【授業の概要】

パーソナルコンピュータ及び視聴覚機器を利用して、有効なプレゼンテーションの技能を身につける。

【授業計画】

1. プレゼンテーションの基礎
2. ポスター作成のテーマを決める
3. ポスター作成1
4. ポスター作成2
5. 個人課題の発表
6. スライドの作成1
7. スライドの作成2
8. グループを作り、発表課題を決める
9. グループ課題の作成1
10. グループ課題の作成2
11. グループ課題の発表

【評価方法】

出席状況、受講態度、制作課題の総合により評価を決める。

【テキスト】

テキストは使用せず、適宜プリントを配布する。

プレゼンテーション演習

鬼頭英嗣

【授業の概要】

パーソナルコンピュータおよび視聴覚機器を利用して、有効なプレゼンテーションの技能を身につける。

【授業計画】

プロジェクターやインターネットを利用して、論文や意見などをプレゼンテーションすることを目的としたホームページの作成とそれに必要な画像の取り込みや画像編集ソフトの利用を学ぶ。

- 1: プレゼンテーションの概要
- 2: ホームページの基本概念
- 3～7: ホームページ作成ソフトの基礎と応用
- 8～9: 画像編集ソフトの基礎と応用
- 10～12: 課題製作
- 13: 課題の発表

【評価方法】

出席状況、受講態度、提出課題の総合評価により決める。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する

【参考文献・資料】

授業内で参考資料を紹介する。

ゲーム・シミュレーション演習

垂澤由美子

【授業の概要】

教育ゲームの体験を通して、環境問題の構造を理解し、その有効な対策の方法について学ぶ。

【授業計画】

1. オリエンテーション
 2. 廃棄物ゲームの体験とその解説 (地球環境問題とその解決策)
 3. BAFA BAFA ゲームの体験
 4. BAFA BAFA ゲームの体験
 5. BAFA BAFA ゲームの解説 (異文化体験と理解)
 6. 仮想世界ゲームのルール説明
 7. 仮想世界ゲームの体験
 8. 仮想世界ゲームの体験
 9. 仮想世界ゲームの体験
 10. 仮想世界ゲームの体験
 11. 仮想世界ゲームの解説 (地域や世界への帰属意識)
 12. 仮想世界ゲームの解説 (偏見とその解決策)
- 仮想世界ゲームは1日間集中で行う (日程: 5/29、6/5)。詳細は授業の中で知らせる。

【評価方法】

各ゲームへの参加と、ゲーム体験と講義内容を関連づけたレポートによって評価する。

【テキスト】

シミュレーション世界の社会心理学 (広瀬幸雄編著 ナカニシヤ出版)

環境文化講読演習

杉浦信彦

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

健康科学、生活衛生学領域に関するやさしい科学論文（和文・英文）の講読を通して、文献読解力を養い受講生各自が関心をもっている専門分野の研究内容やその学問的水準の概要を理解する。

1. オリエンテーション
2. 授業担当者が提示する教材資料の輪読および要旨のレポート作成
3. 受講生が選択したテーマに関する講読文献の検索および収集
4. 講読要旨の作成および発表
5. 研究結果報告書の作成および提出

上記の基礎的トレーニングを通して各自が獲得した知識や技術を次年度以上にて予定されている卒業研究に資することを目標とする。

【評価方法】

講読レポートおよび発表成績等により総合評価する。

【テキスト】

配布プリントを使用し、参考書籍等は授業時に指示する。

環境文化講読演習

多田萬里子

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

生命科学分野の論文を講読し、資料の収集・整理・分析・評価するための手法を習得する。

取り上げる課題

1. ヒトゲノム
2. 遺伝子組換え食品などバイオテクノロジー
3. 突然変異の誘発と疾患（がん）
4. 環境破壊因子 環境ホルモンと生殖
5. 環境改善策
6. その他、各自の興味ある課題を取り上げる

【評価方法】

論文講読・レポートなど総合的に評価する

【テキスト】

特に定めませんが、日経サイエンス・遺伝・科学・NEWTONなど生命科学領域の雑誌、学術雑誌（邦文・英文）を講読する予定。

環境文化講読演習

高橋啓介

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

- | | |
|----------|-----------|
| 第1回 | オリエンテーション |
| 第2回～第8回 | 和書講読 |
| 第9回～第15回 | 論文講読 |

いずれの回も、指名された複数のレポーターのサマリーに基づいて、議論する。レポーターは「和書講読」で各自1回、「論文講読」で各自1回となるよう割り当てる。

「和書講読」には、指定テキストを用い、「論文講読」は、教員が各自に学術論文を割り当てる。

【評価方法】

出席状況（20点）、レポーター（口頭報告とレジュメ）（20点）×2、単位認定レポート（40点）で評価し、60点以上を合格とする。

レジュメ、レポートの提出は原則として学内LANを利用する。

【テキスト】

開講期前の適切な時期に掲示などによってゼミ生個別に指示する。

環境文化講読演習

棚橋昌子

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

健康を保持増進する視点から生活環境を見直す。関心をもったテーマに関連する文献を探し出し、講読し発表し意見交換を行う。

1. 関心のあるテーマに関する総説を講読し、発表する
2. テーマごとに図書（授業時指定）を分担して講読し、発表する
3. 文献検索演習
4. 関心のあるテーマに関する学術論文を講読し、レポートを提出する

【評価方法】

レポートと発表等の受講態度の総合評価とする。

【テキスト】

随時指定する。

環境文化講読演習

永田忠夫

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

まず、対人行動や家族関係に関する専門書を講読し、心理学的用語・概念や心理学的研究方法を理解する。それにより、心理学的研究の対象となるこの分野のテーマを概観する。各自の研究関心領域を絞っていく。

次に、講読した書籍の引用・参考文献あるいは、絞られた領域の文献検索によって選択された研究論文の講読をおこなう。この段階で、質問紙調査法を中心とするデータ収集法やデータ分析の技法を習得することになる。

最終的には、各自が卒業研究のおおまかな企画を立てることが目標になる。

レポーターを決め、レジュメに基づく課題発表を行い、参加者全員で討論することによって、お互に専門的知識や研究技法を習得し、心理学的研究の基礎を学ばせたい。

【評価方法】

授業に出席し、与えられた課題・レポートを提出し、レポーターの役割を果たすことは、単位取得として必須のことである。参加態度や成果が評価の対象となる。

環境文化講読演習

永田 祐

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

本演習では、広い意味での「福祉」に関わる文献を購読する。その中でも、地域における福祉問題、ジェンダーと福祉の問題、国内外における福祉政策の国際比較、非営利組織やボランティアの活動に関わる理論、社会保障政策などに関心のある学生を歓迎する。初回の講義で学生の関心聞き、購読する文献を決定する。授業は、同様の関心のある学生のグループもしくは個人が毎講、担当した文献について発表し、受講生の議論によって進める。

【評価方法】

出席、授業への貢献度により総合的に評価する。

【テキスト】

初回授業時に決定する。

【参考文献・資料】

福祉に関する基本的な文献として、ウェルビーイング・タウン社会福祉入門（岩田正美・上野谷加代子・藤村正之著 有斐閣）の一読を薦める。

環境文化講読演習

楊 衛平

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

前期は薬膳の基礎知識に関する文献を講読し、その歴史背景及び理論構成を学ぶ。さらに、薬膳に用いる素材を調べ、それぞれの配合についての資料を収集・分類・整理するための能力を養成する。

1. 飲食と健康
2. 未病と予防
3. 薬膳の歴史
4. 医薬食同源
5. 薬膳の素材
6. 薬膳の処方
7. その他、各自の興味ある課題を取り上げる。

【評価方法】

文献資料講読・レポートなど総合的に評価する。

【テキスト】

中国薬膳大辞典を中心に抜粋したプリントを配布する予定。

【参考文献・資料】

中国薬膳大辞典（楊衛平他編集 MEK 出版局）
医心方（丹波康頼 筑摩書房）

環境文化講読演習

若松孝司

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自の関心と選択に沿った領域を選択し、当該分野の専門的テキストや資料を通して、それぞれの専門的な知識を深め、着実な問題意識を身につける。

【授業計画】

本演習では、主として政治学や社会学といった社会科学の観点から、さまざまな意味の「環境」にかかわる諸問題を検討する。

学期のはじめに、社会科学のものの考え方や分析方法を身につけるための文献を輪読する。その後、地球環境問題や経済開発をめぐる諸問題といった「環境」にかかわる問題について、受講生の興味・関心を考慮に入れた上で文献を決定し、輪読していく予定である。

演習では、個人あるいはグループで文献の担当箇所を精読し、あるいは与えられたテーマについて調査を行い、関連事項や参考文献を調べた上でレジュメを作成して発表を行う。その後、その発表に対して受講生全員が討論を行い、各自の理解を深めていく。

【評価方法】

出席状況、発表に対する取り組み、演習における発言状況、レポートの内容等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

環境政治への視点（賀来健輔・丸山仁編 信山社）
国際政治史としての20世紀（石井修 有信堂）
講座国際政治（1）国際政治の理論（有賀貞編 東京大学出版会）

環境文化特殊演習

杉浦信彦

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

既に獲得した当該専門領域に関する学問的知識をもとに各自の設定する研究テーマについて教育指導を行う。

1. オリエンテーション
2. 研究テーマの検討および研究計画の作成（要旨の提出）
3. 文献資料等の検索および収集。測定機器等の操作に必要な訓練指導についても併せて行う。
4. 研究結果の要旨作成および発表
5. 研究結果報告書の作成および提出

上記の学習を通して、その成果を次年度以後の卒業研究に資することを目標とする。

【評価方法】

研究レポートおよび発表成績等により総合評価する。

【テキスト】

使用せず。参考書籍等は授業時に指示する。

環境文化特殊演習

高橋啓介

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回～第4回 研究テーマの決定
- 第5回～第8回 研究報告1（文献研究報告1）
- 第9回～第12回 研究報告2（文献研究報告2）
- 第13回～第15回 卒業研究の研究計画報告

各自に4回の報告を行わせる。各報告は、作成したレジュメに基づき口頭で行う。

【評価方法】

出席状況、授業態度（20点）、各報告（レジュメと口頭発表）（10点×4）、卒業研究計画書（単位認定課題レポート）（40点）とし、60点以上を合格とする。

レジュメ、レポートの提出は原則として学内LANを利用する。

【テキスト】

特に定めない

【参考文献・資料】

必要に応じて授業内で指示する

環境文化特殊演習

多田萬里子

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

講読演習で習得した知識をもとに生命科学の分野から各自テーマを選びレポートを作成する。

1. テーマの設定
2. 資料の収集、関連文献の検索
3. 資料の整理、分析、評価
4. 論文にするための方法の検討
5. 口頭発表するための方法の検討
6. 論文の作成と口頭発表

【評価方法】

テーマについての進捗状況（随時行う）・レポート・口頭発表によって評価する。

【テキスト】

使用せず。

環境文化特殊演習

棚橋昌子

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

「講読演習」によって明確になった各自の関心を研究テーマに纏め上げ、論文に仕上げていく過程で必要となる調査法・測定法・実験法を習得する。

1. オリエンテーション
前期に提出したレポートの講評
2. 文献検索を行い、仮アウトラインを作成する（主要文献を入手）
3. 本アウトラインを作成し、レポートを提出する
個別指導により調査法・実験法を明確にする

【評価方法】

「特殊演習」では研究を進める過程が大切であるので、受講態度・発表・レポートの総合評価とする。

【テキスト】

特に指定しない。

環境文化特殊演習

永田忠夫

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

「環境文化講読演習」によって絞り込まれた自分の研究テーマを仮説・検証する研究計画として発展させていく。そのために文献研究を進め、研究目的を明確にし、仮説をうち立てる。さらにその仮説を検証するための資料収集が可能な段階（観察記録票や質問紙の作成など）まで進める。予備調査でできる状態、あるいは予備調査を実施し、それなりの結果の分析ができるまでをこの演習の目標とする。

ゼミ形式 [司会者が、レポーター、コメンテーター（発表者の研究が進展するように報告内容や質問・問題点を指摘する役）の発表を中心に、参加者全員で討論させるような授業運営方式] で実施する。

【評価方法】

与えられた課題の達成度、参加態度、出席率等を総合的に評価する。

環境文化特殊演習

永田 祐

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

講読演習で学んだ知識をもとに広い意味での福祉に関わる問題の中から各自がテーマを選び、レポートを作成する。各自の研究テーマの設定、問題を探求するための方法、結果のまとめ方と発表の方法について学ぶ。①研究の目的と概要、②中間（経過）報告、③結果についてそれぞれ学生が発表し、受講生全員で討議する。

【評価方法】

出席、授業への貢献度、レポートの完成度により総合的に評価する。

【テキスト】

テーマに応じて各自に指示する。

環境文化特殊演習

楊 衛平

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

講読演習で習得した薬膳の知識に基づいて、後期は病気別症状別の薬膳内容を纏め、現代社会の日常生活にどのように活用していけるかを、健康づくりの視野から各自のテーマを選びレポートを作成する。

1. 各自テーマを設定する
2. 資料と関連文献の収集
3. 資料の分析・評価整理
4. 論文を作成する方法論
5. 口頭発表の方法を検討
6. 現代社会の健康づくりに活用できる薬膳の知識を習得する。

【評価方法】

各自のテーマについての進展状況を把握し、具体的な内容については、レポート・口頭発表によって評価する。

【テキスト】

特に使用せず。

環境文化特殊演習

若松孝司

【授業の概要】

専任教員が担当し、各論科目及び創造原理科目から各自が選択した領域において、「環境文化講読演習」で得た問題意識や専門的知識を自己学習のレポートに基づく演習によって具体化する。

【授業計画】

本演習では、前期の環境文化講読演習で学んだ社会科学の知識をもとに、受講生各自の興味、関心にそったテーマを決定し、それについて調査する。

学期の初めは環境文化講読演習と同様に社会科学的視点から「環境」を論じた文献を精読する。その後、受講生の調査・研究の進捗状況により、個人あるいはグループによる研究発表を行い、討論する。必要に応じて、授業時間以外にサブ・ゼミを行って発表・報告の準備をすることが要求される。

【評価方法】

出席状況、発表に対する取り組み、授業における発言状況等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

環境文化研究 I

杉浦信彦

【授業の概要】

「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

健康科学および衛生学に関連する分野から、各自が学問的関心に基いて選定した研究テーマを、卒業研究の準備学習課題として位置づけ、綿密な教育指導を行う。

1. オリエンテーション。
2. 研究テーマの検討および選定。
3. 研究計画の検討（予備実験・調査法等の立案）。
4. 文献検索および資料収集。
5. 文献・資料の整理および分析。
6. 予備実験・調査の実施及び結果の整理。
7. 研究結果の中間報告書レポートの提出。

【評価方法】

授業への出席、受講姿勢、レポートにより総合評価する。

【参考文献・資料】

適時紹介・配付する。

環境文化研究 I

高橋啓介

【授業の概要】

「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回～第6回 研究計画の報告
- 第7回～第10回 予備実験、予備調査の報告
- 第11回～第15回 「序論」の作成

各自に3回の報告を行わせる。各報告は、作成したレジュメに基づき口頭で行う。

【評価方法】

出席状況・授業態度（20点）、各報告（レジュメと口頭発表）（10点×3）、「序論」下書き（単位認定課題レポート）（50点）とし、60点以上を合格とする。

レジュメ、レポートの提出は原則として学内LANを利用する。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

必要に応じて授業内で指示する。

環境文化研究 I

多田萬里子

【授業の概要】

「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

各自が設定した研究課題について指導する。

1. テーマの設定 研究目的の明確化と研究計画
2. 関連文献の調査と整理
3. 実験、調査など研究方法の検討
実験技術の習得
4. データの収集、結果の分析と評価
5. 論文の構成要素、アウトラインの作成
6. 口頭発表による研究報告

【評価方法】

随時進捗状況を報告する

研究結果、論文・口頭発表によって評価する

【テキスト】

使用せず

環境文化研究 I

棚橋昌子

【授業の概要】

「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

3年次の成果をもとに、研究テーマに関する文献検索・文献講読を進める。さらに研究テーマについて、科学的仮説を明確にして、調査および実験計画をたて、パイロットスタディを経て、本調査および本実験を行う。

1. オリエンテーション
2. 個別指導により、科学的仮説を明確にする
3. パイロットスタディによるレポート作成
4. 本調査および本実験
5. データ解析
6. レポート提出および発表（論文の中間報告）

【評価方法】

論文に仕上げていく大切な時期である。

レポートと発表等受講態度の総合評価とする。

【テキスト】

特に使用しない。

環境文化研究 I

永田忠夫

【授業の概要】

「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

文献研究に基づく各自の研究目的の明確化と仮説を検証する資料収集と実施する段階の授業である。予備調査・予備実験・予備観察等の経過をふまえて、仮説を検証するにふさわしい本調査・実験等を行う。

ゼミ形式で各自の研究が進展するように相互に討論しあう授業形態と、各自の研究指導をする個別指導の形態とミックスさせる。

後期の「環境文化研究Ⅱ」で卒業研究レポートで完成させるために、収集したデータを分析する段階でもあるので、授業時間外の自己学習時間が多く必要とされる。

【評価方法】

ゼミ形式の授業における討論参加の積極性と、自己学習における成果によって評価する。

環境文化研究 I

永田 祐

【授業の概要】

「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

卒業論文作成に向けた指導を行う。3年次に決定したテーマ及び仮説に基づいて調査を行い、各自の成果を発表し、進捗状況に応じて個別に指導する。

【評価方法】

出席、研究内容、授業への貢献を総合的に評価する。

【テキスト】

個別に指定する。

【参考文献・資料】

個別に指定する。

環境文化研究 I

楊 衛平

【授業の概要】

「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

前期の勉強・講読に基づいて、研究・調査の成果をまとめ、研究計画を立てる。

1. テーマの設定に従い、更に、研究目的を明確させる。
2. 文献の収集・整理・分析・分類を実施する。
3. 論文の構造及び書き方・参考文献の引用法を習得する。
4. プレゼンテーションのための資料を作成する。
5. 口頭発表などによる討論・評価を繰り返して行う。

【評価方法】

レポートなどのプレゼンテーションによって評価する。

【テキスト】

使用せず。

環境文化研究 I

若松孝司

【授業の概要】

「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」における成果を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

3年次に履修した「環境文化講読演習」「環境文化特殊演習」にひきつづき、各自の研究テーマに基づいて卒業論文作成のための学習を深めていくことを目標とする。

演習においては、3年次と同様、個人あるいはグループで与えられた文献の担当箇所を精読し、あるいは与えられたテーマについて調査を行う。その上で関連事項や参考文献を調べてレジュメを作成し、それをいながら発表を行う。また、それと同時に、受講生各自の研究・卒業論文の進捗状況の報告と、それに対する指導教員のアドバイスを軸に進めていく。

【評価方法】

出席状況、発表に対する取り組みや演習における発言状況とともに、卒業論文に対する取り組みについて総合的に判断して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

環境文化研究Ⅱ

杉浦信彦

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

前期開講の「環境文化研究Ⅰ」において習得した学習成果をもとに、最終目標である「卒業研究レポート」の作成に向けて研究活動を継続する。

1. 予備実験・調査研究結果の問題点の整理および検討。
2. 資料および文献の補足収集・検索。
3. 本実験・調査の実施および結果考察。
4. 研究結果報告書（卒業研究レポート）の作成。
5. 研究要旨の作成および発表。
6. 卒業研究レポート提出。

【評価方法】

提出された卒業研究レポートおよび発表により総合評価する。

【参考文献・資料】

適時紹介・配付する。

環境文化研究Ⅱ

高橋啓介

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回～第6回 「方法」「結果」の報告
- 第7回～第10回 「考察」「討論」の報告
- 第11回～第13回 個別指導
- 第14回・第15回 レジュメの作成

各自に2回の報告を行わせる。各報告は、作成したレジュメに基づき口頭で行う。

全員「卒業論文」あるいは「卒業制作」を提出し、「卒業プロジェクト」の単位を取得することを義務づける。さらに、「卒業論文」「卒業制作」の概要をレジュメにまとめ公開されるレジュメ集に投稿することを義務づける。

【評価方法】

出席状況、授業態度（20点）、各報告（レジュメと口頭発表）（15点×2）、卒論、卒制レジュメ（50点）とし、60点以上を合格とする。

レジュメの提出は原則として学内LANを利用する。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時間内で指示する。

環境文化研究Ⅱ

多田萬里子

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

研究の成果をまとめ卒業レポートを完成させるための指導をする。

1. データの整理、分析、評価、考察
2. 論文の書き方、参考文献の引用法
3. 論文の要旨の作成
4. プレゼンテーションのための資料の作成
5. 口頭発表と全員による討論

【評価方法】

研究レポートとプレゼンテーションによって評価する

【テキスト】

使用せず

環境文化研究Ⅱ

棚橋昌子

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

各自の研究テーマに関する文献考察を行い、不備な部分を補う。研究テーマに関する本調査および本実験の解析結果をみて、補足調査および補足実験を行い、論文を完成させる。

1. オリエンテーション
2. 個別指導により論文を完成させる
3. 論文発表会（ゼミ合宿）
4. 最終論文提出

【評価方法】

論文により評価する

【テキスト】

特に指定しない

環境文化研究Ⅱ

永田忠夫

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

各自の研究を卒業研究レポートとして提出する段階である。

科学的な実証方法で、仮説を証明する流れをきちんと守り、実行して、報告する。

個別指導が中心となる。

【評価方法】

卒業研究レポートの良否が評価対象となる。

環境文化研究Ⅱ

永田 祐

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

各自の進捗状況に応じて問題の設定、調査、調査結果のまとめについて毎回発表し、議論する。問題設定の方法、調査の方法、調査結果のまとめ方について個別に指導する。

【評価方法】

従業への出席、貢献度及び卒業レポートの内容で評価する。

【テキスト】

各自個別に指定する。

【参考文献・資料】

各自個別に指定する。

環境文化研究Ⅱ

楊 衛平

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

各自の設定したテーマによって、研究内容・卒論の作成についての指導を行う。

1. 関連文献の検索・収集・整理を行う。
2. 薬膳の資料を症状別に分類し、薬膳の実際を検討する。
3. 収集したデータの整理・分析・評価・選択を実施する。
4. 論文の構成要素を纏める。
5. 口頭発表などによる研究報告を行う。

【評価方法】

随時に進展状況をチェック、レポートの形で研究結果を発表する。

【テキスト】

使用せず。

環境文化研究Ⅱ

若松孝司

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」における自己学習を踏まえ、各専任教員の個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指し、卒業研究レポートとして提出する。

【授業計画】

3年次の「環境文化購読演習」「環境文化特殊演習」、4年前期の「環境文化研究Ⅰ」にひきつづき、各自の研究テーマに基づいて卒業論文作成のための学習を深めていくことを目標とする。

演習においては、受講生各自の研究・卒業論文の進捗状況の報告と、それに対する受講生による討論を基本とする。

【評価方法】

出席状況、発表に対する取り組みや演習における発言状況とともに、卒業論文に対する取り組みについて総合的に判断して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

環境文化卒業プロジェクト

杉浦信彦 高橋啓介 多田萬里子 棚橋昌子
永田忠夫 楊 衛平 若松孝司

【授業の概要】

「環境文化研究Ⅰ」で立案し設定したテーマないしは独自に設定した当該領域のテーマを、専任教員の指導のもとに問題意識や創造的意匠を深めながら、卒業論文ないしは卒業制作として完成させる。評価は専攻の専任教員によって行う。

【授業計画】

本授業は「環境文化研究Ⅱ」の教科担当者によって、原則的に指導される。授業内容は「環境文化研究Ⅱ」に準じ、また担当者の指示によって適宜行われる。

【評価方法】

「環境文化研究Ⅰ」で計画された研究・制作および活動を対象とし、「環境文化研究Ⅱ」での研究および制作を総合的に評価して履習単位が与えられる。

【テキスト】

担当者の指示による。

【参考文献・資料】

担当者の指示による。

教職入門

梅村敏郎

【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学校の実体を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審、教課審の答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

【授業計画】

1. 社会構造の変化と教育の役割の変化
2. 偉大な教育者に学ぶ
3. 日本における教員養成
4. 日本の民主化と教育
5. 現代社会と教育
6. まとめ

【評価方法】

筆答試験による。

【テキスト】

「教職入門」300円

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

教育原理

佐藤実芳

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思いうかべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。本講義では、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業計画】

1. 教育とは何か
2. 人間と教育
3. 教育の本質
4. 教育の目的
5. 現代の教育

【評価方法】

試験、レポート、受講態度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

教師論

佐藤実芳

【授業の概要】

日本における明治維新以降の教員養成制度について、教員免許・資格、教員に求められていた資質等の歴史を学習する。

多様化と個性化、国際化、情報化、高学歴化等の現代社会の急激な社会変化の中において期待される教員像を求め、学生の被教育体験を交えて模索することによって、教職への理解を深め、目的意識をもって教職への道を歩む人材の育成を目指す。

【授業計画】

1. 日本における教員養成の制度
 - (1) 教員養成の歴史と現在 (2) 教職課程の仕組 (3) 教員の採用
2. 教師について考える
 - (1) 教科指導 (2) 生徒指導 (3) 教員の研修
3. 種々な教師に学ぶ

【評価方法】

レポート、受講態度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

教育思想史

梅村敏郎

【授業の概要】

教育は、人間の本質的な営みの一つであって、既に古代から哲学者や思想家の考察の対象となってきた。これらの思想は、思想家たちが生きた時代や文化の主要な潮流や思想家自身の思考方法の特徴によって極めて多様な思想や理論が形成された。

この授業では、古代から現代まで各時代を代表するような偉大な教育思想を時代順に辿るのではなく、現代の教育についての基本的な考え方や主要な概念に直接的な影響を与え、そのため現代教育と直接的なつながりを持つと思われる17世紀のコメニウスを出発点として、それ以後今日に至るまで最も重要と考えられてきた教育者たちの思想を取り上げる。

その際、学生はそれらの思想についての他人の解釈や解説を聴くことも必要ではあるが、むしろそれらの思想と直接に対決することがより大切である。

専門的な研究者にとっては、それらの思想はそれが書かれた元の言語で読まれるべきであろうが、初歩の学生はまずそれらの書物の良い日本語訳によって、これらの思想に直接触れることが必要である。

【授業計画】

1. 教育思想史を勉強することの意義
2. 教育思想史を17世紀から取り扱う理由
3. コメニウス
4. ルソー
5. ベスタロッチ
6. ヘルバルト
7. フレーベル
8. デューイ

【評価方法】

評価はレポートの提出、あるいは資料持ち込み自由の筆答試験による。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。

【参考文献・資料】

参考文献は授業中に適宜紹介する。

欧米教育文化史

渡辺かよ子

【授業の概要】

欧米教育文化史における「近代化」とは具体的に何を意味するのか、という点に焦点をあて、欧米教育・文化の全体的・構造的な変遷過程に着目しつつ、比較教育史的なアプローチを試みる。

【授業計画】

1. 欧米教育文化史の視点と課題
2. 中世後期の欧米教育文化とルネサンス、宗教改革
3. 近代教育文化の生誕と展開（啓蒙思想と市民革命、産業革命）
4. 大学の誕生と展開
5. 西洋的教養と学校制度の確立

【評価方法】

レポート。

【テキスト】

教養の復権（沼田裕之他 東信堂）

【参考文献・資料】

その都度指示する。

教育心理学Ⅰ

小池理穂

【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達の様子を概観し、発達課題について考えると共に、障害児への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的とした。

【授業計画】

1. 教育心理学を学ぶということ
 - ・教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 発達について考える
 - ・生涯発達の視点
 - ・障害の意味と発達可能性
 - ・発達段階と発達課題
 - ・認知の発達
3. 学習の過程を考える
 - ・学習の成立過程
 - ・学習における知識の役割
 - ・学習意欲を育てる
 - 外発的動機づけと内発的動機づけ/原因帰属をめぐって/知的好奇心の喚起/報酬の意味/目標のありかた

【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育心理学Ⅱ

冨安玲子

【授業の概要】

人間を発達可能性のある存在として生涯発達の視点から考えながら、一人ひとりが自分の教育観・発達観の基礎づくりをすることを目的にした。自己意識の発達などのプロセスを辿りながら、教育的働きかけとの関わりを考え、今日的課題への理解を深めると共に、自分自身の自己形成のプロセスへの関心も深め、自己理解を促進していくことも視野に置いて学んでいく。

【授業計画】

1. 発達の心理学を学ぶ/発達の心理学から学ぶ
2. 青年期の意味
3. 発達と教育
4. 「自分」の諸相
5. 「自分でない」世界の認識から
6. 第一「反抗」期の意味
7. 自我と他我
8. 他律的規範への順応
9. 第二の誕生
10. アイデンティティの確立
11. 生涯発達の視点と生き方
12. 自分探しの旅と人間関係

【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

障害児の教育

加藤文子

【授業の概要】

障害児についての基本的理解をし、障害児の教育的環境、福祉施設の役割などの実情を理解する。また、就学指導の仕組みを理解し、特別支援教育の現状と課題を認識する。

【授業計画】

- 1 心身障害児の理解
- 2 心身障害児の種類と程度
 - 心身障害児とは
 - 学校教育で対象とする障害児と児童福祉施設で対象とする障害児
 - 視覚・聴覚・肢体不自由・知的障害・病弱・虚弱児等の程度と発生原因
 - 言語障害・情緒障害・重複障害児の発生原因と教育
- 3 心身障害児の早期教育、後期中等教育の重要性
 - なぜ早期発見、早期教育が必要か
 - 社会自立に向けた後期中等教育の重要性
- 4 心身障害児の就学指導の仕組み
- 5 心身障害児（者）教育の歴史
 - 心身障害児（者）教育を開拓した人々
 - 心身障害児（者）教育の歴史的変遷
- 6 まとめ

【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・期末試験の成績により総合的に評価する

【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する

教育制度

佐藤実芳

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の典型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業計画】

1. 教育制度の意義
2. 現代学校教育制度の起源
3. 学校教育制度の類型
4. 日本の学校教育制度
5. 教育法規
6. 外国の学校教育制度

【評価方法】

試験、受講態度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

教育課程

梅村敏郎

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)を学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

【授業計画】

1. 教育課程とは
 - (1) 教育課程の原理と理論
 - (2) 教育課程の構造と種類
 - (3) 教育課程の歴史の変遷
2. 諸外国の教育課程の概観
3. わが国の教育課程
 - (1) 戦前の教育課程の構造
 - (2) 戦後の教育課程の構造
 - (3) 現在の中学校・高等学校の教育課程
4. まとめ

【評価方法】

中間小テスト(レポート)及び期末考査

【テキスト】

教育課程(資格教育センター編 300円)

【参考文献・資料】

中学校学習指導要領(文部省)
高等学校学習指導要領(文部省)

比較教育論

渡辺かよ子

【授業の概要】

進展する国際化・情報化の中にあつて、人間は次世代にどのような夢や願いを託すことができるのか。教育は、自らが社会問題であると共に、貧困や不平等など現代の社会問題に対する有力な解決方策でもある。本講では、日本を含む各国の教育と全世界的教育の状況の比較研究を通じて、日本の教育の特徴と現代教育の課題を明らかにしていく。

【授業計画】

1. 比較教育学の基礎理論
2. 社会発展論と教育
3. 近代化と各国の教育制度(識字と就学)
4. 「発展途上」国と「先進」国の教育の実態
5. 近現代日本の教育制度の成立と特徴
6. 文化と教育、異文化交流としての教育
7. 人権としての教育
8. 比較教育と教育改革

【評価方法】

試験とレポート。

【テキスト】

使用せず。(資料配布)

【参考文献・資料】

比較国際教育学(石附実編著 東信堂)
世界の学校(二宮皓編著 福村出版)
多文化教育(中島智子編著 明石書店)
学歴社会 新しい文明病(ドーア著 岩波書店)
外国の教科書と日本(吉沢柳子著 丸善ブックス)
比較高等教育論(アルトバック著 玉川大学出版部)
被抑圧者の教育学(フレイル著 亜紀書房)
情報消費型社会と知の構造(中西新太郎 旬報社)
国際歴史教科書対話(近藤孝弘著 中公新書)
教育の比較文化誌(石附実著 玉川大学出版部)
比較教育学の理論と方法(シュリーバー編著 東信堂)

教育課程

小栗正彦

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)を学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

【授業計画】

1. 教育課程とは
 - (1) 教育課程の原理と理論
 - (2) 教育課程の構造と種類
 - (3) 教育課程の歴史の変遷
2. 諸外国の教育課程の概観
3. わが国の教育課程
 - (1) 戦前の教育課程の構造
 - (2) 戦後の教育課程の構造
 - (3) 現在の中学校の教育課程の改正の趣旨と構造
 - (4) 現在の高等学校の教育課程の改正の趣旨と構造
4. 総合的な学習の時間の設定の趣旨と具体的な展開
5. まとめ
 - (1) 教育課程研究と教師
 - (2) 望ましい教育課程の展開

【評価方法】

中間小テスト(レポート)及び期末考査

【テキスト】

教育課程概説(資格教育センター編 300円)

【参考文献・資料】

中学校学習指導要領(文部省)
高等学校学習指導要領(文部省)

国語科教育法Ⅰ

佐々木亜紀子

【授業の概要】

中学校学習指導要領には、「国語」の教科目標として、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。」とある。この目標を正しく理解して、高等学校あるいは中学校生徒にいかにか教えるかを考える授業にしたい。具体的には、教材研究の方法、学習指導案の作成方法、板書方法、授業の進め方、評価の方法などを学び、教育現場に対応し得る力を養う。

【授業計画】

- 1 講 導入
国語科教育の概観
新・学習指導要領における国語科教育の目標
- 2 講 学習指導案の作成方法
- 3～5 講 「論説文」(中学校)の学習指導
(教材研究・指導案・授業・評価などの方法)
- 6～8 講 「短歌」(高等学校)の学習指導
(同上)
- 9～10 講 古典導入教材の学習指導 (中学校)
(同上)
- 11～12 講 古文導入教材の学習指導 (高等学校)
(同上)

【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容との平常点、及び単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

新版 中学校高等学校国語科学習指導の研究
(大田勝司他編 双文社)

【参考文献・資料】

高等学校学習指導要領解説 国語編
中学校学習指導要領解説 国語編

国語科教育法Ⅱ

佐々木亜紀子

【授業の概要】

中学校学習指導要領の趣旨に沿って、国語を正確に理解し、適切に表現する能力を高めるためにどのような授業を行えばよいのか、中学校の教科書を用い、学習指導案の作成と模擬授業を行いながら、具体的・実践的な指導法を研究する。

【授業計画】

- 1 講 導入 新・学習指導要領における中学校の国語科教育
- 2・3 講 「説明文」「俳句」教材の学習指導
(教材研究・指導案・授業・評価などの方法の研究)
- 4～7 講 「評論」「ルポルタージュ」「随想」教材の学習指導
(教材研究・指導案・授業・評価などの方法の研究と模擬授業)
- 8～10 講 「小説」教材の学習指導
(同上)
- 11～12 講 「漢詩」教材の学習指導
(同上)
- 13 講 「言語活動例」を用いた学習指導
(同上)

【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容との平常点、及び単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

実践的国語科教育法—新・学習指導要領準拠—
(原國人編 新典社)

【参考文献・資料】

中学校学習指導要領解説 国語編

国語科教育法Ⅲ

佐々木亜紀子

【授業の概要】

高等学校学習指導要領の趣旨に沿って、国語への関心を高め、表現力を伸ばし、日本の文化と伝統について理解を深める総合的な国語教育の在り方を求め、高等学校の教科書を用い、学習指導案の作成と模擬授業を行いながら、具体的・実践的な指導法を研究する。

【授業計画】

- 1 講 導入
新・学習指導要領における高等学校の国語科教育
- 2～3 講 『国語総合』「小説」の学習指導
(教材研究・指導案・授業・評価などの方法と研究)
- 4～7 講 『国語総合』古文教材の学習指導
(教材研究・指導案・授業・評価などの方法の研究と模擬授業)
- 8～11 講 『古典』漢文教材の学習指導
(同上)
- 12～13 講 「総合的な学習」と国語科
(同上)

【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容との平常点及び単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

実践的国語科教育法—新・学習指導要領準拠—
(原國人編 新典社)

【参考文献・資料】

高等学校学習指導要領解説 国語編

英語科教育法Ⅰ

大野清幸

【授業の概要】

中学校及び高等学校の学習指導要領に準拠し、英語科教育法について目的論、技能論、方法論を中心にして、日本における英語教育の歴史、諸外国における言語政策と英語教育、マルチメディアを活用した英語教育等の話題を含めて、英語教育の在り方を考察する。

【授業計画】

- 1 授業計画指示など 必ず出席すること!
- 2 日本の英語教育の目的と現状、日本における英語教育の歴史
- 3 言語習得の原理と各種教授法
- 4 学習指導要領と英語科教育法
- 5 諸外国の言語政策と英語教育
- 6 マルチメディア活用の可能性と課題
- 7 ListeningとSpeakingの指導
- 8 ReadingとWritingの指導
- 9 Team-teaching
- 10 英語評価
- 11 学習指導案における指導課程の構成
- 12 中学校の英語授業と学習指導案の書き方
- 13 高等学校の英語授業と学習指導案の書き方
- 14 教育実習の意義

【評価方法】

出席状況、授業態度を厳しく評価する。模擬研究授業を実施する。

【テキスト】

現代の英語科教育法：改訂版 (大沢茂他編著 南雲堂)
中学校学習指導要領解説—外国語編— (文部省 東京書籍)
高等学校学習指導要領解説—外国語 (英語) 編— (文部省)

【参考文献・資料】

※授業・課題などにおいて、電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

英語科教育法Ⅱ（2003年度以降入学者対象）

古井雅子

【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って実践的コミュニケーション能力の基礎を育成するために、特に入門期でどのような指導をすればいいかを中心に教育方法を考える。授業は、入門期の英語教育の意義や効果的な指導法、授業計画、指導案の書き方、教材・教具研究などの講義と、入門期の学習者が楽しめる英語教育を行うためのワークショップから構成される。

【授業計画】

1. オリエンテーション：入門期の英語教育について
2. 英語教授法と現在の英語教育
3. 学習指導要領と英語科教育法
4. 英語教科書（中学校）の分析と検討
5. 英語教科書（高校）の分析と検討
6. 情報通信ネットワークと英語教育
7. マルチメディアと英語教育
8. 教材研究とティーチングプラン作成
9. 模擬授業（1）
10. 模擬授業（2）
11. 模擬授業（3）
12. 模擬授業（4）
13. 英語教育の諸問題と課題

【評価方法】

テスト、出席状況、授業参加態度、課題レポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

英語科教育実習ハンドブック
(米山朝二・杉山敏・多田茂 大修館書店)

英語科教育法Ⅱ（2002年度以前入学者対象）

古井雅子

【授業の概要】

中学校学習指導要領の趣旨に沿って、特に必要性が高まっている国際理解とコミュニケーション能力を育成するためには、中学校において、どのような授業を行えばよいのか、中学校の教科書を用い、学習指導案の作成と模擬授業を行いながら、具体的・実践的な指導法を研究する。

【授業計画】

1. 学習指導要領と英語科教育法
2. 中学校英語教育と高等学校英語教育の展開
3. 英語Ⅰ・Ⅱの指導
4. オーラルコミュニケーションの指導
5. ライティング、リーディングの指導
6. 国際理解教育と英語教育
7. マルチメディアと情報通信ネットワークの活用方法
8. 英語教科書と言語活動
9. 高等学校英語授業と学習指導案
10. 授業の観察と分析
11. 教育実習に向けて
12. 英語教育の諸問題と課題

【評価方法】

出席状況、授業参加態度と課題等により総合的に評価する。

【テキスト】

英語科教育実習ハンドブック
(米山朝二・杉山敏・多田茂 大修館書店)

英語科教育法Ⅲ

影戸 誠

【授業の概要】

高等学校学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力を育成することに主眼をおいて、生徒の多様化した高等学校において英語教育を効果的に行うにはどのようにするか、高等学校の教科書を用い、学習指導案の作成と模擬授業を行いながら、具体的・実践的な指導法を研究する。

【授業計画】

- 第1回 英語の授業、海外では？(ESL)
- 第2回 ある生徒の英語プレゼンテーション
- 第3回 教員とインターネットリテラシー
- 第4回 コミュニケーションとしての英語
- 第5回 国際交流と英語
- 第6回 総合学習と英語教育、高校・大学との連携
- 第7回 生徒になってプレゼンテーション
- 第8回 他大学英語科教員養成課程とのオンラインプレゼンテーション
- 第8回 授業でのインタラクション
- 第9回 模擬授業 ロールプレイ1
- 第10回 模擬授業 ロールプレイ2
- 第11回 教師としてのプレゼンテーション1
- 第12回 教師としてのプレゼンテーション2

【評価方法】

ネットワークを通して情報共有を行い、提出された「まとめ・作品」を日常点として評価する。ネットワークに蓄積される学生相互の評価も参考とする。

【テキスト】

実践・プレゼンテーション（影戸 誠・渡辺浩行著 日本文教出版）

【参考文献・資料】

よりよい英語授業を目指して（斎藤英二・鈴木寿一編著 大修館書店）
翼をもったインターネット（影戸誠著 日本文教出版）
国際交流マニュアル（影戸誠編著 日本文教出版）

道徳指導法

加藤文子

【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探求する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史の変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実践についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

【授業計画】

1. 道徳と道徳教育
2. 児童・生徒を生かす道徳教育
3. 公教育における道徳教育の歴史
・明治5年学制公布から明治23年教育勅語発布までの過程
・戦後の道徳教育の変遷
4. 道徳性の発達理論と学校道徳教育
5. 学校における道徳教育の実践
・道徳教育の目標
・道徳教育の内容
・「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成
・「道徳の時間」の指導の実際、VTR視聴
・まとめ

【評価方法】

期末試験の成績に、毎時間の出席状況、授業中の態度、課したレポート内容を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

講義資料を配布

特別活動指導法

不破民由

【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察する。そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習目標とする。

【授業計画】

1. 自由度の高い特別活動の可能性
 2. 特別活動の歴史の変遷
 3. 学級活動
 4. 生徒会活動
 5. 学校行事
 - (1) 儀式的行事 (2) 学芸的行事 (3) 健康安全・体育的行事 (4) 遠足・集団宿泊的行事 (5) 勤労生産・奉仕的行事 等
- 以上の内容の他に、各自のサークル、ゼミ、学園祭等の大学における活動を話題として取り入れる。

【評価方法】

数回のレポート

【テキスト】

どくどくマンボウ青春記 (北杜夫 新潮文庫)

【参考文献・資料】

特別活動 (高旗正人・倉田侃司編著 ミネルヴァ書房)
教科外活動を創る (折出健二他編 労働旬報社)
<教育>の誕生 (フリップ・アリエス 中内敏夫・森田伸子訳 新評社、藤原書店)
<子供>の誕生 (フリップ・アリエス 杉山光信・杉山恵美子訳 みすず書房)
教養主義の没落 (竹内洋 中公新書)
立身出世主義 (竹内洋 NHKライブラリー)
立志・苦学・出世 (竹内洋 講談社現代新書)
日本の近代12 学歴貴族の栄光と挫折 (竹内洋 中央公論新書)
近現代日本の教養論 (渡辺かよ子 行路社)
学級経営の歴史 (志村廣明 三省堂)
「勉強」時代の幕開け (江森一郎 平凡社)
運動会と日本近代 (吉見俊哉他編 青弓社)
教育には何ができないか (広田照幸 春秋社)
近代日本の公民教育 (松野修 名古屋大学出版会)
教育に関する私の方法叙説 (不和de民由 新風舎)

他

学級経営

前田勝洋

【授業の概要】

学級崩壊、担任不信等学校を取り巻く教育環境が問題となっている今日の教育状況を正しく理解し、学級担任として、どのように生徒に接したらよいか、どのようにして生徒の信頼を回復するのか探求するとともに、楽しい、生き生きとした学級作りを具体的な事例から求めて行きたい。

【授業計画】

小学校・中学校の学級経営事例に学びながら、教師の資質向上を図る方策を探って行きたい。

- (1) 学級づくりと学級こわしの関係
- (2) 生徒理解と学級担任の役割
- (3) 共感的学級経営の実践
- (4) 成就型教育観と参加型教育観
- (5) 学級担任と言葉の問題
- (6) カルテ (個人記録) と一人ひとりを生かす経営

以上のような視点を軸にしながら、互いに事例について意見交換を行うなど、担任教師としての資質を磨きたい。

【評価方法】

毎回の受講感想レポートと「事例に対する意見記述」を中心に行いたい。

【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

教育方法

東浦信博

【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供の理解を深め、子供の立場に立つて教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

【授業計画】

1. 人間回復の学力と教師の在り方
 - (1) 中学・高校における学力論と教師論の検討
 - (2) 生徒の思考の発展を目指す授業方法
 - (3) 生徒の自主的な学習を育てる学習指導法
 - (4) 生徒の側に立った学習指導技術
2. 情報機器及び教材の活用方法
 - (1) 情報機器の特色とその効果的な利用方法
 - (2) 視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法
 - (3) メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
3. 学習者にとって個を生かす学習集団とは
 - (1) 多様化した生徒への対応の仕方
 - (2) 中学校における個を生かす学習集団
 - (3) 高等学校における個を生かす学習集団

【評価方法】

資料持込可の論述式定期試験。

【テキスト】

教育の方法、技術を学ぶ。(福村出版 ¥1,700)

教育方法

霜田一敏

【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供理解を深め、子供の立場に立つて教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

【授業計画】

1. 人間回復の学力と教師の在り方
 - (1) 中学・高校における学力論と教師論の検討
 - (2) 生徒の思考の発展を目指す授業方法
 - (3) 生徒の自主的な学習を育てる学習指導法
 - (4) 生徒の側に立った学習指導技術
2. 情報機器及び教材の活用方法
 - (1) 情報機器の特色とその効果的な利用方法
 - (2) 視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法
 - (3) メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
3. 学習者にとって個を生かす学習集団とは
 - (1) 多様化した生徒への対応の仕方
 - (2) 中学校における個を生かす学習集団
 - (3) 高等学校における個を生かす学習集団

【評価方法】

学生の積極的な授業参加と毎時提出するミニレポート、期末に行う論文試験等によって評価する。

【テキスト】

子どもの側に立つ授業論 (霜田一敏著 明治図書 2,370円)

生徒指導（進路指導を含む）

小栗正彦

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。

進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。

これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

【授業計画】

1. 生徒指導

現代社会における構造変化に注目し生徒指導を考える。

- (1) 社会集団の教育機能の低下と学校における生徒指導の役割
- (2) 青少年非行と矯正教育
- (3) 中学校における生徒指導の在り方と留意点
- (4) 高等学校における生徒指導の在り方と留意点

2. 進路指導

進路指導の基本理念及びその目的を学習する。

- (1) 進路指導における教員の在り方と留意点
- (2) 進路に関する情報伝達と進路相談
- (3) 中学校における進路指導の在り方と留意点
- (4) 高等学校における進路指導の在り方と留意点

【評価方法】

期末試験の成績と、レポートの評価及び出席率を総合する。

【テキスト】

生徒指導論の試み（300円）

教育相談（カウンセリングを含む）

小池理穂

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 教師と生徒の人間関係
 - ・「自分」は他者との関係の中で育つ
 - ・教師-生徒の相互影響過程
 - ・生徒理解
3. 教育相談
 - ・学校における教育相談
 - ・教育相談の位置づけ
 - ・教育相談の特質
 - ・教育相談の進め方
 - ・カウンセリングの基礎
4. 学校という生活環境と適応
 - ・適応と不適応
 - ・問題行動のとらえ方とその対応
 - ・学校への不適応を考える
 - ・非行・いじめを考える

【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育相談（カウンセリングを含む）

富安玲子

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 「自分」は他者との関係の中で育つ
3. 教師-生徒の相互影響過程
4. 生徒理解
5. 学校における教育相談
6. 教育相談の進め方
7. 相談とカウンセリング
8. 適応と不適応
9. 問題行動のとらえ方とその対応
10. 不登校を考える
11. いじめを考える
12. 非行を考える

【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

カウンセリング

富安玲子

【授業の概要】

我々が人の話を傾聴するとき、その話を自分にとって都合のよいように切り取って聞いているか、反対に自分に都合の悪い部分を切り捨てて聞いているか、という事実がある。そうした事実を体験的に理解するために試行カウンセリングを行い、傾聴の際の学生が陥りやすいタイプを学ばせたい。従来、ロジャースのいう受容、共感、自己一致の中でも受容と共感に力点が過重に置かれすぎてきたように思われるので、自己一致の重要性を伝えていきたい。

【授業計画】

「教育相談」での学習を更に進めて、実習を取り入れながら、「聴く」ことの意味と「聴く」人である自分について考えていきたい。

1. 教育相談とカウンセリングを巡って
2. カウンセリングの歴史
3. カウンセリングの人間観
4. カウンセリングの理論
5. カウンセラーに必要な基本的態度・行動
6. 共感的理解のエクササイズ
7. 正確に「聴く」とは
8. カウンセリングの実例
9. 話しやすきの源は聴き上手：かかわり技法
10. 応答訓練
11. ロールプレイ
12. カウンセリングにおける諸問題

【評価方法】

期末試験とロールプレイ・レポートに、授業への出席・関与度を加えて評価する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

総合演習

梅村敏郎 富安玲子 佐藤実芳 加藤文子
霜田一敏 渡辺かよ子 小栗正彦

【授業の概要】

社会構造や家族構造の変化する現代社会において、青少年をとりまく現実的な課題について分析及び検討することにより、総合的な見地に立って未来に生きる中学生、高校生をどのように教育するか、その方法を探究し、総合的な指導力を備えた教員の育成をめざし、次の7テーマに別れて演習を行なう。(各テーマ20名以内)

- (1) いじめ問題 (梅村敏郎)
- (2) 福祉-障害のある人も健全な人も共に生きるコミュニティについて- (加藤文子)
- (3) 社会と子育て (佐藤実芳)
- (4) 高齢者福祉の実態と未来 (霜田一敏)
- (5) ジェンダーと教育 (富安玲子)
- (6) 生涯学習における学校 (渡辺かよ子)
- (7) みんなの学校問題 (小栗正彦)

【授業計画】

※印は後期日程 (於 星ヶ丘)

1. 全体、各テーマ別 8月6日 ※1月28日
 - (1) 総合演習とは、これからのすすめ方
 - (2) 各テーマの概要説明 (各担当者)
 - (3) 希望テーマ提出、テーマ別編成
 - (4) 各テーマ別に課題設定と学習法の指導
2. 8月27日 ※2月18日
課題レポートの提出 (必要部数の印刷)
3. 各テーマ別 9月3日 ※2月25日
 - (1) 課題レポートについて報告 (1人10~15分)
 - (2) 質疑応答、問題点について討議
4. 各テーマ別 9月10日 ※3月4日
 - (1) 問題点について分析検討
 - (2) グループとして課題について整理、代表者の選出
5. 全体 9月17日 ※3月11日
 - (1) グループ代表者の発表 (1名15~20分)
 - (2) 担当教員の指導
 - (3) 感想文の作成と提出

【評価方法】

レポートと感想文により評価

教育実習 I

加藤文子

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での3週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

- (1) 学級担任として
朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。
また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたるとともに学級事務を担当する。
- (2) 教科担任として
前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。
後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。
- (3) 特別活動として
学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

【評価方法】

実習校の評価 (生徒指導、学習指導、実習態度) に基づいて評価する。

【テキスト】

「教育実習指導」の授業時に配付の『教育実習記録』を活用する。

教育実習指導 (介護体験事前指導を含む)

加藤文子

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業計画】

1. 教育実習の意義と目的
 - ・前年度実習者からのアンケート結果
 - ・「先輩からの一言」
2. 教育実習の内容と方法
 - ・教育実習の領域
 - ・教育実習の方法
3. 教育実習記録
 - ・実習記録の意義
 - ・実習記録の方法
4. 授業研究
 - ・教材研究、教具の意義
 - ・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
5. 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
6. 介護体験事前指導
 - ・社会福祉施設等の理解と社会連帯の理念
 - ・特別支援教育諸学校教育の理解
 - ・障害児 (者) 介護への心構え
7. 介護体験事後指導
8. まとめ、アンケート実施

【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果 (実習・体験評価を参考) により総合的に評価する。

【テキスト】

教育実習指導では使用せず、必要に応じて資料を配布。
介護体験事前指導では、介護体験ガイドブック「ファイア」(全国特殊学校長会編著 ジアーズ教育新社) 使用。

教育実習 II

小栗正彦

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での2週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

生涯学習概論

羽場俊秀

【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校だけでなく、広く社会において絶えず学び続けることが大切である。生涯学習に広がりや深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

【授業計画】

- 1-3. 生涯学習理念の成立と発展
- 4-7. 生涯学習実践の課題
- 8-11. 生涯学習と社会
- 12-13. 生涯学習と人間
- 14-15. 総括

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。授業中に参考文献を適宜紹介する。

【参考文献・資料】

なし

国際理解教育論

担当者未定

【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような教育経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。中学校、高等学校の日常的な教科指導、特別教育活動等において、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

【授業計画】

1. 日本の近代化の過程における外国文明の摂取について、次の視点から考察する。
 - (1) 海外留学生の派遣と帰国後の活躍
 - (2) 外国人教員の雇用とその教育への影響
 - (3) 技術伝習による日本の産業の近代化
2. 現代の学校教育における国際化について次の視点から考察する。
 - (1) 教科教育における国際理解教育
 - (2) 特別活動、学校教育における国際理解教育
 - (3) 海外留学生の派遣と海外からの留学生の受け入れ
 - (4) 外国人英語教員の雇用とその役割
3. 現在の日本の国際化の現状を分析し、真の意味での日本の国際化について、教育の視点から考察する。
(授業において、皆さんの体験を踏まえて具体的な事例について、ともに考えて行きたい)

【評価方法】

授業中に課す「感想、意見」の提出及びレポートにより総合評価を行なう。

【テキスト】

国際理解教育論講義概要（300円）

【参考文献・資料】

授業中にその都度紹介する。

学校経営と学校図書館

小栗正彦

【授業の概要】

学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功事例を紹介し学習する。

【授業計画】

1. 学校図書館の管理運営組織
 - (1) 生徒の利用時間の設定
 - (2) 生徒への図書等の貸し出し方法
 - (3) 長期休業期間中の開館状況
2. 魅力ある学校図書館について
 - (1) 生徒が親しみやすい雰囲気のある学校図書館
 - (2) 学校図書館の図書・資料等の整備拡充
 - (3) 生徒が利用しやすい学校図書館経営
3. 学校図書館と生徒会活動の連携
 - (1) 生徒会図書委員会の組織と活動
 - (2) 読書週間、読書コンクール、図書館だより
 - (3) 学校図書館の利用PR活動
4. 学校図書館の充実
 - (1) PTA組織を活用した寄贈図書等
 - (2) 地域社会への呼びかけによる寄贈図書等
 - (3) 関係機関への呼びかけによる寄贈図書等

【評価方法】

出席状況及び課題による。

【テキスト】

プリント配布。

学習指導と学校図書館

加納篤憲

【授業の概要】

学校図書館は、教育に必要な資料を生徒及び教員の利用に供することによって、(1) 学校の教育課程の展開に寄与するとともに、(2) 生徒の健全な教養を育成することを目的としている。

この授業では、(1) の目的を達成するために学校図書館はどのようなものでなければならないかを、蔵書構成や利用指導の現状と実践例、教科学習や総合学習における図書館利用の方法と実践例について学ぶ。

また、司書教諭の役割とこれからの学校教育に占める重要性について学習するとともに、利用指導の図書館実習を体験することによって、司書教諭の仕事への理解を深める。

【授業計画】

1. 教育課程と学校図書館
2. 学習活動を促進する学校図書館——実践例
3. 学校図書館の現状と問題点——蔵書冊数・蔵書構成・図書館利用
4. 各教科・科目の学習指導と図書館——実践例
5. 「総合学習」における図書館利用
6. 図書館利用における学級担任及び生徒図書委員の役割
7. 図書館実習——テーマ学習における司書教諭の指導について
8. 討論——中学・高校時代の経験を踏まえて、学校図書館及び司書教諭の望ましいあり方について考える。

【評価方法】

期末試験、レポートの成績と出席状況を総合して評価。

【テキスト】

自作プリント教材（付資料）

【参考文献・資料】

特になし

学校図書館メディアの構成

中村和夫

【授業の概要】

情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

【授業計画】

1. 児童生徒が喜んで利用するメディア構成
 - (1) 現在の学校図書館メディア構成の実態分析
 - (2) 児童会・生徒会図書委員会と学校図書館の資料選定
 - (3) 児童生徒の学校図書館に期待するものは何か
2. 教育課程にマッチしたメディア構成
 - (1) 教養中心から教科学習に必要な資料の収集へ
 - (2) 「総合学習の時間」の視点からのメディア構成
 - (3) 「情報」、「オーラル英語」等新しい教科科目の教材
3. 情報化時代にふさわしいメディアの特質の理解
 - (1) ビデオ、DVD、CD等の視聴覚的メディア
 - (2) CD-ROM、マイクロフィルム等の活字メディアに代わるもの
 - (3) Webサイトに代表されるネットワーク系メディアの活用と問題点
4. 学校図書館メディアの組織化
 - (1) 分類の意義と分類作業の基本
 - (2) 目録の種類と目録作業の基本、目録の機械化

【評価方法】

出席状況及びレポート等による。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

学校図書館メディアの構成（小田光宏編 樹村房）
分類・目録法入門（木原通夫・志保田務 新改訂第3版 第一法規）

読書と豊かな人間性

梅田卓夫

【授業の概要】

現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。

児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な実践例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

【授業計画】

1. 読書のよここび
 - (1) 人はどのようにして読書の楽しみと出会うのか
 - (2) 代表的な先人の読書経験から学ぶもの
 - (3) 受講者自身の学校図書館での本との出会い
2. 人間形成と読書
 - (1) 幼児期における読み聞かせの教育的意味
 - (2) 少年期・青年期の決定的・運命的な読書との出会い
 - (3) 読書における、内省、思索の意義
3. 学校教育における読書指導
 - (1) 教師による本の紹介、読み聞かせ
 - (2) 「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
4. 読書と仲間作り
 - (1) 家庭での読書についての親子の対話
 - (2) 友達同士の読書グループ、読書会
 - (3) 学区図書館を利用した共同研究
5. 読書の技術
 - (1) 情報化時代の読書のあり方
 - (2) 愛読書、好きな作家

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

情報メディアの活用

東浦信博

【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

【授業計画】

1. 学校図書館と情報機器
 - (1) 学校図書館におけるコンピュータの役割と活用
 - (2) 学校図書館に設置する情報機器
2. 学校図書館とコンピュータとの関わり
 - (1) 図書検索とコンピュータ (OPAC)
 - (2) インターネットを使用しての資料の収集
3. 学校図書館の情報メディアの活用
 - (1) 視覚メディアとしてのVTR等
 - (2) 聴覚メディアとしてのDVD、CD等
 - (3) 活字メディアに代わるCDRom、マイクロフィルム等

【評価方法】

出席状況及び試験による。

【テキスト】

使用しない。

生涯学習概論

古野有隣

【授業の概要】

生涯学習という言葉は最近かなり知名度が高くなってきているが、その意味や意義については必ずしも正確に理解されているとはかぎらない。

この講義では生涯学習の意味するところを、その理念の提唱時からの推移の説明をまじえて、理解を深めることをねらいとした。また、先の長い人生を持っている自分にとって生涯学習とは何なのかを考える契機となればとも思っている。

1. 生涯教育の理念～推移を含めて～
ユネスコ以降わが国における推移
生涯教育のめざすもの
生涯教育と生涯学習の関係
2. 生涯教育と社会教育・学校教育との関係
生涯教育と社会教育
生涯教育と学校教育
3. 社会教育の内容・方法・形態
行政社会教育の主要領域
社会教育の内容・方法・形態
4. 生涯学習関連施設の現状と展望
生涯学習関連施設の範囲
社会教育施設の種類と現状
5. 生涯学習指導者
生涯学習指導者の範囲
生涯学習指導者の役割

【授業計画】

講義。

【評価方法】

テスト。

【テキスト】

資料集（予価500円）を開始時に頒布。

図書館情報学概論Ⅰ

村主朋英

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。

Iでは、図書館情報学における基本的な考え方および分野の特徴について概説する。

【授業計画】

1. 情報と知識の研究と実務に関わる分野
図書館学/情報学/図書館情報学
図書館情報学を学ぶための情報源/指定図書
2. 情報の概念
概念・考え方・観点・立場
定義の多様性と現象の多面性
情報概念の歴史/情報・知識・データ
定義の整理のための枠組み/構造的な理解
認識・認知・こころ/人間・人・ヒト
3. 情報検索の過程

【評価方法】

定期試験

注1)「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。

注2)「図書館情報学概論Ⅰ」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同Ⅱ」の成績に組み込む。今年度「同Ⅱ」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典（丸善 3,800円 税別定価）

図書館情報学概論Ⅰ

櫻木貴子

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Iでは、図書館情報学における基本的な考え方および分野の特徴について概説する。

【授業計画】

1. 情報と知識の研究と実務に関わる分野
図書館学/情報学/図書館情報学
図書館情報学を学ぶための情報源/指定図書
2. 情報の概念
概念・考え方・観点・立場
定義の多様性と現象の多面性
情報概念の歴史/情報・知識・データ
定義の整理のための枠組み/構造的な理解
認識・認知・こころ/人間・人・ヒト
3. 情報検索の過程

【評価方法】

出席点、試験およびレポートにて評価を行う。

注「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典（丸善 3,800円税別定価）および配布資料

図書館情報学概論Ⅱ

櫻木貴子

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。

Ⅱでは、図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

【授業計画】

1. 情報の流過程
情報の流れと情報メディア/学術情報の流過程
2. 図書館・情報サービスの世界
構成要素と機能/情報システムとしての図書館
3. 協力と競合
図書館ネットワーク/競合する情報サービス
4. 図書館員と情報専門職の世界
5. 図書館情報学の未来

【評価方法】

出席点、試験およびレポートにて評価を行う。

注「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典（丸善 3,800円税別定価）および配布資料

図書館情報学概論Ⅱ

村主朋英

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅱでは、図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

【授業計画】

- 情報の流通過程
情報の流れと情報メディア/学術情報の流通過程
- 図書館・情報サービスの世界
構成要素と機能/情報システムとしての図書館
- 協力と競合
図書館ネットワーク/競合する情報サービス
- 図書館員と情報専門職の世界
- 図書館情報学の未来

【評価方法】

定期試験と夏休みレポート

- 注1) 「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。
- 注2) 「図書館情報学概論Ⅰ」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同Ⅱ」の成績に組み込む。今年度「同Ⅱ」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典(丸善 3,800円 税別定価)

図書館経営論

山本 進

【授業の概要】

図書館の技術的な面(分類・目録等)資料組織とは別に図書館運営上の諸問題(司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館網計画、図書館の経営評価と見直し等)、を図書館経営論として論述する。

【授業計画】

0. オリエンテーション・図書館の経営論の意義 1回
 1. 図書館種別の経営上の問題点と管理原則 1回
 2. 図書館学の五法則と図書館員の関わり 1回
 3. 図書館の自由に関する宣言 2回
 4. 図書館員の倫理綱領 2回
 5. 図書館員と労働基準法解説 1回
 6. 図書館関係法規と図書館のサービス基準解説 1回
 7. 図書館サービスの測定と評価(実例課題によるレポート提出) 1回
 8. 図書館計画の立案と実例解説 2回
 9. 生涯学習と図書館及び利用者教育 2回
- ※講義の中から関心のある事項についてレポート提出 2回

【評価方法】

期末テスト実施一記述式、前期全体の講義の中から問題を2~3問と、提出されたレポートと記述試験の採点とを併せて評価する。

【テキスト】

講義シラバスを配付する。

情報サービス基礎論Ⅰ

松下 鈞

【授業の概要】

電子情報技術の急速な発展とグローバルな広がりを背景として、人と情報との関わりが変化してきた。社会はあらゆる面で急速な変化の様相を見せている。「情報サービス基礎論Ⅰ」では、社会の多様化と情報の多様化と膨大化及び情報流通の変化に直面する「図書館」のサービスについて、主として公共図書館のサービスを念頭において諸問題を概観する。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 図書館サービスの基本原則
3. 情報媒体と利用ニーズの多様性
4. 図書館設計に見る図書館サービス
5. こども向けのサービス
6. 青少年へのサービス
7. 老人向けのサービス
8. 働く人を支援するサービス
9. 行政サービス
10. 学術サービス
11. 多文化サービス
12. 図書館建築の動向
13. 学校、大学、企業図書館との連携
11. 電子情報サービスの進展状況
12. ホームページに見る日米公共図書館の比較
14. サービス業としての図書館
15. まとめ

講義を中心とし、課題小レポート、グループ研究発表を交える。受講に先立ち次ぎのことをしておくこと。
* 「インターネット講習会」を受講しておくこと。
* 身近な公共図書館の施設やサービスを注意深く観察しておくこと。

【評価方法】

小レポート、期末レポート及びグループ研究と発表をもって評価する。授業への積極的な参加の姿勢を参考点として加味する。

【テキスト】

適宜、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

適宜、紹介する。

情報サービス基礎論Ⅰ

逸村 裕

【授業の概要】

情報化社会は社会における産業構造の変化をもたらしている。「情報」を扱う産業は、急速に増大し、社会に大きな影響力を与えている。この科目では、図書館情報学の観点から現代社会における特徴的な情報産業の現状を概観し、「情報」を商品化するプロセスを考察するとともに、すべての職業において進展している「情報化」の持つ意味を検討する。また進路としての情報関連産業について論じる。さらに、情報産業の事例紹介を論じ、職業倫理と勤労観についても言及する。

【授業計画】

1. 情報化社会と情報産業
2. 産業と職業における情報とITの意味
3. 情報サービス事例1:メディア産業と通信
4. 情報サービス事例2:通信と出版産業
5. 情報サービス事例3:図書館情報
6. 情報サービス事例4:マルチメディアリソース
7. 情報サービス事例5:電子ジャーナル
8. 情報サービス事例6:電子ブック
9. 情報サービス事例7:情報分析・シンクタンク
10. 情報産業と大学
11. 情報化社会における知的所有権問題
12. 情報化社会と情報倫理
13. 情報産業における勤労観と職業倫理

講義中心に行なう。適宜、小テスト、レポートを課す。
「インターネット講習会」を必ず受講しておくこと。

【評価方法】

小テスト、レポート、期末試験による総合評価。
詳細は初回講義の際に説明する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

図書館情報学辞典 第2版(丸善 2002)

情報サービス基礎論Ⅱ

松下 鈞

【授業の概要】

「情報サービス基礎論Ⅰ」の履修を前提とする。
あなたが図書館員であると仮定し、図書館の現場で利用者からの期待に応えるさまざまな業務と施設を計画立案し、実施、評価するケーススタディなどを交え、より具体的に図書館サービスについての理解を深めることを目的とする。

【授業計画】

1. インタロダクション「サービス機関としての図書館」
2. 図書館予算と資料の購入計画
3. 資料の配置
4. 保存と廃棄
4. 開館時間と図書館員の労働環境
5. 弱者へのサービス
6. 情報電子化と情報弱者への対応
7. 住民パワーの活用
8. 情報広場としての図書館
9. 複合文化施設としての図書館
10. 地域文化の情報拠点
11. 知識情報のネットワーク
12. 図書館サービスの国際動向
13. レファレンスFQAとレファレンス協同DBの構築
14. 図書館建築プラン
15. まとめ「図書館学の五法則」

講義とケーススタディを主とし、グループ研究と発表を交えて展開する。

* 「情報サービス基礎論Ⅰ」の履修者に限る。

* 受講に先立ち、いくつかの図書館を視察し、蔵書、サービス、施設などについて批判的評価を試みる。また、仮に自分を図書館員であると仮定し、それらの問題点をどのように解決したらよいか、改革プランを考えておくこと。

【評価方法】

グループ研究の成果、小レポート、最終レポートによる。
授業及びグループ研究への積極的な参加態度も評価の参考とする。

【テキスト】

適宜、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

適宜、指示する。

情報サービス基礎論Ⅱ

逸村 裕

【授業の概要】

図書館で行われる情報サービスには幅広いものがある。また、これらのサービスはその対象、館種、主題、規模ごとに多くの特徴を持つ。さらに今日、伝統的な図書館サービスに加え、情報通信技術の普及発展に伴う新たな対応を迫られている。

これら図書館情報サービスの紹介と評価の視点から講義を行なう。

1. この講義の対象と範囲
2. パブリック・サービス（奉仕・直接サービス）
 - A. 貸出閲覧
 - B. レファレンスサービス
 - C. 相互協力
 - D. 視聴覚資料
 - E. パブリックサービスの今後
3. テクニカル・サービス（資料組織・間接サービス）
 - A. 選書
 - B. 収書
 - C. 整理
 - D. 雑誌
 - E. テクニカルサービスの今後
4. 評価の視点から見た情報サービス
 - A. 蔵書
 - B. 人的サービス
 - C. 図書館アメニティ
 - D. コンソーシアム
 - E. その他のサービス

【授業計画】

講義中心に行なう。適宜、小テスト、レポートを課す。
「インターネット講習会」を受講しておくこと

【評価方法】

小テスト、レポート、期末試験による総合評価。詳細は初回講義の際に説明する。

【テキスト】

大学図書館の21世紀（勤草書房 2004夏刊行予定）

【参考文献・資料】

図書館情報学辞典 第2版（丸善 2002）

レファレンスサービス論

櫻木貴子

【授業の概要】

図書館における情報サービスの中核を成してきたレファレンスサービスに関して、レファレンスコレクションの構築、レファレンス質問からその回答にいたる一連のレファレンスプロセス、サービス組織のあり方、等について理解を深めることを主な目的として講義を進める。この科目は、「情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）」と相互に補完するものとして扱う。

【授業計画】

1. 情報ニーズに応える情報サービス
2. レファレンスサービスから情報サービスへ
3. レファレンス機能に基づくレファレンス業務
4. レファレンスサービスのための情報源
5. レファレンス質問を起点とするレファレンスプロセス
6. 質問の受付から内容の確認へ
7. 質問内容の分析から探索の実行へ
8. 質問回答とレファレンスプロセスの終結
9. レファレンスサービスの組織と運営

【評価方法】

講義の最終日に試験を行う。出題形式等については、講義の最初に説明する。

【テキスト】

レファレンスサービス：図書館における情報サービス（長澤雅男著 丸善 1995）

【参考文献・資料】

講義において指示する。

レファレンスサービス論

櫻木貴子

【授業の概要】

図書館における情報サービスの中核を成してきたレファレンスサービスに関して、レファレンスコレクションの構築、レファレンス質問からその回答にいたる一連のレファレンスプロセス、サービス組織のあり方、等について理解を深めることを主な目的として講義を進める。この科目は、「情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）」と相互に補完するものとして扱う。

【授業計画】

1. 情報ニーズに応える情報サービス
2. レファレンスサービスから情報サービスへ
3. レファレンス機能に基づくレファレンス業務
4. レファレンスサービスのための情報源
5. レファレンス質問を起点とするレファレンスプロセス
6. 質問の受付から内容の確認へ
7. 質問内容の分析から探索の実行へ
8. 質問回答とレファレンスプロセスの終結
9. レファレンスサービスの組織と運営

【評価方法】

講義の最終日に試験を行う。出題形式等については、講義の最初に説明する。

【テキスト】

レファレンスサービス：図書館における情報サービス（長澤雅男著 丸善 1995）

【参考文献・資料】

講義において指示する。

情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

櫻木貴子

【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。

当科目は、情報検索演習Ⅰ（図書館情報学科の学生のみ）、図書館情報学概論Ⅰ、Ⅱの履修を前提条件とする。また、LAN講習会を必ず受講すること。

【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. オンライン情報検索システム
 - 4.1 JOIS
 - 4.2 シソーラス
 - 4.3 DIALOG
5. テーマ検索

【評価方法】

平常点、小テストと、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

伊藤真理

【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。

当科目は、情報検索演習Ⅰ（図書館情報学科の学生のみ）、図書館情報学概論Ⅰ、Ⅱの履修を前提条件とする。また、LAN講習会を必ず受講すること。

【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. オンライン情報検索システム
 - 4.1 JOIS
 - 4.2 シソーラス
 - 4.3 DIALOG
5. テーマ検索

【評価方法】

平常点、小テストと、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

松井美紀

【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。

当科目は、情報検索演習Ⅰ（図書館情報学科の学生のみ）、図書館情報学概論Ⅰ、Ⅱの履修を前提条件とする。また、LAN講習会を必ず受講すること。

【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. オンライン情報検索システム
 - 4.1 JOIS
 - 4.2 シソーラス
 - 4.3 DIALOG
5. テーマ検索

【評価方法】

平常点、小テストと、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）

櫻木貴子

【授業の概要】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、情報提供機関（図書館を含む）において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。

演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

【授業計画】

[演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）]

1. 雑誌記事（書誌情報）検索
MAGAZINE PLUS (NICHIGAI ASSIST)、ISA (DIALOG)、
JST Plus (J Dream)、大宅社一文庫雑誌記事索引 CD-ROM 版
2. 雑誌記事横断検索：DIALINDEX 複数ファイル横断検索 (DIALOG)
3. シソーラスを利用した検索
JST Plus (J Dream)、ERIC ファイル (DIALOG)、
MEDLINE (DIALOG)
4. 引用関係を利用した検索：Social SciSearch (DIALOG)
5. 一次資料が入手可能なシステムの検索
NACSIS-IR (NII)、OCLC ArticleFirst (OCLC FirstSearch)、
PubMed (NLM/NCBI)
6. ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA (CSA-IDS)
7. 図書（所蔵/目次情報）検索
Webcat (NII)、BOOKPLUS (NICHIGAI ASSIST)、WorldCat
(OCLC FirstSearch)
8. 新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21）
9. 人物情報検索：人物情報横断検索 (G-Search)

【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

【参考文献・資料】

情報と文献の探索 第3版（長澤雅男著 東京 丸善 1994 337p）
検索演習例題集
（上田修一・杉江典子著 東京 日外アソシエーツ 2001 47p）

情報メディア基礎論 I

櫻木貴子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
 - (1) 図書
出版流通過程と制度
オンライン書店、オンデマンド出版
 - (2) 雑誌
学術雑誌の機能、査読制度
雑誌論文の構成
抄録作成法、引用法、
プレプリント、e-print
レター、editorial comment
 - (3) 新聞
新聞の流通制度
新聞記事の構成
 - (4) 会議資料
学会、会議録
 - (5) 特許資料
特許制度
パテントファミリー、引用特許
 - (6) 規格票
規格制度、情報関連の標準化活動
 - (7) データベース
情報検索システムの歴史
検索技術、シソーラス
 - (8) インターネット
ネットワーク情報資源の特徴
WWWの評価
Web citation、メタデータ
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

【評価方法】

期末試験と出席回数によって評価する。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

必要に応じて資料を配布する。

情報メディア基礎論 I

菅野育子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
 - (1) 図書
出版流通過程と制度
オンライン書店、オンデマンド出版
 - (2) 雑誌
学術雑誌の機能、査読制度
雑誌論文の構成
抄録作成法、引用法、
プレプリント、e-print
レター、editorial comment
 - (3) 新聞
新聞の流通制度
新聞記事の構成
 - (4) 会議資料
学会、会議録
 - (5) 特許資料
特許制度
パテントファミリー、引用特許
 - (6) 規格票
規格制度、情報関連の標準化活動
 - (7) データベース
情報検索システムの歴史
検索技術、シソーラス
 - (8) インターネット
ネットワーク情報資源の特徴
WWWの評価
Web citation、メタデータ
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

【評価方法】

期末試験と出席回数によって評価する。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

必要に応じて資料を配布する。

情報メディア基礎論 II

櫻木貴子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
 - (1) 図書
出版流通過程と制度
オンライン書店、オンデマンド出版
 - (2) 雑誌
学術雑誌の機能、査読制度
雑誌論文の構成
抄録作成法、引用法、
プレプリント、e-print
レター、editorial comment
 - (3) 新聞
新聞の流通制度
新聞記事の構成
 - (4) 会議資料
学会、会議録
 - (5) 特許資料
特許制度
パテントファミリー、引用特許
 - (6) 規格票
規格制度、情報関連の標準化活動
 - (7) データベース
情報検索システムの歴史
検索技術、シソーラス
 - (8) インターネット
ネットワーク情報資源の特徴
WWWの評価
Web citation、メタデータ
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

【評価方法】

期末試験と出席回数によって評価する。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

必要に応じて資料を配布する。

情報メディア基礎論 II

菅野育子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
 - (1) 図書
出版流通過程と制度
オンライン書店、オンデマンド出版
 - (2) 雑誌
学術雑誌の機能、査読制度
雑誌論文の構成
抄録作成法、引用法、
プレプリント、e-print
レター、editorial comment
 - (3) 新聞
新聞の流通制度
新聞記事の構成
 - (4) 会議資料
学会、会議録
 - (5) 特許資料
特許制度
パテントファミリー、引用特許
 - (6) 規格票
規格制度、情報関連の標準化活動
 - (7) データベース
情報検索システムの歴史
検索技術、シソーラス
 - (8) インターネット
ネットワーク情報資源の特徴
WWWの評価
Web citation、メタデータ
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

【評価方法】

期末試験と出席回数によって評価する。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

必要に応じて資料を配布する。

情報メディア論Ⅳ（人文社会情報メディア）

櫻木貴子

【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から、学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

【授業計画】

- 1 学問分野と情報メディア
- 2 自然科学分野と人文・社会科学分野
- 3 人文・社会情報メディア
 - 3.1 美術分野
 - 3.2 音楽分野
 - 3.3 文学
 - 3.4 ビジネス分野
 - 3.5 法律分野
 - 3.6 心理学
 - 3.7 図書館情報学
- 4 情報メディアからみた情報の生産と利用

【評価方法】

レポートと出席回数によって評価する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

必要に応じて資料を配布する。

情報メディア論Ⅳ（人文社会情報メディア）

菅野育子

【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から、学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

【授業計画】

- 1 学問分野と情報メディア
- 2 自然科学分野と人文・社会科学分野
- 3 人文・社会情報メディア
 - 3.1 美術分野
 - 3.2 音楽分野
 - 3.3 文学
 - 3.4 ビジネス分野
 - 3.5 法律分野
 - 3.6 心理学
 - 3.7 図書館情報学
- 4 情報メディアからみた情報の生産と利用

【評価方法】

レポートと出席回数によって評価する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

必要に応じて資料を配布する。

情報メディア論Ⅴ（科学技術情報メディア）

櫻木貴子

【授業の概要】

自然科学領域における主要な一次情報源である学術雑誌を中心に解説します。学術雑誌と科学論文についての知識は、情報サービス専門家に欠かせない知識です。学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにあります。とくに、研究者による論文生産の視点から、学術雑誌について検討します。

1. 環境としての学術情報
2. 文献情報と文献調査
3. 学術雑誌の歴史と生態
4. 総合誌、レビュー誌、レター誌
5. 日本からの英文論文発表
6. 主要海外誌への日本からの発表傾向
7. 生物医学雑誌への統一投稿規程
8. オーサーシップからみた学術論文
9. 出版倫理と利害の衝突
10. ニュースメディアと学術雑誌
11. レフェリーシステム
12. 一流誌への発表
13. インパクトファクターの批判的吟味
14. 電子メディア（データベース、一次雑誌）の現在

【授業計画】

講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関係する資料を随時配付する。

【評価方法】

期末レポート、小レポート（授業時間内）

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

【参考文献・資料】

電子時代の学術雑誌（Lambert, J. 著 日本図書館協会）
出版産業の起源と発達（Thompson, J.W. 著 出版同人）
歴史としての学問（中山茂著 中央公論社）
生命科学論文投稿ガイド（山崎茂明著 中外医学社）
医学文献サーチガイド 第2版（山崎茂明著 日本医書出版協会）
研究評価（根岸正光・山崎茂明著 丸善）

情報メディア論Ⅴ（科学技術情報メディア）

山崎茂明

【授業の概要】

自然科学領域における主要な一次情報源である学術雑誌を中心に解説します。学術雑誌と科学論文についての知識は、情報サービス専門家に欠かせない知識です。学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにあります。とくに、研究者による論文生産の視点から、学術雑誌について検討します。

1. 環境としての学術情報
2. 文献情報と文献調査
3. 学術雑誌の歴史と生態
4. 総合誌、レビュー誌、レター誌
5. 日本からの英文論文発表
6. 主要海外誌への日本からの発表傾向
7. 生物医学雑誌への統一投稿規程
8. オーサーシップからみた学術論文
9. 出版倫理と利害の衝突
10. ニュースメディアと学術雑誌
11. レフェリーシステム
12. 一流誌への発表
13. インパクトファクターの批判的吟味
14. 電子メディア（データベース、一次雑誌）の現在

【授業計画】

講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関係する資料を随時配付する。

【評価方法】

期末レポート、小レポート（授業時間内）

【テキスト】

論文投稿のインフォーマティクス（山崎茂明著 中外医学社）

【参考文献・資料】

電子時代の学術雑誌（Lambert, J. 著 日本図書館協会）
出版産業の起源と発達（Thompson, J.W. 著 出版同人）
歴史としての学問（中山茂著 中央公論社）
生命科学論文投稿ガイド（山崎茂明著 中外医学社）
医学文献サーチガイド 第2版（山崎茂明著 日本医書出版協会）
研究評価（根岸正光・山崎茂明著 丸善）

資料組織論

伊藤真理

【授業の概要】

情報の組織化に関する理論と概念について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。

目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

【授業計画】

- 第1回 情報の組織化
- 第2回 目録
- 第3回 書誌コントロール
- 第4回 書誌ユーティリティ
- 第5回 目録規則の標準化、統一
- 第6回 記述目録と主題目録
- 第7回 記述目録(1) AACR 2 r, NCR
- 第8回 記述目録(2) アクセス・ポイントの選定; 標目形
- 第9回 記述目録(3) 典拠コントロール
- 第10回 主題目録(1) 概要
- 第11回 主題目録(2) 主要分類法
- 第12回 主題目録(3) 主要件名標目表
- 第13回 MARC
- 第14回 メタデータ

【評価方法】

平常点、試験

【テキスト】

初回時にテキスト配布。

資料組織演習

伊藤真理

【授業の概要】

資料組織論で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得を目的とする。

講義内容は、記述目録法と主題目録法の2部から成り、オムニバス形式で授業を進める。

記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。カード目録作成により、ISBDや記述目録の基本を理解し、オンライン目録の実習を通して、書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について理解を深める。主題目録法では日本十進分類法、国際十進分類法、基本件名標目表などを取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・主題目録法
 - 分類：NDC
 - 主題件名標目表：BSH
- ・記述目録法
 - ISBD
 - カード目録
 - オンライン目録
 - アクセス・ポイント
 - 典拠コントロール

【評価方法】

出席、実習およびレポート提出

【テキスト】

「資料組織論」で配布したテキストを使用

資料組織演習

櫻木貴子

【授業の概要】

資料組織論で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得を目的とする。

講義内容は、記述目録法と主題目録法の2部から成り、オムニバス形式で授業を進める。

記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。カード目録作成により、ISBDや記述目録の基本を理解し、オンライン目録の実習を通して、書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について理解を深める。主題目録法では日本十進分類法、国際十進分類法、基本件名標目表などを取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・主題目録法
 - 分類：NDC
 - 主題件名標目表：BSH
- ・記述目録法
 - ISBD
 - カード目録
 - オンライン目録
 - アクセス・ポイント
 - 典拠コントロール

【評価方法】

出席、実習およびレポート提出

【テキスト】

「資料組織論」で配布したテキストを使用

資料組織演習

岡澤和世 菅野育子

【授業の概要】

資料組織論で学んだ理論について、実習を通してより深い理解と習得することを目的とする。

講義内容は、記述目録法と主題目録法の2部から成り、オムニバス形式で授業を進める。主題目録法では日本十進分類法や基本件名標目表などを取り上げ、記述目録については、国際的な標準規則として認められている英米目録規則を用いる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・主題目録法
 - 分類：NDC
 - 主題件名標目表：BSH
- ・記述目録法
 - ISBD
 - アクセス・ポイント
 - 標目形
- ・MARCについて

【評価方法】

出席、実習およびレポート提出

【テキスト】

「資料組織論」で配布したテキストを使用

資料組織演習

田中敦司

【授業の概要】

資料組織論で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と技術の習得を目的とする。

講義内容は、資料目録法と資料分類法を中心とし、それぞれについて事例に即して実習する形式とする。

資料目録法では、目録規則の適用について、NCRを中心に学ぶ。カード目録作成により、目録の基本を理解し、オンライン目録を通して、書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について理解を深める。また、資料分類法では、日本十進分類法、基本件名表目録を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

図書館の現場では、コピーカATALOGINGの機会が大半であるが、まったく修正せずに使用できるデータは限られている。利用のための資料組織ができることを目指して、演習を行う。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

【授業計画】

- ・ 目録作業の概要
- ・ 資料分類法
 - 分類：NDC
 - 主題件名標目表：BSH
- ・ 資料目録法
 - カード目録
 - オンライン目録
 - ISBD
 - アクセス・ポイント
 - 典拠コントロール

【評価方法】

出席状況、提出したレポート、最後に行う試験を総合して評価。

【テキスト】

「資料組織論」で配布したテキストを使用

【参考文献・資料】

資料組織演習 新訂版 (吉田憲一編著 日本図書館協会)

図書館学特殊Ⅲ (児童サービス論)

福永智子

【授業の概要】

図書館における児童サービスの理論と実際について、基礎的理解を図る。具体的には、日本の読書推進政策の現状を踏まえ、児童用資料の特性、利用者としての児童の特性、公立図書館・学校図書館における児童サービスおよび、図書館の周辺領域における児童へのサービスについても広くとりあげる。

【授業計画】

1. 公立図書館の児童サービス
 - (1) 児童サービスの法的基盤
 - (2) 児童図書館員の役割と専門性
 - (3) サービス対象としての児童：読書興味の発達段階
 - (4) 児童用資料の特性とコレクション構築の実際
 - (5) 児童サービスの企画と運営、施設・設備
 - (6) 周辺領域：子ども文庫活動、ブックスタート活動
2. 学校図書館と情報活用能力の育成
 - (7) 戦後教育改革と学校図書館の制度化
 - (8) 1997年の学校図書館法改正と「人」の問題
 - (9) 情報センター、学習センター、読書センター機能
 - (10) 学校図書館における図書館利用教育のガイドライン
3. 公立図書館と学校図書館の協力体制
 - (11) 異館種間ネットワーク構築の原理
 - (12) 地方自治体における先進事例の紹介
4. 試験 (13)

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって、総合的に評価する。

【テキスト】

児童サービス論 (堀川照代編著 日本図書館協会)

【参考文献・資料】

児童サービス論 (佐藤涼子編 教育史料出版会)
学校図書館論 補訂版 (塩見昇編 教育史料出版会)

情報学Ⅲ (図書館と情報検索の歴史)

村主朋英

【授業の概要】

図書館情報サービスと知識の組織化過程の発達を中心に、図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。<人類の情報環境の発達過程を概観する>というコンセプトを掲げ、とくに<情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか>という問題を軸に探求する。

具体的には、まず環境要因となるメディア技術 (情報・通信技術) の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構 (情報サービス機関や情報専門職など)、および情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらも、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わりによって生ずる現象 (とくに情報の社会的蓄積・継承) を論ずる。

Ⅲでは、古代から中世までを対象とし、Ⅳに引き継ぐ。

【授業計画】

1. 古代文明のメディアと情報・知識
2. ギリシア・ローマにおける進展
3. 中世の学術と書物・図書館
4. 印刷革命

【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション (勁草書房 税別定価3,800円)
図書館情報学用語辞典 (丸善 税別定価3,800円)

情報学Ⅳ (図書館と情報検索の歴史)

村主朋英

【授業の概要】

図書館情報サービスと知識の組織化過程の発達を中心に、図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。Ⅳでは、Ⅲの知見を踏まえた上で、近・現代を対象とする。

【授業計画】

1. 印刷のもたらした近代
 - 学術情報流通システムの成立/新聞と雑誌/読書大衆
2. 図書館の世紀
3. 書誌とドキュメンテーション
4. 情報メディア技術の発達
5. 20世紀の情報流通システムと情報検索
6. 図書館学と情報学
7. 未来を求めて：Vannevar BushのMemex構想をもとに

【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション (勁草書房 税別定価3,800円)
図書館情報学用語辞典 (丸善 税別定価3,800円)

個人コミュニケーション論 I (認知心理学)

岩原昭彦

【授業の概要】

見る、聞く、話す、覚える、考えるなどの知的機能を総称して認知という。認知心理学では、人間を高次元情報処理体として見なし、情報の入力と出力との間に生じるさまざまな認知的過程を実験とシミュレーションにより理論化している。本講義では、人間の記憶活動と言語活動がどのように営まれているのかを明らかにするとともに、それらの活動を支える基盤が、脳の中でどのように組織化されているのかについても検討する。また、講義を通じて、我々が日常生活の中で体験する不思議な現象を認知心理学的に解明していきたい。

【授業計画】

1. サプリメンタル・パーセプション
2. 沈黙の手がかり
3. 意識できない知識
4. 健忘症患者の隠された能力
5. なぜ、ずっと覚えていられないのか
6. 記憶の混乱と偽りの記憶
7. 嫌な出来事が忘れられない
8. 言葉と心
9. 言葉の働き
10. 言葉が失われるとき
11. 言葉が意識を生む
12. 自己意識の起源にせまる

【評価方法】

期末試験と授業中に実施する実験・調査への参加回数。

【テキスト】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

情報メディア論 I (マルチメディア)

松井美紀

【授業の概要】

現代社会ではあらゆる組織においてコンピュータ等情報機器が不可欠のツールとなっている。これら情報機器を使いこなすことにより、情報のより効果的な利用が可能となる。

この授業では、情報メディア・情報機器に関する基礎的なことを解説する。また、情報技術について図書館・情報サービスにおける導入・活用の実例を示しながら解説する。

情報技術活用のための基礎を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- 1) ガイダンス：授業の目的、方法、授業計画について説明
- 2) メディアとは何か
- 3) 情報機器の発展経緯と種類、機能
- 4) 情報メディアの発展経緯と特性
- 5) 視聴覚メディアの種類と特性
- 6) コンピュータの基本的な仕組み
- 7) 図書館の機械化
- 8) データベースと情報検索
- 9) メディアの多様化と情報技術
- 10) インターネットについての基礎知識
- 11) インターネットによる情報発信
- 12) 電子情報と知的所有権

【評価方法】

- (1) 出席状況 (2) 定期試験 (またはレポート)
- 以上の結果により評価を行う。

【テキスト】

授業時に提示する。

情報メディア論 I (マルチメディア)

三和義秀

【授業の概要】

社会、教育現場における情報機器の発展経緯、種類、機能、ならびに情報メディアの発達と変化について論じながら、情報メディアの特性、視聴覚メディア、図形処理と画像処理を中心とするソフトウェア、インターネットとシミュレーションに係るツールの活用方法、情報メディアと情報通信(ネットワーク)技術やマルチメディアとの関係について考察する。また、技術的な側面として、インターネットでの情報の検索手法、ハイパーテキスト・システムの本質的問題、およびその設計・開発手法についても触れていく。

【授業計画】

- 1) ガイダンス：授業の目的、方法、授業計画について説明
- 2) メディアとは何か
- 3) 情報機器の発展経緯と種類、機能
- 4) 情報メディアの発展経緯と特性
- 5) 視聴覚メディアの種類と特性
- 6) 図形・画像処理とソフトウェア
- 7) 情報通信とメディア
- 8) マルチメディアと情報通信技術
- 9) ネットワーク技術とインターネット
- 10) 放送の高度化とマルチメディア
- 11) 通信の高度化とマルチメディア
- 12) インターネットとシミュレーション
- 13) インターネットでの情報の検索手法
- 14) ハイパーテキストの仕組みと本質的問題
- 15) ハイパーテキスト・システムの作成手法

【評価方法】

出席回数、レポート、および定期試験により評価を行う。

【テキスト】

授業時に提示する。

博物館概論

長谷川綏治

【授業の概要】

博物館とは何か、発達の歴史をたどり、世界と日本の博物館を概観する。

【授業計画】

- ア はじめに…博物館学とは何かなど学習の基礎を説明する。
- イ 博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に考えていく。
- ウ 博物館の始原…博物館の始原をたずねてみる。
- エ 博物館の萌芽…ルネサンス期からの博物館的な施設の形を探る。
- オ 近代博物館の発端Ⅰ…王権の誇示としての財宝の展示から考える。
- カ 近代博物館の発端Ⅱ…市民への公開がなされていく過程を考える。
- キ ヨーロッパの博物館…近世からの主要な博物館を例にとり、特徴をまとめる。
- ク アメリカの博物館…合衆国独立から現代までの特徴を探る。
- ケ 博物館の新しい波…企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど新しい動きをひろってみる。
- コ 日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
 - ・幕末から明治期にかけての博物館の発端
 - ・国威の宣揚と博物館
 - ・通俗教育による教化と博物館
 - ・十五年戦争と博物館

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川綏治 戸谷印刷）

博物館学各論Ⅱ

秋元悦子

【授業の概要】

博物館の活動の基礎は「資料」にあり、それを有効活用することではじめて博物館と言える。本講座では、その収集・取り扱い・整理・保存・活用について具体的事例や実習を取り入れながら学んでいく。

【授業計画】

1. 博物館資料とは……「博物館資料」とは、何を指すか、理念およびその具体的種類を知る。
2. 資料収集……資料の収集に際しての、収集方針の重要性、収集方法の事例を学ぶ。
3. 資料の取り扱い……基本資料の取り扱いを実習し、習得するとともに、その構造を知り展示方法等も学ぶ。
 - やきもの、和装・巻子本、掛け軸その他で実習する。
4. 資料整理……資料の整理について、分類方法やその整理登録方法を考え、資料カードの作成を実習する。
5. 資料情報……整理された資料の情報、二次的資料の情報の管理運営について考える。
6. 資料保管……資料の保管に関しての、保存条件や方法、問題点などを学ぶ。
7. 資料活用……資料を活用した調査研究活動の実際とその意義を知る。
 - また、4年次の「博物館実習」に備えた情報や、館務実習の準備について説明する。

【評価方法】

出席、実習態度、レポートおよび小テストで評価する。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川綏治 戸谷印刷）

必要に応じてプリントを配布し、ビデオ・スライド等も利用する。

博物館学各論Ⅰ

長谷川綏治

【授業の概要】

博物館について、学芸員資格にかかわる基本的事項を学習する。

【授業計画】

- ア 博物館の機能…生涯学習のための施設の一つと定義されていることを念頭におき考える。
- イ 博物館の分類…分類わけをとおして、博物館の役割やあり方を考えていく。
- ウ 博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織をみていく。
- エ 博物館の運営…名古屋市博物館を例にとり、運営の実際を知る。
- オ 学芸員考…学芸員の実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。
- カ 予算など…博物館のマネジメントについて考える。
- キ 博物館の施設・設備…設置基準をもとに施設・設備についてみる。
- ク 博物館と情報…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探ってみる。
- ケ 博物館の協力…大学・研究機関などとの連携についても考える。
- コ 文化財の保護…わが国の文化財保護の現状と問題点について考察する。あわせて世界遺産についても考える。

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率は重要な評価対象である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川綏治 戸谷印刷）

博物館実習

秋元悦子

【授業の概要】

学芸員資格を取得するにあたって、展示演習、博物館見学、博物館実習を中核に、具体的な学芸員活動を様々な観点から学習する。

【授業計画】

1. 展示とは……展示という手法について、その実際と未来像を考える。
2. 展示の実際……計画から、手法、条件などの展示の実際の概要を具体的事例をふまえながら、学んでゆく。
3. 展示にかかわる事業……展示をとりまく、様々な事業（解説、広報、印刷物、講座など）の存在を知る。
4. 展示の実習……各自で模擬展示の計画書を作成し、展示方法やその活用法を実習する。
5. 展示と教育普及事業……展示を通じての生涯学習機関として、博物館の今後をなう役割と未来を探る。

授業以外に、

- 土曜日に、博物館の展示・施設見学を行う。
- 夏休み中に、各博物館に依頼し館務実習を行う。

【評価方法】

授業および学外での研修の出席・レポート、模擬展示の口頭発表およびその計画書で評価する。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川綏治 戸谷印刷）

必要に応じてプリントを配布し、ビデオ・スライド等も利用する。

生涯学習概論

羽場俊秀

【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校だけでなく、広く社会において絶えず学び続けることが大切である。生涯学習に広がりや深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

【授業計画】

- 1-3. 生涯学習理念の成立と発展
- 4-7. 生涯学習実践の課題
- 8-11. 生涯学習と社会
- 12-13. 生涯学習と人間
- 14-15. 総括

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。授業中に参考文献を適宜紹介する。

【参考文献・資料】

なし

教育学概論

梅村敏郎

【授業の概要】

教育学の各分野の研究成果を可能な限りで視野に納めながら、現在の教育の実践活動がどのように行われるべきかを考える。

【授業計画】

1. 教育とは何か
2. 教育と教育学
3. 教育の基礎としての「子ども観」
4. 家庭教育
5. 学校教育と教育行政
6. 社会教育

【評価方法】

学期末の筆答試験による。

【テキスト】

教科書は使用しない。

【参考文献・資料】

参考書等は授業中に適宜紹介する。

視聴覚教育メディア論

高橋啓介

【授業の概要】

「学芸員のための」を前提としながらも幅広く視聴覚教育メディア全般の特性を検討し、最近のマルチメディアまでの各視聴覚教育メディアを論ずる。

【授業計画】

上記の教育目標を達成するために、特に「メディア・リテラシー」の問題に焦点を当て、実践的な分析も含めて、「メディア・リテラシー」教育について検討する。

- 第1回 メディア・リテラシーとは
- 第2回 メディア・リテラシーの基本概念
- 第3回 メディア・リテラシーの枠組み
- 第4回 テレビ報道の分析1（事例研究）
- 第5回 テレビ報道の分析2（事例研究）
- 第6回 メディアの技術
- 第7回 テレビCMの分析1
- 第8回 テレビCMの分析2
- 第9回 テレビCMの分析3
- 第10回 テレビCMの分析4
- 第11回 テレビCMの分析5
- 第12回 テレビCMの分析6
- 第13回 まとめ

なお、必要に応じて受講者の発表を含む演習形式を取ることがある。また3回の課題レポートの提出を求める。

【評価方法】

出席状況（30点）、授業態度（20点）、自由課題研究レポート（50点）とし、加点法によって60点以上を取得の場合、合格とする。

レポートの提出は原則として、学内LANを利用する。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

メディア・リテラシーを学ぶ人のために（鈴木みどり 世界思想社）

民俗学

谷沢 明

【授業の概要】

なにげなくくりかえしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人の物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいたったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をとおして具体的にみつめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったかも考えてみたい。

【授業計画】

1. 民俗学を学ぶ～方法論と調査研究法～
2. 稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
3. 農耕儀礼～田遊びを中心に～
4. 年中行事～正月行事を中心に～
5. 年中行事～盆行事を中心に～
6. 人生儀礼～人生の折り目にあたって～
7. 暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
8. 暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
9. 庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
10. 庶民信仰を探る～庚申信仰～
11. 日本民俗学のあゆみ～柳田國男の役割～
12. 日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～
学外教育としてフィールドワークを行う。

【評価方法】

中間レポート及び授業内小テスト・試験による

【テキスト】

フィールドワークで探る民俗と地域文化

美術史

四辻秀紀

【授業の概要】

平安時代には、和歌の心映えや情趣を絵にあらわした“歌絵”やつくり物語のなかの興味ある場面を選んで絵画化した“物語絵”が愛好された。これ以降、和歌や物語を絵画化したり意匠化して享受することは各時代を通じおこなわれてきた。本講座では、平安時代から江戸時代に至る“歌絵”や“物語絵”の系譜について現存遺品を中心に、文献資料をまじえながら考察し、各作品の制作・享受の背景や問題点について言及したい。

【授業計画】

1. やまと絵の成立と展開。物語絵と屏風絵・歌絵
 2. 和歌とかな
 3. 源氏物語絵巻
 4. 源氏物語絵巻
 5. 鎌倉時代以降の源氏絵の系譜
 6. 紫式部日記絵巻
 7. 伊勢物語絵巻
 8. さまざまな歌仙絵
 9. 鎌倉時代の白描絵巻
 10. お伽草子と小絵
 11. 近世初期の古浄瑠璃絵巻群について
 12. 工芸品にみる歌絵・物語絵の意匠
- ※スライド使用。学外授業として展覧会の見学を行う。

【評価方法】

レポートおよび出席状況により総合的におこなう。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

文化史

秋元悦子

【授業の概要】

本講義では、古来日本に多くの影響を与えてきた中国の古代文化について、理解を深めることを目的とする。文化を理解するためには、その環境の理解が不可欠であるため、自然地理の知識から学び、人間と自然環境の関係を考慮しながら進めたい。また、関連する考古資料・歴史文献・古地図等の様々な資料を知るとともに、その所在や利用法等も学ぶ。授業では、必要に応じて文献講読（漢文資料）や地図分析作業も行う。

【授業計画】

1. 中国および日本の自然地理と古代文化
日本も含む基本的な自然地理について理解し、古代の自然を考察する。
2. 中国古代都市の立地と遺跡
中国の古代都市は時代により様々な位置に置かれた。各都市の遺跡を確認しながら、その立地を考察する。
3. 文献にみる中国古代の様相
歴史文献を通じて古代中国の各地域に関する思想を知る。『尚書』禹貢篇、『漢書』地理志等を講読。
4. 地図にみる中国古代の様相
現代に伝わる古地図や近代地形図の残存状況を知り、内容を理解する。
5. 遺物にみる中国古代の様相
近年の考古学的発掘による大量の遺物が知られるが、その研究状況を知る。
6. 現代科学にみる中国古代の様相
現代の科学分析による歴史研究の状況と、その方法について知る。

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価する。（毎回出欠調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。

【参考文献・資料】

世界の歴史と文化 中国（陳舜臣・尾崎秀樹監修 新潮社）

ドイツ語Ⅰ

濱田義孝

【授業の概要】

ドイツ語の基礎を習得する。

ドイツ語は英語と同じく西ゲルマン語から出た言語で類似点も多いが、英語に比べてかなり保守的で、面倒な語形変化などがある。しかし一見やっかいそうな文法もいったん慣れてしまえば、かえって語句の関係が明確であり構文の把握も容易になる。

言葉は何よりもまず音声であるから、初めにドイツ語の発音に慣れること。そのためには教師（またはテープ）のドイツ語をよく聞いて、積極的に口を動かして真似ること。こうして繰り返し反復練習することによって、基本的なドイツ語の語句や言い回しになじみ、やさしい文を覚えていけば、週一回という短時間の学習でも、ドイツ語の基礎をマスターできるでしょう。

またドイツ語の学習を通してドイツやオーストリアの生活と文化に触れることもできる。

【授業計画】

テキストは全12課で、各課ともドイツ語の会話と基本的な文法事項、練習問題から構成されている。LL方式のパターン練習で基本構文や表現パターンを覚え、それをペアで行なう対話練習で実践し、段階的に表現能力を身に付けてゆく。

1課を2回の授業で修了するくらいのゆっくりしたペースで進む。

【評価方法】

授業での平常点と期末試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

コミュニケーションのためのドイツ語（在間・田畑共著 第三書房）

ロシア語Ⅰ

杉本一直

【授業の概要】

みなさん、知っていますか？日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができるところは本当に少ないんですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少な価値があるのです！「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか？

この授業では、初歩のロシア語を学びながらロシアの芸術や文化や街について楽しく紹介していきます。映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしててくださいね。

【授業計画】

初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を覚え、発音を覚え、そのあとは辞書で遊び(?)ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人！

辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。

- a. キリル文字と発音
- b. 大きな声であいさつしよう
- c. 買い物に行ってみよう
- d. 乗り物に乗ろう
- f. おなががすいたら...
- g. 自分について話してみよう
- h. 好きな音楽について
- i. 手紙を書こう（本当にロシアへ送るぞ!）

【評価方法】

定期試験の成績による。

【テキスト】

ロシア語ミニ辞典（白水社）

ドイツ語Ⅱ

濱田義孝

【授業の概要】

ドイツ語の基礎を習得する。

ドイツ語は英語と同じく西ゲルマン語から出た言語で類似点も多いが、英語に比べてかなり保守的で、面倒な語形変化などがある。しかし一見やっかいそうな文法もいったん慣れてしまえば、かえって語句の関係が明確であり構文の把握も容易になる。

言葉は何よりもまず音声であるから、初めにドイツ語の発音に慣れること。そのためには教師（またはテープ）のドイツ語をよく聞いて、積極的に口を動かして真似ること。こうして繰り返し反復練習することによって、基本的なドイツ語の語句や言い回しになじみ、やさしい文を覚えていけば、週一回という短時間の学習でも、ドイツ語の基礎をマスターできるでしょう。

またドイツ語の学習を通してドイツやオーストリアの生活と文化に触れることもできる。

【授業計画】

テキストは全12課で、各課ともドイツ語の会話と基本的な文法事項、練習問題から構成されている。LL方式のパターン練習で基本構文や表現パターンを覚え、それをペアで行なう対話練習で実践し、段階的に表現能力を身に付けてゆく。

1課を2回の授業で修了するくらいのゆっくりしたペースで進む。

【評価方法】

授業での平常点と期末試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

コミュニケーションのためのドイツ語（在間・田畑共著 第三書房）

ロシア語Ⅱ

杉本一直

【授業の概要】

ロシア語Ⅰに引き続き、ロシア語の基礎を学びます。ロシア語Ⅱでは、基礎的な文法事項の習得に重点をおきます。

【授業計画】

毎回ひとつの重要な文法事項をクローズ・アップし、ひとつづつじっくり習得していきます。

取り上げる文法事項の主なものは以下の通り。

- ・動詞の過去形
- ・名詞の前置格
- ・名詞の対格
- ・名詞の生格
- ・不完了体と完了体
- ・関係代名詞と関係副詞

【評価方法】

定期試験の成績による。

【テキスト】

ロシア語ミニ辞典（白水社）

資本市場と証券投資（野村証券提供講座）

上原 衛

【授業の概要】

直接金融への期待が高まる現在、資本市場に求められる役割とは何か。金融ビッグバン以降、激変する日本の資本市場の全容と投資とリスク・リターンの方、株式投資・債券投資・分散投資・グローバル証券投資・分散投資の方法などを実務の観点から解説します。

【授業計画】

- (1) ガイダンス
 - (2) 経済情報の捉え方
 - (3) 経済成長と金融資本市場
 - (4) 証券投資のリスク・リターンについて
 - (5) 株式市場の役割と投資の基礎知識について
 - (6) 債券市場の役割と投資の基礎知識について
 - (7) 投資信託の役割とその仕組みについて
 - (8) ポートフォリオ・マネジメント
 - (9) 市場のグローバル化と証券投資について
 - (10) 資産運用とライフプランニング
 - (11) 資本市場における投資家心理について
 - (12) 個人投資家と証券ビジネスについて
- ※授業はオムニバス形式で毎回講師が来て行われる。

【評価方法】

期末試験の結果により評価する。

【テキスト】

必要に応じてそのつど関連資料を配布する。

【参考文献・資料】

証券投資の基礎（野村証券投資情報部編 丸善株式会社）
日本の資本市場（氏家純一編 東洋経済新聞社）

研究技法 I (データ解析)

太田浩司

【授業の概要】

この講義では調査によって収集されたデータをSPSSという統計パッケージを利用して解析する手法を紹介する。扱う統計手法は記述統計、ピアソン積率相関、T-検定、分散分析、重回帰分析を予定している。特にデータ分析の結果の読み方と解釈の仕方に焦点を置く。講義の詳しい内容は最初の授業で知らせる。

【授業計画】

学期の最初に提示をする。

【評価方法】

出席、学期末データ分析ペーパー。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

パソコンによるデータ解析 (新村秀一著 講談社ブルーバックス)

地域社会特別講義IV (地域文化論)

谷沢 明

【授業の概要】

「風土・歴史・文化を生かした地域づくり」をテーマとした事例研究の講義をする。併せて、受講生によるプレゼンテーションも行なう。

【授業計画】

1. 北海道池田町：ワインによる地域づくり
2. 大分県大山村：「村おこし」の元祖
3. 長野県南木曾町：「町並み保存」の元祖・妻籠宿
4. 石川県金沢市：城下町の歴史を生かした景観形成
5. 山口県萩市：城下町の歴史を生かした景観形成
6. 北海道函館市：港町の歴史を生かした都市づくり
7. 長崎県長崎市：港町の歴史を生かした都市づくり
8. 北海道小樽市：小樽運河保存問題と都市景観保全
9. 福岡県柳川市：掘割を生かした環境形成
10. 滋賀県近江八幡市：八幡堀の保全とまちづくり
11. 岐阜県八幡町：水の恵みを生かした地域づくり
12. 受講生による課題の成果発表

【評価方法】

「風土・歴史・文化を生かした地域づくり」をテーマに、夫々が該当地を1箇所取材して事例研究を行い、その成果をパワーポイントで作成し、発表・提出する。成果物は、CDRで提出のこと。評価は成果物CDRとその発表、及び平生の授業態度で行なう。

【テキスト】

テキストは特に使用しないが、次の参考文献を使用する。
 まちづくりの実践 (田村明 著 岩波新書)
 町並みまちづくり物語 (西村幸夫 著 古今書店)
 歴史的文化遺産の保存・活用とまちづくり (大河直躬編 学芸出版社)
 都市の歴史とまちづくり (大河直躬編 学芸出版社)
 新・町並み時代 (全国町並み保存連盟 学芸出版社)
 インターネット等を利用して、各自が予習・復習を行なうこと。

国際社会特別講義V (比較政治論)

西尾林太郎

【授業の概要】

東アジアにおける国際体系の変化と中国、韓国、日本の近代史は深く連動しながら展開した。この点を考慮しつつ、政治的近代化論を軸として、中・韓・日3国の近代史と現代の政治システムについて比較分析することを、本講義の目的とする。また、その結果をふまえて、「アジア的国家」と西欧近代国家との比較も試みたい。

【授業計画】

- 1 「沖繩」からみた近代日本～プロローグに代えて～
- 2 伝統的東アジアの国際秩序
- 3 科学官僚制と中国の近代化
- 4 両班 (ヤンパン) と李氏朝鮮の近代化
- 5 徳川幕藩体制と日本の近代化
- 6 アメリカの発展と太平洋進出
- 7 “アジア的国家”とは何か?
- 8 イギリス、ドイツ、フランスにおける政治的近代化
- 9 stateとnation
- 10 1950年代～80年代における中国、韓国の政治と社会

【評価方法】

出席状況とレポートによる。

【テキスト】

特に定めない。随時、資料を配布する。

【参考文献・資料】

1. *Asian Power and Politics : The Cultural Dimensions of Authority* (Lucian W.Pye Harvard Univ. Press)
2. ステイトとネイション——近代国民国家と世界経済の政治経済学—— (佐々木隆生『経済学研究』VOL.47～50、北海道大学経済学部、1997～2000年、に連載)

メディアプロデュース特別講義IV (教育メディア論)

大西 誠

【授業の概要】

デジタルメディア社会をむかえ、メディアの教育性が注目されている。いわゆる教材・教具から映像をベースにした番組やインターネットまで幅広いメディアの教育利用が求められている。メディアの成り立ちや歴史的發展とともにメディアの教育利用について理論と実習を通じて明らかにする。

【授業計画】

近年、市民が番組を制作する機会が多くなっている。取材(ロケ)映像とスタジオ映像とは、それぞれどのような特徴があり、どのように作られているのか。また、それらを効果的に組み合わせる市民に資する番組を制作するには、どうしたら良いか。基本的なモデルを教育番組に求める。

本講では、教育メディアの歴史と理論を学ぶとともに、情報化社会におけるメディアのあり方や教育とのかわり、実際に放送された教育・教養番組の内容を分析し、グループ・ワークで番組を試作する。

- ・教育番組の制作過程
- ・「日本賞」教育番組国際コンクール
- ・映像制作技術 (実習)
- ・インターネット交流
- など

【評価方法】

授業への参加度、期末の課題と作品で評価する。

【テキスト】

未定

都市環境デザイン特別講義Ⅱ（建築保存再生論）

河辺泰宏

【授業の概要】

西洋と日本を中心に、都市と建築の歴史的遺産について理解を深めるとともに、それらの保存・修復・復原や都市資産としての利活用の方法について論じる。

【授業計画】

授業は主に講義形式で進めるが、テーマによって担当を決め、報告会を行うことがある。

- 1) 破壊との闘い
人類の蛮行と遺産保護への執念
- 2) 変りゆく保存の概念
文化遺産保存活動の歴史とユネスコの世界遺産条約
- 3) 開発・建設の時代から維持・再生の時代へ
建築におけるサステナビリティ
- 4) 文化財保存の論理
日本における文化財保護の歴史
- 5) 文化財保存の事例研究
日本・イタリア・トルコ・シリア etc.
- 6) 町並み保存の論理
日本における町並み保存の歴史
- 7) 町並み保存事例研究
ポローニャ・妻籠・長浜・倉敷 etc.
- 8) 近代建築保存の論理
近代建築および近代化遺産の保存・再生の歴史
- 9) 近代建築保存・再生の技法
保存・再生の基本理念と具体的方法
- 10) 近代建築保存・再生の事例研究
神戸・横浜・大阪・京都 etc.

【評価方法】

授業や見学会への参加状況とレポート、課題発表の内容等によって決める。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

主題講義Ⅱ

垂井洋蔵 日色真帆

【授業の概要】

建築のデザインの前提として、我々は制作者として、現代という時間と空間、さらに建築の作り出す場所としての都市をどうとらえるのか、そして、作ることに意味について自らの立場を表明することができなければならない。建築の制作にかかわるさまざまなキーワードをもとに、建築とそれをとりまく事象との関連を、建築分野以外の制作にかかわる視点も参考にしながら考察する。

【授業計画】

数人の講師による集中講義の形式をとる。講義の前提となる、問題の提示、学生による発表の後、さまざまな分野の講師による講義を行い、最終的な討論と総括を行う。

詳細なテーマは別途決定次第発表する。

【評価方法】

研究発表とレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

講義の初めに紹介する。

都市環境デザイン特別講義Ⅲ（情報化建築論）

吉田邦彦

【授業の概要】

現在の都市・建築は、マルチメディア化とネットワーク化により著しく進展した情報化（高度情報化）によって、大きな変革が進みつつある。情報化の観点から、生活空間の変化の方向を探り、それらが今後の都市・建築のあり方およびそこでの生活にどのような影響を与えるかを論じる。

【授業計画】

下記のテキストを各自が読解し、ディスカッション形式で理解が深まるように講義を進める。

【評価方法】

分担部分の発表内容・形式、討議への参加、および課題に対するレポートなどを総合して評価する。

【テキスト】

- (1) シティ・オブ・ビットー情報革命は都市・建築をどうかえるかー
(ウィリアム・J・ミッチェル著 掛井秀一他訳 彰国社)
- (2) e-トピアー新しい都市創造の原理ー
(ウィリアム・J・ミッチェル著 渡辺俊訳 丸善株式会社)

文化創造総論（異文化理解と創造）

榎田勝利 島田修三 清水良典 皆川修吾

【授業の概要】

主体的かつ創造的な表現に必要な人間性や知的な奥行き、そして日本の伝統文化への造詣、また国際交流に必要な異文化理解や現状認識、それに実践的処理能力など、より高度な文化創造への素養や姿勢、加えて人間の感性や理性に働き掛ける心理的・社会的状態など文化創造の根元について学ぶ。

(オムニバス方式)

(島田教授) 日本文化の伝統的特質を古典文学の表現を通して学び、日本人が歴史的に培った固有性およびグローバルな普遍性への志向を探る。

(清水教授) 現代日本における多様化しグローバル化した文化状況を現代文学の表現を通して学び、日本固有の文化創造の可能性を考える。

(皆川教授) 地球存続に必要なグローバル共生文化の涵養プロセスと共生文化の理念を軸とした異文化理解や現状認識の術を学ぶ。

(榎田教授) 国際交流の実践に必要な素養や姿勢を学び、創造されつつあるグローバル市民社会の現状を検証し、発展的に将来像を探る。

【授業計画】

- 第1回 日本古典文学における伝統と文化の意識の発生
- 第2回 日本古典文学における中国文学の受容とその独自の再編
- 第3回 日本古典文学における文化的独創性の獲得
- 第4回 近代文学の文体について
- 第5回 言文一致運動期の文体模索について
- 第6回 現代文学の文体実験について
- 第7回 社会科学としての文化論：文化を分析概念として使う
- 第8回 国際社会の変容：価値体系の地球規模の共有化
- 第9回 国際秩序の制度化過程：歴史の視野とリアリズムを通しての現状認識
- 第10回 国際社会の変容とシベリアン・パワー
- 第11回 シベリアン・パワーとしてのNGO
- 第12回 シベリアン・パワーの現状と将来

【評価方法】

出席点および各教員の講義ごとに1200字のレポートを課し、総合的に評価する

【テキスト】

授業中に適宜、プリントを配布する

【参考文献・資料】

各講義ごとに授業中に指示する

詩歌創作理論Ⅰ

荒川洋治

【授業の概要】

韻文作品を成立させる方法論や、その表現技術を支える修辞学等の創作に関わる基礎的な理論を取り上げ、どのように創作理論が実際の韻文テキストを構築していくか、という問題を創作のプロセスと関連させながら考えていく。

【授業計画】

現代詩前期（明治・大正・昭和）の詩論を読む。

- ・漢詩、和歌、俳諧の詩学
- ・岩野泡鳴の詩論
- ・萩原朔太郎の詩論
- ・西脇順三郎の詩論
- ・小野十三郎の詩論
- ・伊藤信吉の詩人論
- ・武者小路実篤と詩語

【評価方法】

出席状況とレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

日本文学史（小西基一著 講談社学術文庫）
伊藤信吉著作集第4巻（沖積舎）
武者小路実篤詩集（角川文庫）
詩を読む人のために（三好達治著 岩波文庫）
詩とは何か（嶋岡農著 新潮選書）

散文創作理論Ⅰ

三木卓

【授業の概要】

近代・現代の代表的な作家における小説作法や小説観等の創作に関わる理論的な発言を検討しながら、それらが実際の小説作品の上にもどのような表現として反映されているか、という問題を解析的に考えていく。

【授業計画】

- 第1回 小説の創造について
- 第2～6回 近代小説の変遷
- 第7～11回 近代小説の諸理論
- 第12回 総括と議論

【評価方法】

皆出席を原則とする。出席ならびに、受講態度、議論に臨む姿勢、レポート内容等を総合的に評価する。

【テキスト】

開始時に指示する。

【参考文献・資料】

同上

詩歌創作理論Ⅱ

荒川洋治

【授業の概要】

韻文作品を成立させる方法論・技術論・修辞学に関する体系的理論のうち、主として現代詩に関する代表的なものを検討すると同時に、そうした創作理論と現代詩のテキストとの相互性を多角的に検証し、理論と実作の有機的な関係をとらえる。

【授業計画】

戦後の詩論を読む。

- ・小野十三郎の詩論
- ・田村隆一の詩論
- ・高見順「三人の詩について」
- ・栗津則雄の現代詩史

【評価方法】

出席状況とレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

現代詩手帖（小野十三郎著 創元社）
高見順全集第16巻（勁草書房）

散文創作理論Ⅱ

三木卓

【授業の概要】

リアリズム理論をはじめとする、近代・現代の体系的な小説創作理論を検討し、創作主体の姿勢・素材の選択・主題による素材の再構成・プロットの構想・登場人物の設定等の小説を成立させる諸問題との関係を考えていく。

【授業計画】

- 第1回 現代小説の諸問題
- 第2～6回 リアリズムの手法ならびに理論
- 第3～11回 脱リアリズムの手法ならびに理論
- 第12回 総括と議論

【評価方法】

皆出席を原則とする。出席ならびに、受講態度、議論に臨む姿勢、レポート内容等を総合的に評価する。

【テキスト】

開始時に指示する。

【参考文献・資料】

同上

映像創作理論 I

若松孝二

【授業の概要】

多くの創作表現ジャンルの中で、映画という動く映像表現の際立った特性を、その制作方法に関わる基礎的な理論および技術を通して考える。教材として、日本・外国映画の代表的な作品を用い、具体的な検討をしていく。

【授業計画】

映画製作のための作品分析と技法を学ぶ

1. 映画を作ることは？
2. 「寝盗られ宗介」鑑賞
3. 同作品の分析と技法の解明
4. 「エンドレスワルツ」鑑賞
5. 同作品の分析と技法の解明
6. 「キスより簡単」鑑賞
7. 同作品の分析と技法の解明
8. 「天使の恍惚」鑑賞
9. 同作品の分析と技法の解明
10. 「狂走情死考」
11. 同作品の分析と技法の解明
12. 映像の表現とカメラ位置について
13. シナリオの作成方法

【評価方法】

作品を分析したレポートで評価する

映像創作理論 II

若松孝二

【授業の概要】

映画の創作理論として、モンタージュ理論・リアリズム理論・フォトジェニー論等多くの歴史的成果が挙げられるが、これらをつぶさに検討しながら、現代映画が時代社会や、そこに生きる人間を映像化していく新たな理論の可能性について考えていく。

【授業計画】

映画とテレビの表現方法の相違、海外での製作、プロデューサーの役割について探究する。

1. テレビドラマ「ウェディング・ベル」の鑑賞と分析
2. 映画とテレビ製作との相違について
3. 「シンガポール・スリング」鑑賞
4. 海外での映画製作の実態について
5. 「愛のコリーダ」鑑賞
6. プロデューサーの役割について
7. 映画の予算の組み立て方
8. 俳優を指導する方法
9. シナリオの役割について

【評価方法】

作品を分析したレポートで評価する。

ライフ・ライティング実作演習（随筆・自分史）

清水良典

【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、随筆あるいは自分史の実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

【授業計画】

講義内で文章を書きながら、そのつど相互批評をしていくが、第10回までに各自のモチーフに従った作品（10～20枚程度）を執筆提出する。

- | | |
|---------|----------------|
| 第1回 | ライフ・ライティングとは何か |
| 第2・3回 | 「記憶」を書く |
| 第4回 | 相互批評 |
| 第5～7回 | 文体づくりの試み |
| 第8・9回 | 相互批評 |
| 第10～11回 | 提出作品の相互批評 |
| 第12回 | 全体講評 |

【評価方法】

集中講義形式なので、皆出席を原則とし、提出された作品の質によって評価する。

なお、優秀作品は、大学院ホームページ等で公開する。

【テキスト】

自分づくりの文章術（清水良典著 ちくま新書）

【参考文献・資料】

新作文宣言（梅田卓夫著 ちくま学芸文庫）

フィクション実作演習 I（短篇小説）

清水良典

【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、短篇小説の実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

【授業計画】

第10回までに、短篇小説（20～30枚程度）を提出する。

- | | |
|---------|------------|
| 第1回 | 短篇小説の特質 |
| 第2～6回 | 「描写」の練習 |
| 第7～9回 | 短篇小説の技術を読む |
| 第10～12回 | 相互批評と講評 |

【評価方法】

集中講義形式なので、皆出席を原則とし、提出された作品の質によって評価する。

なお、優秀作品は、大学院ホームページ等で公開する。

【テキスト】

戦後短篇小説再発見10 表現の冒険（講談社文芸文庫）

【参考文献・資料】

戦後短篇小説再発見1～18（講談社文芸文庫）

フィクション実作演習Ⅱ(童話・ファンタジー)

酒井晶代

【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、童話あるいはファンタジーの実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

【授業計画】

400字詰原稿用紙10～20枚程度の短編を完成させることを目標とする。構想から完成に至る一連の作業を通して、童話・児童文学の特質を体験的に学ぶ場としたい。また、合評会をはじめとする受講者間の共同作業と交流を通して、作品の推敲や批評の方法も身に付けていきたい。

第1回 授業の進め方、全体計画について

第2回～作品の構想・執筆・推敲

第12回 完成作品の合評会

執筆段階をいくつか区切って、課題を提出してもらう予定。授業は、各自の課題発表と相互批評を中心に進めていく。課題の執筆は自宅作業になる場合もあるので、注意すること。

【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、課題などにより総合的に評価する。

【テキスト】

未定。授業時に指示する。

【参考文献・資料】

未定。授業時に適宜指示する。

現代詩実作演習

荒川洋治

【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、現代詩の実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

【授業計画】

20編前後の「量的」詩作を試み、一冊の「詩集」を提示する。

- ・詩集の著者とは何か
- ・テーマについての考え方
- ・題名と配列
- ・割付と活字
- ・詩集の余白と美術
- ・詩集の形態と流通
- ・ことばはどこから、詩になるのか
- ・詩のつくり方と、こわし方
- ・発表と読者

【評価方法】

提出された作品で評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

特になし。

現代短歌実作演習

篠弘

【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、現代短歌の実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

【授業計画】

定型詩としての短歌、その機能と魅力を理解するところから、表現の基本をつかむ。提出された短歌の添削と批評を実施し、現代短歌のレベルを目指した実作の指導をおこなう。

1. 定型のなりたち
2. 叙事と叙情
3. 心情の具象化
4. 写実の役割
5. 発想の単純化
6. 用語の選択
7. 比喩の活用
8. 個性の発見
9. 生活態度の反映
10. 連作の試み
11. 作品鑑賞の要点

【評価方法】

出席状況、授業内に提出された短歌、さらに題詠の成果等を総合的に評価する。

【テキスト】

生き方の表現（篠弘著 日本放送出版協会）

疾走する女性歌人（篠弘著 集英社新書）

シナリオ実作演習

海上宏美

【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、シナリオの実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

【授業計画】

抽象的な思考と具体的な手法を往還する発想法を練習する。

1. 主題を考える
2. 物語の語り手は誰なのかを考える
3. 叙情なのか叙事なのか語り口を考える
4. 物語の場面構成を考える
5. ジェンダーを考える
6. 台詞の役割と分量を考える
7. 始まりと終わりを考える

【評価方法】

出席状況と提出作品で評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

適宜授業内で指示する。

創造表現特講Ⅰ（現代詩）

宮崎真素美

【授業の概要】

戦後から現在までの代表的な詩や詩論を主な手がかりとして、現代詩の変遷を検証するとともに、創作理論・主題・様式・修辞といった方法を多角的に検討し、詩は時代の問題をどのように作品化し得るか、あるいはどのように時代を超え得るかという創作方法について学ぶ。

【授業計画】

「荒地」派の詩と詩論をめぐる以下のような観点から、日本の戦後詩について考察する。

1. 「荒地」派とは何か（1）
2. 「荒地」派とは何か（2）
3. 黒田三郎の詩と詩論（1）
4. 黒田三郎の詩と詩論（2）
5. 鮎川信夫の詩と詩論（1）
6. 鮎川信夫の詩と詩論（2）
7. 鮎川信夫の詩と詩論（3）
8. 「荒地」派の周辺
9. 「荒地」派の影響
10. 「荒地」派をめぐる評価

【評価方法】

講義における発言内容、および学期末に課すレポートの双方によって総合的に評価する。

【テキスト】

プリント配布。

創造表現特講Ⅱ（現代短歌）

篠弘

【授業の概要】

戦後短歌から前衛短歌にいたる戦後短歌史を踏まえながら、主として1980年代以降の代表的歌人の作品を題材に、その創作理論・主題・修辞といった方法を多角的に検討し、現代をどのように作品化していくかという創作方法について学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 近代短歌から現代へ
- 第2回 戦後短歌の運動
- 第3回 第二芸術論議
- 第4回 民衆詩としての短歌
- 第5回 前衛短歌の時代
- 第6回 女性歌人の興隆
- 第7回 リアリズムの変質
- 第8回 主題の獲得
- 第9回 喩的表現の拡大
- 第10回 美意識の深化
- 第11回 文体の確立
- 第12回 口語的発想
- 第13回 アイロニカルトーン
- 第14回 アニミズムの浸透
- 第15回 自然観の変容

【評価方法】

出席状況、授業内の数回の小レポート、学期末の課題レポート等を総合的に評価する。

【テキスト】

現代の短歌—100人の名歌集（篠弘編著 三省堂）

創造表現特講Ⅲ（現代小説）

清水良典

【授業の概要】

戦後から現在までの代表的な創作や評論を主な手がかりとして、現代小説の変遷を検討するとともに、文学理論・主題・モチーフ・人物造型・文体といった方法を多角的に検討し、小説は時代の病理や問題をどのように作品化し得るか、あるいはどのように時代を超え得るかという創作方法について学ぶ。

【授業計画】

テキスト購読と講義を主としつつ、相互の討議と調査・報告を課す。

- 第1回 現代文学概論
- 第2～4回 村上春樹を解説する
- 第5～7回 高橋源一郎を解説する
- 第8～10回 村上龍を解説する
- 第11～12回 総括と討議

なお、指定テキスト以外にも、現代文学関係の書籍を大量に読む必要がある。

【評価方法】

出席は皆出席を前提とする。受講態度ならびに討議の積極性、調査・報告の質等を総合的に考慮して評価する。

【テキスト】

羊をめぐる冒険（村上春樹著 講談社文庫）
さようなら、ギャングたち（高橋源一郎著 講談社文芸文庫）
トパーズ（村上龍著 角川文庫）
上記以外は、指示する。

【参考文献・資料】

文学がどうした!?（清水良典著 毎日新聞社）

創造表現特講Ⅳ（童話）

酒井晶代

【授業の概要】

近現代の代表的な創作や児童文学論を主な手がかりとして、日本児童文学史を検証するとともに、主題・モチーフ・文体等の方法のみならず、広く社会史や文化史の視点から子ども観の変容を検討し、「子どもの文学」の創作方法とその独自性について学ぶ。

【授業計画】

近年刊行された児童文学関係の理論書から一冊を選び、演習形式で講読していく。児童文学研究は、作家・作品論のほか、読者論やメディア論といった社会・文化史的なアプローチなど、さまざまな文学理論の影響下でその幅を広げつつある。一方で、研究の深まりや多様化とともに、従来の「文学」の枠組みを解体する、より大きな視座の必要性も指摘されるようになってきた。理論書の講読を通して、児童文学をめぐる言説の最前線と現代的課題を考える場としたい。

- 第1回 授業の進め方、全体計画について
- 第2回 児童文学研究の現在
- 第3回～理論書の講読

授業は、レポーターが調査・分析したことをレジュメにより報告し、受講者全員で討議する演習形式で進めていく。報告のまとめとして小論文の提出を求めることがある。

【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、課題などにより総合的に評価する。

【テキスト】

未定。授業時に指示する。

【参考文献・資料】

・研究=日本の児童文学<全5巻>（日本児童文学学会編 東京書籍）
その他の参考文献は、授業時に適宜指示する。

創造表現特講V (アニメ・コミック)

とりいかずよし

【授業の概要】

手塚治虫作品とその影響下にある戦後漫画・コミックおよび宮崎駿などのアニメーション作品を主な題材として、広く社会史や文化史の視点も導入しながら、表象文化としてのアニメ・コミックの芸術的特質や機能を考察し、その可能性を生かした創作方法について学ぶ。

【授業計画】

実践的アニメ・コミックの習作

- A アニメ化するコミックとそうでないコミックとは？
- B 読者のピンポイント化するコミック界の現況

【評価方法】

感性、表現、創作、将来性等の巧拙

【テキスト】

その都度対応して作成

【参考文献・資料】

広範なコミック雑誌、単行本、アニメビデオ等
※入手可能な成否を精査し検討

創造表現各論I (詩学)

宮崎真素美

【授業の概要】

近現代の詩作品を主な手がかりとして、「ことば」をめぐる哲学や現代思想の変遷も念頭に置きながら、詩の本質や詩的言語の規則・方法に関する批評的解説の方法について多角的かつ理論的に学ぶ。

【授業計画】

明治初期の詩作品に見られる伝統的古典詩歌に対する意識の錯綜を通して、その連続と切断のありよう、および詩学の確立への模索について、以下の観点から考察する。

1. 『新体詩抄』の詩と思想 (1)
2. 『新体詩抄』の詩と思想 (2)
3. 『新体詩抄』の詩と思想 (3)
4. 近代詩と伝統歌謡 (1)
5. 近代詩と伝統歌謡 (2)
6. 近代詩と伝統歌謡 (3)
7. 『新体詩歌』の詩と思想 (1)
8. 『新体詩歌』の詩と思想 (2)
9. 『新体詩歌』の詩と思想 (3)
10. 鷗外の役割

【評価方法】

講義における発言内容、および学期末に課すレポートの双方によって総合的に評価する。

【テキスト】

プリント配布

創造表現各論II (シナリオ論)

海上宏美

【授業の概要】

近現代の代表的なシナリオ作品を主な手がかりとして、放送史をはじめとするメディアの変遷も念頭に置きながら、主題・ストーリー・人物造形・台詞・場面構成などの方法を多角的に検討し、シナリオ表現の特質や創作に関する諸方法について学ぶ。

【授業計画】

言葉であるシナリオに基づいて表現された作品構造全体において、その基盤となるシナリオの言葉がどのような機能を担っているのかを、構造(主義)・話法・技術(史)などの面から探っていく。

1. メディアの変遷
2. 観客の変遷
3. テキスト(シナリオ)の位置
4. 話法と人称性の問題
5. 大きな物語と小さな物語の違い
6. 台詞における口語的表現と文語的表現の違い
7. 描く対象(主題)の選択が意味するもの
8. 表象されるジェンダーについて
9. 物語と無意識

【評価方法】

出席状況とレポート提出で評価する。

【テキスト】

授業内で適宜指示する。

【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

創造表現各論III (舞台芸術論)

角田達朗

【授業の概要】

演劇の重要な構成要素である「舞台」の歴史的展開を主な手がかりとして、照明・音響・映像による舞台効果にも目配りしながら、演劇空間あるいは場面転換装置としての舞台の機能や特質とその解説方法について多角的かつ理論的に学ぶ。

【授業計画】

舞台芸術は生(ライブ)の芸術であり、生の上演に接することなしに舞台芸術への理解を深めることは不可能である。よって、この授業では鑑賞課題を2本設定し、鑑賞ノートの提出を課すものとする。課題を鑑賞するまでは、舞台芸術の歴史について、芸能や演劇がいかんして誕生したか、上演において舞台が果たす役割はどのようなものかを概説する。鑑賞ノート提出以降は、レポートを編集したプリントをテキストとして使用し、上演への理解を深めて行く。

【評価方法】

鑑賞ノート・劇評

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

国際交流研究 I (基礎)

榎田勝利

【授業の概要】

「非軍事的なあらゆる手段で途上国の人々を支援する試み」と定義されている国際協力の基礎的な理念、仕組みを検証するとともに、国際協力の新しいアプローチを作り出している背景要因を学ぶ。

【授業計画】

1. 講義のねらいと評価の方法
2. 国際協力の概念
3. 国際協力の新しい潮流
4. 国際協力のアクター I (国連、国際機関)
5. 国際協力のアクター II (政府援助機関-JICA・OECD, USAID, AFD, CIDA, GTZ, DFID)
6. 国際協力のアクター III (NGO, 欧米の NGO と日本の NGO)
7. 国際協力の方法 I (政府開発援助-ODA)
8. 国際協力の方法 II (地方自治体)
9. 国際協力の方法 III (NGO, ボランティア)
10. 開発課題と国際協力 (貧困、人口、食料、教育、保健、難民、ジェンダー、児童労働、少数民族、環境、都市スラム、開発と保存)
11. 国際協力事業の評価
12. 国際協力の果たす役割

【評価方法】

平常の出席・遅刻状況、毎回の講義の際の貢献度、最終課題レポートにて評価する。

【テキスト】

使用しない。毎回プリントを配付する。

【参考文献・資料】

- 国際協力 (下村・辻・稲田・深川著 有斐閣選書)
国際協力 (功刀達郎編著 サイマル出版会)
国際連合の基礎知識 (国際連合広報局 世界の動き社)
政府開発援助 (ODA) 白書 (2001年版外務省・経済協力局発行)
UNDP・人間開発報告書 (2002年版 国連開発計画編 国際協力出版会)
国際協力用語集第 2 版 (国際開発ジャーナル社)
ボランティア学のすすめ (内海成治編著 昭和堂)

国際文化研究 A I (言語系基礎)

中野弘三

【授業の概要】

英語学の研究対象や研究分野を概観し、新言語学に基づく英語学研究的現状と言語を科学的に分析する視点を学ぶ。

【授業計画】

<言語の構造>

1. 文の統語構造
2. 文の意味構造
3. 語の構造
4. 語の音声構造
5. 語の意味構造

<言語の機能>

6. 文の発話の機能
7. 文の構成要素の機能
8. 文の意味解釈
9. 文と談話
10. 談話標識の機能

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などにより評価する。

【テキスト】

英語学セミナー (高橋勝忠・福田稔 松柏社)

【参考文献・資料】

- Linguistics: An Introduction to Language and Communication* (4th Edition 1995 A. Akmajian, R.A. Demers, A.K. Farmer, and R.M. Harnish / The MIT Press)
Syntactic Theory and the Structure of English: A Minimalist Approach (1997 A. Radford / Cambridge University Press)
Morphology (1993 F. Katamba / Macmillan Press)
An Introduction to Functional Grammar (2nd Edition 1994 M.A.K. Halliday / Arnold)
Semantics (2000 K. Kearns / Macmillan Press)
Pragmatics (1996 G. Yule / Oxford University Press)

国際交流研究 II (発展)

皆川修吾

【授業の概要】

「国際秩序の統治」と定義されているグローバル・ガバナンスの概念の国際関係における有効性と限界について研究し、国際秩序が制度化されていくプロセスを経験的に学ぶ。

【授業計画】

- 第 1 講 国際システムの構造とプロセス
- 第 2 講 バランス・オブ・パワーの教訓
- 第 3 講 集団安全保障の挫折
- 第 4 講 冷戦
- 第 5 講 権力と国際法
- 第 6 講 国際連合の役割
- 第 7 講 相互依存の管理体制の必要性
- 第 8 講 1) 開発政策
- 第 9 講 2) 世界経済
- 第 10 講 3) 国際協力
- 第 11 講 グローバル・ガバナンスの構造
- 第 12 講 国際秩序制度化の今後の課題
- 第 13 講 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況との総合評価による。

【参考文献・資料】

- 現代国際関係学 (新藤栄一著 有斐閣)
グローバル・ガバナンス：政府無き秩序の模索 (渡辺昭夫編著 東大出版)
グローバル化とは何か (デヴィット・ヘルド編著 法律文化社)
現代国際関係学 (新藤栄一著 有斐閣)
国際紛争 (ジョセフ・ナイ著 有斐閣)
地球政治の構想 (猪口孝著 NTT出版)
グローバル・ポリティクス (小林誠・遠藤誠治編著 有信堂)

国際文化研究 A II (言語系発展)

大野清幸

【授業の概要】

英語や日本語などにおける特定の研究対象を選択し、新言語学における特定の理論に基づき、言語を科学的に分析する実際の学び。

【授業計画】

- 第 1 講 PC 実践教室において、授業計画指示など。必ず出席すること
- 第 2 講 PC 実践教室において、認知言語学など関連分野の本物情報を検索・探索する。
- 第 3 講 1- 学術論文などを利用して、演習を行う。

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。
授業においては、基本的に、学術論文を精読し、議論する。

学期末レポート：現代英語に関する研究題材を選び、

- (1) 先行研究を調査し、
- (2) 仮説をたて、
- (3) データを採集・整理し、
- (4) 理論の枠組みで分析し
- (5) 論文としてまとめ、提出する。

【テキスト】

学術論文。ただし、未定。演習を中心に行う。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。
理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

【参考文献・資料】

- 認知文法論 (1995 山梨正明 ひつじ書房)
認知言語学原理 (2000 山梨正明 くろしお出版)
認知言語学論考 No.1 (2001 山梨正明編著 ひつじ書房)
認知言語学論考 No.2 (2002 山梨正明編著 ひつじ書房)
現代言語学の潮流 (2003 山梨正明編著 勁草書房)
認知意味論：英語動詞の多義と構造 (1990 田中茂範 三友社出版)
認知意味論 (1993 George Lakoff 著 池上嘉彦・河上誓作他訳 紀伊國屋書店)
認知意味論の原理 (1994 中右実 大修館書店)
認知意味論の方法：経験と動機の言語学 (1995 吉村公宏 人文書院)
認知言語学の基礎 (1996 河上誓作編著 研究社出版)
認知言語学：英語動詞の多義と構造 (1990 田中茂範 三友社出版)
認知言語学 (2000 定延利之 大修館書店)
認知意味論の展開：語源学から語用論まで (2000 Eve E. Sweetser 著 澤田治美訳 研究社出版)
ことばの認知科学事典 (2001 辻幸夫編 大修館書店)
認知意味論のしくみ (2002 榎山洋介 研究社)

国際文化研究 B I (文化系基礎)

平林美都子

【授業の概要】

20世紀に入って顕著になってきた異文化接触のコロナリズムやポストコロナリズムなどの諸問題を、様々な文化批評理論から系統的に学ぶ。

【授業計画】

Frantz Fanon, Homi Bhabha, Edward Said, Stuart Hallらの主要論文を読み、コロナリズム、ポスト・コロナリズム理論を理解する。

1. Frantz Fanon とコロナリズム
2. Homi Bhabha
3. Edward Said とオリエンタリズム
4. ポスト・コロナリズム

なお、英文原書の講読が中心のため、英語力が必要である。

【評価方法】

出席およびレポートによる。

【テキスト】

Patrick Williams and Laura Chrisman eds. *Colonial Discourse and Post-Colonial Theory* (Columbia University Press)

国際文化研究 B II (文化系発展)

杉本一直

【授業の概要】

ロシア亡命者の文学作品や芸術作品を講読・鑑賞し、「国文学」「伝統文化」という概念とは対極的ないわば「脱領域」的な表現様式、あるいはグローバルな普遍性を獲得しようとした亡命者たちの創作意識を考察する。

【授業計画】

英文による原典講読を中心とし、あわせて文学研究の方法論を学ぶ。原典講読のテキストとして、国外からアメリカへ移住した作家のなかでもっともアメリカの読者やアメリカ人作家に愛読された作家のひとり、ウラジーミル・ナボコフの代表作『ロリータ』を使用し、ヨーロッパ文化とアメリカ文化との相克を作品のなかに読み取っていく。また、サブテキストとして、ナボコフを含めた亡命作家たちの文学について論じた研究書や、20世紀アメリカ文学におけるコスモポリタニズムについて論じた研究書等を用い、現代アメリカ文学の根底に流れる形而上の本質、つまり脱領域的(extraterritorial)本質についての理解を促す。

- 第1回 概説
- 第2回～第4回 原典講読
- 第5回 サブテキスト解説
- 第6回～第8回 原典講読
- 第9回 サブテキスト解説
- 第10回～第13回 原典講読
- 第14回 サブテキスト解説
- 第15回 総論

【評価方法】

学期末レポートと平常点により評価する。

【テキスト】

Vladimir Nabokov "The Annotated Lolita" Random House Inc.

【参考文献・資料】

- 徹夜の魂／亡命文学論 (沼野充義著 作品社)
- 言語の都市 (トニー・タナー著 白水社)
- 脱領域の知性 (ジョージ・スタイナー著 河出書房新社)

国際交流特講 I

櫻田勝利

【授業の概要】

国際協力の主要なアクターである国連・国際開発機関、政府開発援助(ODA)、非政府組織(NGO)の存在意義・役割・活動を研究するとともに、非営利組織の実践的なマネジメントを学ぶ。

【授業計画】

1. 国際協力とは
2. 国際協力の基本的な仕組み
3. 国際協力活動の変遷(1) 1980年代まで～
 - ・国連開発の十年
 - ・新国際経済秩序
 - ・ベーシック・ヒューマン・ニーズ(BHN)
 - ・持続可能な開発の思想
4. 国際協力の変遷(2) 1990年代～
 - ・人間の安全保障
 - ・21世紀の新開発戦略
 - ・包括的開発フレームワーク
5. 開発課題への取組み(1)
 - ・人間の安全保障と貧困問題への取組み
6. 開発課題への取組み(2)
 - ・持続可能な開発と地球環境問題への取組み
7. 国際協力のあり方
 - ・オーナーシップとガバナンス
8. 日本の援助政策(ODA)
9. 欧米主要国の援助政策(ODA)
 - ・米国、イギリス、ドイツ、フランス
10. 国連とNGO
11. 日本のNGOと欧米のNGO
12. 政府(ODA)とNGOとのパートナーシップ

【評価方法】

出席状況と最終の課題レポートにて評価する。

【テキスト】

使用しない。毎回プリントを配付する。

【参考文献・資料】

- 世界銀行・開発金融と環境・人権問題 (鷲見一夫著 有斐閣)
- ODA大綱の政治経済学・運用と援助理念 (下村・中川・斎藤著 有斐閣)
- 社会開発・経済成長から人間中心型発展へ (西川潤編 有斐閣選書)
- 日本のODAをどうするか (渡辺利夫・草野厚著 日本放送出版会)
- 人間開発戦略・共生への挑戦 (マープル・ハク著 日本評論社)
- 草の根環境会議・アメリカの新しい萌芽 (マークダウイ著 戸田清訳 日本経済評論社)
- 地球環境対策 (堀内行蔵編 有斐閣)
- ハンドブックNGO (馬橋憲男・斎藤千広著 明石書店)
- NGOとは何か (伊勢崎賢治著 藤原書店)、他

英語海外セミナー

担当者未定

【授業の概要】

語学学習と異文化体験を目的とする、アメリカ北東部のウェスト・バージニア大学における海外英語研修プログラム。全学を対象に実施される。参加者は、キャンパス内の大学寮等に滞在し、約3週間の集中授業を受ける。週末のホームステイ、小旅行、現地学生および留学生との交流なども用意されている。出発前に行われる数回のオリエンテーションおよび事前事後のライティング課題なども含めて全てを修了すれば、本学の2単位が与えられる。

期間は2月中旬から3月中旬の約1ヶ月、定員は約30名。面接およびTOEICスコアにより選考を行う。

2003年度実施研修プログラムにおける1日(9:00~15:20)の学習内容は、以下の通り:

- 午前 少人数制英会話クラスと総合英語の授業
- 午後 アメリカ文化の授業とプロジェクト(音楽/芸術・ドラマ・ニュースレター作成などのプロジェクトから、各自が興味のある分野を選択し、英語による意見交換を行いながら仕上げていき、修了パーティーで発表する。)

【授業計画】

この研修は、ウェスト・バージニア大学が本学学生のために用意する特別プログラムである。(全期間の学習および生活面全ての指導は、現地教員およびプログラムスタッフが当たる。期間中、本学教職員は滞在しない。)

【評価方法】

ウェスト・バージニア大学授業担当者の評価および研修前後の課題から総合的に判断する。

【テキスト】

現地にて用意される。

【参考文献・資料】

オリエンテーションで指示する。

外国文化海外研修Ⅰ(中国)

馮富榮

【授業の概要】

この授業では、言語実践を通して、言葉を知り、理解し、発信し、理解されることの楽しさを体験することができる。また南京師範大学に滞在して生活することで、中国に対する単なる傍観者・観察者ではなく、客観的な目をもった共感者になることを目指す。

1. 京師範大学において3週間の中国語研修を行う。
 - ◎ 月曜～金曜の午前中は8:00～11:30まで中国語の授業。日本語のできない先生が中国語で授業するが、分かるのが不思議。内容は会話表現中心。
 - ◎ 午後は課外活動として南京市内見学(中山陵、南京博物館、玄武湖、夫子廟、南京大屠殺記念館など)を通して、南京の風俗、歴史を学び、日本語学科の学生との交流会などを通して中国人同世代の人の考え方や生活を学ぶ。
 - ◎ 夜は予習復習に追われる。みんな教室に集まって、黙々と勉強。
 - ◎ 土曜と日曜は言語実践の日。南京の街へ飛び出そう!
 - ◎ 風光明媚な「瘦西湖」で名高い楊州へ、庭園で知られている蘇州への1日旅行。
2. 言語文化論Ⅰの講義内容と呼応した5日間ほどの研修旅行。
3. 定員は20名程度。
4. 今年度の2月中旬から3月中旬にかけて実地する。
5. 終了者に2単位を認定する。

【授業計画】

4月のガイダンスで研修の内容などを説明する。後期開講科目であるが、履修登録を必要とせず、参加したことによって単位が取得できる。9月下旬頃、参加募集を掲示に出し、10月中旬頃に参加者を決定する。その後、説明会を2回ほど、オリエンテーションを1回実施する。詳しくは掲示を見る。2月中旬に出発し、3月中旬に帰国する。費用は25万程度。

【評価方法】

引率者は平常点で評価する。

【テキスト】

南京師範大学の研修授業の担当先生が決めるテキストを使用する。

米国NPOインターンシッププログラム

榎田勝利

【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるCivil Society Consulting Group(CSCG)との共同プログラムとして実施する。米国の民間非営利組織(NPO)でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を定める。実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

(活動可能な分野) 老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。

(米国側協力団体) Civil Society Consulting Group(CSCG)

【授業計画】

(事前研修) インターンシップの活動分野の決定・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習・日本のNPO、ボランティア団体へフィールドワーク・英会話のトレーニング・米国側ディレクターによる合宿オリエンテーション

(現地プログラム) オリエンテーション合宿・基本的に月曜から金曜までの5日間のインターン・1日特別研修プログラム・インターンシップの体験報告書の作成と提出・評価会、修了式、さよならパーティ(事後研修)・フォローアップ研修、報告書作成

【評価方法】

現地での評価(受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書)を考慮し全体評価を行う。

外国文化海外研修Ⅱ(韓国)

曹述燮

【授業の概要】

本学の姉妹校の一つである韓国の大邱カトリック大学で、韓国の文化や言語などの研修を積む。本研修のために姉妹校からは少人数制の語学授業、陶磁器工芸・伝統音楽・伝統料理などの韓国文化に対する講義と実習、そして両校の学生交流、ホームステイなどの課外活動を含む特別のカリキュラムが編成されている。と同時に本研修には姉妹校での研修を前後して慶州市、独立記念館、ソウル市への旅行などのプログラムも企画されている。

本研修を通じて参加学生たちは、良好に組まれたカリキュラムから韓国に対する知識を習得すると同時に、多様な韓国・韓国人を直接体験し自ら触れあうことで新世紀のパートナーとしての韓国の理解を深める。

期間:
夏期休暇の8月中の3週間前後

- 内容:
1. 語学研修
 - a. 14日間、午前中、1日3時間(2コマ)授業
 - b. 現地教員による少人数制の授業で韓国語の発音、文法、文型、会話などの練習
 - c. 初級と中級のクラス編成予定で初心者への授業参加可
 2. 韓国文化研修
 - a. 午後週1~2回
 - b. 専門家による講演・指導と質疑応答
 - c. 伝統文化実演の鑑賞(古典劇、音楽など)
 - d. 自己参加型の実習(工芸・料理、舞踊など)
 3. その他の各種の課外活動

【授業計画】

本研修参加のための数回の事前研修と事後研修が予定されている。事後報告書をまとめる。

【評価方法】

現地教員およびプログラムスタッフ、そして引率教員による総合評価による。

【テキスト】

特になし

スポーツ特殊講座（スクーバダイビング）

杉山 和

【授業の概要】

「海の中」の自然を体験し、より視野を広める、スクーバダイビングに必要な初級のライセンスを取得し、生涯スポーツの実践へつなげる。

【授業計画】

〔スクーバダイビング〕

1. 期日

プール実習 平成16年9月6日（月）～11日（土）
この期間中に時差をつけて3日間実施します。

海洋実習 平成16年9月14日（火）～9日17日（金）
3泊4日

第1回説明会 平成16年5月19日（水）5限目

第2回説明会 平成16年7月17日（土）10：00～

2. 場所

プール実習 ロコダイバーズ 室内プール（一社）

海洋実習 沖縄県 伊江島

3. 諸経費

実習費 約50,000円（講習費、テキスト代、申請料）

用具代 約50,000円（重器材レンタル代、個人器材）

海洋実習費 約78,000円（交通費、宿泊費）

その他 約30,000円（ウェットスーツ希望者のみ）

4. 定員 約20名

*諸経費については、15年度のものでありますので変更になる場合があります。

*説明会には必ず参加すること。

【評価方法】

1. 実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。
2. 実習期間中、欠席した場合は単位が認められません。

スポーツ特殊講座（スケート）

松田秀子

【授業の概要】

スケートを通して、基礎的技術の向上と、知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へつなげる。

【授業計画】

〔スケート〕

1. 期日

実習 平成17年2月2日（水）・3日（木）

4日（金）・7日（月）

8日（火）・9日（水）

計6日間 午前中のみ

2. 説明会 平成17年1月12日（水）12：30～13：15

実習に必要な諸手続きを行ないますので、必ず参加すること。

3. 場所 名古屋スポーツセンター（大須）

4. 実習費 7,200円

5. 定員 40名

【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

スポーツ特殊講座（ボウリング）

松田秀子

【授業の概要】

ボウリングを通して、基礎技術の向上と知識の習得を目標とし、生涯スポーツの実践へつなげる。

【授業計画】

〔ボウリング〕

1. 期日

実習 平成16年9月8日（水）・9日（木）

10日（金）・13日（月）

14日（火）・15日（水）

計6日間 午前中のみ

2. 説明会 平成16年7月7日（水）12：30～13：15

実習に必要な諸手続きを行ないますので、必ず参加すること。

3. 場所 星ヶ丘ボウル

4. 実習費 6,000円（15年度のものでありますので変更する場合があります。）

5. 定員 40名

【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。